

Canon

EOS 6D Mark II



カメラ

Wi-Fi (無線通信) 機能 (基本編)

J

使用説明書

Canon

EOS 6D Mark II

カメラ使用説明書

はじめに

EOS 6D Mark II は、有効画素数約2620万画素、約35.9×24.0mmフルサイズCMOSセンサー、DIGIC 7、常用ISO感度100～40000（静止画撮影時）、高精度・高速45点AF（クロス測距点：最大45点）、最高約6.5コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルHD動画撮影、4Kタイムラプス動画撮影、デュアルピクセルCMOS AF、Wi-Fi/NFC/Bluetooth（無線通信）機能、GPS機能を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（22～24ページ）、および『取り扱い上のご注意』（25～27ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

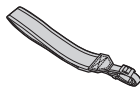
あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
(アイカップ、ボディキャップ付き)



ストラップ



電池
バッテリーパック LP-E6N
(保護カバー付き)



充電器
バッテリーチャージャー
LC-E6

- インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- ソフトウェアCD-ROMは付属していません。
- 使用説明書については、次ページを参照してください。
- ソフトウェアについては、594ページを参照してください。
- レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- 別売品は、システム図 (p.514) で確認することができます。

🔊 レンズの使用説明書が必要なときは、キャノンのホームページからダウンロードしてください (p.4)。

なお、レンズの使用説明書 (PDFファイル) は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について



カメラ使用説明書（基本編）

使用説明書（PDFファイル）のダウンロードについて

使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

● 使用説明書（PDFファイル）のダウンロードサイト

- ・ Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書
→ canon.jp/eos-manual
- ・ レンズ使用説明書
→ canon.jp/lens-acc-manual
- ・ ソフトウェア使用説明書
→ canon.jp/eos-sw-manual

QRコードから使用説明書をダウンロード

スマートフォン、タブレット使用時は、QRコードから使用説明書（PDFファイル）をダウンロードすることができます。



→ www.canon.com/icpd



- QRコード読み取りには、アプリケーションが必要です。
- お住まいの国または地域を選択し、使用説明書をダウンロードします。
- [45] タブの[使用説明書・ソフトウェア URL] を選ぶと、カメラの液晶モニターにQRコードを表示することができます。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（p.70）。

- SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード
* UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録画質に適應する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは343ページを参照してください。

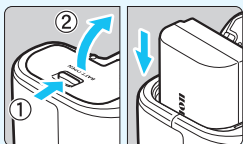


本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

※ 画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

すぐ撮影するには

1

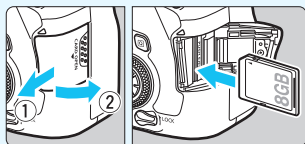


電池（バッテリー）を入れる

(p.42)

- 購入時は電池を充電してからお使いください (p.40)。

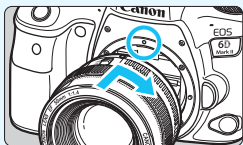
2



カードを入れる (p.43)

- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

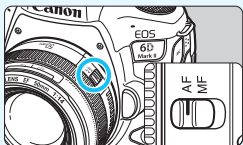
3



レンズを取り付ける (p.53)

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

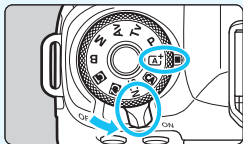
4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする (p.53)

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

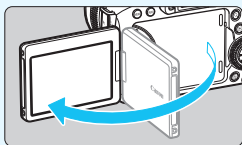
5



電源スイッチを〈ON〉にして、撮影モードを〈P〉にする (p.47)

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

6



液晶モニターを開いてセットする (p.46)

- 液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、49ページを参照してください。

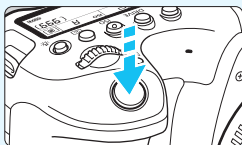
7



ピントを合わせる (p.56)

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8



撮影する (p.56)

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9













撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。
- <▶> ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (p.388)。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』(p.289)を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』(p.388)を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』(p.430)を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について


-  : メイン電子ダイヤルを示しています。
-  : サブ電子ダイヤルを示しています。
-  : マルチコントローラーを示しています。
-  : マルチコントローラーを押す方向を示しています。
-  : 設定ボタンを示しています。
-  /  /  /  /  : 操作ボタンから指を離したあと、ボタンを押した状態がそれぞれ約4秒/6秒/8秒/10秒/16秒間保持されることを示しています。


* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。


MENU : <MENU> ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。


応用 : ページタイトル右の**応用**は、応用撮影ゾーン (<P> <Tv> <Av> <M> モード) 限定の機能であることを示しています。

(p.***): 参照ページを示しています。

 : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

 : 補足説明や補足事項を記載しています。

 : 上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

 : 困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが <ON>、<LOCK> スイッチが下側 (マルチ電子ロック解除) になっていることを前提に説明しています (p.47、59)。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF50mm F1.4 USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	39
2	かんたん撮影	93
3	AF／ドライブの設定	129
4	画像に関する設定	161
5	GPS機能の設定	217
6	撮影目的にあわせた応用撮影	233
7	ストロボ撮影	277
8	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	289
9	動画を撮影する	325
10	画像の再生	387
11	撮影した画像を加工する	437
12	撮像素子の清掃	449
13	印刷指定／フォトブック指定	457
14	カメラをカスタマイズする	467
15	資料	513
16	ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む	593

目次

はじめに	2
カメラと主な付属品	3
使用説明書について	4
使用できるカードについて	5
すぐ撮影するには	6
本使用説明書の表記について	8
章目次	9
機能目次	18
安全上のご注意	22
取り扱い上のご注意	25
各部の名称	28









1 撮影前の準備と操作の基本 39

電池を充電する	40
電池を入れる／取り出す	42
カードを入れる／取り出す	43
液晶モニターを使う	46
電源を入れる	47
日付／時刻／エリアを設定する	49
表示言語を選ぶ	52
レンズを取り付ける／取り外す	53
撮影の基本操作	55
Q 撮影機能のクイック設定	61
MENU メニュー機能の操作と設定	64
☺ 画面にタッチして操作する	67




カードを初期化する	70
使い始める前の準備	73
電子音が鳴らないようにする	73
電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ	73
撮影直後の画像表示時間を設定する	74
液晶モニターの消灯／点灯の設定	74
カメラの設定を初期状態に戻す	75
≡ ファインダー内にグリッドを表示する	79
📐 水準器を表示する	80
ファインダー内に表示する情報を設定する	82
INFO ボタンの機能	84
LOCK マルチ電子ロック機能を設定する	88
撮影モードガイドの設定	89
機能ガイドの設定	90
🔍 ヘルプ機能について	91

2 かんたん撮影 93

📷 ⁺ 全自動で撮る (シーンインテリジェントオート)	94
📷 ⁺ 全自動を使いこなす (シーンインテリジェントオート)	97
📷 ⁺ クリエイティブオートで撮る	100
SCN: 📷 スペシャルシーンモードで撮る	107
SCN: 📷 人物を写す	109
SCN: 📷 集合写真を撮る	110
SCN: 📷 風景を写す	111
SCN: 📷 動きのあるものを写す	112
SCN: 📷 子供を写す	113

SCN:  流し撮りをする	114
SCN:  花や小物を大きく写す	116
SCN:  料理を写す	117
SCN:  キャンドルライトと人物を写す	118
SCN:  夜景と人物を写す (三脚を使う)	119
SCN:  夜景を写す (手持ち撮影)	120
SCN:  逆光シーンを写す	121
 クイック設定について	126

3 AF / ドライブの設定 129

AF: AF 動作の選択	130
 測距エリアと AF フレームを選択する	134
測距エリア選択モードの内容	139
AF センサーについて	143
使用レンズと AF 測距について	145
AF の苦手な被写体	153
MF : 手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス)	154
レンズの電子式手動フォーカス	155
 ドライブモードの選択	156
 セルフタイマー撮影	159

4 画像に関する設定 161

記録画質を設定する	162
アスペクト比を設定する	168
ISO: 静止画の ISO 感度を設定する	170
ピクチャースタイルを選択する	176






ピクチャースタイルを調整する	180
ピクチャースタイルを登録する	183
WB: ホワイトバランスの設定	185
WB ホワイトバランスを補正する	191
明るさ・コントラストを自動補正する	194
ノイズ低減機能の設定	195
高輝度側・階調優先の設定	199
レンズの光学特性による影響を補正する	200
フリッカーの影響を低減する	206
色空間を設定する	208
フォルダの作成と選択	209
画像番号の付け方を設定する	211
著作権情報を設定する	214

5 GPS 機能の設定 217


GPS 機能でできること	218
GPS 機能に関するご注意	220
GPS の信号を受信する	221
位置情報の更新間隔を設定する	226
GPS の時刻をカメラに設定する	227
移動ルートを記録する	228

6 撮影目的にあわせた応用撮影 233



P : プログラム AE 撮影	234
Tv : シャッター速度を決めて撮る	236
Av : 絞り数値を決めて撮る	238

M : 露出を自分で決めて撮る.....	241
 測光モードの選択.....	243
 自分の好みに露出を補正する.....	245
 露出を自動的に変えて撮る / AEB 撮影.....	247
* 露出を固定して撮る / AE ロック撮影.....	249
B : 長時間露光 (バルブ) 撮影.....	250
HDR : HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影.....	253
 多重露出撮影.....	258
 ミラーアップ撮影.....	265
TIMER インターバルタイマー撮影.....	267
アイピースカバーの使い方.....	270
リモコン撮影.....	271
リモートスイッチ撮影.....	276

7 ストロボ撮影 277

 ストロボを使った撮影.....	278
ストロボの機能を設定する.....	281

8 液晶モニターを見ながら撮影する (ライブビュー撮影) 289

 液晶モニターを見ながら撮影する.....	290
撮影機能の設定.....	300
メニュー機能の設定.....	302
AF 動作の選択.....	305
AF でピントを合わせる (AF 方式).....	308
 タッチシャッターで撮影する.....	319
MF : 手動でピントを合わせる.....	321

9 動画を撮影する 325

📹 動画を撮影する.....	326
撮影機能の設定.....	339
動画記録画質の設定.....	341
録音の設定.....	346
HDR動画を撮影する.....	348
🕒📹 タイムラプス動画を撮影する.....	349
ビデオスナップを撮影する.....	361
メニュー機能の設定.....	371

10 画像の再生 387

▶ 画像を再生する.....	388
INFO: 撮影情報の内容.....	391
🗒️ インデックス表示 (複数画像表示).....	399
🏠 ジャンプ表示 (画像飛ばし表示).....	400
🔁 再生する画像を絞り込む.....	402
🔍 拡大する.....	404
👉 画面にタッチして再生する.....	406
🔄 回転させる.....	408
🔒 保護する (プロテクト).....	409
🌟 レーティングを設定する.....	412
👁️ 再生時のクイック設定.....	415
📹 撮った動画の楽しみ方.....	417
📹 動画を再生する.....	419
✂️ 動画の前後部分をカットする.....	422

自動再生する (スライドショー)	424
テレビで見る	427
☒ 消去する	430
液晶モニターの明るさを調整する	434
縦位置撮影画像の自動回転表示の設定	435

11 撮影した画像を加工する 437

RAW↓ JPEG RAW 画像をカメラで現像する	438
☒ JPEG 画像をリサイズする	444
☒ JPEG 画像をトリミングする	446

12 撮像素子の清掃 449


☒ 撮像素子の自動清掃	450
ゴミ消し情報を画像に付加する	452
手作業で撮像素子を清掃する	455

13 印刷指定 / フォトブック指定 457


☒ 画像を印刷指定する / DPOF	458
☒ フォトブックにする画像を指定する	464

14 カメラをカスタマイズする 467

カスタム機能の設定方法	468
カスタム機能一覧	469
カスタム機能で変更できる内容	471
☒ : AF による合焦位置を微調整する	491
☒ : 操作ボタンカスタマイズ	497

マイメニューを登録する.....	505
 カスタム撮影モードの登録	510

15 資料 513

システム図.....	514
電池情報を確認する	516
家庭用電源を使用する.....	520
 Eye-Fi カードを使う	522
各撮影モードで設定できる機能一覧	526
メニュー機能一覧	534
故障かな?と思ったら.....	548
エラー表示.....	567
主な仕様.....	568

16 ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む 593

ソフトウェアスタートガイド.....	594
パソコンに画像を取り込む.....	598
索引.....	600

機能目次

電源

- 電池充電 → p.40
- 電池残量 → p.48
- 電池情報確認 → p.516
- 家庭用電源 → p.520
- オートパワーオフ → p.73

カード

- カード初期化 → p.70
- カードなしリリース → p.44
- 動画記録可能カード → p.343

レンズ

- 取り付け → p.53
- 取り外し → p.54

基本設定

- 言語 → p.52
- 日付/時刻/エリア → p.49
- 電子音 → p.73
- 著作権情報 → p.214
- カメラ設定初期化 → p.75

ファインダー

- 視度調整 → p.55
- アイピースカバー → p.270
- 水準器 → p.81
- グリッド → p.79
- ファインダー内表示設定 → p.82

液晶モニター

- バリアングル → p.46
- タッチ操作 → p.67
- 明るさ → p.434
- 半押し消灯/点灯 → p.74
- 水準器 → p.80
- 撮影モードガイド → p.89
- 機能ガイド → p.90
- ヘルプ機能 → p.91

AF

- AF動作 → p.130
- 測距エリア選択モード → p.134
- AFフレーム選択 → p.137
- レンズグループ属性 → p.149
- AF機能カスタマイズ → p.475
- 色検知 → p.142
- AFマイクロアジャストメント → p.491
- 手動ピント合わせ → p.154
- 電子式手動フォーカス → p.155

測光

- 測光モード → p.243

ドライブ

- ドライブモード → p.156
- セルフタイマー → p.159
- 連続撮影可能枚数 → p.167

画像記録

- フォルダ作成／選択 → p.209
- 画像番号 → p.211

画質

- 記録画質 → p.162
- ISO感度（静止画） → p.170
- ピクチャースタイル → p.176
- ホワイトバランス → p.185
- オートライティング
オプティマイザ → p.194
- 高感度時ノイズ低減 → p.195
- 長秒時露光ノイズ低減 → p.197
- 高輝度側・階調優先 → p.199
- レンズ光学補正 → p.200
- フリッカー低減 → p.206
- 色空間 → p.208

撮影

- 撮影モード → p.35
 - ・ かんたん撮影ゾーン → p.35
 - ・ SCNモード → p.108
 - ・ 応用撮影ゾーン → p.36
- アスペクト比 → p.168
- HDRモード → p.253
- 多重露出 → p.258
- ミラーアップ → p.265
- バルブタイマー → p.251
- インターバルタイマー → p.267
- 被写界深度確認 → p.240
- リモートスイッチ → p.276
- リモコン → p.271
 - ・ ペアリング → p.273
- クイック設定 → p.61
- マルチ電子ロック → p.88
- エラー表示 → p.567

露出

- 露出補正 → p.245
- 露出補正 (M+ISOオート) → p.242
- AEB → p.247
- AEOロック → p.249
- セイフティシフト → p.473

GPS

- GPS機能 → p.217
- ロガー機能 → p.228

ストロボ

- 外部ストロボ → p.278
- ストロボ調光補正 → p.278
- FEロック → p.278
- ストロボ機能設定 → p.281
- ストロボカスタム機能 → p.286

ライブビュー撮影

- ライブビュー撮影 → p.289
- AF動作 → p.305
- AF方式 → p.308
- タッチシャッター → p.319
- 拡大表示 → p.317
- 手動ピント合わせ → p.321
- 露出Simulation → p.303
- LVソフト撮影 → p.303

動画撮影

- 自動露出撮影 → p.326
- マニュアル露出撮影 → p.330
- ISO感度（動画） → p.372
- AF方式 → p.308
- 動画サーボAF → p.373
- 動画サーボAFの
被写体追従特性 → p.375
- 動画サーボAF時の
AF速度 → p.376
- 動画記録画質 → p.341
- HDR動画 → p.348
- タイムラプス動画 → p.349
- ビデオスナップ → p.361
- 録音 → p.346
- マイク → p.347
- ウィンドカット → p.346
- アッテネーター → p.347
- リモコン撮影 → p.381

再生

- 撮影直後の表示時間 → p.74
- 1枚表示 → p.388
- 撮影情報表示 → p.391
- インデックス表示 → p.399
- 画像送り (ジャンプ表示) → p.400
- 画像検索の条件設定 → p.402
- 拡大 → p.404
- 回転 → p.408
- プロテクト (保護) → p.409
- レーティング → p.412
- 動画再生 → p.419
- 動画前後カット → p.422
- スライドショー → p.424
- テレビで見る → p.427
- 消去 → p.430
- タッチ再生 → p.406
- クイック設定 → p.415

画像加工

- RAW現像 → p.438
- JPEGリサイズ → p.444
- JPEGトリミング → p.446

印刷／フォトブック指定

- 印刷指定 (DPOF) → p.458
- フォトブック指定 → p.464

カスタマイズ

- カスタム機能 (C.Fn) → p.469
- 操作ボタンカスタマイズ → p.497
- マイメニュー → p.505
- カスタム撮影モード → p.510

センサークリーニング／ダスト除去

- センサークリーニング → p.450
- ゴミ消し情報付加 → p.452
- 手作業 → p.455

ソフトウェア

- ソフトウェア
スタートガイド → p.594
- ソフトウェア使用説明書 → p.597

Wi-Fi/NFC/Bluetooth機能

- Wi-Fi (無線通信) 機能使用説明書

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問い合わせ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
 - ・ 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
 - ・ 電池のショート、分解、変形、加熱、はんだ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
 - ・ 電池の＋を逆に入れること。
 - ・ 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
 - ・ カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等におけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒に保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
 - ・ 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
 - ・ 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
 - ・ 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
 - ・ 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
 - ・ 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
 - ・ 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用する時は、保護者が正しい使用方法を十分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。



注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近づけて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を發揮させるため、カメラの端子カバー、電池室ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかりと閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに別紙の修理お問い合わせ専用窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問い合わせ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を別紙の修理お問い合わせ専用窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



各部の名称

〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン(p.156、159)

〈ISO〉ISO感度設定ボタン(p.170)

〈M〉測光モード選択ボタン(p.243)

〈L〉表示パネル照明ボタン(p.60)

〈M/〉メイン電子ダイヤル(p.57)

シャッターボタン(p.56)

セルフタイマー／リモコンランプ(p.159)

リモコン受信部(p.272)

グリップ(電池室)

DCカプラーコード通し部(p.520)

絞り込みボタン(p.240)



ボディキャップ(p.53)

〈AF〉AF動作／AF方式選択ボタン(p.130、305／308)

〈L/〉測距エリア選択ボタン(p.136、482)

GPSアンテナ部

レンズ取り付け指標(p.53)

シンクロ接点

アクセサリシュー(p.278)

モードダイヤルロック解除ボタン(p.57)

モードダイヤル(p.35、57)

ストラップ取り付け部(p.38)

内蔵マイク(p.326、347)

レンズロック解除ボタン(p.54)

端子カバー

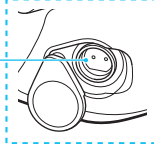
レンズロックピン

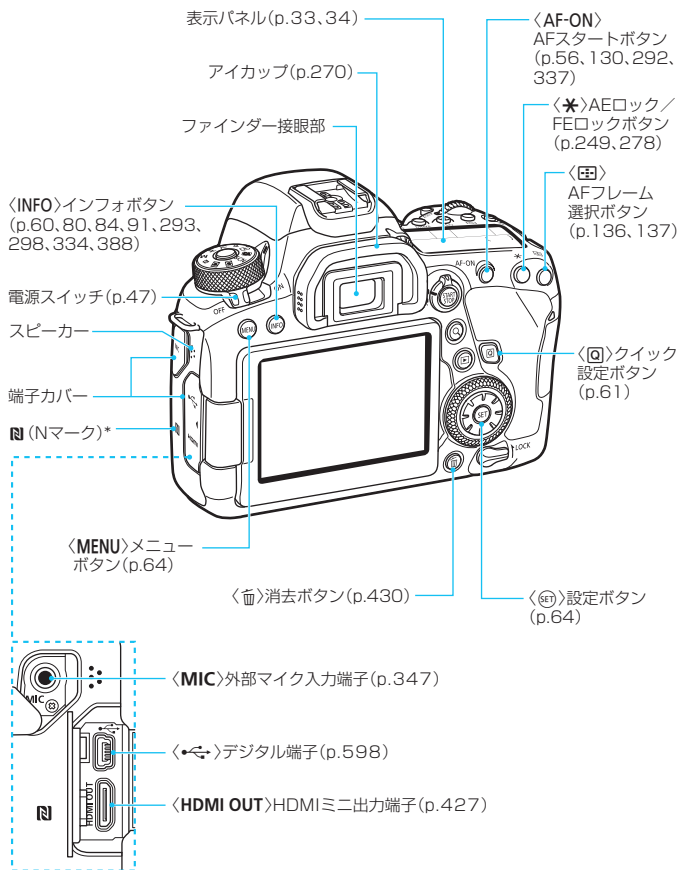
レンズマウント

接点(p.27)

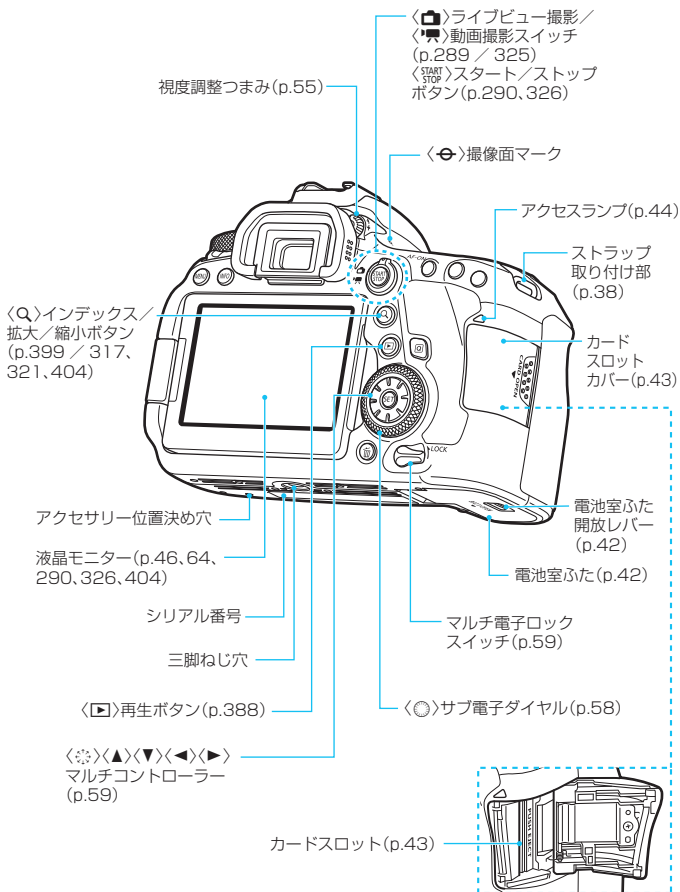
ミラー(p.265、455)

リモコン端子(N3タイプ)(p.276)

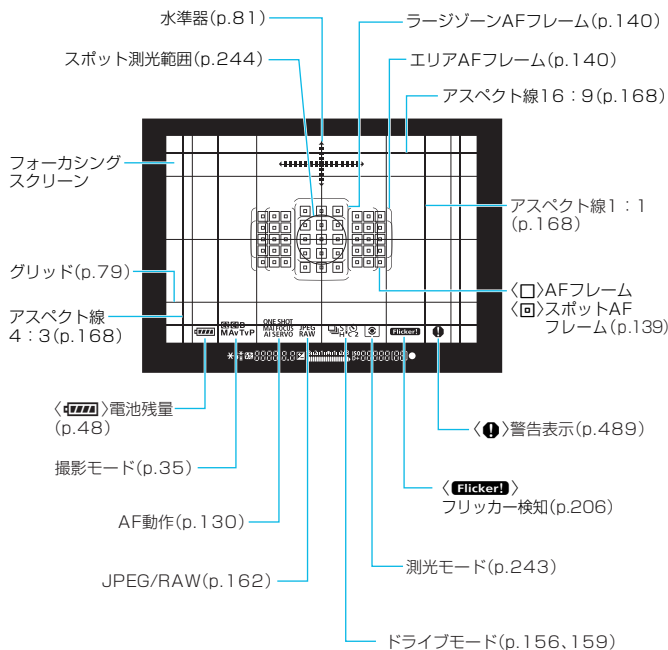




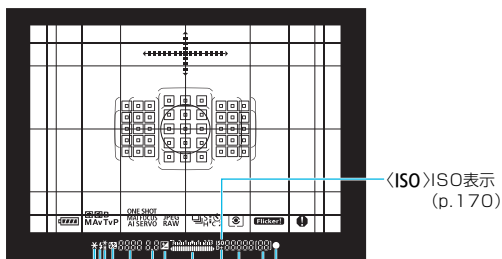
* NFC機能を使用したWi-Fi接続時に使います。



ファインダー内表示



* 設定に応じた部分のみ表示されます。



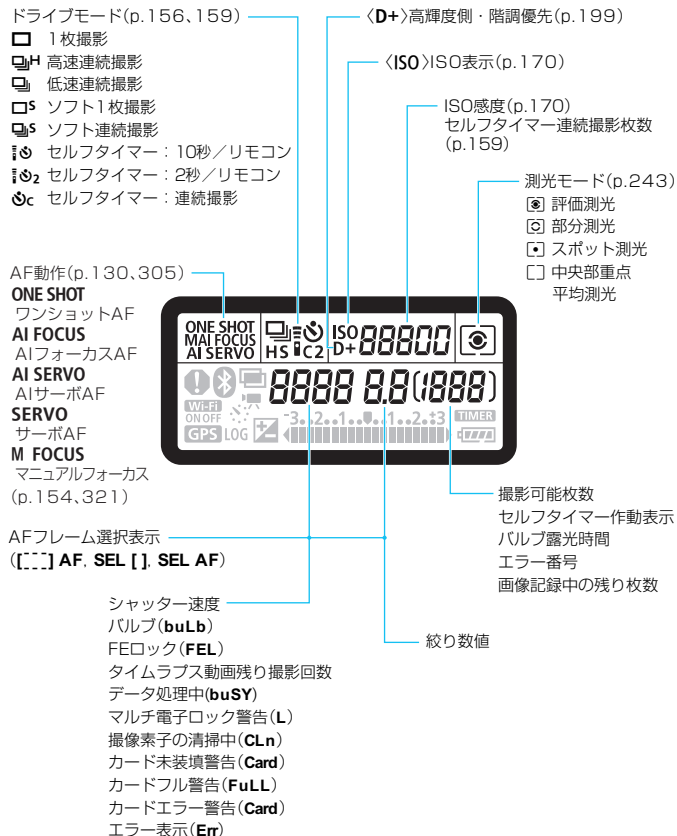
- <✳>AEロック(p.249)
AEB撮影中(p.247)
- <⚡>ストロボ充電完了
(p.278)
FEロック連動範囲外警告
- <⚡✳>FEロック(p.278)
FEB撮影中(p.285)
- <⚡H>ハイスピードシンクロ
(p.285)
- <⚡>ストロボ調光補正
(p.278)

- シャッター速度(p.236)
- バルブ(buLb)(p.250)
- FEロック(FEL)
- データ処理中(buSY)
- マルチ電子ロック警告(L)
- カード未装填警告(Card)
- カードフル警告(FuLL)
- カードエラー警告(Card)
- エラー表示(Err)

- <ISO>ISO表示
(p.170)
- <●>合焦マーク
(p.94、131)
- 連続撮影可能枚数(p.167)
多重露出残り枚数(p.259)
- ISO感度(p.170)
セルフタイマー連続撮影枚数
(p.159)
- <D+>高輝度側・階調優先
(p.199)
- 露出レベル表示
露出補正量(p.245)
AEBレベル(p.247)
- <⊠>露出補正(p.245)

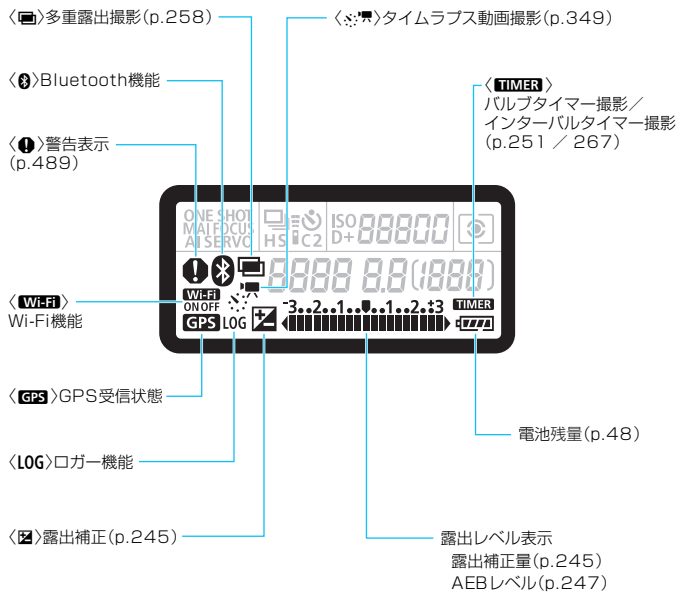
- AFフレーム選択表示
([] AF, SEL [], SEL AF)
- 絞り数値(p.238)

表示パネル



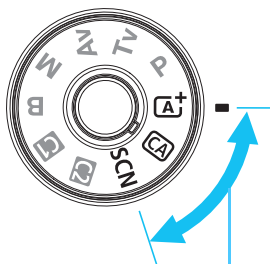
* 設定に応じた部分のみ表示されます。

各部の名称



モードダイヤル

撮影モードを設定することができます。モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。















かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

A+ : シーンインテリジェントオート (p.94)

CA : クリエイティブオート (p.100)

SCN: スペシャルシーン (p.107)

	ポートレート (p.109)		クローズアップ (p.116)
	集合写真 (p.110)		料理 (p.117)
	風景 (p.111)		キャンドルライト (p.118)
	スポーツ (p.112)		夜景ポートレート (p.119)
	キッズ (p.113)		手持ち夜景 (p.120)
	流し撮り (p.114)		HDR逆光補正 (p.121)

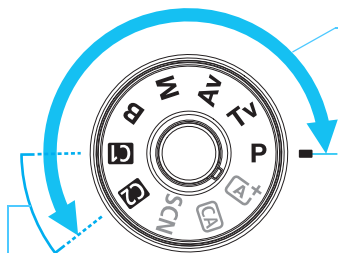
応用撮影ゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

- P** : プログラムAE (p.234)
- Tv** : シャッター優先AE (p.236)
- Av** : 絞り優先AE (p.238)
- M** : マニュアル露出 (p.241)
- B** : バルブ (p.250)

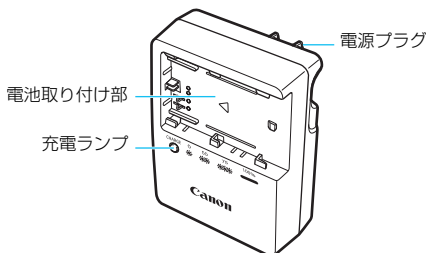
カスタム撮影モード

撮影モード〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉やAF動作、メニュー機能などを、〈**C1**〉〈**C2**〉に登録することができます (p.510)。



バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6の充電器です (p.40)。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。

使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

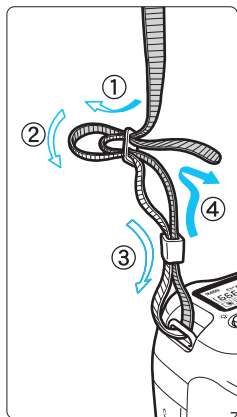


- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

ホームページ：<http://www.jbrc.com>

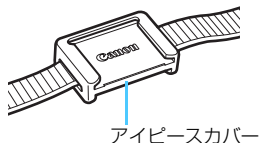
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っばっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています (p.270)。

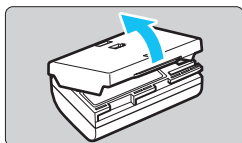


1

撮影前の準備と操作の基本

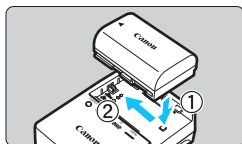
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

電池を充電する



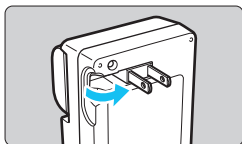
1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



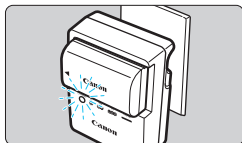
2 電池を取り付ける

- 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➔ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0~49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50~74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

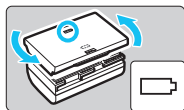
- 使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

💡 電池と充電器の上手な使い方

- **購入時、電池はフル充電されていません**
充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていくます。
- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**

充電済みの電池に付属の保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈□〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。



- **カメラを使わないときは電池を取り出しておく**

電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

- **充電器は海外でも使うことができる**

充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**

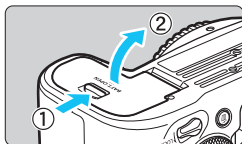
電池の劣化度 (p.516) を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残量 (p.516) が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

電池を入れる／取り出す

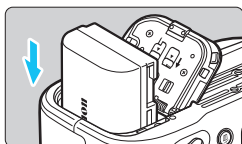
充電したバッテリーパック LP-E6N（またはLP-E6）をカメラに入れます。このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を取り出すと暗くなります。また、電池が入っていないときは、ファインダー像がぼやけた状態になるため、ピント合わせはできません。

入れ方



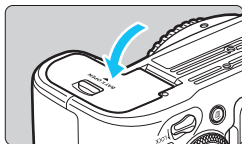
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

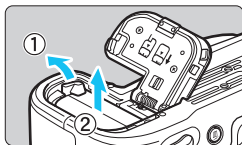


3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

! バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

取り出し方



ふたを開けて、電池を取り出す

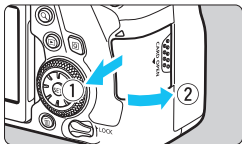
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押し、ロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.40）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使用できます。撮影した画像は、カードに記録されます。

🔊 カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

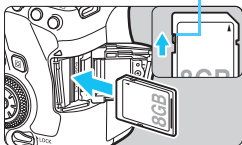
入れ方



1 カバーを開ける

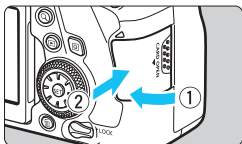
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

書き込み禁止スイッチ



2 カードを入れる

- 図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。



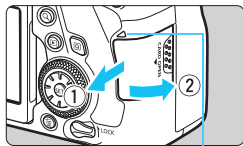
3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。



撮影可能枚数

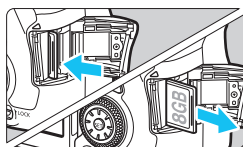
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。
- 液晶モニターに「書き込み中...」と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- UHS-I対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使用できます。
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。
- [📷1:カードなしレリーズ] を [しない] に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます (p.535)。

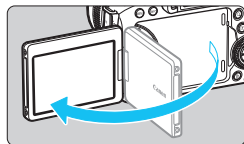


- アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。
 - ・ カードを取り出す
 - ・ 電池を取り出す
 - ・ カメラ本体に振動や衝撃を与える
 - ・ 電源コードの抜き差しを行う(家庭用電源アクセサリ (別売) 使用時／p.520)
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (p.211)。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。

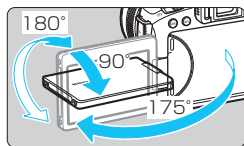
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.70)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード (MMC) は使用できません (カードエラー表示)。

液晶モニターを使う

液晶モニターを開いてメニュー機能の設定や、ライブビュー撮影、動画撮影、画像の再生を行います。液晶モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

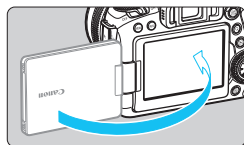


1 液晶モニターを開く



2 液晶モニターを回転させる

- 液晶モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。



3 画面を表向きにする

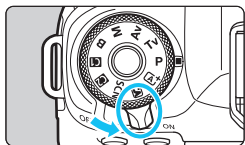
- 通常は画面を表向きにして使用します。

- 液晶モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、液晶モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

- カメラを使わないときは、液晶モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- ライブビュー撮影と動画撮影で、液晶モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる


電源スイッチを入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、49ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。




- 〈ON〉：カメラが作動します。
- 〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。


撮像素子の自動清掃について




- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈〉が表示されます。

- 清掃中でもシャッターボタンを半押しすると（p.56）、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈〉が表示されないことがあります。故障ではありません。

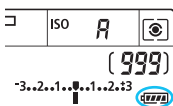
MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押しすると（p.56）、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を〔2：オートパワーオフ〕で変更することができます（p.73）。

 カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[書き込み中...]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池残量表示について

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅く〈点滅〉したときは、もうすぐ電池切れになります。



表示			
残量 (%)	100~70	69~50	49~20

表示			
残量 (%)	19~10	9~1	0

ファインダー撮影時の撮影可能枚数の目安 (約・枚)

温度	常温 (+23℃)	低温 (0℃)
撮影可能枚数	1200	1100

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、ライブビュー撮影なし、CIPA (カメラ映像機器工業会) の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E21 (別売) 使用時に、バッテリーパック LP-E6Nを2個使用したときは、撮影可能枚数が約2倍になります。

- 下記の操作を行うと電池が早く消耗します。
 - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
 - ・液晶モニターを頻繁に使用する
 - ・GPS機能、Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- 低温下では電池の残量があっても撮影できないことがあります。

- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、291ページを参照してください。
- [▼4: バッテリー情報] で電池の状態を確認することができます (p.516)。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されます。以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。

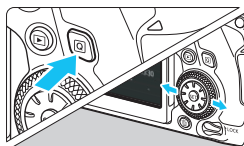
住んでいるエリアを設定しておくことで、他の地域に旅行したときに、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと表示されます。



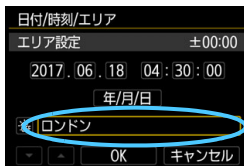
2 [42] タブの [日付/時刻/エリア] を選ぶ

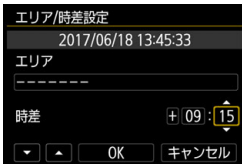
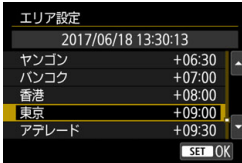
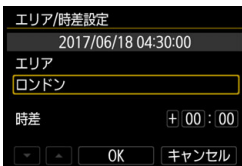
- 〈Q〉 ボタンを押して [42] タブを選びます。
- 〈◀〉 〈▶〉 を押して [42] タブを選びます。
- 〈▲〉 〈▼〉 を押して [日付/時刻/エリア] を選び、〈SET〉 を押します。



3 エリアを設定する

- 初期状態では [ロンドン] に設定されています。
- 〈◀〉 〈▶〉 を押して [エリア設定] を選び、〈SET〉 を押します。

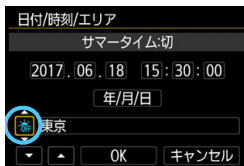




- <◀> <▶> を押して [エリア] の項目を選び、<SET> を押します。
- <▲> <▼> を押して設定するエリアを選び、<SET> を押します。
- 設定したいエリアがないときは、<MENU> ボタンを押したあと、次の操作（協定世界時との時差）で設定します。
- 「協定世界時との時差」で設定するときには、<◀> <▶> を押して [時差] の項目（+ - /時/分）を選びます。
- <SET> を押して <☐> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して設定し、<SET> を押します（<☐> の状態に戻ります）。
- エリア/時差の設定が終わったら、<◀> <▶> を押して [OK] を選び、<SET> を押します。

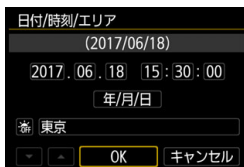
4 日付/時刻を設定する

- <◀> <▶> を押して項目を選びます。
- <SET> を押して <☐> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して設定し、<SET> を押します（<☐> の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- <◀> <▶> を押して [☀️] を選びます。
- <⊙(SET)> を押して <☀️> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して [☀️] を選び、<⊙(SET)> を押します。
- サマータイムを [☀️] にすると、手順4で設定した時刻が1時間進みます。[☀️] にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



6 設定を終了する

- <◀> <▶> を押して [OK] を選び、<⊙(SET)> を押します。
- ➔ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定されます。



- カメラから電池を取り出して保管したときや、カメラの電池残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- [エリア/時差設定] の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。



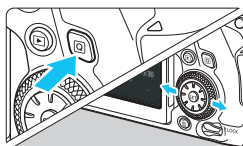
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で [OK] を選んだときに始まります。
- 手順3の [エリア設定] に表示される時間は、協定世界時との時差です。
- [🔌2: オートパワーオフ] を [1分] [2分] [4分] に設定していても、[🔌2: 日付/時刻/エリア] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が約6分になります。
- GPS機能による自動時刻設定を行うことができます (p.227)。

MENU 表示言語を選ぶ



1 メニューを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと表示されます。



2 [4/2] タブの [言語] を選ぶ

- 〈Q〉 ボタンを押して [4] タブを選びます。
- 〈◀〉 〈▶〉 を押して [4/2] タブを選びます。
- 〈▲〉 〈▼〉 を押して [言語] を選び、〈SET〉 を押します。



3 言語を設定する

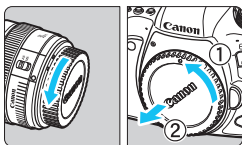
- 〈▲〉 〈▼〉 を押して言語を選び、〈SET〉 を押します。
- 表示言語が切り換わります。



レンズを取り付ける／取り外す

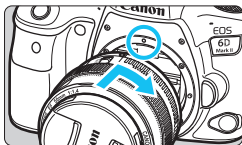
すべてのEFレンズを使用することができます。なお、EF-S、EF-Mレンズは使用できません。

取り付け方



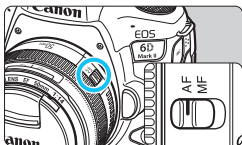
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

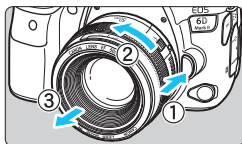


3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

4 レンズキャップを外す


取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

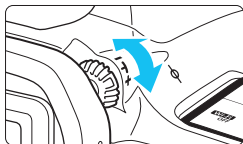
 レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください（p.4）。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



視度調整つまみを回す

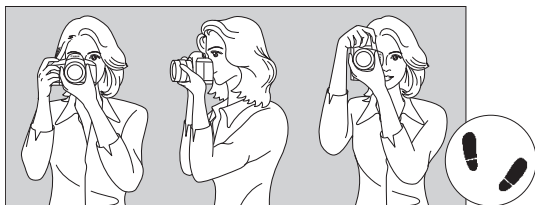
- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します (p.270)。



視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズE (別売) の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



横位置

縦位置

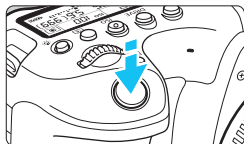
- ①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
- ②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
- ③右山人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
- ④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
- ⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
- ⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。



液晶モニターを見ながら撮影するときは、289ページを参照してください。


シャッターボタン

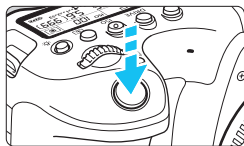
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに約4秒間表示されます（測光タイマー／4）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

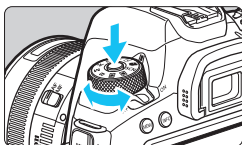
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

- ・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- ・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。



- 撮影モードが応用撮影ゾーンの場合は、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作を行うことができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

モードダイヤル

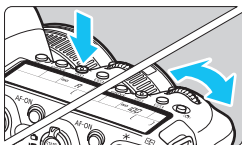



ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す



撮影モードの設定に使用します。



メイン電子ダイヤル

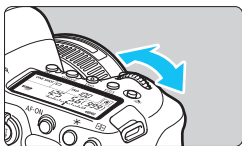



(1) ボタンを押したあと <  > を回す


<AF> <DRIVE> <ISO> <> ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます (6)。その間に <  > を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF動作、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択などに使用します。



(2) <  > のみを回す

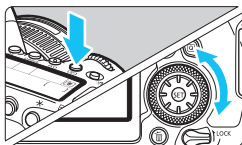
ファインダー内の表示や表示パネルを見ながら <  > を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。






(1) の操作は、<LOCK> スイッチが上側 (マルチ電子ロック/p.59) でも行うことができます。

サブ電子ダイヤル

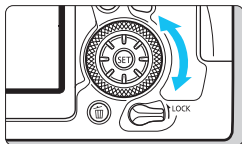


(1) ボタンを押したあと〈〉を回す


〈AF〉〈ISO〉〈〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（6）。その間に〈〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。


- AF動作、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択などに使用します。



(2) 〈〉のみを回す

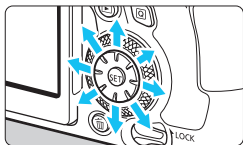
ファインダー内の表示や表示パネルを見ながら〈〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

 (1) の操作は、〈LOCK〉スイッチが上側（マルチ電子ロック／p.59）でも行うことができます。

☼ マルチコントローラー

〈☼〉は8方向キーの構造になっています。



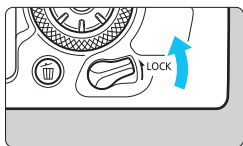
- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動、クイック設定などに使用します。
- メニューの選択を行うこともできます。

☑ ホワイトバランス補正、再生時における拡大表示位置の移動は、〈LOCK〉スイッチが上側（マルチ電子ロック）でも行うことができます。

LOCK マルチ電子ロック

〔**4**：マルチ電子ロック〕を設定し、〈LOCK〉スイッチを上側にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

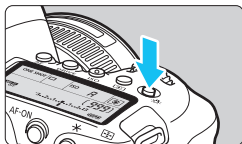
なお、〔**4**：マルチ電子ロック〕については、88ページを参照してください。





- 〈LOCK〉スイッチ上側：ロック
- 〈LOCK〉スイッチ下側：ロック解除

☑ 初期状態でロックしたときは〈☉〉がロックされます。

☀ 表示パネル照明



〈☀〉ボタンを押すと、表示パネルを照明することができます。〈☀〉ボタンを押すたびに点灯（6）／消灯します。

 バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

クイック設定画面を表示する

〈INFO〉ボタンを何回か押すと（p.84）、クイック設定画面（p.86）が表示され、撮影機能の設定状態を確認することができます。

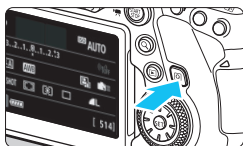
〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.61）。

さらに〈INFO〉ボタンを押すと、表示を消すことができます（p.84）。

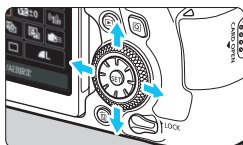


Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。

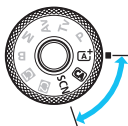


- 1 **〈Q〉ボタンを押す (010)**
→ クイック設定の状態になります。



- 2 **機能を設定する**
 - 〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉を押して機能を選びます。
 - 選択した機能の内容と機能ガイド (p.90) が、画面に表示されます。
 - 〈☀〉または〈☉〉を回して設定を変更します。

● かんたん撮影ゾーン



● 応用撮影ゾーン



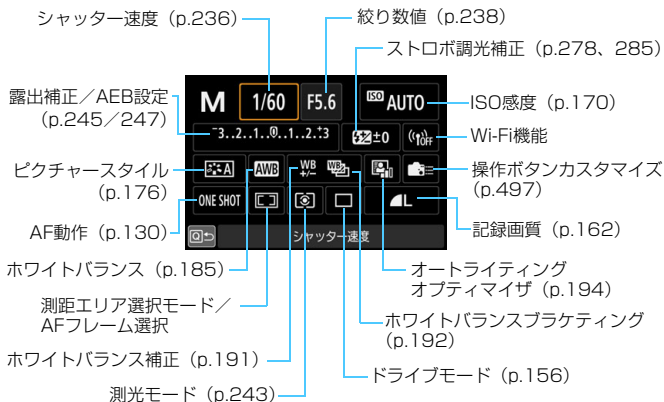
- 3 **撮影する**
 - シャッターボタンを押して撮影します。
 - 撮影した画像が表示されます。



- かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、126ページを参照してください。
- 画面にタッチしてクイック設定を行うこともできます (p.67)。

クイック設定できる機能

● 応用撮影ゾーン

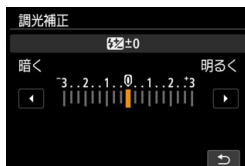


● かんたん撮影ゾーン (画面例)



- かんたん撮影ゾーンのときは、撮影モードによりクイック設定できる機能が異なります (p.127)。かんたん撮影ゾーンで設定できる機能は、[雰囲気を選んで撮影] [背景ぼかし] [ドライブモード] [AFフレーム選択] [流し効果] [明るさ] [色あい] です。
- クイック設定画面については、86ページを参照してください。

クイック設定について

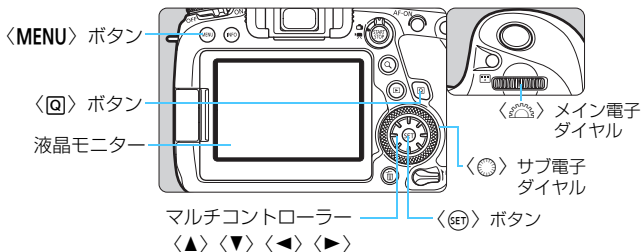


- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈☀️〉または〈🌑〉を回すか、〈◀〉〈▶〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈📷]〉(p.497)、〈☑️〉(p.134)、〈(P)〉を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

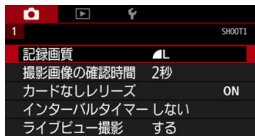
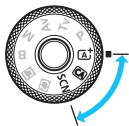
📄 Wi-Fi機能については、「Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書」（p.4）を参照してください。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



* かんたん撮影ゾーンでは、表示されないタブやメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面



メニュー機能の設定操作

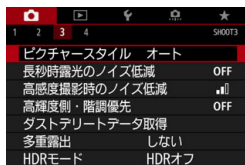


1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（システム）が切り換わります。
- マルチコントローラーの〈◀〉〈▶〉を押してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の〔**3**〕タブは、**3**（撮影）タブの左から3番目の〔**3**〕を選んでしている画面のことです。



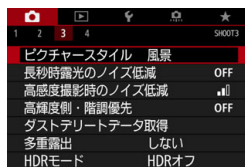
3 項目を選ぶ

- マルチコントローラーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。





5 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。

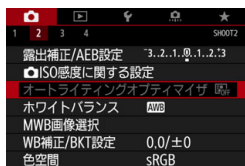
6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

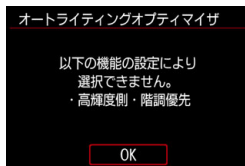
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり、〈〉〈〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、534ページを参照してください。


メニュー項目の灰色表示について

例：高輝度側・階調優先設定時




灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

⚠ 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

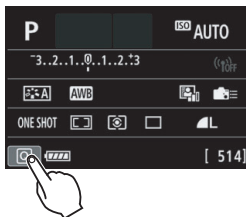
📄 [ 5 : カメラ設定初期化] でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (p.75)。

画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）




- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- 例えば [Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[Q+] をタッチすると、元の画面に戻ります。



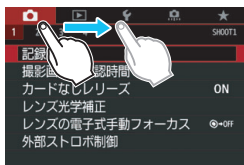
タッチでできる操作の例

- <MENU> ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- <AF> <DRIVE> <ISO> <☺> <☒> ボタンを押したあとの機能設定
- ライブビュー撮影／動画撮影時のタッチAF
- ライブビュー撮影時のタッチシャッター
- ライブビュー撮影／動画撮影時の機能設定
- 再生操作

 [4:電子音] を [タッチ音切] に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります (p.73)。

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



- 液晶モニターに指を触れたまま動かします。

画面例（目盛り表示）



ドラッグでできる操作の例

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- AFフレームの選択（ライブビュー撮影時を除く）
- ライブビュー撮影／動画撮影時の撮影機能の設定
- 再生操作

MENU タッチしたときの反応を設定する



1 [タッチ操作] を選ぶ

- [4] タブの [タッチ操作] を選び、〈SET〉を押します。



2 タッチしたときの反応を設定する

- 内容を選び 〈SET〉を押します。
- 通常は [標準] を選びます。
- [敏感] に設定すると、[標準] に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。
- タッチ操作を禁止するときは、[しない] を選びます。

タッチパネル操作時の注意事項

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなる場合があります。
- [敏感] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

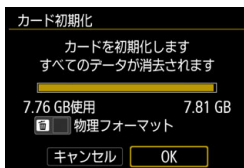
MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

❗ カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



- 1 [カード初期化] を選ぶ
 - [F1] タブの [カード初期化] を選び、<SET> を押します。




- 2 初期化する
 - [OK] を選び <SET> を押します。
➔ カードが初期化されます。



- 物理フォーマットを行うときは、<右> ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に <✓> が付いた状態で [OK] を選びます。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

 **こんなときにカードを初期化します**

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (p.567)


物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に [キャンセル] を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

● カード初期化時のファイルフォーマットについて

SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。

なお、exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず) 1つの動画ファイルに記録されます (4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

-  このカメラで初期化したSDXCカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され、使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーにより、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

使い始める前の準備

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時、画面にタッチして操作したときに、電子音が鳴らないようにすることができます。



1 [電子音] を選ぶ

- [F4] タブの [電子音] を選び、<SET> を押します。

2 [切] を選ぶ

- [切] を選び <SET> を押します。
- ➔ 電子音が鳴らなくなります。
- [タッチ音切] を選んだときは、タッチ操作を行ったときだけ、電子音が鳴らないようになります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。初期状態では1分に設定されていますが、この時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[しない] に設定します。

電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。




1 [オートパワーオフ] を選ぶ

- [F2] タブの [オートパワーオフ] を選び、<SET> を押します。

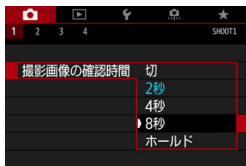
2 時間を設定する

- 内容を選び <SET> を押します。


 [しない] に設定しても、節電のため約30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは [ホールド]、撮影画像を表示しないようにするときは [切] に設定します。



- 1 **【撮影画像の確認時間】を選ぶ**
 - [📷1] タブの [撮影画像の確認時間] を選び、〈SET〉を押します。
- 2 **時間を設定する**
 - 内容を選び 〈SET〉を押します。

 [ホールド] に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

MENU 液晶モニターの消灯／点灯の設定

ファインダー撮影時に、シャッターボタンの半押しに連動して、クイック設定画面 (p.61)、または水準器 (p.80) を消したり、表示したりすることができます。



- 1 **【液晶の消灯/点灯】を選ぶ**
 - [🔧2] タブの [液晶の消灯/点灯] を選び、〈SET〉を押します。
- 2 **内容を設定する**
 - 内容を選び 〈SET〉を押します。

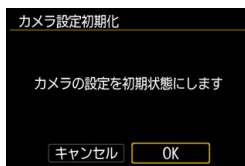
- [消灯しない] : シャッターボタンを半押ししても、液晶モニターの表示は消えません。消したいときは、〈INFO〉ボタンを押します。
- [半押し連動] : シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターの表示が消え、指を離すと表示されます。

MENU カメラの設定を初期状態に戻す 応用


撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

**1** [カメラ設定初期化] を選ぶ

- [5] タブの [カメラ設定初期化] を選び、
<SET> を押します。

**2** [OK] を選ぶ

- ➔ カメラの設定が初期化され、76 ~ 78 ページのようになります。

 カスタム機能の一括解除については、468ページを参照してください。

撮影機能

AF動作	ワンショットAF
測距エリア選択モード	自動選択AF
レンズの電子式手動フォーカス	ワンショットAF 作動後・不可
測光モード	☉ (評価測光)
ISO感度に関する設定	
ISO感度	オート
ISO感度の範囲	下限値：100 上限値：40000
オートの範囲	下限値：100 上限値：12800
オートの低速限界	自動設定
ドライブモード	□ (1枚撮影)
露出補正/AEB	解除
ストロボ調光補正	解除
多重露出	しない
HDRモード	HDRオフ
インターバルタイマー	しない
バルブタイマー	しない
フリッカーレス撮影	しない
ミラーアップ撮影	しない
ファインダー内表示	
水準器	表示しない
グリッド	表示しない
ファインダー内表示設定	フリッカー検知のみ 選択
カスタム機能	そのまま
外部ストロボ制御	
ストロボの発光	する
E-TTL II調光方式	評価調光
Avモード時のストロボ同調速度	自動

画像記録

記録画質	▲L
アスペクト比	3:2
ピクチャースタイル	オート
オートライティング オブティマイザ	標準
レンズ光学補正	
周辺光量補正	する
色収差補正	する
歪曲収差補正	しない
回折補正	する
ホワイトバランス	AWB (雰囲気優先)
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
色空間	sRGB
長秒時露光のノイズ 低減	しない
高感度撮影時のノイズ 低減	標準
高輝度側・階調優先	しない
画像番号	通し番号
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

撮影画像の確認時間	2秒
カードなしリリース	する
 での画像送り	10 (10枚)
ハイライト警告表示	しない
AFフレーム表示	しない
再生時のグリッド	表示しない
ヒストグラム	輝度
拡大倍率設定 (約)	2倍 (中央から)
HDMI機器制御	切
縦位置画像回転表示	する  
無線通信の設定	
Wi-Fi	使わない
Bluetooth機能	使わない
オートパワーオフ	1分
液晶の明るさ	
液晶の消灯/点灯	消灯しない
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
GPS	使わない
ビデオ方式	そのまま
撮影モードガイド	表示する
機能ガイド	表示する
ヘルプの文字サイズ	小
タッチ操作	標準
電子音	入
自動クリーニング	する
 ボタンで表示する内容	両項目選択
LV時に  ボタンで表示する内容	そのまま
マルチ電子ロック	 のみ選択
カスタム撮影モード	そのまま
著作権情報	そのまま
設定: MY MENU	そのまま
メニュー表示	通常表示

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF動作	ワンショットAF
AF方式	∫+追尾優先
タッチシャッター	しない
測光タイマー	8秒
グリッド	表示しない
露出Simulation	する
LVソフト撮影	モード1

動画撮影

動画記録サイズ	NTSC : PAL :
録音	オート
ウィンドカット	オート
アッテネーター	切
ISO感度に関する設定	
ISO感度	オート
ISO感度の範囲	下限値 : 100 上限値 : 25600
ISOオート	上限25600
ISOオート	上限12800

動画サーボAF	する
AF方式	追尾優先
動画サーボAFの被写体追従特性	0
動画サーボAF時のAF速度	
作動条件	常時
AF速度	0 (標準)
測光タイマー	8秒
グリッド	表示しない
ボタンの機能	AF/ー
ビデオスナップ	撮影しない
タイムラプス動画	しない
動画電子IS	しない
リモコン撮影	しない

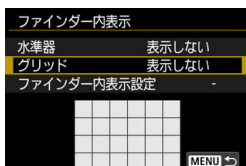
MENU ファインダー内にグリッドを表示する

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。

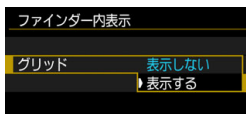


1 [ファインダー内表示] を選ぶ

- [F2] タブの [ファインダー内表示] を選び、<SET> を押します。

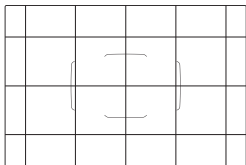


2 [グリッド] を選ぶ



3 [表示する] を選ぶ

- ➔ メニューを終了すると、ファインダー内にグリッドが表示されます。

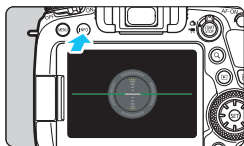


- ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、液晶モニターにグリッドを表示することができます (p.302、377)。
- [F2:ファインダー内表示] の設定内容が、初期状態から変更されているときは、[F2:ファインダー内表示] の右端に「*」が表示されます。

MENU 水準器を表示する

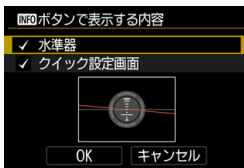
カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内に表示することができます。

液晶モニターに水準器を表示する



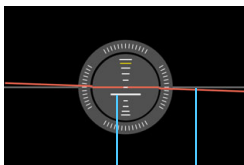
1 <INFO> ボタンを押す

- <INFO> ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。
- 水準器が表示されないときは、[4: INFO ボタンで表示する内容] で、水準器が表示されるように設定します (p.84)。

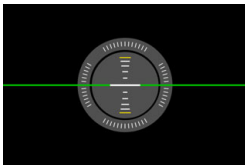


2 カメラの傾きを確認する

- 水平方向と上下方向の傾きが1° ぎざみで表示されます。
- 赤い線が緑色になると、傾きがほぼ補正された状態です。



上下方向 水平方向

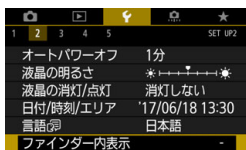


- 傾きが補正された状態でも±1° 程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に、同じ操作で水準器を表示することができます (L+追尾優先時を除く)。

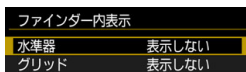
MENU ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内の上部に水準器を表示することができます。この機能は撮影時に表示されるため、傾きを確認しながら撮影することができます。



1 [ファインダー内表示] を選ぶ

- [F2] タブの [ファインダー内表示] を選び、<SET> を押します。



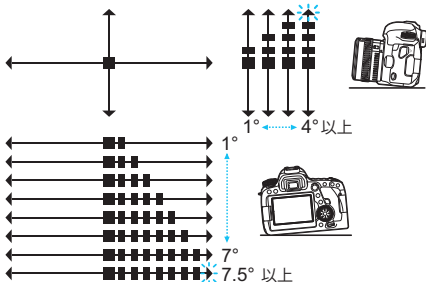
2 [水準器] を選ぶ



3 [表示する] を選ぶ

4 シャッターボタンを半押しする

- ➔ ファインダー内の上部に水準器が表示されます。
- 縦位置撮影時も機能します。



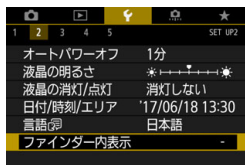
傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

[F2:ファインダー内表示] の設定内容が、初期状態から変更されているときは、[F2:ファインダー内表示] の右端に「*」が表示されます。

MENU ファインダー内に表示する情報を設定する 応用

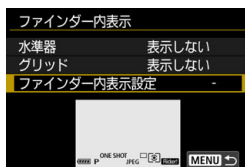
撮影に関する機能（バッテリー（電池残量）、撮影モード、AF動作、記録画質（画像タイプ）、ドライブモード、測光モード、フリッカー検知）の設定情報をファインダー視野内に表示することができます。

なお、初期状態ではフリッカー検知のみ [✓] が設定されています。



1 【ファインダー内表示】を選ぶ

- [F2] タブの【ファインダー内表示】を選び、<SET>を押します。



2 【ファインダー内表示設定】を選ぶ



3 表示する項目に [✓] を付ける




- 表示する項目を選び <SET> を押すと、[✓] が表示されます。
- この手順を繰り返して、表示する項目に [✓] を付け、[OK] を選びます。
- ➔ メニューを終了すると、ファインダー内に設定情報が表示されます (p.31)。



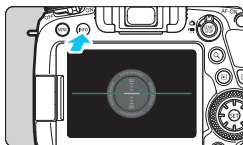


カメラにカードが入っていないときは、記録画質（画像タイプ：JPEG/RAW）は表示されません。

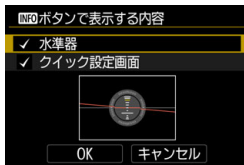


- 撮影モードを変更したときや、〈AF〉〈DRIVE〉〈〉ボタンを押したとき、レンズのフォーカスモードスイッチを操作したとき、電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時にレンズのフォーカスリングを回してAF/MFが切り換わったときは（p.155）、[✓] の設定に関わらず、ファインダー内に設定情報が表示されます。
- [バッテリー] に [✓] を付けていなくても、電池残量が少なくなると、ファインダー内に電池残量（/ ）が表示されます。
- [42: ファインダー内表示] の設定内容が、初期状態から変更されているときは、[42: ファインダー内表示] の右端に「*」が表示されます。

INFO ボタンの機能

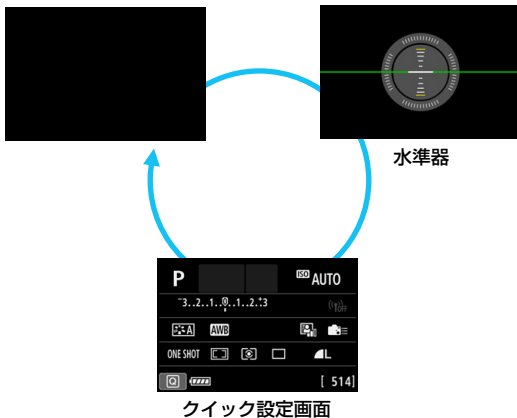


ファインダー撮影時に、撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押すと、「水準器」(p.80)、「クイック設定画面」(p.86)を切り換えて表示することができます。



[4] タブの「**INFO** ボタンで表示する内容」で、〈INFO〉ボタンを押したときに表示する項目を選ぶことができます。

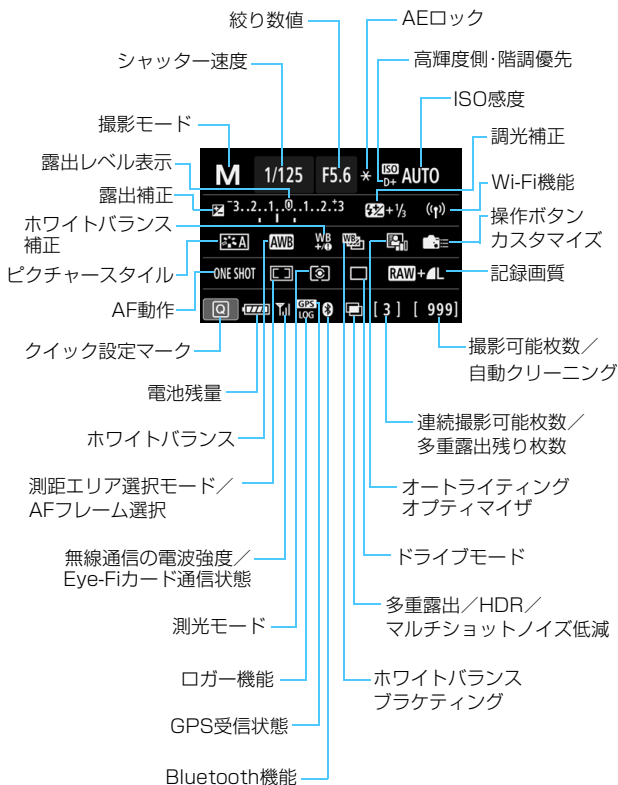
- 使用する項目を選び、〈SET〉を押して [✓] を付けます。
- [OK] を選ぶと設定されます。





- 「水準器」「クイック設定」画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。
- 両方の[✓]を外すことはできません。
- [水準器]を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時に〈INFO〉ボタンを押すと、水準器が表示されます。ただし、[CAM5:AF方式]の設定によっては、水準器が表示されないことがあります。
- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます (p.61)。
- ライブビュー撮影時、動画撮影時は、[▼4]タブに表示される項目が、[LV時にINFOボタンで表示する内容] (p.298) に変わります。

クイック設定画面



* 設定に応じた部分のみ表示されます。

クイック設定画面表示中のボタン操作について

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈測光〉〈AFメニュー〉〈AFメニュー〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈AFメニュー〉〈測光〉〈AFメニュー〉や、〈AFメニュー〉ボタンで設定することができます。



AF動作



ドライブモード



ISO感度



測光モード



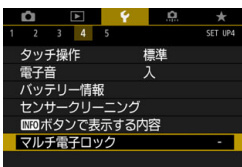
測距エリア／AFフレーム選択

ボタンを押しても画面が表示されないときは、〈INFO〉ボタンを押して、「水準器」または「クイック設定」画面が表示された状態で、上記のボタンを押します。

LOCK マルチ電子ロック機能を設定する

〈LOCK〉スイッチを上側にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

なお、マルチ電子ロックスイッチについては、59ページを参照してください。



1 [マルチ電子ロック] を選ぶ

- [F4] タブの [マルチ電子ロック] を選び、〈SET〉を押します。



2 操作を禁止する操作部材に [✓] を付ける

- 操作部材を選び 〈SET〉を押すと、[✓] が表示されます。
- [OK] を選びます。
- 〈LOCK〉スイッチを上側にしたときに、[✓] を付けた操作部材がロックされます。

- 〈LOCK〉スイッチが上側の状態で、禁止した操作部材を操作すると、ファインダー内と表示パネルに〈L〉、クイック設定画面 (p.61) に [LOCK] が表示されます。ライブビュー撮影/動画撮影時は撮影画面に [LOCK] が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは 〈○〉がロックされます。
- かんたん撮影ゾーンの場合は、[タッチ操作] のみ設定できます。
- クイック設定時 (p.61) は、マルチ電子ロックの設定に関わらず、操作することができます。
- 初期状態から設定が変更されているときは、[F4: マルチ電子ロック] の右端に「*」が表示されます。

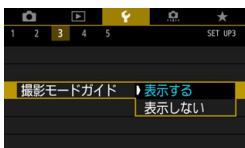
撮影モードガイドの設定

モードダイヤルを回して撮影モードを選んだときに、撮影モードの概要(撮影モードガイド)を画面に表示することができます。ファインダー撮影時にクイック設定画面、または水準器を表示しているときに、撮影モードガイドが表示されます。初期状態では「表示する」に設定されています。



1 「撮影モードガイド」を選ぶ

- [F3] タブの「撮影モードガイド」を選び、<SET>を押します。



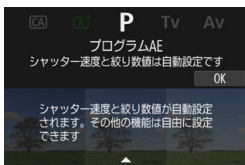
2 「表示する」を選ぶ

- 撮影モードガイドを表示したくないときは、「表示しない」を選びます。



3 モードダイヤルを回す

- ➔ 選択した撮影モードの概要が表示されます。



4 <▽> ボタンを押す

- ➔ より詳しい内容が表示されます。
- <SET>を押すか、シャッターボタンを半押しすると、撮影モードガイドが終了します。

📄 <SCN> モードのときは、手順3または手順4で <SET> を押したあと、撮影モードを選びます。

機能ガイドの設定

クイック設定時に、選択した機能の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。ファインダー撮影、ライブビュー撮影、動画撮影時に機能ガイドを表示することができます。初期状態では「表示する」に設定されています。



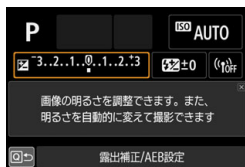
1 【機能ガイド】を選ぶ

- [F3] タブの「機能ガイド」を選び、〈SET〉を押します。



2 【表示する】を選ぶ

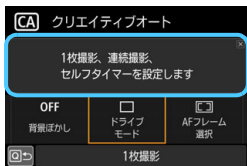
- 機能ガイドを表示したくないときは、「表示しない」を選びます。



3 撮影準備状態で〈Q〉ボタンを押す

- メニューを終了し、撮影準備状態で〈Q〉ボタンを押します。
- 〈Q〉を押して項目を選ぶと、一瞬の間を置いたあと、機能ガイドが表示されません。

ファインダー撮影



ライブビュー／動画撮影



- 選択した項目によっては、子画面でも機能ガイドが表示されます。
- 機能ガイドにタッチすると、表示を消すことができます。

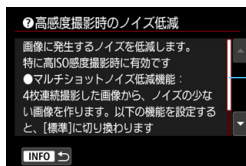
② ヘルプ機能について

メニュー画面の下に「[INFO ヘルプ]」が表示されているときは、機能の説明(ヘルプ)を表示することができます。〈INFO〉ボタンを押すとヘルプが表示され、もう一度押すとヘルプ表示が終了します。なお、説明が1ページを超えるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは、〈▲〉〈▼〉を押すか〈○〉を回します。

● [📷3：高感度撮影時のノイズ低減] の例



INFO
➔

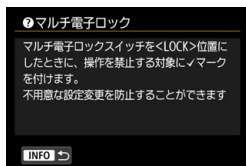


スクロールバー

● [🔒4：マルチ電子ロック] の例



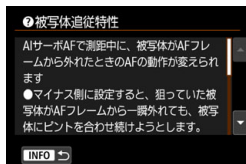
INFO
➔



● [📍C.Fn II:AF：被写体追従特性] の例



INFO
➔



ヘルプ表示の文字サイズ

ヘルプを表示したときの文字サイズを選ぶことができます。初期状態では [小] に設定されています。



1 [ヘルプの文字サイズ] を選ぶ

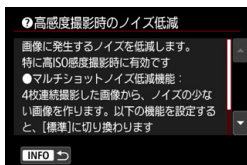
- [F3] タブの [ヘルプの文字サイズ] を選び、<SET>を押します。



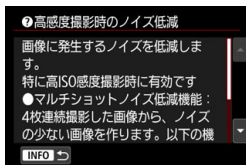
2 文字サイズを設定する

- [小] または [標準] を選び、<SET>を押します。

● [CAMERA 3: 高感度撮影時のノイズ低減] の例



文字サイズ：小



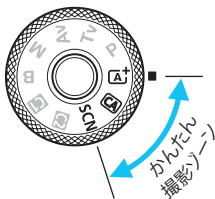
文字サイズ：標準

2

かんたん撮影

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。

「かんたん撮影ゾーン」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます (p.127、526)。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。



❶ 〈SCN〉モードで撮影する前に

〈SCN〉モードで撮影するとき、液晶モニターが消灯しているときは、〈Q〉ボタン、または〈INFO〉ボタンを押して、設定されている撮影モードを確認してから撮影してください。

全自動で撮る (シーンインテリジェントオート)

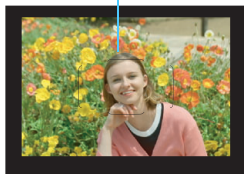
〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます (p.97)。



1 モードダイヤルを〈A+〉にする

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。
- 撮影モードの説明が液晶モニターに表示されたときは、〈SET〉を押すと説明が消えます (p.89)。

エリアAFフレーム



2 被写体 (写したいもの) にエリアAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。

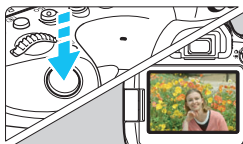


3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➔ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➔ 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。



合焦マーク



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➔ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。



- 〈全自動〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影ゾーン (p.36) にして、〈AF-ON〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください (p.176)。
- 〈Q〉ボタンを押すと、[ドライブモード] [AFフレーム選択] をクイック設定することができます。設定方法については、100～104ページの〈全自動〉モードの設定方法を参考にしてください。

? こんなときは

● 合焦マーク (●) が点滅してピントが合わない

明暗差 (コントラスト) のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください (p.56)。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● ピントが合ったのにAFフレームが赤く照明されない

AFフレームは、暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに、赤く照明されます。

● 複数のAFフレームが同時に表示される

表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

● 電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。

なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影(p.97)はできません。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈AF〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● シャッター速度（数字）が点滅している

光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EXスピードライト（別売/p.278）を使用して撮影することをおすすめします。

● 外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった

レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

 **ブレの少ない画像を撮影するには**




- ソフト1枚撮影（p.157）、ライブビュー撮影時の1枚撮影などが効果的です。撮影モードが応用撮影ゾーンの場合は、ミラーアップ撮影（p.265）も効果的です。
- 連続撮影を行うときは、ソフト連続撮影（p.157）、ライブビュー撮影時の連続撮影が効果的です。
- （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
- リモートスイッチ、リモートコントローラーなどの使用をおすすめします（p.271、273）。

A+ 全自動を使いこなす (シーンインテリジェントオート)

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈**A+**〉モードのときは止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます (〈**SCN**〉モードの〈〉〈〉〈〉を除く)。

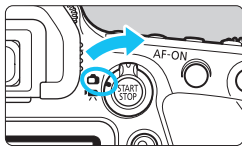
動いているものを撮影する



〈**A+**〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く (距離が変わる) と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能 (AIサーボAF) が働きます (電子音が小さく鳴り続けます)。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について


液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、289ページを参照してください。

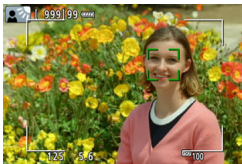


- 1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを  にする



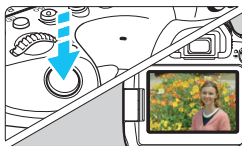
- 2 液晶モニターに映像を表示する

-  ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。




- 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➔ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



- 4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➔ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➔ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
-  ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

液晶モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくは46ページを参照してください。



通常のアングル



ローアングル



ハイアングル

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉は〈A+〉から一歩進んだ全自動撮影モードです。写真の雰囲気や、背景のボケかたなどを自分で調整してから、撮影することができます。

〈Q〉ボタンを押すと、「①雰囲気を選んで撮影」「②背景ぼかし設定」「③ドライブモード」「④AFフレーム選択」をクイック設定することができます。

* 〈CA〉はCreative Auto (クリエイティブオート) の略です。



1 モードダイヤルを〈CA〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す (p.10)

→ クイック設定 (p.126) の状態になります。



3 機能を設定する

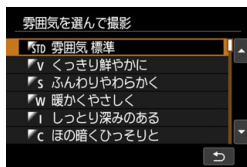
- 〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して機能を選びます。
- 選択した機能の内容と、機能ガイド (p.90) が、画面に表示されます。
- 機能の設定方法と内容については、101～104ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ライブビュー機能を使って、液晶モニターで効果を確認しながら撮影するときは、105ページを参照してください。



① 雰囲気を選んで撮影



どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈〉または〈〉を回して雰囲気を選びます。

①の項目を選んだ状態で〈〉を押すと、左図の画面が表示され、一覧から選ぶことができます。そのときは〈〉〈〉を押して雰囲気を選びます。

なお、〈〉ボタンを押して、ライブビュー撮影にすると、「雰囲気を選んで撮影」による効果を撮影前に確認することができます (p.105)。

雰囲気	雰囲気の効果
STD 雰囲気 標準	設定なし
V くっきり鮮やかに	弱め/標準/強め
S ふんわりやわらかく	弱め/標準/強め
W 暖かくやさしく	弱め/標準/強め
I しっとり深みのある	弱め/標準/強め
C ほの暗くひっそりと	弱め/標準/強め
B 明るく	少し/もう少し/さらに
D 暗く	少し/もう少し/さらに
M モノクロ	青/白黒/セピア

各雰囲気画像特性について

☑STD 雰囲気 標準

標準的な画像特性です。

☑V くっきり鮮やかに

被写体をくっきりさせる印象的な特性で、くっきり鮮やかな雰囲気の写真になります。[☑STD 雰囲気 標準] よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

☑S ふんわりやわらかく

被写体の強調感を抑えた特性で、ふんわりやわらかな雰囲気の写真になります。人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

☑W 暖かくやさしく

被写体の強調感を抑えた暖色系の特性で、暖かみのある、やさしい雰囲気の写真になります。人物やペットなどを暖かみのある雰囲気撮影するときに効果的です。

☑I しっとり深みのある

全体的な明るさを少し抑えながら被写体を強調した特性で、しっとり深みのある雰囲気の写真になります。人や生き物を存在感ある雰囲気撮影するときに効果的です。

☑C ほの暗くひっそりと

全体的な明るさを少し抑えた寒色系の特性で、ほの暗くひっそりとした雰囲気の写真になります。影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気撮影したいときに効果的です。

☑B 明るく

明るめの写真になります。

☑D 暗く

暗めの写真になります。

☑M モノクロ

モノクロ写真になります。モノクロの色は、青、白黒、セピアの3色から選択することができます。

②背景ぼかし設定



被写体の背景のボケ具合を調整することができます。〈☀️〉または〈🌑〉を回して効果を設定します。

101ページの②の項目を選んだ状態で〈SET〉を押すと、左図の画面が表示され、ゲージを見ながら、〈☀️〉または〈🌑〉を回して設定することができます。

なお、〈START/STOP〉ボタンを押して、ライブビュー撮影にすると、「背景ぼかし設定」の効果を撮影前に確認することができます (p.106)。

- OFF** : 明るさに応じてカメラが絞り数値を自動設定します。ボケ具合をカメラ任せで撮影することができます。
- ぼかす** : オレンジ色のバーを左側 (ぼかす側) にするほど、被写体の背景がぼけた写真になります。
- くっきり** : オレンジ色のバーを右側 (くっきり側) にするほど、被写体の背景がくっきりした写真になります。





- 使用するレンズや撮影条件によっては、被写体の背景がぼけた写真、またはくっきりした写真にならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時は設定できません。
- 使用するレンズの明るさ (開放絞り数値 (F値)) によっては、選べない位置があります。




背景をぼかしたいときは、109ページ『人物を写す』の『撮影のポイント』を参考にして撮影します。

③ ドライブモード





1枚撮影、連続撮影、セルフタイマーの中から撮影方法を選ぶことができます。〈〉または〈〉を回して項目を選びます。

〈SET〉を押すと左図の画面が表示されます。そのときは〈〉を回して項目を選びます。



なお、ドライブモードについては、156ページを参照してください。

④ AFフレーム選択



〈〉または〈〉を回すと、測距エリア選択モードを選ぶことができます。

〈SET〉を押すと左図の画面が表示され、測距エリア選択モードと、AFフレームを選ぶことができます。

その状態で〈〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードを選ぶことができます。測距エリア選択モードが「自動選択AF」以外のときは、〈〉でAFフレーム（またはゾーン）を選択することができます。


なお、測距エリア選択モードについては134～136ページ、AFフレーム選択については137ページを参照してください。

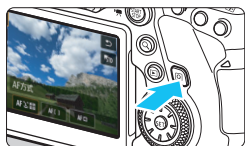
ライブビュー映像で効果を確認しながら撮影する

〈CA〉モードで「**霧団気を選んで撮影**」**「背景ぼかし**」を設定するときは、ライブビュー映像で効果を確認しながら撮影することをおすすめします。



1 ライブビュー映像を表示する

- ライブビュー／動画撮影スイッチを〈〉にして、〈START/STOP〉ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しして、被写体にピントを合わせます。





2 〈Q〉ボタンを押す

- ➔ クイック設定の状態になります (p.10)。





3 霧団気を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して「**霧団気を選んで撮影**」を選びます。
- 〈〉または〈〉を回して、霧団気を選びます (p.101)。
- ➔ 選んだ霧団気の仕上がりイメージが表示されます。



4 霧団気の効果を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して「**霧団気の効果**」を選びます。
- 〈〉または〈〉を回して、効果の度合い、または内容を選びます。



5 【背景ぼかし】を設定する

- 〈Q〉ボタンを押して、クイック設定を終了します。
- 〈☀〉または〈☾〉を回して、ぼけ具合を確認しながら調整します (p.103)。調整中は「ぼかしシミュレーション中」と表示されます。

6 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ファインダー撮影を行うときは、〈START〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了してから撮影します。

- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕事がイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
- 「ぼかしシミュレーション中」に〈Exp.SIM〉マーク (p.293) が点滅しているときは、実際に撮影される画像よりも映像のノイズが多く見えたり、暗く見えることがあります。
- 外部ストロボを使用したときは、雰囲気の効果が小さくなる場合があります。
- 明るい屋外でライブビュー映像を見ると、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なる場合があります。[▼2: 液晶の明るさ] で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、できるだけ周りの光の影響を受けない状態で、効果を確認してください。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、[雰囲気] [背景ぼかし] [ドライブモード] [AFフレーム選択] の設定が解除され、初期状態に戻ります。

☑ 〈SCN〉モードの【明るさ】【色あい】について

モードダイヤルが〈SCN〉モードのときは、撮影モードにより【明るさ】【色あい】を調整することができます。手順3で【明るさ】または【色あい】の項目を選ぶと、ライブビュー映像を見ながら【明るさ】を暗く／明るく：各3段階、【色あい】を寒色／暖色方向：各2段階に調整することができます。

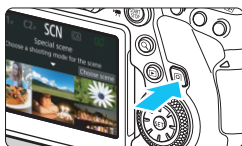
SCN: スペシャルシーンモードで撮る

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。

* <SCN> はSpecial Scene (スペシャルシーン) の略です。

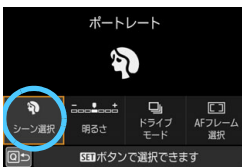


1 モードダイヤルを <SCN> にする



2 <Q> ボタンを押す (約10)

→ クイック設定の状態になります。



3 [シーン選択] を選ぶ

● <◀> <▶> または <▲> <▼> を押して [シーン選択] を選び、<SET> を押します。

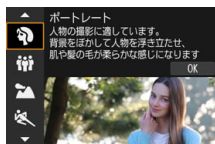


4 撮影モードを選ぶ

● <▲> <▼> を押して撮影モードを選び、<SET> を押します。
● <☀> または <🕒> を回して選ぶこともできます。

各撮影モードの注意事項を122ページにまとめて記載しています。注意事項を読んでから撮影してください。

SCNモード一覧



👤 : ポートレート
(p.109)



👥 : 集合写真
(p.110)



🏞️ : 風景
(p.111)



🏃 : スポーツ
(p.112)



👧 : キッズ
(p.113)



🚗 : 流し撮り
(p.114)



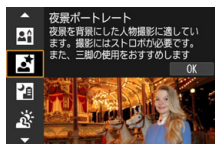
🌸 : クローズアップ
(p.116)



🍴 : 料理
(p.117)



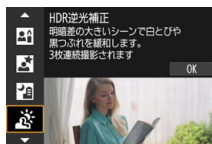
🕯️ : キャンドルライト
(p.118)



🌃 : 夜景ポートレート
(p.119)




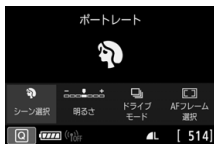
🌃 : 手持ち夜景
(p.120)



🌞 : HDR逆光補正
(p.121)

SCN: 人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

● 人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ



人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● 望遠レンズを使用する


ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。

 初期状態では、（低速連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます（最高約3.0コマ/秒）。

SCN: 集合写真を写す

集合写真を撮るときは  (集合写真) を使用します。手前から奥の人物までピントが合った写真を撮ることができます。




撮影のポイント



● 広角レンズを使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前から奥の人物までピントが合いやすくなります。また、(人物の全身が写るくらいに)人物から少し離れると、ピントの合う範囲が前後に広がります。


● 同じシーンを何枚か撮影する

目を閉じてしまう人がいることがあるため、何枚か撮影しておくことをおすすめします。

 注意事項は122ページを参照してください。

-  室内や暗い場所で撮影するときは、カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。
-  ボタンを押して [明るさ] を選ぶと、画像の明るさを調整することができます。

SCN: 風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、 (風景) を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。





撮影のポイント

● ズームレンズは広角側にする


ズームレンズのときは、レンズを広角側にするると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● 夜景を撮影するときは

 でカメラを手に持って撮影すると、手ブレしますので、三脚を使用してください。

 注意事項は122ページを参照してください。

SCN: 動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、 (スポーツ) を使用します。




撮影のポイント


● 望遠レンズを使用する


遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける


エリアAFフレームで被写体を捉えてから、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク  が点滅します。

● 連続撮影する

初期状態では、 (高速連続撮影) に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます(ファインダー撮影時：最高約6.5コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約4.0コマ/秒)。

 注意事項は122ページを参照してください。


SCN: 子供を写す

動き回る子供を撮りたいときは、 (キッズ) を使用します。肌色が健康的な写真になります。





撮影のポイント

● エリアAFフレームで被写体を捉え続ける



エリアAFフレームで被写体を捉えてから、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク  が点滅します。

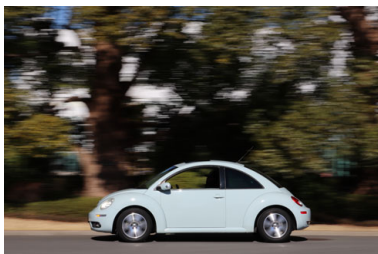
● 連続撮影する

初期状態では、 (高速連続撮影) に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の表情や動きの変化を写すことができます (ファインダー撮影時：最高約6.5コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約4.0コマ/秒)。

 注意事項は122ページを参照してください。

SCN: 流し撮りをする

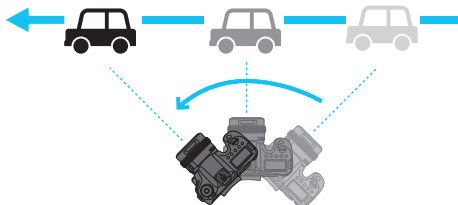
被写体の背景が流れるようなスピード感のある写真を撮りたいときは、（流し撮り）を使用します。ライブビュー撮影時に、モードに対応しているレンズを使用すると、被写体のブレを検出して補正が行われるため、被写体ブレを軽減することができます。



撮影のポイント

● 被写体に合わせてカメラを動かす

動いている被写体を追いかけるように、カメラを滑らかに動かして撮影します。動いている被写体のピントを合わせたい位置にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押ししたまま、被写体の速度に合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを全押しします。その後も被写体の動きに合わせてカメラを動かします。



● 背景を流す効果の度合いを設定する

[流し効果] で「背景が流れたように写る度合い」を設定することができます。[大] にすると、シャッター速度が遅くなり、被写体の背景がより流れたような写真になります。なお、被写体ブレが目立つときは、[流し効果] を [中] または [小] に変更すると、被写体のブレが軽減されます。



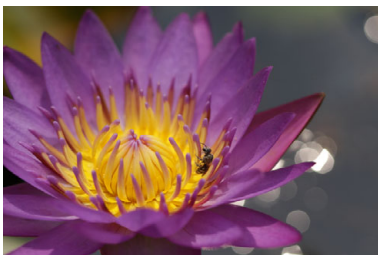
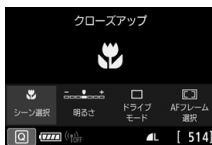
注意事項は122ページを参照してください。



- <SCN> モードに対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- ライブビュー撮影時に <SCN> モードに対応したレンズを使用したときは、レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、被写体のブレに対する補正と、[流し効果] の設定に応じたシャッター速度の自動調整が行われます。
- ファインダー撮影時の測距エリア選択モードの初期設定は、「ラージゾーンAF」の設定で、「中央のゾーン」が選択された状態になっています。
- ライブビュー撮影のときは、[AF方式] が [AF方式] に自動設定されます。
- 手ブレしないように脇をしっかり締め、カメラを両手で構え、被写体の動きに合わせてカメラを滑らかに動かして撮影することをおすすめします。
- 電車や車など、同じ方向に一定の速度で動く被写体を撮影すると、より効果が発揮されます。
- テスト撮影を行ったり、撮影直後に画像を再生して、撮影結果を確認することをおすすめします。
- 初期設定では、<SCN> (低速連続撮影) に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのまま被写体の動きに合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われます (ファインダー撮影時：最高約4.3コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約2.7コマ/秒 (シャッター速度1/30秒、絞り開放時))。

SCN:🌸 花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌸〉(クローズアップ)を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



💡 撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**
背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- **写したいものにできるだけ近づく**
最も近づくことができる距離(最短撮影距離)は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈📷〉(撮像面マーク)から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合わないため、合焦マーク〈●〉が点滅します。
- **ズームレンズは望遠側にする**
ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

SCN:🍴 料理を写す

料理を撮りたいときは、〈🍴〉(料理)を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。




💡 撮影のポイント

● 色あいを変える

[色あい]を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは[暖色]側に、赤みが強すぎるときは[寒色]側に設定を変更して撮影してください。

🔊 注意事項は123ページを参照してください。

SCN: キャンドルライトと人物を写す

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、 (キャンドルライト) を使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。




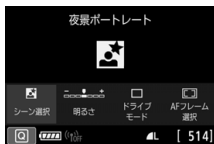
撮影のポイント

- 中央のAFフレームでピントを合わせる
ファインダー内の中央のAFフレームを人物に合わせて撮影します。
- ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する
暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、ズーム位置を広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- 色あいを変える
[色あい] を変えることができます。キャンドルライトの赤みを強めたいときは [暖色] 側に、赤みが強すぎるときは [寒色] 側に設定を変更して撮影してください。

- ライブビュー撮影はできません。
- 注意事項は123ページを参照してください。

SCN: 夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、（夜景ポートレート）を使用します。なお、撮影には外部ストロボが必要です。三脚の使用をおすすめします。



撮影のポイント



● 広角レンズと三脚を使用する


ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。


● 画像の明るさを確認する

撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● 他の撮影モードでも撮影しておく

ブレた写真になりやすいので、 と  でも撮影しておくことをおすすめします。

 注意事項は124ページを参照してください。

 セルフタイマー併用時に、外部ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

SCN:📷 夜景を写す（手持ち撮影）

夜景を撮影するときは、三脚を使用した方がきれいに撮影できますが、**SCN**（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



💡 撮影のポイント

● カメラをしっかり構える


撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

● 人物も一緒に撮るときは外部ストロボを使用する

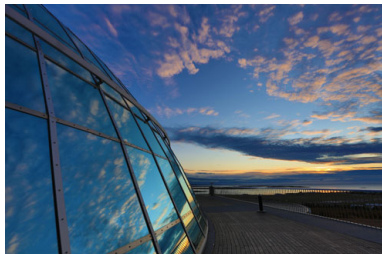
人物も一緒に撮るときは、EOS用の外部ストロボを使用します。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

⚠️ 注意事項は124ページを参照してください。

SCN: 逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、（HDR逆光補正）を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。


* 「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



撮影のポイント

● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

 注意事項は125ページを参照してください。

〈SCN〉モードの注意事項

• ：集合写真

- 歪曲収差補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。また、ライブビュー撮影時は、画角がわずかに変化します。
- 撮影条件により、手前から奥の人物までピントが合わないことがあります。

• ：風景

- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。





• ：スポーツ

- 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- ライブビュー撮影時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、**M RAW**、**S RAW**は選択できません。
- 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

• ：キッズ



- ライブビュー撮影時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、**M RAW**、**S RAW**は選択できません。
- ライブビュー撮影時に外部ストロボを使用したときは、連続撮影速度が低下します。なお、外部ストロボ使用時にストロボが発光しなくても、連続撮影速度は低下したまま撮影されます。

• ：流し撮り

- シャッター速度が遅くなります。そのため、流し撮り以外の撮影には適していません。
- 初期状態では〈〉に設定されます。なお、〈H〉〈S〉は選択できません。
- ライブビュー撮影時に、**M RAW**、**S RAW**は選択できません。
- 外部ストロボは使用できません（発光しません）。
- 〈〉モードに対応しているレンズでライブビュー撮影を行ったときに、レンズの手ブレ補正効果は、撮影した画像には反映されますが、撮影時のライブビュー映像では確認できません（レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、撮影する瞬間だけ手ブレ補正機能、および被写体のブレに対する補正機能が作動します）。



・ ：流し撮り（続き）

- 〈〉モードに対応していないレンズで撮影すると、被写体のブレに対する補正は行われませんが、[流し効果]の設定に応じたシャッター速度の自動調整のみ行われます。
- （夏の晴天下など）明るい場所で撮影したときや、遅い被写体を撮影したときは、設定した量の流し効果が得られないことがあります。
- ライブビュー撮影時に、〈〉モードに対応したレンズを使用して、次のような被写体を撮影したときや、次のような撮影条件のときは、被写体のブレの補正が適切に行われなかったことがあります。
 - ・ 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
 - ・ 暗い場所にある被写体
 - ・ 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
 - ・ 繰り返し模様の被写体
 - ・ 模様が少ない被写体や、単調な模様の被写体
 - ・ 写り込みがある被写体（ガラスに反射した像など）
 - ・ ゾーンAFフレームよりも小さい被写体
 - ・ ゾーンAFフレームの中に動いている被写体が2つ以上あるとき
 - ・ 移動方向や速度が不規則な被写体
 - ・ 不規則な動きが含まれている被写体（走っている人の上下運動など）
 - ・ 速度変化が大きい被写体（動き出し直後や、カーブを曲がっているなど）
 - ・ カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
 - ・ 被写体の動きにカメラの動かし方が合っていないとき

・ ：料理

- 赤みのある被写体の色が薄くなる場合があります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- 外部ストロボを使用したときは、[色あい]が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

・ ：キャンドルライト

- 外部ストロボは使用できません（発光しません）。
- AFでピントが合わないときは、EOS用外部ストロボのAF補助光を使用してください。

● 夜景ポートレート

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- ライブビュー撮影時に人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- 夜景などをライブビュー撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

● 手持ち夜景

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- 夜景などをライブビュー撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください (p.154)。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
- 外部ストロボ使用時に、被写体との距離が近いと、露出オーバーになることがあります。
- 外部ストロボ使用時に、明かりが少ない夜景を撮影すると、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- 外部ストロボ使用時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、適切な色あいにならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時の照射角について
 - ・ 照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関わらず、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
 - ・ 照射角を手動で設定するストロボのときは、発光部を通常状態にして撮影してください。



● ④：手持ち夜景（続き）

- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「buSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

● ⑤：HDR逆光補正

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- 外部ストロボは使用できません（発光しません）。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「buSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

Q クイック設定について

かんたん撮影ゾーンで〈Q〉ボタンを押すと、次ページの表に示す項目をクイック設定することができます。

1 モードダイヤルを「かんたん撮影ゾーン」にする

2 〈Q〉ボタンを押す (⊕10)
→ クイック設定の状態になります。

例：〈A+〉モード



3 機能を設定する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して機能を選びます。
→ 選択した機能の内容と、機能ガイド (p.90) が、画面に表示されます。
- 〈⚙〉または〈⦿〉を回して設定を変更します。
- 機能を選び〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。



画面にタッチしてクイック設定を行うこともできます。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定*1 ○：設定可能 □：設定不可

項目		[A] ⁺	[CA]
雰囲気を選んで撮影 (p.101)			○
背景ぼかし設定 (p.103)			○
ドライブ モード (p.156)	1枚撮影	●	●
	高速連続撮影	○	○
	低速連続撮影	○	○
	ソフト1枚撮影*2	○	○
	ソフト連続撮影*2	○	○
	セルフ：10秒/リモコン	○	○
	セルフ：2秒/リモコン	○	○
セルフタイマー：連続撮影		○	○
AFフレーム選択 (p.136、137)		○	○







項目		SCN					
流し効果 (p.114)							○
明るさ (p.106)		○	○	○	○	○	○
ドライブ モード (p.156)	1枚撮影	○	●	●	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	●	●	□
	低速連続撮影	●	○	○	○	○	●
	ソフト1枚撮影*2	○	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*2	○	○	○	○	○	□
	セルフ：10秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ：2秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
セルフタイマー：連続撮影		○	○	○	○	○	○
AFフレーム選択 (p.136、137)		○	○	○	○	○	○

*1: 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります
(セルフタイマーの設定を除く)。

*2: ファインダー撮影時のみ設定できます。

Q クイック設定について

●：初期設定*1 ○：設定可能 □：設定不可

項目		SCN					
							
色あい (p.106)			○	○			
明るさ (p.106)		○	○	○	○	○	
ドライブ モード (p.156)	1枚撮影	●	●	●	●	●	●
	高速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	低速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	ソフト1枚撮影*2	○	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*2	○	○	○	○	○	○
	セルフ：10秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ：2秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
セルフタイマー：連続撮影		○	○	○	○	○	○
AFフレーム選択 (p.136、137)		○	○		○	○	○

*1: 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

*2: ファインダー撮影時のみ設定できます。

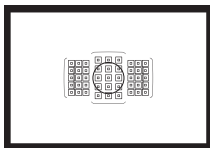
雰囲気を選んで撮影／背景ぼかし設定／明るさ／色あいの調整について

「雰囲気を選んで撮影」[背景ぼかし] [明るさ] [色あい] を設定するときは、ライブビュー撮影をおすすめします。

ライブビュー撮影時の操作方法については、105ページの『ライブビュー映像で効果を確認しながら撮影する』、および106ページの『〈SCN〉モードの[明るさ] [色あい] について』を参照してください。映像を見ながら効果を調整することができます。

3


AF / ドライブの設定



ファインダー内に配置されたAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

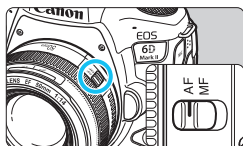
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モード）限定の機能であることを示しています。
- **かんたん** 撮影ゾーンのときは、AF動作が自動設定されます。

 〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

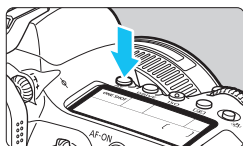
AF: AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンの場合は、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。

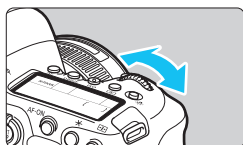


1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする



3 〈AF〉ボタンを押す (⦿6)



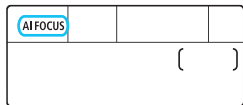
4 AF動作を選ぶ


- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、またはを回します。

ONE SHOT : ワンショットAF

AI FOCUS : AIフォーカスAF

AI SERVO : AIサーボAF

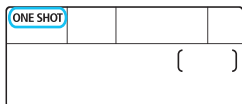


 応用撮影ゾーンの場合は、〈AF-ON〉ボタンでAFを行うこともできます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF



AFフレーム
合焦マーク



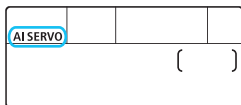
止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク(●)が点灯します。
- カメラが初期状態で、測光モードが評価測光のときは (p.243)、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。




- ピントが合わないときは、ファインダー内の合焦マーク(●)が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』(p.153)を参照してください。
- [4: 電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。被写体が画面の端にあり、エリアAFフレームに入らないときなどに有効です。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時に、[1: レンズの電子式手動フォーカス] を [ワンショットAF作動後・可能] に設定すると、AFでピントを合わせたあと、手でピントの調整を行うことができます (p.155)。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

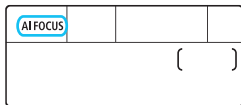


撮影距離がたえず変化する(動いている)被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード (p.139) が、自動選択AFのときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。


 AIサーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク (●) も点灯しません。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF



被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へと作動特性が自動的に切り換わります。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。


 AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク (●) は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

AFフレームの赤色照明について

初期状態では、暗い場所で撮影するときや、暗い被写体にピントが合ったときに、AFフレームが赤く照明されます。なお、応用撮影ゾーンの場合は、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます (p.488)。

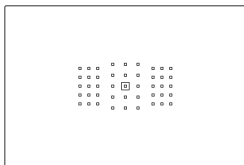
測距エリアとAFフレームを選択する

このカメラは自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を45点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは145ページ『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

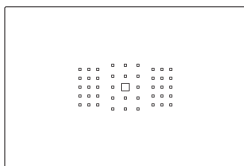
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを5種類の中から選ぶことができます。選択方法は136ページを参照してください。



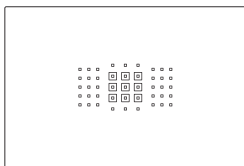
スポット1点AF（任意選択）

狭い部分にピントを合わせることができます。



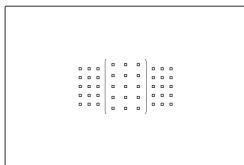
1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



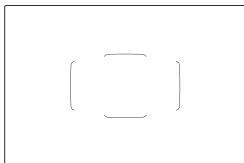
ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



☐ ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)

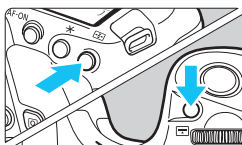
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



☐ 自動選択AF

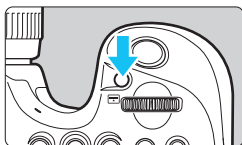
エリアAFフレーム (AF領域全体) でピント合わせを行います。

測距エリア選択モードを選ぶ



1 <☒> または <☒> ボタンを押す
($\odot 6$)

- ファインダーをのぞきながら、<☒> または <☒> ボタンを押します。



2 <☒> ボタンを押す

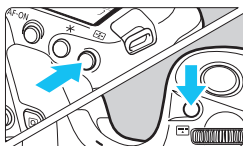
- <☒> ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

- <SCN : ☒> モードのときは、測距エリアを選ぶことはできません。1点AF(中央固定)で撮影されます。
- かんたん撮影ゾーンのときは、以下の操作を行うと、測距エリアとAFフレームの設定が初期状態に戻ります。
 - ・ 撮影モードを変更したとき
 - ・ 電源スイッチを<OFF>にしたとき
 - ・ 電池室ふた/カードスロットカバーを開けたとき

- [\odot C.Fn II-8 : 測距エリア選択モードの限定] で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます (p.481)。
- [\odot C.Fn II-9 : 測距エリア選択モードの切換] を [1 : ☒ → メイン電子ダイヤル] に設定すると、<☒> または <☒> ボタンを押したあと、<☒> で測距エリア選択モードを選ぶことができます (p.482)。

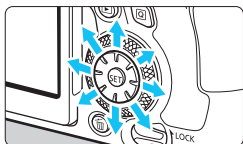
AFフレームを任意選択する

AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。



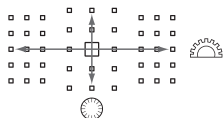
1 <AF-ON> または <AF-ON/LOCK> ボタンを押す (Ⓜ6)

- ➔ ファインダー内にAFフレームが表示されます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。



2 AFフレームを選択する

- <AF-ON/LOCK> を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。<SET> を押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。
- <AF-ON/LOCK> で横方向、<AF-ON/LOCK> で縦方向のAFフレームを選択することもできます。
- ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、<AF-ON/LOCK> または <AF-ON/LOCK> を回すと、ゾーンが切り換わります（ゾーンAF時は循環）。



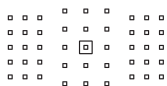
- <Q> ボタンを押しながら <AF-ON/LOCK> を回すと、縦方向のAFフレームを選択することができます。
- [点.C.Fn II-11 : (Ⓜ) 時のAIサーボAF開始測距点] を [1 : (Ⓜ) 時に選択した開始測距点] に設定したときは (p.484)、この方法でAIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。
- <AF-ON/LOCK> または <AF-ON/LOCK> ボタンを押したときに、表示パネルに表示される内容は、次のとおりです。
 - ・ スポット1点AF、1点AF : SEL [] (中央) / SEL AF (中央以外)
 - ・ ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF : [] AF

AFフレームの点灯／点滅について

〈☒〉 または 〈☒〉 ボタンを押したときに、「点灯」している AF フレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」している AF フレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。詳しくは 143～148 ページを参照してください。

測距エリア選択モードの内容

回 スポット1点AF (任意選択)



1点AFよりも狭い範囲にピントを合わせることができます。ピント合わせに使うAFフレーム1点〈回〉を選択します。

ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。

なお、スポット1点AFは測距範囲が狭いため、手持ち撮影のときや、動きのある被写体、暗い撮影条件のときは、ピントが合いにくいことがあります。

□ 1点AF (任意選択)



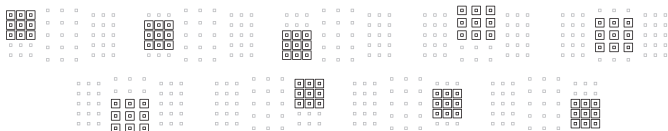
ピント合わせに使うAFフレーム1点〈□〉を選択します。

■ ゾーンAF (ゾーン任意選択)

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。



〔 〕 ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)

AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広く、選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するとき有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

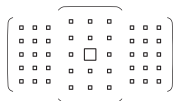


〔○〕 自動選択AF

エリアAFフレーム (AF領域全体) でピント合わせを行います。ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。



ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示される場合は、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。




AIサーボAFのときに、[**点**C.Fn II-11:(**○**)時のAIサーボAF開始測距点] を [1:(**○**)時に選択した開始測距点] [2:**□**時の任意選択測距点] に設定すると (p.484)、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

































- ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFで、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- スポット1点AF設定時は、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。
- AFフレーム照明時に、ファインダー内の一部または全体が赤く見えることがあります。これはAFフレーム表示装置の特性によるものです。
- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、AFフレームの表示が見えにくくなったり、追従応答性が遅くなることがあります。



[ C.Fn II-10：縦位置／横位置のAFフレーム設定] で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます (p.483)。

色検知によるAFについて

カメラが初期状態で、測距エリア選択モードが、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AFのときは、人物の肌色に相当する色を認識したAF（色検知AF）が行われます（〈SCN：                           〉モードを除く）。

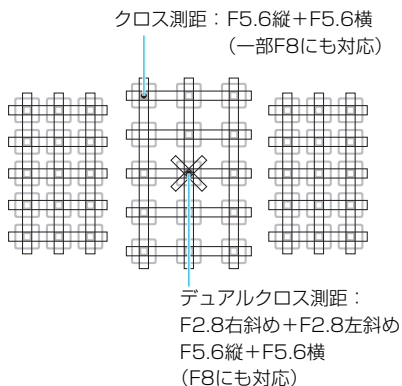
詳しくは、485ページの [   C.Fn II-12：自動選択：色検知] を参照してください。


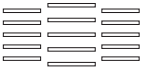

AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を45点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示すとおりです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、ファインダー中央の測距点で高精度なAF測距を行うことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは145ページの『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

概念図



	開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、より高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。中央測距点に配置されています。
	開放絞り数値がF5.6（一部F8）までのレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。45点すべての測距点をカバーしています。
	開放絞り数値がF5.6（一部F8）までのレンズに対応した測距センサーです。縦配列になっているため、横線を検出することができます。45点すべての測距点をカバーしています。

使用レンズとAF測距について



- このカメラは45点のAFフレーム（測距点）を備えています。使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Hの8グループに分類されます。
- E～Hグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。
- レンズのグループ属性を149～152ページに記載しています。使用するレンズのグループ属性を確認してください。



- 〈〉または〈〉ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■」は点灯）。AFフレームの点灯/点滅については、138ページを参照してください。
- EOS 6D Mark II（2017年下期）以降に発売された、新しいレンズのグループ属性については、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

Aグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



- ：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。
- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Bグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Cグループ

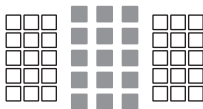
45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- ：横線を検出できる測距点です。

Dグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- ：横線を検出できる測距点です。

Eグループ

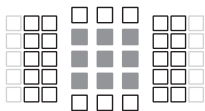
35点でAF測距を行うことができます（45点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、45点自動選択AF時と異なります。



- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- ：横線を検出できる測距点です。
- ：使用できません（非表示）。

Fグループ

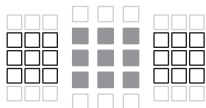
35点でAF測距を行うことができます（45点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、45点自動選択AF時と異なります。



- ：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- ：縦線（上/下の横方向の測距点）、または横線（左/右の縦方向の測距点）を検出できる測距点です。
- ：使用できません（非表示）。

Gグループ

27点でAF測距を行うことができます(45点測距はできません)。測距エリア選択モードのラージゾーンAF(ゾーン任意選択)は選べません。自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠(エリアAFフレーム)は、45点自動選択AF時と異なります。



- : クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- : 横線を検出できる測距点です。
- : 使用できません(非表示)。

Hグループ

中央測距点でのみAF測距を行うことができます。



- : クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
- : 使用できません(非表示)。

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い(F5.6超~F8までの)ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い(F8超の)ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

レンズのグループ属性

EF14mm F2.8L USM	A	EF180mm F3.5L Macro USM	
EF14mm F2.8L II USM	A	+ Extender EF1.4x I/II/III	F
EF15mm F2.8 Fisheye	A	EF200mm F1.8L USM	A
EF20mm F2.8 USM	A	EF200mm F1.8L USM	
EF24mm F1.4L USM	A	+ Extender EF1.4x I/II/III	A※
EF24mm F1.4L II USM	A	EF200mm F1.8L USM	
EF24mm F2.8	A	+ Extender EF2x I/II/III	B※
EF24mm F2.8 IS USM	A	EF200mm F2L IS USM	A
EF28mm F1.8 USM	A	EF200mm F2L IS USM	
EF28mm F2.8	A	+ Extender EF1.4x I/II/III	A
EF28mm F2.8 IS USM	A	EF200mm F2L IS USM	
EF35mm F1.4L USM	A	+ Extender EF2x I/II/III	B
EF35mm F1.4L II USM	A	EF200mm F2.8L USM	A
EF35mm F2	A	EF200mm F2.8L USM	
EF35mm F2 IS USM	A	+ Extender EF1.4x I/II/III	B
EF40mm F2.8 STM	A	EF200mm F2.8L USM	
EF50mm F1.0L USM	A	+ Extender EF2x I/II/III	B
EF50mm F1.2L USM	A	EF200mm F2.8L II USM	A
EF50mm F1.4 USM	A	+ Extender EF1.4x I/II/III	B
EF50mm F1.8	A	EF200mm F2.8L II USM	
EF50mm F1.8 II	A	+ Extender EF2x I/II/III	B
EF50mm F1.8 STM	A	EF300mm F2.8L USM	A
EF50mm F2.5 Compact Macro	B	EF300mm F2.8L USM	
EF50mm F2.5 Compact Macro		+ Extender EF1.4x I/II/III	B※
+ LIFE SIZE Converter	B	EF300mm F2.8L USM	
EF85mm F1.2L USM	A	+ Extender EF2x I/II/III	B※
EF85mm F1.2L II USM	A	EF300mm F2.8L IS USM	A
EF85mm F1.8 USM	A	EF300mm F2.8L IS USM	
EF100mm F2 USM	A	+ Extender EF1.4x I/II/III	B
EF100mm F2.8 Macro	B	EF300mm F2.8L IS USM	
EF100mm F2.8 Macro USM	E	+ Extender EF2x I/II/III	B
EF100mm F2.8L Macro IS USM	B	EF300mm F2.8L IS II USM	A
EF135mm F2L USM	A	EF300mm F2.8L IS II USM	
EF135mm F2L USM		+ Extender EF1.4x I/II/III	B
+ Extender EF1.4x I/II/III	A	EF300mm F2.8L IS II USM	
EF135mm F2L USM		+ Extender EF2x I/II/III	B
+ Extender EF2x I/II/III	B	EF300mm F4L USM	B
EF135mm F2.8 (Softfocus)	A	EF300mm F4L USM	
EF180mm F3.5L Macro USM	B	+ Extender EF1.4x I/II/III	B
		EF300mm F4L USM	
		+ Extender EF2x I/II/III	H (F8)
		EF300mm F4L IS USM	B

使用レンズと AF 測距について


EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)	EF500mm F4.5L USM	B
EF400mm F2.8L USM	A	EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)※
EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※	EF600mm F4L USM	B
EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※	EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L II USM	A	EF600mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)※
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※	EF600mm F4L IS USM	B
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	B※	EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS USM	A	EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF600mm F4L IS II USM	B
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B	EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS II USM	A	EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF800mm F5.6L IS USM	E
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B	EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF400mm F4 DO IS USM	B	EF1200mm F5.6L USM	E
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)※
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)	EF8-15mm F4L Fisheye USM	B
EF400mm F4 DO IS II USM	B	EF11-24mm F4L USM	C
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF16-35mm F2.8L USM	A
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)	EF16-35mm F2.8L II USM	A
EF400mm F5.6L USM	B	EF16-35mm F2.8L III USM	A
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)	EF16-35mm F4L IS USM	B
EF500mm F4L IS USM	B	EF17-35mm F2.8L USM	A
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF17-40mm F4L USM	B
EF500mm F4L IS II USM	B	EF20-35mm F2.8L	A
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)	EF20-35mm F3.5-4.5 USM	C
EF500mm F4L IS USM	B	EF22-55mm F4-5.6 USM	F
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF24-70mm F2.8L USM	A
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)	EF24-70mm F2.8L II USM	A
EF500mm F4L IS II USM	B	EF24-70mm F4L IS USM	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B	EF24-85mm F3.5-4.5 USM	D
		EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM	B
		EF24-105mm F4L IS USM	B
		EF24-105mm F4L IS II USM	B

EF28-70mm F2.8L USM	A	EF55-200mm F4.5-5.6 II USM	D
EF28-70mm F3.5-4.5	E	EF70-200mm F2.8L USM	A
EF28-70mm F3.5-4.5 II	E	EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※※
EF28-80mm F2.8-4L USM	B	EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※※
EF28-80mm F3.5-5.6	E	EF70-200mm F2.8L IS USM	A
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	E	EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF28-80mm F3.5-5.6 II	E	EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	E	EF70-200mm F2.8L IS II USM	A
EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	E	EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	E	EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	E	EF70-200mm F4L USM	B
EF28-90mm F4-5.6	B	EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF28-90mm F4-5.6 USM	B	EF70-200mm F4L IS USM	B
EF28-90mm F4-5.6 II	B	EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF28-90mm F4-5.6 II USM	B	EF70-200mm F4L IS USM	B
EF28-90mm F4-5.6 III	B	EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF28-105mm F3.5-4.5 USM	B	EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF28-105mm F3.5-4.5 II USM	B	EF70-210mm F3.5-4.5 USM	B
EF28-105mm F4-5.6	F	EF70-210mm F4	B
EF28-105mm F4-5.6 USM	F	EF70-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM	B	EF70-300mm F4-5.6 IS II USM	B
EF28-200mm F3.5-5.6	B	EF70-300mm F4-5.6L IS USM	B
EF28-200mm F3.5-5.6 USM	B	EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	B
EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM	B	EF75-300mm F4-5.6	B
EF35-70mm F3.5-4.5	E	EF75-300mm F4-5.6 USM	C
EF35-70mm F3.5-4.5A	E	EF75-300mm F4-5.6 II	B
EF35-80mm F4-5.6	F	EF75-300mm F4-5.6 II USM	B
EF35-80mm F4-5.6 PZ	E	EF75-300mm F4-5.6 III	B
EF35-80mm F4-5.6 USM	F	EF75-300mm F4-5.6 III USM	B
EF35-80mm F4-5.6 II	E	EF75-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF35-80mm F4-5.6 III	F	EF80-200mm F2.8L	A
EF35-105mm F3.5-4.5	B	EF80-200mm F4.5-5.6	D
EF35-105mm F4.5-5.6	H	EF80-200mm F4.5-5.6 USM	E
EF35-105mm F4.5-5.6 USM	H	EF80-200mm F4.5-5.6 II	E
EF35-135mm F3.5-4.5	B	EF90-300mm F4.5-5.6	D
EF35-135mm F4-5.6 USM	C		
EF35-350mm F3.5-5.6L USM	D		
EF38-76mm F4.5-5.6	E		
EF50-200mm F3.5-4.5	B		
EF50-200mm F3.5-4.5L	B		
EF55-200mm F4.5-5.6 USM	D		

使用レンズと AF 測距について

EF90-300mm F4.5-5.6 USM	D	EF200-400mm F4L IS USM	
EF100-200mm F4.5A	B	Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用	B
EF100-300mm F4.5-5.6 USM	C	EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF100-300mm F5.6	B	EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用	
EF100-300mm F5.6L	B	+ Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM	B	EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x I/II	H (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)	EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x III	G (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM	B	TS-E17mm F4L	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x I/II	H (F8)	TS-E24mm F3.5L	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x III	G (F8)	TS-E24mm F3.5L II	B
EF200-400mm F4L IS USM		TS-E45mm F2.8	A
Extender 1.4x	B	TS-E90mm F2.8	A

- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2x (I/II/III型) を装着したときは、AFを行うことはできません。
- 表内に「※」が付いたレンズとExtender EF1.4x III/EF2x IIIの組み合わせのときや、「※※」が付いたレンズとエクステンダーの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。そのときは、使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

 TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対しては、AFでピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体（例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合（例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合（例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AFフレームに対してパターンが細かい被写体（例：AFフレームと同じサイズ、または小さいサイズの顔や花など）

これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

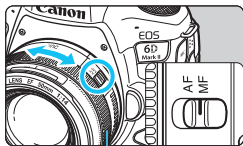
- (1) ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.131）。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う（p.154）。



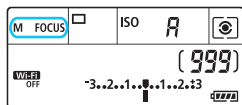
- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影時、動画撮影時に、AFでピントが合いにくい撮影条件については、316ページを参照してください。

MF：手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）

AFでピント合わせができないときは、以下の操作で手動ピント合わせを行うことができます。



フォーカスリング



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

→ 表示パネルに〈M FOCUS〉が表示されます。

2 ピントを合わせる

● ファインダー内の被写体をはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

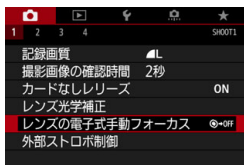
- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ファインダー内にピントが合ったAFフレームが表示され、合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

MENU レンズの電子式手動フォーカス 応用

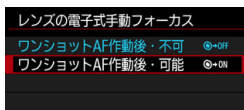
電子式の手動フォーカス機能を備えた以下のUSMレンズ、STMレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときに、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。

初期状態では「ワンショットAF 作動後・不可」に設定されています。

EF50mm F1.0L USM	EF300mm F2.8L USM	EF600mm F4L USM
EF85mm F1.2L USM	EF400mm F2.8L USM	EF1200mm F5.6L USM
EF85mm F1.2L II USM	EF400mm F2.8L II USM	EF28-80mm F2.8-4L USM
EF200mm F1.8L USM	EF500mm F4.5L USM	EF70-300mm F4-5.6 IS II USM
EF40mm F2.8 STM	EF50mm F1.8 STM	EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM



- 1 [レンズの電子式手動フォーカス] を選ぶ
 - [📷1] タブの [レンズの電子式手動フォーカス] を選び、<SET> を押します。

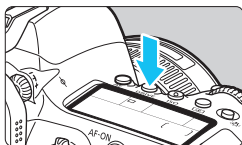


- 2 内容を設定する
 - 項目を選び <SET> を押します。

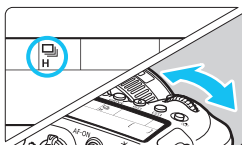
- **☺+OFF：ワンショットAF作動後・不可**
AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **☺+ON：ワンショットAF作動後・可能**
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

📷 ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



1 <DRIVE> ボタンを押す (📷)



2 ドライブモードを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら <📷> を回します。

📷 : 1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

📷H : 高速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押ししている間、**最高約6.5コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

ただし、以下の撮影条件では最高連続撮影速度が遅くなります。

● フリッカー低減撮影時

最高約**5.6コマ/秒**になります。

● ライブビュー撮影時

[AF動作] が [ワンショットAF] または [マニュアルフォーカス] のときは、最高約**6.5コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

[AF動作] が [サーボAF] に設定されているときは、最高約**4.0コマ/秒**で連続撮影速度を優先した撮影になります。

なお、ライブビュー撮影時に外部ストロボ (EXスピードライト) を使用したときは、最高約**1.7コマ/秒**になります。

📷 : 低速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**（<📷> 流し撮りモードを除く）の連続撮影を行うことができます。

なお、ライブビュー撮影時に [AF動作] が [サーボAF] に設定されているときは、**最高約3.0コマ/秒**（<📷> 流し撮りモードを除く）で被写体へのピント追従を優先した（被写体追従優先）撮影になります。

📷^S : ソフト1枚撮影

ファインダー撮影時に作動音を抑えた1枚撮影を行うことができます。ライブビュー撮影時は設定できません。

📷^S : ソフト連続撮影

ファインダー撮影時に（<📷> 設定時に比べて）作動音を抑えながら、**最高約3.0コマ/秒**で連続撮影を行うことができます。ライブビュー撮影時は設定できません。

🕒 : セルフタイマー：10秒／リモコン撮影

🕒₂ : セルフタイマー：2秒／リモコン撮影

🕒_c : セルフタイマー：連続撮影

セルフタイマー撮影については159ページ、リモコン撮影については271ページを参照してください。

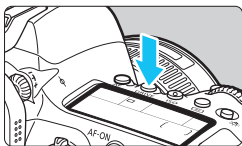


- <📷^H> 高速連続撮影時の最高連続撮影速度は、撮影条件により変動します。詳しくは次ページを参照してください。
- <📷> 流し撮りモード時の連続撮影速度については、115ページを参照してください。

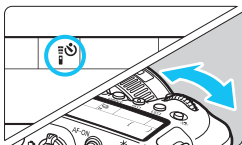
- **📷H** 高速連続撮影時の最高連続撮影速度：約6.5コマ/秒は (p.156)、バッテリーパック：フル充電、シャッター速度：1/500秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、常温（+23℃）、フリッカー低減処理：なし、ライブビュー撮影時：ワンショットAFの条件*で連続撮影を行ったときの最高速度です。
* EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM は、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時
- **📷H** 高速連続撮影時の連続撮影速度は、温度、電池残量、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ライブビュー撮影、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- **📷4：フリッカーレス撮影** を **[する]** に設定して (p.206)、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- ライブビュー撮影時に **[AF動作]** を **[サーボAF]** に設定したときは (p.305)、最高連続撮影速度が遅くなります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 外部ストロボ使用時は、最高連続撮影速度が遅くなります。
- 低温下で電池自体の温度が低いときは、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- **📷S** **📷S** 設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (p.167)、連続撮影速度が途中から遅くなる場合があります。
- **📷1：無線通信の設定** の **[Bluetooth機能]** が **[スマートフォン]** に設定されているときは、リモコン撮影はできません（リモコンのマーク **📷** は表示されません）。

☺ セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。



1 <DRIVE> ボタンを押す (☺6)



2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら <☺6> を回します。

☺6 : 10秒後に撮影

約10秒後に撮影されます。リモコン撮影を行うこともできます (p.271)。

☺2 : 2秒後に撮影

約2秒後に撮影されます。リモコン撮影を行うこともできます。

☺c : 10秒後に設定枚数を連続撮影

<☺6> を回して、撮影する枚数 (2~10) を設定します。約10秒後に撮影されます。リモコン撮影 (p.271) はできません。



3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➔ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- ➔ 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください (p.270)。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。
- <📷c> のときは、記録画質や外部ストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなる場合があります。

- <📷2> は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき (カメラブレ防止) などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して (p.388)、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します (p.97)。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、液晶モニターにタッチするか、<DRIVE> ボタンを押します。
- [📷2:オートパワーオフ] を [1分] に設定していても、リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。
- [📷4:バルブタイマー] が [する] に設定されているときは、<📷c> ([セルフタイマー:連続撮影]) は選択できません。

4

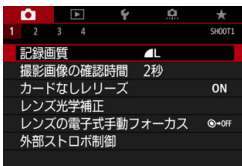
画像に関する設定

この章では、記録画質、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、高輝度側・階調優先、レンズ光学補正、フリッカー低減撮影など、画像に関する機能について説明しています。

- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モード）限定の機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、**L**、**L**、**M**、**M**、**S1**、**S1**、**S2**の7種類です。RAWの記録画質は、**RAW**、**M RAW**、**S RAW**の3種類です (p.166)。



1 【記録画質】を選ぶ

- [CAMERA] タブの【記録画質】を選び、<SET>を押します。



2 記録画質を設定する

- RAW画質は <RAW> を回して、JPEG画質は <◀> <▶> を押して選びます。
- 画面の数字「**M(百万画素) ****×****」は記録画素数、[***] は撮影可能枚数(9999まで表示)を示しています。
- <SET> を押すと設定されます。

記録画質の設定画面に表示される画像サイズ [****×****] と撮影可能枚数 [****] は、[CAMERA:アスペクト比] の設定 (p.168) に関わらず、常に [3:2] 設定時の値が表示されます。

RAW画像とJPEG画像の設定を両方 [-] にしたときは、**L**に設定されます。

記録画質の設定例

Lのみ



RAWのみ



RAW + L



S RAW + M




記録画質を選ぶときの目安

(約)

記録画質	記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ (MB)	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数	
					標準	高速
JPEG						
L	26M	A2	7.5	1000	110	150
L			3.8	1950	150	150
M	12M	A3	4.0	1870	150	150
M			2.1	3570	150	150
S1	6.5M	A4	2.6	2820	150	150
S1			1.4	5310	150	150
S2	3.8M	A5	1.8	4170	150	150
RAW						
RAW	26M	A2	32.6	200	18	21
M RAW	15M	A3	25.3	250	21	23
S RAW	6.5M	A4	17.4	340	25	25
RAW+JPEG						
RAW L	26M 26M	A2 A2	32.6+7.5	160	17	19
M RAW L	15M 26M	A3 A2	25.3+7.5	200	18	18
S RAW L	6.5M 26M	A4 A2	17.4+7.5	250	19	19

S2は (ファイン) の画質です。

- 撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカード使用時の枚数です。
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、当社試験基準SDカード（標準：8GB / 高速：UHS-I対応 16GB）を使用し、当社試験基準（〈H〉 高速連続撮影、アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。



- 高速タイプのSDカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、前ページの表に示した枚数の連続撮影ができます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 記録画質の読み方は、**RAW**（ロウ）、**M RAW**（ミドルロウ）、**S RAW**（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、**▲**（ファイブ）、**■**（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**、**M RAW**、**S RAW**から選ぶことができます。

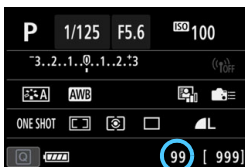
RAWで撮影した画像は、[▶1:RAW現像]で現像処理を行い（p.438）、JPEG画像として保存することができます（**M RAW**、**S RAW**はカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.594）で現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（p.596）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



ファインダー内、またはクイック設定画面の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。



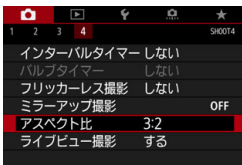
連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。



連続撮影可能枚数が、「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「buSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、164ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

MENU アスペクト比を設定する 応用

画像のアスペクト（縦横）比を変えて撮影することができます。初期状態では、[3:2] に設定されています。[4:3] [16:9] [1:1] に設定すると、ファインダー内に撮影範囲を示す線が表示されます。ライブビュー撮影時は、液晶モニターに撮影範囲外が黒くマスクされた映像が表示されます。



1 アスペクト比を選ぶ

- [📷4] タブの[アスペクト比] を選び、<SET> を押します。



2 アスペクト比を設定する







- アスペクト比を選び、<SET> を押します。

● JPEG画像

設定したアスペクト比で記録されます。

● RAW画像

常に [3:2] のアスペクト比で記録されます。RAW 画像には設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

	アスペクト比		
	4 : 3	16 : 9	1 : 1
ファインダー 撮影時			
ライブビュー 撮影時			

記録画質	アスペクト比と画素数 (約)			
	3 : 2	4 : 3	16 : 9	1 : 1
L	6240×4160 (約2600万)	5536×4160* (約2300万)	6240×3504* (約2190万)	4160×4160 (約1730万)
M	4160×2768* (約1150万)	3680×2768* (約1020万)	4160×2336* (約970万)	2768×2768 (約770万)
S1	3120×2080 (約650万)	2768×2080* (約580万)	3120×1752* (約550万)	2080×2080 (約430万)
S2	2400×1600 (約380万)	2112×1600* (約340万)	2400×1344* (約320万)	1600×1600 (約260万)



- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- 多重露出撮影時は [3 : 2] の設定で撮影されます。

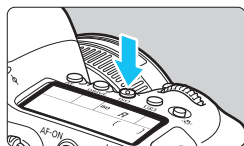


[4 : 3] [16 : 9] [1 : 1] の設定で撮影したRAW画像を再生したときは、撮影範囲を示すアスペクト比の線が表示されます（この線は画像には記録されません）。

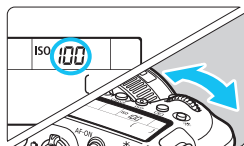
ISO: 静止画のISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンの場合は、ISO感度が自動設定されます（p.172）。



なお、動画撮影時のISO感度については、327、331ページを参照してください。



1 <ISO> ボタンを押す (ⓐ6)



2 ISO感度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら  または  を回します。
- ISO100～40000の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「A」は「ISOオート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.172）。


ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン (ストロボなし)	ストロボ撮影 できる距離
L (50)、100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～40000、 H1 (51200)、H2 (102400)	暗い屋内、夜景	



* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

 [ⓐ2:  ISO感度に関する設定] の [ISO感度] の画面で設定することもできます。

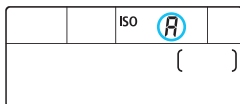


- H1 (ISO51200相当)、H2 (ISO102400相当) は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ (輝点、縞) や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L (ISO50相当) は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- [ 3: 高輝度側・階調優先] を [する] に設定すると (p.199)、L (ISO50相当)、ISO100/125/160、H1 (ISO51200相当)、H2 (ISO102400相当) は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影などの条件で撮影すると、画像のノイズ (ザラツキ感、輝点、縞など) や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。





[ 2:  ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] で、ISO感度の手動設定範囲を L (ISO50相当) から H1 (ISO51200相当)、H2 (ISO102400相当) まで拡張することができます (p.173)。

ISOオートについて



ISO 感度の設定が「A」(AUTO) のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度が表示されます。

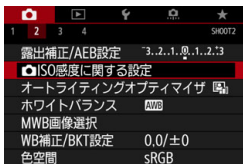
ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
 / 	ISO100~12800	ISO100~1600
SCN	自動設定 (SCNの各撮影モードにより異なる)	
P / Tv / Av / M	ISO100~40000*	ISO100~1600*
B	ISO400*	ISO400*

* [オートの範囲] の [下限値] [上限値] による

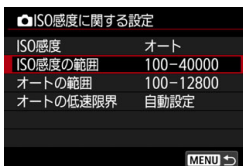
MENU ISO感度の手動設定範囲を設定する

手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～H1（ISO1200相当）、上限値はISO100～H2（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。



1 [📷ISO感度に関する設定] を選ぶ

- [📷2] タブの [📷ISO感度に関する設定] を選び、<SET> を押します。



2 [ISO感度の範囲] を選ぶ



3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び <SET> を押します。
- ISO感度を選び <SET> を押します。



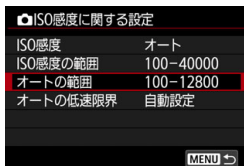
4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び <SET> を押します。
- ISO感度を選び <SET> を押します。

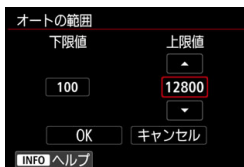
5 [OK] を選ぶ

MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～40000の範囲で設定することができます。下限値はISO100～25600の範囲、上限値はISO200～40000の範囲で設定することができます。


**1** **【オートの範囲】 を選ぶ****2** **下限値を設定する**

- 下限値の枠を選び **<SET>** を押します。
- ISO感度を選び **<SET>** を押します。

**3** **上限値を設定する**

- 上限値の枠を選び **<SET>** を押します。
- ISO感度を選び **<SET>** を押します。

4 **【OK】 を選ぶ**

 **【下限値】** **【上限値】** は、ISO感度でセーフティシフト (p.473) が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。





この機能は〈P〉〈Av〉モードで、広角レンズを使用して、動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときには効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

ISO感度に関する設定	
ISO感度	オート
ISO感度の範囲	100-40000
オートの範囲	100-12800
オートの低速限界	自動設定

1 [オートの低速限界] を選ぶ**自動設定**

オートの低速限界	
自動設定(標準)	
自動設定	
手動設定	
遅め	速め

2 低速限界を設定する

- [自動設定] または [手動設定] を選びます。
- [自動設定] を選んだときは、 を回して標準設定からの度合い（遅め／速め）を設定し、 を押します。
- [手動設定] を選んだときは、 を回してシャッター速度を選び、 を押します。

手動設定

オートの低速限界				
手動設定(1/125)				
自動設定				
手動設定				
1/4000	1/2000	1/1000	1/500	1/250
1/125	1/60	1/30	1/15	1/8
1/4	0.5	1"		



- [オートの範囲] で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、[オートの低速限界] で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。



[自動設定: 0] 設定時は、下限速度がおおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、[遅め] から [速め] の1ステップは、シャッター速度1段分です。

MENU ピクチャースタイルを選択する 応用

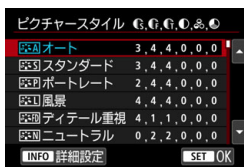
ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンのときは、**[P/A]**（オート）に自動設定されます。



1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

- **[P/3]** タブの **[ピクチャースタイル]** を選び、**<SET>** を押します。
- ➔ スタイル選択画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び **<SET>** を押します。
- ➔ スタイルが設定されます。

各スタイルの画像特性について

オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。



「オート」で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

181ページの「色あい」を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

ニュートラル


パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。



F 忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

M モノクロ

白黒写真になります。

 [モノクロ] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。JPEG画質で撮影したモノクロ画像を、カラー写真に戻すことはできません。

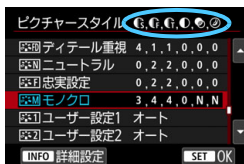
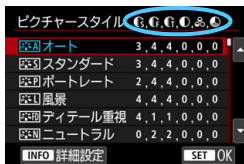
 [モノクロ] 設定時に、ファインダー内と表示パネルに  を表示することができます（p.489）。

1 ユーザー設定1～3

[ポートレート] や [風景]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.183）。登録されていないときは、[オート] の初期設定と同じ特性で撮影されます。


記号について

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス] の [強さ] [細かさ] [しきい値] や、[コントラスト] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。



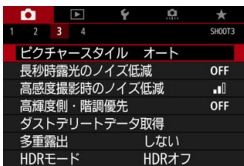
記号の意味

	シャープネス	
		強さ
		細かさ
	しきい値	
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果 (モノクロ)	
	調色 (モノクロ)	

 動画撮影時、[シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、ともに「*」と表示されません。また、[細かさ] [しきい値] は動画には反映されません。

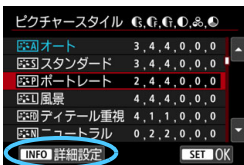
MENU ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[シャープネス] の [強さ] [細かさ] [しきい値]、[コントラスト] など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。[モノクロ] の調整については、182ページを参照してください。



1 【ピクチャースタイル】を選ぶ

- [CAMERA] タブの [ピクチャースタイル] を選び、<SET>を押します。
- ➔ スタイル選択画面が表示されます。



2 スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び <INFO> ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- [シャープネス] の [強さ] などの項目を選び、<SET>を押します。
- 設定内容と効果については、次ページを参照してください。



4 内容を設定する

- <◀><▶> を押して効果の度合いを設定し、<SET> を押します。
- <MENU> ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➔ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果について

シャープネス			
●	● 強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
	● 細かさ*1	1：細かい	5：粗い
	● しきい値*2	1：小さい	5：大きい
●	コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
●	色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
●	色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

*1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

*2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

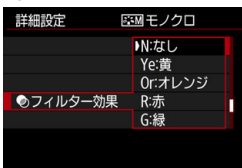


- 動画撮影時は [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] の設定はできません (項目が表示されません)。
- 手順3で [初期設定] を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整


前ページで説明した [シャープネス] の [強さ] [細かさ] [しきい値] と [コントラスト] の他に、[フィルター効果] [調色] を設定することができます。

フィルター効果

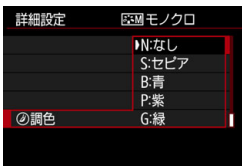


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N : なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye: 黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or: オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R : 赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G : 緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

 [コントラスト] をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



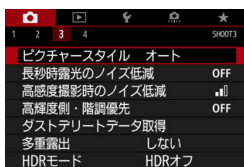
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

[N:なし] [S:セピア] [B:青] [P:紫] [G:緑] から選ぶことができます。

MENU ピクチャースタイルを登録する 応用

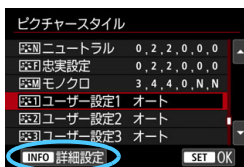
〔ポートレート〕や〔風景〕などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、〔ユーザー設定1〕から〔ユーザー設定3〕に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。



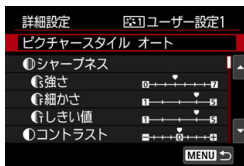
1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

- [CAMERA] タブの [ピクチャースタイル] を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ スタイル選択画面が表示されます。



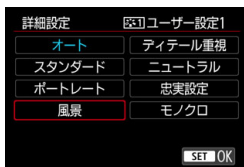
2 [ユーザー設定] を選ぶ

- [ユーザー設定*] を選び 〈INFO〉 ボタンを押します。



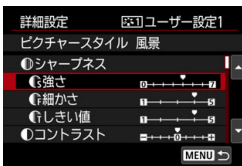
3 〈SET〉を押す

- [ピクチャースタイル] が選ばれた状態で 〈SET〉を押します。



4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選び 〈SET〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



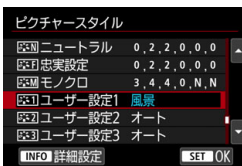
5 項目を選ぶ

- [シャープネス] の [強さ] などの項目を選び、〈SET〉を押します。



6 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.180)を参照してください。
- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- [ユーザー設定*] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- [ユーザー設定*] に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。



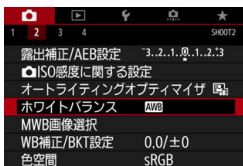
- [ユーザー設定*] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- [F5:カメラ設定初期化] (p.75) を行うと、[ユーザー設定*] に設定した内容が初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した [ユーザー設定*] を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility 使用説明書 (p.596) を参照してください。

WB: ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス (WB) は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート [AWB] (曇天気優先)、[AWBw] (ホワイト優先) で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいににならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンのときは、[AWB] (曇天気優先) に自動設定されます (◀▶) モードのときは [AWBw] (ホワイト優先)。



1 [ホワイトバランス] を選ぶ

- [CAMERA] タブの [ホワイトバランス] を選び、
(SET) を押します。



2 ホワイトバランスを選ぶ

- 内容を選び (SET) を押します。

(約)

表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
[AWB]	オート (曇天気優先 / p.187)	3000~7000
[AWBw]	オート (ホワイト優先 / p.187)	
☀	太陽光	5200
☁	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
☀	白熱電球	3200
💡	白色蛍光灯	4000
⚡	ストロボ	自動設定*
📖	マニュアル (p.188)	2000~10000
[K]	色温度 (p.190)	2500~10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

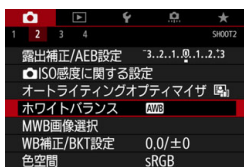
ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

AWB オートホワイトバランスの設定

【AWB】（曇り気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の曇り気を重視してやや赤みがかった写真になります。【AWB w】（ホワイト優先）を選べると、赤みの少ない写真にすることができます。

なお、従来機種種のEOS デジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、【AWB】（曇り気優先）を選びます。



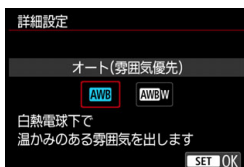
1 【ホワイトバランス】を選ぶ

- [CAMERA 2] タブの【ホワイトバランス】を選び、〈GET〉を押します。



2 【AWB】を選ぶ

- 【AWB】を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- [オート（曇り気優先）] または [オート（ホワイト優先）] を選び、〈GET〉を押します。

AWB : オート（曇り気優先）

AWB w : オート（ホワイト優先）

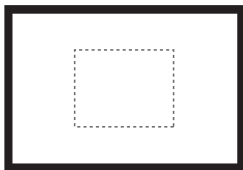


【AWB w】（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロポ使用時は【AWB】（曇り気優先）と同じ色あいになります。

マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス (MWB) は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するとき 사용합니다。必ず撮影する場所の光源下一連の操作を行ってください。

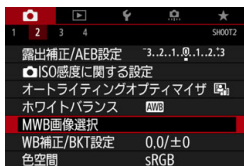


1 白い被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がかかるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [CAMERA 2] タブの [MWB画像選択] を選び、 $\langle \text{SET} \rangle$ を押します。
- ➔ MWB画像選択画面が表示されます。



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- $\langle \text{OK} \rangle$ を回して手順1で撮影した画像を選び、 $\langle \text{SET} \rangle$ を押します。
- ➔ 表示されるメッセージ画面で [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。
- $\langle \text{MENU} \rangle$ ボタンを押してメニューを終了します。





4 [ホワイトバランス] を選ぶ

- [📷2] タブの [ホワイトバランス] を選び、
〈SET〉を押します。

5 マニュアルWBを選ぶ

- [📷] を選び 〈SET〉を押します。



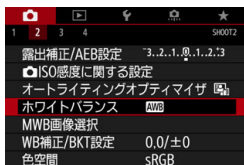
- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを [モノクロ] に設定して撮影した画像、多重露出画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。



白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。




1 [ホワイトバランス] を選ぶ

- [📷2] タブの [ホワイトバランス] を選び、
〈SET〉を押します。



2 色温度を設定する

- [K] を選びます。
- 〈🌞〉を回して色温度を設定し、〈SET〉
を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～
10000K (100Kステップ) です。

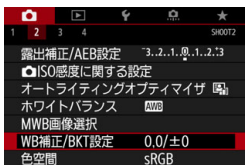
-  人工光源の色温度を設定するときには、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を [K] に設定するときには、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

WB ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

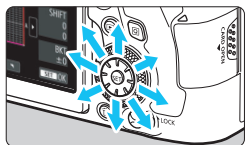
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正



1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

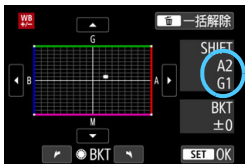
- [2] タブの [WB補正/BKT設定] を選び、**<SET>** を押します。



2 ホワイトバランスを補正する

- **<⊙>** を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「SHIFT」に補正方向と、補正量が表示されます。
- **<⏏>** ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
- **<SET>** を押すと設定が終了します。

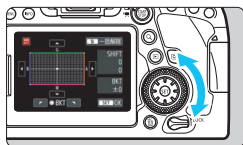
設定例：A2, G1



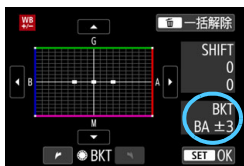
- WB補正時に、ファインダー内と表示パネルに **<⊙>** を表示することができます (p.489)。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します (ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位)。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る




1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能を「ホワイトバランスブラケットिंग (WB-BKT)」といいます。設定できる補正幅は1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で  を回すと、画面上の「■」が「■■■」(3点) になります。右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケットिंगになります。
- ➔ 画面右の「BKT」にブラケットिंग方向と、補正幅が表示されます。
-  ボタンを押すと [WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
-  を押すと設定が終了します。

● 記録される順序について

①基準ホワイトバランス ②ブルー (B) 寄り ③アンバー (A) 寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ (M) 寄り ③グリーン (G) 寄りの順に画像が記録されます。



- WBブラケットング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

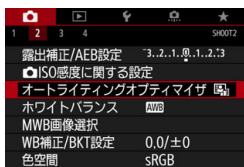


- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- ライブビュー撮影時に、WBブラケットングを設定したときは、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- WB ブラケットング時の記録順序 (p.472) と撮影枚数 (p.472) を変更することができます。
- 「BKT」はBracketing : ブラケットングの略です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティング最適マイザ」といいます。初期状態では[標準]に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。

かんたん撮影ゾーンのときは、[標準]に自動設定されます。



1 [オートライティング最適マイザ] を選ぶ

- [カメラ2] タブの [オートライティング最適マイザ] を選び、<SET> を押します。



2 補正内容を設定する

- 内容を選び <SET> を押します。

3 撮影する

- 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

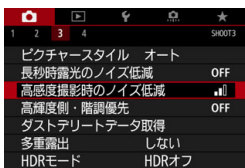
- 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
- オートライティング最適マイザの効果が強すぎて、画像が明るすぎるときは、[弱め] または [しない] に設定して撮影してください。
- [しない] 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[しない] に設定してください。
- 多重露出 (p.258)、HDRモード (p.253)、高輝度側・階調優先 (p.199) 設定時は、[カメラ2: オートライティング最適マイザ] の設定が自動的に [しない] になります。

手順2で <INFO> ボタンを押して [M, Bulb時はOFF] の [✓] を外すと、<M> モードでも [カメラ2: オートライティング最適マイザ] が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能の設定^{応用}

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 「高感度撮影時のノイズ低減」を選ぶ

- [CAMERA] タブの「高感度撮影時のノイズ低減」を選び、**<SET>**を押します。



2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び **<SET>**を押します。

● **NR**：マルチショットノイズ低減機能


「強め」よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、「マルチショットノイズ低減機能」は設定できません。

3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

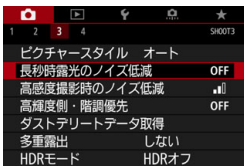
マルチショットノイズ低減機能設定時に、ファインダー内と表示パネルに **<NR>** を表示することができます (p.489)。

 マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいたときは、ノイズ低減効果が小さくなる場合があります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「buSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB撮影、WBブラケティング撮影はできません。
- [📷3:長秒時露光のノイズ低減] [📷3:多重露出] [📷3:HDRモード]、および AEB撮影、WBブラケティング撮影、ライブビュー撮影+サーボAFなどが設定されているときは、[マルチショットノイズ低減機能] は設定できません。
- バルブ撮影時は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は [📷.C.Fn II-6: AF補助光の投光] の設定に応じて投光されます。
- 電源スイッチ〈OFF〉、電池交換、カード交換、〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉以外の撮影モード選択、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に[標準]に切り換わります。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。



1 [長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ

- [CAMERA] タブの [長秒時露光のノイズ低減] を選び、<SET> を押します。



2 低減内容を設定する

- 内容を選び <SET> を押します。

● 自動


露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● する

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[自動] で検出できないノイズがあったときに [する] で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

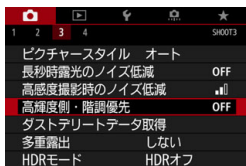
3 撮影する

- ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

-  ● [自動] [する] 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。なお、低減処理中でもファインダー内の連続撮影可能枚数が「1」以上のときは、続けて撮影することができます。
- 高ISO感度で撮影すると、[しない] [自動] 設定時よりも [する] 設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- [自動] [する] 設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「BUSY」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

MENU 高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [高輝度側・階調優先] を選ぶ

- [📷3] タブの [高輝度側・階調優先] を選び、〈SET〉を押します。



2 [する] を選ぶ

- 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

3 撮影する

- 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。



- [する] 設定時はノイズが若干増えることがあります。
- [する] 設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 多重露出（p.258）、HDRモード（p.253）設定時は、[📷3：高輝度側・階調優先] の設定が自動的に [しない] になります。





高輝度側・階調優先設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈D+〉が表示されます。

MENU レンズの光学特性による影響を補正する 応用

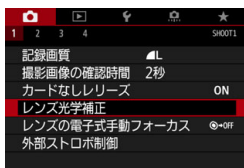
レンズの光学特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、レンズの光学特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」、絞りの影響により画像の先鋭さが低下することを「回折現象」といいますが、これらの現象を補正することができます。

初期状態では、[周辺光量補正] [色収差補正] [回折補正] は [する]、[歪曲収差補正] は [しない] に設定されています。


レンズ光学補正を行うためのデータがカメラに登録（保存）されているときは、かんたん撮影ゾーンでも自動的に周辺光量補正、色収差補正、回折補正が行われます（〈〉モードのときは歪曲収差補正も行われます）。

設定画面に [補正データなし] と表示されたときや、[] マークが表示されたときは、レンズ光学補正を行うための補正データがカメラに登録されていません。204ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

周辺光量補正

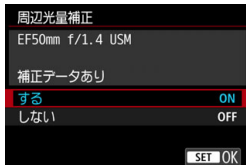


1 [レンズ光学補正] を選ぶ

- [📷1] タブの [レンズ光学補正] を選び、〈〉を押します。



2 [周辺光量補正] を選ぶ



3 [する] を選ぶ

- 装着レンズの [補正データあり] が表示されていることを確認します。
- [する] を選び <SET> を押します。

4 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。



- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。



EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional(p.594)で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。

色収差補正



1 [色収差補正] を選ぶ

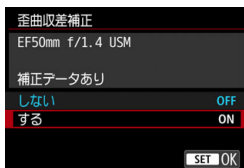
2 [する] を選ぶ

- 装着レンズの [補正データあり] が表示されていることを確認します。
- [する] を選び <SET> を押します。

3 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

歪曲収差補正



1 [歪曲収差補正] を選ぶ

2 [する] を選ぶ

- 装着レンズの [補正データあり] が表示されていることを確認します。
- [する] を選び <SET> を押します。

3 撮影する

- 歪曲収差が補正された画像が記録されます。

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の効果を、ファインダーで確認することはできません。
- 動画撮影時は、[歪曲収差補正] は表示されません（補正できません）。
- ライブビュー撮影時は、歪曲収差補正の設定により画角がわずかに変化します。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。そのため、画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（p.452）は付加されません。また、再生時にAFフレーム表示（p.397）は行われません。

回折補正



1 [回折補正] を選ぶ

2 [する] を選ぶ

- [する] を選び $\langle \text{SET} \rangle$ を押します。

3 撮影する

- 回折現象が補正された画像が記録されます。



- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[回折補正] は表示されません（補正できません）。



「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。

レンズの補正データについて

レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。補正 [する] を選んでおくと、自動的に周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正、回折補正が行われます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) を使用すると、登録されているレンズが確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

なお、補正データが内蔵されているレンズを使用したときは、カメラに補正データを登録する必要はありません。



各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、[補正データあり]と表示されていても、[しない]に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったときは、周辺光量補正、歪曲収差補正の効果は映像に反映されません。
- ライブビュー撮影時に、画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

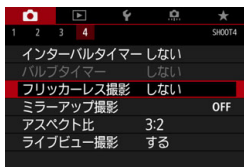


各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正 [しない] と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。

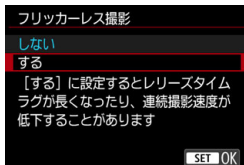
MENU フリッカーの影響を低減する 応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時にこの機能を利用すると、カメラが光源の点滅周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 [フリッカーレス撮影] を選ぶ

- [📷4] タブの [フリッカーレス撮影] を選び、<SET>を押します。



2 [する] を選ぶ

3 撮影する

- フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

- [する] 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、リリースタイムラグが長くなる場合があります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- ミラーアップ撮影時、ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
- <P> <Av> モードで連続撮影中にシャッター速度が変化したときや、同一シーンでシャッター速度を変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、<Tv> <M> モードでシャッター速度を一定にして撮影してください。



- [📷4:フリッカーレス撮影] を [する] に設定したときと、[しない] に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- 100Hz、120Hz の点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、ファインダー内の < Flicker! > が点灯しても、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 構図変更を行ったときは、< Flicker! > の表示が点いたり消えたりすることがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。



- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ファインダー内に < Flicker! > が表示されないときは、[ファインダー内表示設定] の [フリッカー検知] に [✓] を付けます (p.82)。フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、< Flicker! > が点灯します。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、< Flicker! > は表示されません。
- [フリッカー検知] に [✓] が付いている状態で、[📷4:フリッカーレス撮影] を [しない] に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の < Flicker! > が点滅して警告が行われます。[する] に設定して撮影することをおすすめします。
- かんたん撮影ゾーンのときは < Flicker! > は表示されませんが、フリッカーの影響が低減された状態で撮影されます。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

MENU 色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

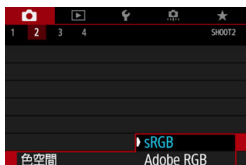
かんたん撮影ゾーンのときは、[sRGB] に自動設定されます。

1 【色空間】 を選ぶ

- [📷2] タブの【色空間】 を選び、〈SET〉 を押します。

2 色空間を設定する

- [sRGB] または [Adobe RGB] を選び、〈SET〉 を押します。



Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書（p.596）を参照してください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

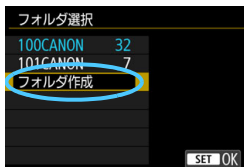
なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

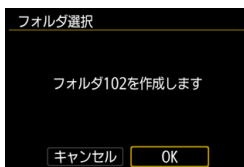


1 【フォルダ選択】を選ぶ

- [F1] タブの [フォルダ選択] を選び、<SET> を押します。



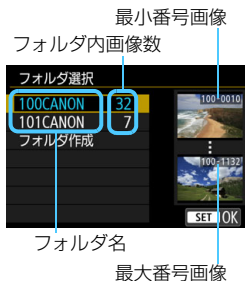
2 【フォルダ作成】を選ぶ



3 【OK】を選ぶ

- 番号が1つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選び、**<SET>** を押します。
- 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.213）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「**_**」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

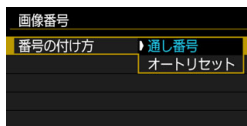
撮影した画像には0001～9999までの連続した4桁の画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

(例) IMG_0001.JPG
↑
画像番号



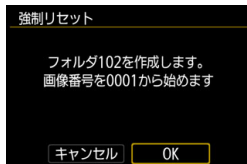
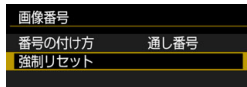
1 【画像番号】 を選ぶ

- [📷1] タブの【画像番号】を選び、<SET>を押します。



2 画像番号の付け方を設定する

- 【番号の付け方】を選び、<SET>を押します。
- 【通し番号】【オートリセット】のいずれかを選び、<SET>を押します。
- 画像番号をリセットしたいときは、【強制リセット】を選びます。
- 【OK】を選べると、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。



⚠️ フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

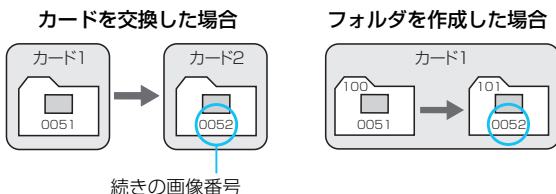
- ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG」、動画は「MVI」になります。
- 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、通常の動画は「.MP4」、タイムラプス動画は「.MOV」になります。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

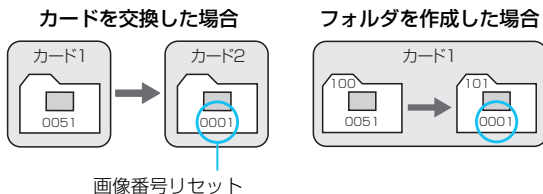


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

MENU 著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。



1 【著作権情報】を選ぶ

- [F5] タブの [著作権情報] を選び、<SET> を押します。



2 設定する項目を選ぶ

- [作成者名入力] または [著作権者名入力] を選び、<SET> を押します。



3 文字を入力する

- <▲><▼><◀><▶> または <☀><☾> を操作して □ を移動し、希望する文字を選び、<SET> を押すと入力されます。
- 最大63文字入力できます。
- <☹> ボタンを押すと、1文字消去されます。
- [Aa↔1@] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 入力をキャンセルするときは、<INFO> ボタンを押して [OK] を選びます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、<MENU> ボタンを押して [OK] を選びます。
- 設定した内容が保存されます。


著作権情報の確認





手順2で「著作権情報の表示」を選ぶと、入力した「作成者」「著作権者」の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で「著作権情報の消去」を選ぶと、「作成者」「著作権者」の情報が消去されます。

 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、「著作権情報の表示」を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

-  ● 手順3で文字が入力できないときは、 ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) から、著作権情報を設定・確認することもできます。


5

GPS機能の設定

この章では、カメラに内蔵されているGPS機能の設定について説明しています。なお、EOS 6D Mark II は、GPS衛星（アメリカ）、およびGLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）からの信号に対応しています。

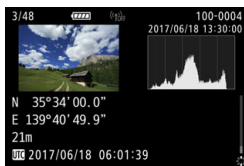
- GPS機能は、初期状態では「**使わない**」に設定されています。
- 本書では測位機能の総称として「GPS機能」と記載しています。

[GPS] が [モード1] に設定されているときは (p.221)、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしても一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。GPS機能を使用しないときは、[GPS] を「**使わない**」または [モード2] に設定することをおすすめします。

 GPS機能を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制に従ってください。国外でGPS機能を使用するときは、特にご注意ください。

GPS機能でできること

位置情報を画像に付加



- 位置情報*¹（緯度、経度、標高）と協定世界時*²を画像に付加することができます。
- この情報を利用して、パソコンの地図上に撮影場所を表示することができます。

*1：移動条件やGPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

*2：協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

移動ルートを記録

ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報を一定間隔で自動的に記録することができます。たどった位置情報は、パソコンの地図上で確認することができます。

* 移動条件や移動場所、GPS機能の設定により、画像に付加される位置情報が正確でない場合があります。

時刻の設定

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。



GPS情報を記録した静止画や動画は、個人を特定できる情報が含まれていることがあります。そのため、GPS情報が記録されている静止画や動画を他人に渡したり、インターネットなど複数の人が閲覧できる環境に掲載するときは、十分注意してください。

GPS機能に関するご注意

■ GPS機能が使える国や地域について

GPS機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、GPS機能が使用できる国や地域については、キヤノンのホームページで確認してください。

なお、それ以外の国や地域でGPS機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

EOS 6D Mark II : DS126631

(GPSモジュールモデル : ES300)

- 国や地域によっては、GPS機能の使用などが規制されていることがありますので、お使いになる国や地域の法令等の規制にしたがってご使用ください。国外でGPS機能を使用するときは特に注意してください。
- 電子機器の使用が制限されている場所での使用には十分注意してください。
- GPS機能を使って撮影した静止画や動画に記録されるカメラの位置情報は、個人を特定する情報が含まれていることがあります。そのためGPS機能を使ってカメラの位置情報が記録されている静止画、動画、GPSログファイルを他人に渡したり、インターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- GPS衛星からの信号を受信するのに時間がかかることがあります。

GPSの信号を受信する

GPS信号を受信するときは、空が見通せる屋外でカメラを使用し、カメラに手や物などをのせないようにして、カメラの上面が空に向くようにしてください。

なお、受信状態が良いときは、[GPS] を [モード1] または [モード2] に設定したあと、約30秒～60秒で衛星捕捉状態になります。表示パネルに [GPS] が表示されていることを確認してから撮影してください。

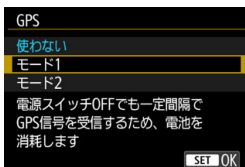


1 [GPSの設定] を選ぶ

- [4] タブの [GPSの設定] を選び、
<SET> を押します。



2 [GPS] を選ぶ



3 モードを選ぶ

- [モード1] または [モード2] を選びます。
→ 表示パネルに [GPS] が表示されます。

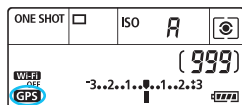
● モード1

電源スイッチが <ON> のときだけでなく、電源スイッチを <OFF> にしたときも一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

● モード2

電源スイッチが <ON> のときにGPS信号を受信します。電源スイッチを <OFF> にすると、GPS機能もオフになります。ただし、カメラがオートパワーオフ状態のときは、一定間隔でGPS信号を受信し続けます。

GPS信号の受信状態について



表示パネルに表示される【GPS】で、GPS信号の受信状態を確認することができます。

GPS 点灯：衛星捕捉状態

GPS 点滅：衛星未捕捉

【GPS】が点灯した状態で撮影すると、画像に位置情報が付加されます。




- 【モード1】 設定時は、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしても一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、【使わない】に設定してください。
- 【モード2】 設定時は、カメラがオートパワーオフ状態のときに一定間隔でGPS信号を受信し続けるため、オートパワーオフ状態を長く続けると、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。長時間カメラを使用しないときは、電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- GPSのアンテナは、背面から見てアクセサリシューの右前方に内蔵されています（p.28）。なお、外部ストロボを取り付けてもGPS信号を受信することはできませんが、受信感度は少し低下します。
- GPSレシーバー GP-E2（別売）は使用できません。

GPS信号を受信しにくい条件

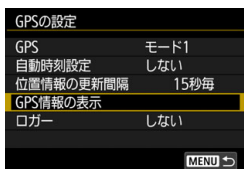
次のような環境ではGPS衛星からの信号が正しく受信できないため、位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。

- 屋内、地下、トンネルや森の中、ビルなどの近くや谷間
- 高圧電線や1.5GHz帯の携帯電話などの近く
- カメラをかばんなどに入れて持ち歩いたとき
- 長い距離を移動したとき
- 周囲の環境が異なる場所へ移動したとき
- GPS衛星は時間の経過とともに移動するため、上記以外の環境でも位置情報が記録されなかったり、誤差のある位置情報が記録されることがあります。また、同じ場所でカメラを使っているにもかかわらず移動した位置情報が記録されることがあります。

-  ● GPS機能の影響により、カメラを使うときに電池の残量が少なくなっていることがあります。必要に応じて電池を充電するか、充電した予備の電池（別売）を用意しておくことをおすすめします。
- 縦位置撮影時もGPS信号を受信することができます。

GPS情報を表示する

- 1 [GPS] の設定を確認する
 - [GPS] が [モード1] または [モード2] に設定されていることを確認します。




- 2 [GPS情報の表示] を選ぶ
 - GPS情報が表示されます。



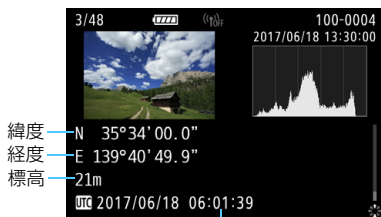
- 3 撮影する
 - 衛星を捕捉した状態で撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

⚠ 一般的にGPSの特性上、標高の精度は、緯度・経度の精度よりも劣ります。

- 衛星捕捉状態の  は電波状態を示しています。〈3D〉が表示されているときは標高も記録されます。〈2D〉が表示されているときは標高は記録されません。
- UTC (協定世界時) は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。

画像に付加される位置情報について

画像を再生し、〈INFO〉ボタンを押して撮影情報表示の画面 (p.392) を表示した状態で〈GPS〉を上下に操作すると、位置情報を確認することができます。



協定世界時 (UTC)



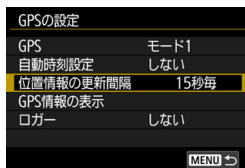
動画撮影のときは、撮影を開始したときの位置情報が記録されます。なお、衛星捕捉状態は記録されません。

位置情報の更新間隔を設定する

位置情報の更新間隔（時間）を設定することができます。なお、更新間隔が短いほど撮影時の位置情報が正確に記録されますが、電池が消耗するため撮影可能枚数が少なくなります。

1 [GPS] の設定を確認する

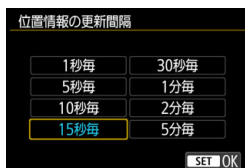
- [GPS] が [モード1] または [モード2] に設定されていることを確認します。



2 【位置情報の更新間隔】を選ぶ

3 更新間隔を設定する

- 項目を選び <SET> を押します。



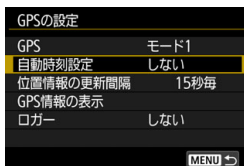
- GPS信号の受信状態が悪い場所で使用すると、撮影可能枚数が少なくなります。
- GPSの特性上、更新間隔に誤差が生じます。

GPSの時刻をカメラに設定する

GPS信号から得られる時刻情報をカメラに設定することができます。なお、誤差は約±1秒です。

1 [GPS] の設定を確認する

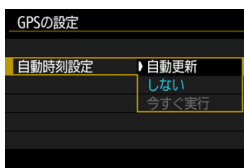
- [GPS] が [モード1] または [モード2] に設定されていることを確認します。



2 [自動時刻設定] を選ぶ

3 項目を選ぶ

- [自動更新] または [今すぐ実行] を選び、 $\langle \text{GET} \rangle$ を押します。
- [自動更新] は、カメラの電源が入った状態で、GPS信号を受信したときに更新されます。



- GPS衛星を5基以上捕捉できないときは、時刻の自動更新は行われません。また、[今すぐ実行] が灰色に表示されて選択できません。
- [今すぐ実行] が選択できても、GPS衛星の捕捉タイミングによっては、時刻合わせが行われないことがあります。
- [自動時刻設定] が [自動更新] に設定されているときは、[📍：日付/時刻/エリア] の設定で日付/時刻の手動設定はできません。

移動ルートを記録する

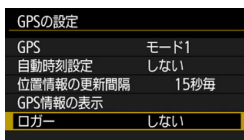


地図データ©2017 ZENRIN

ロガー機能を使うと、カメラがたどった位置情報がカメラの内蔵メモリーに自動的に記録されます。

1 [GPS] の設定を確認する

- [GPS] が [モード1] または [モード2] に設定されていることを確認します。

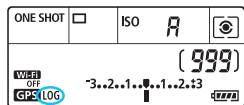


2 [ロガー] を選ぶ



3 [ログ記録] を [する] に設定する

- [ログ記録] を選び <SET> を押します。
 - [する] を選び <SET> を押します。
- 表示パネルに [LOG] が表示されます。



- [GPS] が [モード1] のときは、電源スイッチを <OFF> にしてもロガー機能が働きます。
- [モード2] のときは、電源スイッチを <OFF> にすると、ロガー機能もオフになります。ただし、オートパワーオフ状態のときは、ロガー機能が働きます。

位置情報のログデータについて

カメラがたどった位置情報は、[位置情報の更新間隔] (p.226) ごとに記録され、日付別のログデータとしてカメラの内蔵メモリーに保存されます。保存できるログデータの日数は下表のとおりです。

位置情報の更新間隔と保存できるログデータの日数 (約)

更新間隔	ログデータ	更新間隔	ログデータ
1秒毎	4.1日分	30秒毎	100日分
5秒毎	20日分	1分毎	100日分
10秒毎	41日分	2分毎	100日分
15秒毎	61日分	5分毎	100日分

* 1日8時間分のログデータを記録した場合

- 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動することができます (p.230)。
- ログファイルは、日付+番号 (17051800など) のファイル名で、1日単位で作成されます。エリア (p.49) を変えたときは、新たなログファイルが作成されます。
- 内蔵メモリーがいっぱいになると、古いログデータから順に消去され、新しいログデータが保存されます。

ログ記録時の電池消費について

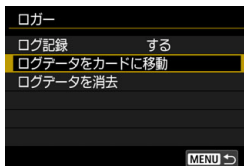
[GPS] が [モード1] に設定されているときは、電源スイッチを〈OFF〉にしても、[モード2] に設定されているときは、オートパワーオフ状態でも一定の間隔でGPS信号を受信し続けるため、電池が早く消耗して撮影可能枚数が少なくなります。また、[ログ記録] が [する] に設定されているときは、更新間隔が短いほどさらに電池の消耗が早くなります。

移動していないときや、GPS信号の受信状態が悪いときは、[GPS] を [使わない] に設定することをおすすめします。

ログデータをパソコンに取り込む

カメラの内蔵メモリーに保存されたログデータをパソコンに取り込む方法は、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) で取り込む方法と、カードに移動してから取り込む方法があります。

● カードに移動して取り込む



- [ログデータをカードに移動] を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを、ログファイルとしてカードに移動することができます。

なお、カードに移動すると、内蔵メモリーに保存されていたログデータは消去されます。

- カードに取り込まれたログファイルは、「MISC」フォルダの中にある「GPS」フォルダに入っています。ログファイルの拡張子は「.LOG」です。
- [ログデータを消去] を選ぶと、内蔵メモリーに保存されているログデータを消去することができます。なお、消去には1分程度かかることがあります。

● EOS用ソフトウェアで取り込む

カメラとパソコンをインターフェースケーブル（別売）で接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、ログデータをパソコンに取り込むことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書 (p.596) を参照してください。

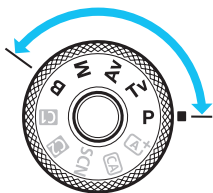


- GPSアンテナがカメラの上部に配置されているため、バッグなどに入れて持ち歩くときは、カメラの上面を空に向け、カメラの上に物がのらないように収納してください。
- カメラの日付/時刻はできるだけ正確に設定してください。また、エリアとサマータイムは、撮影する地域に対応した設定にしてください。



6

撮影目的にあわせた 応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変更することで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モード）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの動きにより、ファインダー内と表示パネルに露出値が約4秒間表示されます（※4）。
- 各撮影モードで設定できる機能については、526ページを参照してください。



あらかじめ〈LOCK〉スイッチを下側にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これを「プログラムAE」といいます。

* 〈P〉はProgram（プログラム）の略です。

* 「AE」はAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいてAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うとファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。



3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。



4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

手順1の操作を行ったときに、液晶モニターに撮影モードの説明が表示されたときは、〈Fn〉を押すと説明が消えます（p.89）。



- シャッター速度の「30"」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。





- シャッター速度の「4000」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。



〈P〉と〈A〉モードの違いについて

〈A〉モードのときは失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます（p.526）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマー（4）が終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv: シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これを「シャッター優先AE」といいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

* 〈Tv〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



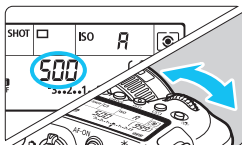
流動感のある写真
(遅いシャッター速度：1/30秒)




動きを止めた写真
(速いシャッター速度：1/2000秒)



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら  を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ 絞り数値が自動的に決まります。




4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。




- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。

絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。

絞り数値の点滅が止まるまで〈〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。



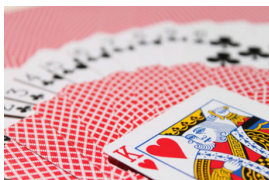
シャッター速度の表示について

「4000」から「4」までは分数の分母を表しています。例えば「125」は1/125秒を表しています。また、「0"5」は0.5秒を、「15"」は15秒を表しています。

Av: 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを「絞り優先AE」といいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広がります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

* 〈Av〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



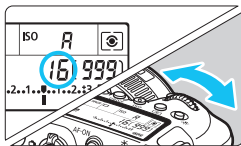
背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）




背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ シャッター速度が自動的に決まります。


4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。






- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。

シャッター速度の点滅が止まるまで  を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。



- シャッター速度の「4000」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。

シャッター速度の点滅が止まるまで  を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

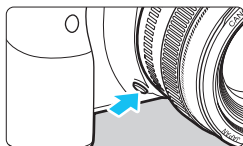


絞り数値の表示について

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「00」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影していないときは、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

外部ストロボ使用時に、カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光が行われます（被写界深度の確認はできません）。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら（p.290）、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよく分かります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 露出を自分で決めて撮る

自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これを「マニュアル露出」といいます。

* 〈M〉はManual（マニュアル）の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する (p.170)

シャッター速度



絞り数値

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は〈〉、絞り数値は〈〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈LOCK〉スイッチを下側にしてから〈〉または〈〉を回します。

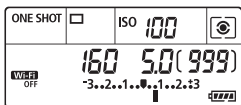
標準露出指標



露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。



5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えると、露出レベル表示の端が〈〉または〈〉の表示になります。

ISOオート設定時の露出補正について


マニュアル露出撮影時にISO感度を「A」(AUTO)に設定したときは、以下の方法で露出補正 (p.245) を行うことができます。

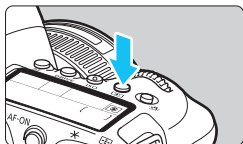
- [📷2: 露出補正/AEB設定]
- [🔴C.Fn III-4: 操作ボタンカスタマイズ] の [📷👉: 露出補正 (押しながら🌞)] (p.502)
- クイック設定 (p.61)

- ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- 設定した露出値は、動画撮影には引き継がれません。

- [📷2: オートライティングオプティマイザ] で [M, Bulb時はOFF] の [✓] を外すと、<M>モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります (p.194)。
- カメラの設定が<M>モード+ISOオート+<📷>(評価測光)で、[🔴C.Fn I-8: 合焦後にAEロックする測光モード]の設定が初期状態のときは (p.474)、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定(ロック)されます。
- ISOオート設定時に<★>ボタンを押すと、ISO感度を固定(ロック)することができます。
- <★>ボタンを押して構図を変えると、<★>ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- <P><Tv><Av>モードで露出補正 (p.245) を行っていたときは、<M>モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれません。
- ISOオート設定時に [🔴C.Fn I-1: 露出設定ステップ] を [1/2段] に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度 (1/3段分) とシャッター速度で露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッター速度は変化しません。

📷 測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を4種類の中から選ぶことができます。かんたん撮影ゾーンの場合は、評価測光（**SCN**：）モードのときは、中央部重点平均測光）に自動設定されます。







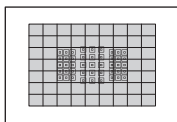
1 <📷> ボタンを押す (🔍6)



2 測光モードを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、<🔍>または<🕒>を回します。

- ：評価測光
- ：部分測光
- ：スポット測光
- ：中央部重点平均測光



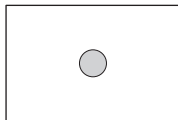
評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6.5%の範囲を測光します。








スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.2%の範囲を測光します。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。



中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
〈〉（評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。〈〉（部分測光）／〈〉（スポット測光）／〈〉（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- [>.C.Fn 1-8：合焦後にAEロックする測光モード] で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます（p.474）。

☑ 自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は、ファインダー撮影時に1/3段ステップ±5段ですが、ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、クイック設定（p.61）または247ページの [☑2：露出補正/AEB設定] で行ってください。

なお、〈M〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、242ページを参照してください。

1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして（☑4）、露出レベル表示を確認します。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正




2 補正量を設定する


- ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈☉〉を回します。
- 設定できないときは、〈LOCK〉スイッチを下側にしてから〈☉〉を回します。
- ➔ 露出補正を行うと、ファインダー内と表示パネルに〈☑〉が表示されます。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈I/II〉を標準露出指標（〈▼/▼〉）の位置に戻します。

☑ 自分の好みに露出を補正する

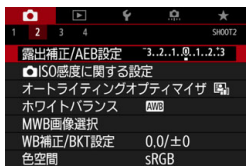
-  ● ライブビュー撮影／動画撮影時の露出補正範囲は±3段です。
- [📷2:オートライティングオブティマイザ] (p.194) が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正 (マイナス補正) を行っても、明るく撮影されることがあります。
- 設定した露出補正量は、動画撮影には引き継がれません。

-  ● 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 補正量を設定してから〈LOCK〉スイッチを上側にすると、補正量が不用意に変わることを防止することができます。
- 露出補正量が±3段を超えると、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。
- [🔦.C.Fn I-7:露出補正の自動解除] で、電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、露出補正の設定を解除するかどうかを設定することができます (p.474)。

露出を自動的に変えて撮る / AEB撮影 応用

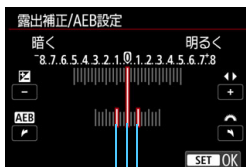
1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

*「AEB」はAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケットング）の略です。



1 [露出補正/AEB設定] を選ぶ

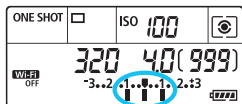
- [📷2] タブの [露出補正/AEB設定] を選び、**<SET>** を押します。



2 AEBレベルを設定する

- **<☀>** を回してAEBレベルを設定します。**<◀>** **<▶>** を押すと、露出補正量を設定することができます。
- **<SET>** を押すと設定されます。
- ➔ メニューを終了すると、表示パネルにAEBレベルが表示されます。

AEBレベル



3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

標準露出










マイナス補正



プラス補正



【2:オートライティングオブティマイザ】(p.194) が [しない] 以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなる場合があります。

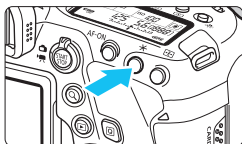
- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✳〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□〉〈□S〉のときは、3回撮影してください。〈H〉〈〉〈S〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈1〉〈2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。〈c〉のときは、10秒後に [セルフタイマー: 連続撮影] として設定されている枚数×3枚の連続撮影が行われます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えると、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。
- ストロボ使用時、パルプ撮影時、およびマルチショットノイズ低減機能、HDRモード設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、動画撮影への切り換え、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✳ 露出を固定して撮る／AEロック撮影^{応用}

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使います。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➔ 露出値が表示されます。



2 〈✳〉ボタンを押す (p.4)

- ➔ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定 (AEロック) されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。



3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード (p.243)	AFフレーム選択 (p.136、137)	
	自動選択	任意選択
	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* 〈〉モード設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされません。

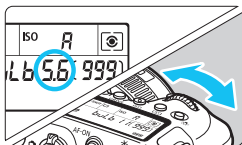
バルブ撮影時はAEロックできません。

B: 長時間露光 (バルブ) 撮影



シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。この撮影方法を「バルブ撮影」といいます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

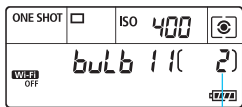


1 モードダイヤルを〈B〉にする



2 絞り数値を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら、またはを回します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➔ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

露光経過時間

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます（p.172）。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時+バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。なお、同じ条件でバルブタイマーを使用したときは、シャッターボタンを全押しし続ける必要はありません。

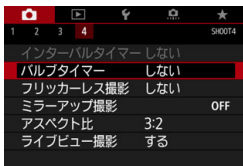


- [📷3: 長秒時露光のノイズ低減] で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます (p.197)。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。ミラーアップ撮影 (p.265) を併用することもできます。
- リモートスイッチ RS-80N3 (別売)、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3 (別売) を使ってバルブ撮影を行うこともできます (p.276)。
- リモートコントローラー RC-6 (別売/p.271)、またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売/p.273) を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーのリリース (送信) ボタンを押すと、(2秒後またはすぐに) バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

TIMER バルブタイマー機能 応用

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要なくなるため、カメラブレを低減することができます。

なお、バルブタイマーは、〈B〉 (バルブ撮影) 以外の撮影モードでは設定できません (機能しません)。



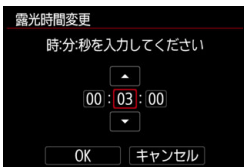
1 [バルブタイマー] を選ぶ

- [📷4] タブの [バルブタイマー] を選び、〈GET〉を押します。



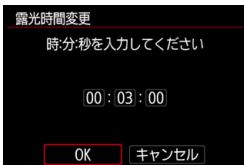
2 [する] を選ぶ

- [する] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 露光時間を設定する

- 項目 (時:分:秒) を選びます。
- <SET> を押して <☑> の状態にします。
- 数値を設定し <SET> を押します (<◀> の状態に戻ります)。

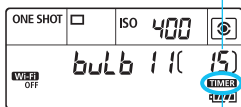


4 [OK] を選ぶ

- ➔ メニュー画面に設定した時間が表示されます。
- ➔ メニューを終了すると、表示パネルに <TIMER> が表示されます。

露光経過時間

5 撮影する



バルブタイマー

- ➔ シャッターボタンを全押しすると、設定した時間のバルブ撮影が行われます。
- バルブタイマー撮影中は、<TIMER> が点滅します。
- 設定を解除するときは、手順2で [しない] を選びます。

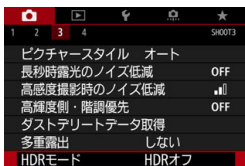
- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- 露光開始からシャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します (設定した露光時間で自動的にバルブ撮影は終了しません)。
- ドライブモードが <☑c> (セルフタイマー: 連続撮影) に設定されているときは、バルブタイマーの設定はできません。
- 電源スイッチ <OFF>、電池交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行ったとき、撮影モードを 以外に変更したときは、バルブタイマーが解除されます (設定が [しない] になります)。

HDR: HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影 応用

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い(ハイダイナミックレンジな)写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。

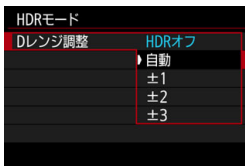
HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像(標準露出/露出アンダー/露出オーバー)を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。

* 「HDR」はHigh Dynamic Range (ハイダイナミックレンジ)の略です。



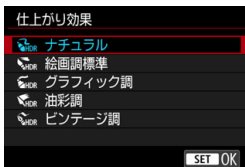
1 [HDRモード] を選ぶ

- [📷3] タブの [HDRモード] を選び、<Ⓢ> を押します。



2 [Dレンジ調整] を設定する

- ダイナミックレンジの調整幅を選び、<Ⓢ> を押します。
- [自動] を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、[HDRオフ] を選びます。



3 [仕上がり効果] を設定する

- 仕上がり効果を選び <Ⓢ> を押します。

仕上がり効果について

ナチュラル

明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

絵画調標準

〔ナチュラル〕よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きま

グラフィック調

〔絵画調標準〕よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。


油彩調

最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

ビンテージ調

鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きま

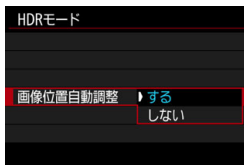
	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

 各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル (p.176) を基本にした画像特性で撮影されます。



4 [HDR撮影の継続] を設定する

- [1回で終了] または [繰り返し] を選び、
〈SET〉を押します。
- [1回で終了] を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- [繰り返し] を選んだときは、手順2で [HDRオフ] を選ぶまでHDR撮影が続きます。







5 [画像位置自動調整] を設定する

- 手持ち撮影を行うときは [する]、三脚などを使用するときは [しない] を選び、
〈SET〉を押します。

6 撮影する

- ファインダー撮影、ライブビュー撮影で、HDR撮影を行うことができます。
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

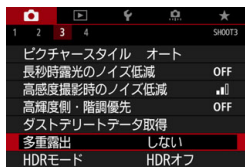
- RAW画質、RAW+JPEG画質は選択できません。また、RAW画質、RAW+JPEG画質が設定されているときは、HDRモードの設定はできません。
- 拡張ISO感度 (L、H1、H2) でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～40000の範囲 ([ISO感度の範囲] の [下限値] [上限値] の設定による) でHDR撮影を行うことができます。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- HDR撮影時は、[1: レンズ光学補正] の [歪曲収差補正]、[2: オートライティング最適化] [3: 高輝度側・階調優先] の設定が自動的に [しない] になります。
- AEB撮影は設定できません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッター速度を自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため、<Tv> <M> モードでも、設定したシャッター速度を基準にシャッター速度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- HDRモード設定時に、ファインダー内と表示パネルに <> を表示することができます (p.489)。



- [画像位置自動調整] を [する] に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報 (p.397)、およびダストデリートデータ (p.452) は画像に付加されません。
- [画像位置自動調整] を [する] に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のスレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい (または暗い) 露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- [画像位置自動調整] を [しない] に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「buSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- HDR撮影設定後に動画撮影への切り換えを行うと、HDR撮影の設定が解除されることがあります ([Dレンジ調整] の設定が [HDRオフ] になります)。

多重露出撮影^{応用}

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影（p.289）のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。



1 [多重露出] を選ぶ

- [📷3] タブの [多重露出] を選び、<SET> を押します。



2 [多重露出撮影] を設定する

- [する] を選び <SET> を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、[しない] を選びます。



3 [多重露出制御] を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び <SET> を押します。

● 加算

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。[重ねる枚数] に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：-1段」「3枚：-1.5段」「4枚：-2段」

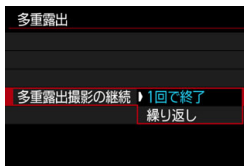
● 加算平均

[重ねる枚数] に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。



4 [重ねる枚数] を設定する

- 枚数を選び〈SET〉を押します。
- 2～9枚の範囲で設定することができます。



5 [多重露出撮影の継続] を設定する

- [1回で終了] または [繰り返し] を選び、〈SET〉を押します。
- [1回で終了] を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- [繰り返し] を選んだときは、手順2で [しない] を選ぶまで多重露出撮影が続きます。



残り撮影枚数

6 1枚目を撮影する

- ➔ 撮影した画像が表示されます。
- ➔ 〈REC〉が点滅します。
- 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内、または画面に表示される [] 内の数値で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます (p.263)。










7 2枚目以降を撮影する

- 撮影した画像が重なって表示されます。
- ライブビュー撮影を行ったときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈INFO〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止します。

- 撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます (p.263)。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

- 保存される画像は、多重露出画像のみです。手順6、7で撮影した多重露出用の画像は保存されません。
- 連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。
- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 多重露出撮影時は、アスペクト比を設定した撮影はできません。3:2のアスペクト比で撮影されます。

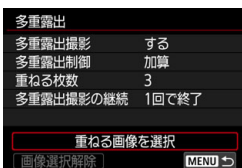


- 多重露出撮影時は、[1: レンズ光学補正] の全項目、[2: オートライティング オプティマイズ] [3: 高輝度側・階調優先] の設定が自動的に [しない] になります。
- [3: ピクチャースタイル] が [オート] に設定されているときは、[スタンダード] で撮影されます。
- [加算] 設定時に、撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。
- 多重露出撮影は、重なる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- [加算] 設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります (アクセスランプが長く点灯します)。
- [加算] の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
-  (セルフタイマー: 連続撮影) で設定した連続撮影枚数よりも、多重露出枚数が少ないときは、[重なる枚数] で設定した枚数で多重露出撮影が終了します。
- 手順7でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 電源スイッチ **<OFF>**、電池交換、カード交換、動画撮影への切り換えを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 多重露出撮影中は、[4: センサークリーニング] の [今すぐクリーニング ] [手作業でクリーニング] は選択できません。
- 撮影中に撮影モードを、かんたん撮影ゾーンまたは   にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されている **RAW** 画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択した **RAW** 画像の画像データはそのまま残ります。

指定できるのは **RAW** 画像のみです。M **RAW** / S **RAW** 画像、およびJPEG画像は選択できません。



1 [重ねる画像を選択] を選ぶ

→ カード内の画像が表示されます。

2 1枚目の画像を選ぶ

● <○> を回して1枚目に設定する画像を選び、<SET> を押します。

● [OK] を選びます。

→ 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3 撮影する

● 画像を選択すると、残り撮影枚数は「**重ねる枚数**」で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、「**重ねる枚数**」が3枚のときは、2枚撮影します。

● [📷3:高輝度側・階調優先] を [する] に設定して撮影した画像、[📷4:アスペクト比] を [3:2] 以外に設定して撮影した画像 (p.168) は、1枚目に指定できません。

● [📷1:レンズ光学補正] [📷2:オートライティング最適マイザ] は、1枚目に指定した **RAW** 画像の設定に関わらず、[しない] で撮影されます。

● ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定した **RAW** 画像と同じ設定で撮影されます。

● 1枚目に指定した **RAW** 画像のピクチャースタイルが [オート] のときは、[スタンダード] で撮影されます。

● 他のカメラで撮影した画像は選択できません。






- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- [画像選択解除] を選ぶと、1枚目に指定した画像の選択が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について



設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の(多重)画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。

この状態で〈◀〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
◀ 前の画面に戻る	〈◀〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
 1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します(撮影のやり直し)。残り撮影枚数が1枚増えます。
 保存して終了	途中まで撮影した画像を、多重露出画像として保存して終了します。
 保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。



多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

? こんなときは

● 記録画質に制限はありますか？

JPEGはすべての記録画質を選択できます。M RAW/S RAW のときは、多重露出画像はRAWで記録されます。

記録画質設定	多重露出画像
JPEG	JPEG
RAW	RAW
M RAW/S RAW	RAW
RAW + JPEG	RAW + JPEG
M RAW/S RAW + JPEG	RAW + JPEG

● カードに記録されている画像に重ね合わせたい

〔重ねる画像を選択〕で、多重露出1枚目の画像を選択することができます (p.262)。なお、カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることにはできません。

● ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？

ライブビュー撮影 (p.289) でも多重露出を行うことができます。

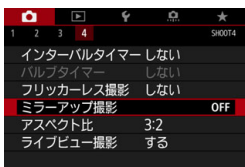
● 多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？

〔42:オートパワーオフ〕が〔しない〕以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が約30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間どおりにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

▽ ミラーアップ撮影 応用

撮影時にミラーが上下に動作することで発生する機械的な振動を「ミラーショック」といいます。ミラーアップ機能を使うと、撮影時にあらかじめミラーが上がった状態になり、ミラーショックによるブレを低減することができます。近接（マクロ）撮影や超望遠レンズを使用した撮影、低速シャッターによる撮影などに効果的です。



1 [ミラーアップ撮影] を選ぶ

- [CAMERA] タブの [ミラーアップ撮影] を選び、
(SET) を押します。




2 [する] を選ぶ


3 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

- ➔ ミラーが上がります。

4 もう一度シャッターボタンを全押しする

- 撮影が行われ、ミラーが下がります。

-  ● カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定やメニュー操作などはできません。

-  ● **【する】** 設定時に、ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-80N3（別売）、またはタイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）の使用をおすすめします（p.276）。
- リモートコントローラー RC-6（別売/p.271）、またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売/p.273）を使ってミラーアップ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーの切り換えスイッチを「2秒後」に設定することをおすすめします。

TIMER インターバルタイマー撮影

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。



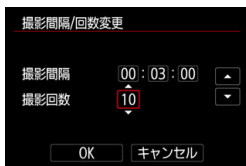
1 [インターバルタイマー] を選ぶ

- [📷4] タブの [インターバルタイマー] を選び、<SET> を押します (かんたん撮影ゾーンのときは [📷1] タブ)。



2 [する] を選ぶ

- [する] を選び、<INFO> ボタンを押します。



3 撮影間隔、撮影回数を設定する

- 項目 (時:分:秒/回数) を選びます。
- <SET> を押して <↑> の状態にします。
- 数値を設定し <SET> を押します (<□> の状態に戻ります)。

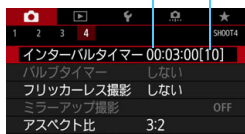
● 撮影間隔

[00:00:01] ~ [99:59:59] の範囲で設定することができます。

● 撮影回数

[01] ~ [99] の範囲で設定することができます。[00] に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。

撮影間隔 撮影回数 **4**



4 [OK] を選ぶ

- ➔ メニュー画面に設定した内容が表示されます。
- ➔ メニューを終了すると、表示パネルに〈**TIMER**〉が表示されます。



インターバルタイマー

5 撮影する

- ➔ 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、〈**TIMER**〉が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。



- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中は、[**42: オートパワーオフ**] の設定にかかわらず、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。次の撮影の約1分前になると、自動的に電源が入ります。
- AEBやWBブラケットリング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、[**しない**] に設定するか、電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

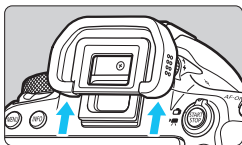


- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。〈MF〉に設定し、手でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー機能を使用したライブビュー撮影、動画撮影、バルブ撮影はできません。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ（別売／p.520）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときや、ライブビュー撮影／動画撮影画面を表示したとき、撮影モードを〈B〉や〈C1〉〈C2〉にしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utility（p.594）を使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が〔しない〕になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影（p.271）やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。
- ファインダーから目を離してインターバルタイマー撮影を行うときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.270）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

アイピースカバーの使い方

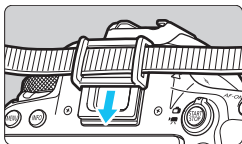
セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真（露出不足）になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.38）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押し取り外します。



2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップを取り付けます。

リモコン撮影

「リモートコントローラー RC-6」（別売／赤外線方式）、または「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）を使用すると、リモコン撮影を行うことができます。

リモートコントローラー RC-6（別売）

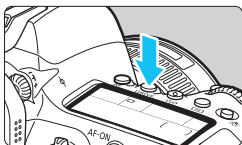


カメラから最大約5m離れて（正面時）リモコン撮影を行うことができます。「すぐに撮影（即リリース）」と「2秒後撮影（2秒後リリース）」ができます。

1 ピントを合わせる




2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- 〈AF〉で撮影することもできます。

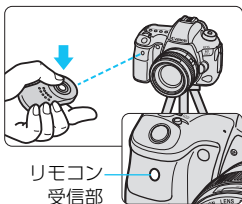


3 〈DRIVE〉ボタンを押す (ⓘ6)

4 セルフタイマー／リモコンを選ぶ

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈〉を回して、〈〉または〈〉を選びます。





5 リモコンのリリース（送信）ボタンを押す

- リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、リリース（送信）ボタンを押します。
- ➔ セルフタイマー／リモコンランプが点灯して撮影されます。

- ❗ 手順4で **☺c** を選んだときは、リモコン撮影はできません。
- **[F1：無線通信の設定]** の **[Bluetooth機能]** が **[スマートフォン]** **[リモコン]** に設定されているときは、RC-6などの赤外線方式のリモートコントローラーを使ったリモコン撮影はできません。
- 蛍光灯やLED照明などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。
- テレビ用のリモコンなどをカメラに向けて操作すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。
- このカメラの周りで、他のカメラのストロボが発光すると、本機が誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。リモコン受信部に他のカメラのストロボ光が入らないようにしてください。

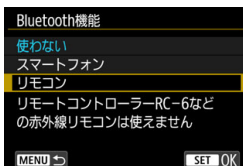
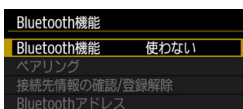
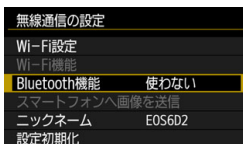
- 📄 ● リモートコントローラー RC-1／RC-5（赤外線方式）を使用することもできます。
- リモートリリース機能を備えたEXスピードライト（別売）でも、リモコン撮影を行うことができます。
- **[F2：オートパワーオフ]** を **[1分]** に設定していても、リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。
- 動画撮影時にリモコンを使用することもできます（p.381）。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売)

Bluetooth® low energy technology対応の「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」(別売)を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。

BR-E1を使用するためには、まずカメラとリモコンのペアリング(機器同士の接続・登録)が必要です。

ペアリング





5 [ペアリング] を選ぶ

- [ペアリング] を選び、**<SET>** を押します。
- BR-E1の**<W>** ボタンと**<T>** ボタンを同時に3秒以上押します。
- ➔ ペアリングが始まります
- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。
- ➔ ペアリングが完了すると、カメラにリモコンが登録され、左図の画面が表示されます。

- カメラのオートパワーオフ機能により、カメラの電源が切れていても、Bluetooth接続中はカメラの電池が消耗します。
- 手順4で[スマートフォン] [リモコン] を選んだときは、リモートコントローラー RC-6 (別売) などの赤外線方式のリモコンは使用できません。

- Bluetooth機能を使わないときは、手順4で[使わない] に設定することをおすすめします。再度リモコンを使用するときは、もう一度 [リモコン] を選択するだけで、自動的にカメラと再接続されます。
- [👉2: オートパワーオフ] を [1分] に設定していても、リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。
- 動画撮影時にリモコンを使用することもできます (p.381)。
- 撮影時にカメラのセルフタイマー/リモコンランプが一瞬点灯します。
- Bluetooth機能の接続表示については、「Wi-Fi (無線通信) 機能使用説明書」(p.4) を参照してください。

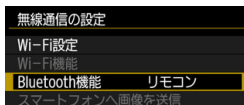
ペアリング解除

他のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）とペアリングするときは、接続しているリモコンとのペアリング（登録）を解除します。なお、手順4の「接続先情報の確認/登録解除」の画面で、カメラとリモコンの接続状態を確認することができます。

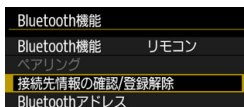


1 「無線通信の設定」を選ぶ

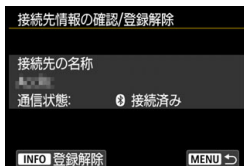
- [F1] タブの「無線通信の設定」を選び、〈GET〉を押します。



2 「Bluetooth機能」を選ぶ



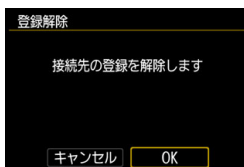
3 「接続先情報の確認/登録解除」を選ぶ



4 表示内容を確認する

- 「接続先の名称」にBR-E1のBluetoothアドレスが表示されます。
- リモコンの操作を行っていないときは、「通信状態」に「接続中...」と表示されます。

5 〈INFO〉ボタンを押す



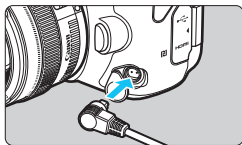
6 登録を解除する

- [OK] を選びます。
- ➔ ペアリング（リモコンの登録）が解除されます。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-80N3（別売）や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3（別売）など、N3タイプの端子を備えたEOS用アクセサリーをカメラに取り付けて撮影することができます（p.515）。

アクセサリーの操作方法については、各アクセサリーの使用説明書を参照してください。



1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

- 図のように取り付けます。
- 取り外すときは、プラグの銀色の部分をつまんで引き抜きます。

7

ストロボ撮影

この章では、外部ストロボ（EXスピードライト／別売）を使った撮影、カメラのメニュー画面から外部ストロボの設定を行う方法について説明しています。

⚡ ストロボを使った撮影

EOS用EXスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能やストロボのカスタム機能を設定する方法については、281～287ページを参照してください。



クリップオンタイプストロボ



マクロストロボ

● ストロボ調光補正

クイック設定 (p.61)、または [📷1:外部ストロボ制御] の [ストロボ機能設定] (p.283) で、ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの<✳>ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。



[📷2:オートライティングオブティマイザ] (p.194) が、[しない] 以外に設定されているときは、露出を暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。



AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

EXシリーズ以外のキャノン製スピードライト


- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
カメラの撮影モードを〈M〉マニュアル露出、または〈Av〉絞り優先AEに設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。


汎用ストロボ

● 同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/180秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

● ライブビュー撮影時の注意

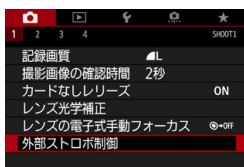
汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[5:LVソフト撮影] を [しない] に設定してください (p.303)。[モード1] [モード2] に設定されていると、ストロボが発光しません。

-  他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

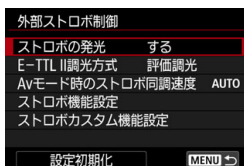
ストロボ機能設定に対応したEXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 「外部ストロボ制御」を選ぶ

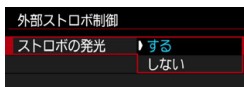
- [📷1] タブの「外部ストロボ制御」を選び、<Ⓜ>を押します。
- ➔ 外部ストロボ制御画面が表示されます。



2 項目を選ぶ

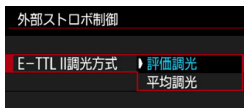
- 設定する項目を選び、<Ⓜ>を押します。

ストロボの発光



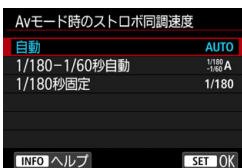
ストロボ撮影を行うときは、[する] に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、[しない] に設定します。

E-TTL II 調光方式



通常は、標準的なストロボ露出が得られる[評価調光]に設定します。[平均調光]に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

Avモード時のストロボ同調速度



〈Av〉絞り優先AEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● AUTO: 自動


明るさに応じてシャッター速度が1/180～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

● ^{1/180}/_{-1/60}A: 1/180-1/60秒自動

暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなります。

● 1/180: 1/180秒固定

シャッター速度が1/180秒に固定されるため、[1/180-1/60秒自動]よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[1/180-1/60秒自動]よりも被写体の背景が暗くなります。

 [1/180-1/60秒自動] [1/180秒固定] 設定時は、〈Av〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

なお、使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



● 発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



[E-TTL II] は、ストロボの自動露出撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。

[マニュアル発光] は、ストロボの [発光量] を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能



電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。



ストロボ機能設定に対応したマクロストロボ（例：MR-14EX II）使用時に、発光部A、Bの発光量の比率（光量比）を設定したり、レシーバーストロボを増灯したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する[AUTO]に設定します。

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する [先幕シンクロ] に設定します。

[後幕シンクロ] に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと [E-TTL II] の組み合わせのときは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回発光します。

[ハイスピード] に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。日中の屋外などで、被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。

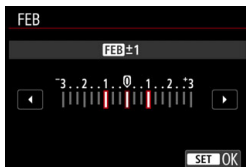
● 調光補正



ストロボの発光量を1/3段ステップ±3段の範囲で調整することができます。


詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。


● FEB



ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

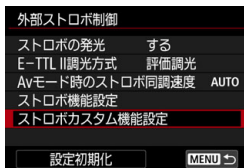
詳しくは、FEB (Flash Exposure Bracketing) 機能を搭載したストロボの使用説明書を参照してください。

 後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を 1/25 秒以下の遅い速度に設定してください。1/30 秒以上の速い速度のときは、[後幕シンクロ] に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

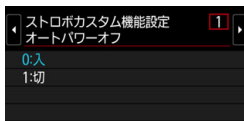
-  ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、[ストロボの発光] [E-TTL II 調光方式]、および [ストロボ機能設定] の [調光補正] のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、[シンクロ設定] も設定可能）。
- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボ（別売）の使用説明書を参照してください。




1 [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

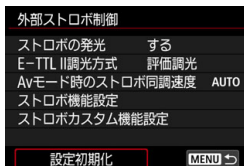


2 機能を設定する

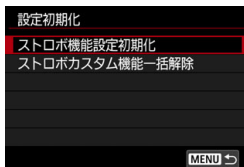
- 番号を選び <SET> を押します。
- 項目を選び <SET> を押します。

 EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の [調光方式] を [TTL]（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除



1 [設定初期化] を選ぶ



2 初期化する内容を選ぶ

- [ストロボ機能設定初期化] [ストロボカスタム機能一括解除] のいずれかを選び、<SET> を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

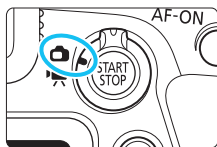


[📷1:外部ストロボ制御] の画面から、ストロボのパーソナル機能 (P.Fn) の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。




8

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）



カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

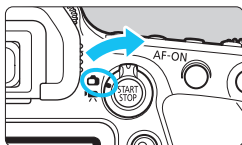
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

- カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。
- カメラの持ち方については、99ページを参照してください。

リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影を行うことができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書 (p.596) を参照してください。

📷 液晶モニターを見ながら撮影する



- 1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを<📷>にする



- 2 ライブビュー映像を表示する

- <START STOP> ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

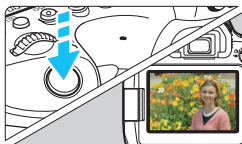
- 3 撮影モードを選ぶ

- モードダイヤルを回して撮影モードを選びます。



- 4 ピントを合わせる

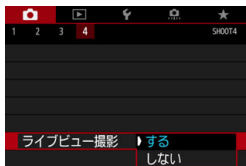
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式 (p.308) でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます (p.319)。



- 5 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➔ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➔ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- <START STOP> ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

ライブビュー撮影ができないときは



[📷4:ライブビュー撮影] を [する] に設定します (かんたん撮影ゾーンの場合は [📷1] タブ)。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安 (約・枚)

温度	常温 (+23℃)	低温 (0℃)
撮影可能枚数	380	340

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、CIPA (カメラ映像機器工業会) の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E21 (別売) 使用時に、バッテリーパック LP-E6Nを2個使用したときは、撮影可能枚数が約2倍になります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでライブビュー撮影できる時間は、常温 (+23℃) : 合計約3時間10分、低温 (0℃) : 合計約2時間50分です。

連続撮影中の表示について

ライブビュー撮影時に記録画質をJPEG画質、および **RAW** に設定して (**M RAW/S RAW** を除く)、**Ⓜ** 高速連続撮影、**Ⓛ** 低速連続撮影を行ったときは、シャッターボタンを全押ししている間、撮影した画像が連続して表示 (再生) されます。連続撮影を終了すると (シャッターボタンを半押しに戻すと)、ライブビュー映像が表示されます。

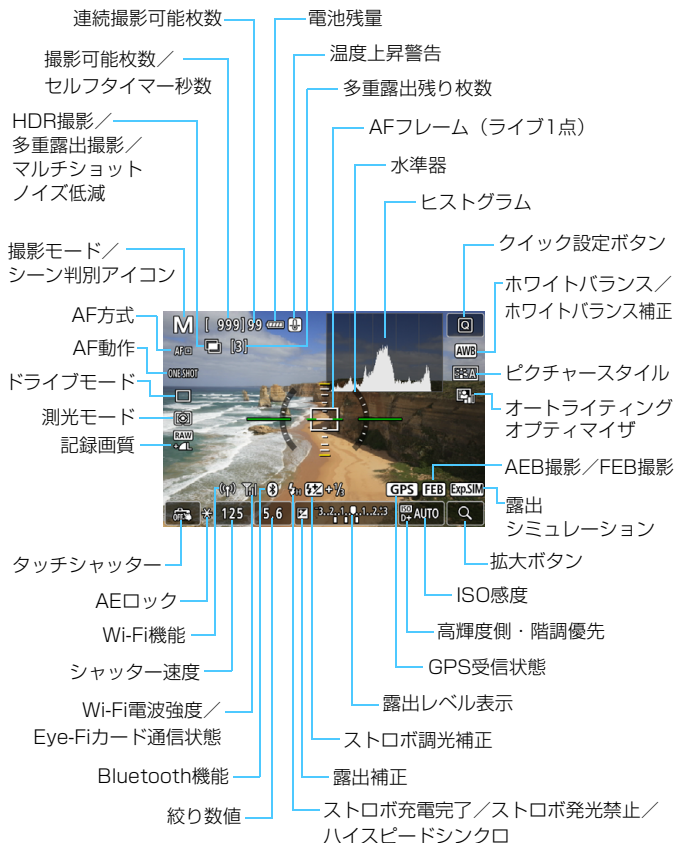
- 🕒 長秒時露光を行ったときなど、撮影条件によっては撮影した画像が連続して表示 (再生) されないことがあります。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 〈SCN：田〉モードのときは、ライブビュー撮影はできません。
- 〈SCN：≡〉モードのときは、歪曲収差補正が行われるため、ライブビュー映像の画角がわずかに変化します。
- 〈SCN：田≡〉モードのときや、[C3:HDRモード] 設定時は、撮影範囲が狭くなります。
- 『ライブビュー撮影全般の注意事項』は、323～324ページにまとめて記載しています。

- 映像の視野率は約100%（記録画質 JPEG **L**、アスペクト比 3：2設定時）です。
- 〈LOCK〉スイッチを下側にして〈O〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（かんたん撮影ゾーンを除く）。
- 絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- 記録画質が**M RAW**、**S RAW**の設定で撮影を行うと、「BUSY」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。
- 〈AF-ON〉ボタンでピント合わせを行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より少し長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、[F2:オートパワーオフ] の設定時間で電源が自動的に切れます（p.73）。[しない] に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.427）。ただし、音声は出力されません。なお、テレビに映像が表示されないときは、[F3:ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- リモートコントローラー（別売／p.271）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

情報表示について

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



● 設定に応じた部分のみ表示されます。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

- ヒストグラムは、[📷5：露出Simulation] が [する] に設定されているときに (p.303) 表示することができます。
- <INFO> ボタンを押すと、水準器を表示することができます (p.80)。ただし、AF方式が [📷+追尾優先] のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- <Exp.SIM> が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- <Exp.SIM> が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- <SCN：📷📷> モード設定時、バルブ撮影時、ストロボ撮影時、マルチショットノイズ低減機能設定時、HDRモード設定時は、露出シミュレーションは行われません (p.303)。そのときは <Exp.SIM> とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき液晶モニターに表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

シーン判別のアイコン一覧

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

背景	被写体		人物以外の被写体			背景色
	人物 ^{*1}	動いているとき	自然や屋外シーン	動いているとき	近いとき ^{*2}	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3			*3		オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時		*4*5	*3		*4*5	

*1: AF方式を「+追尾優先」に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*4: 下記の条件が揃ったときに表示されます。

「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」

*5: 下記のレンズを使用したときに表示されます。

- ・ EF300mm F2.8L IS II USM ・ EF400mm F2.8L IS II USM
- ・ EF500mm F4L IS II USM ・ EF600mm F4L IS II USM
- ・ 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

*4+*5: *4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッター速度が遅くなります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

「ファイナルイメージシミュレーション」は、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

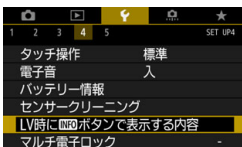
ライブビュー映像を表示すると、以下に示す機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。なお、表示される映像は、撮影結果と若干異なる場合があります。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
 - * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影（〈CA〉モード時）
- 背景ぼかし設定（〈CA〉モード時）
 - * 設定の操作中（〔ぼかしシミュレーション中〕が表示されている間）のみ、効果を確認することができます。
- 色あい（〈P1〉モード時）
- 明るさ
- 測光モード
- 露出（〔5：露出Simulation：する〕設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオブティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 歪曲収差補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

INFOボタンで表示する内容

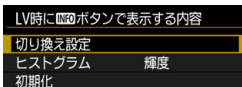
ライブビュー撮影時／動画撮影時に、〈INFO〉ボタンを押したときに映像に重ねて表示する内容（情報）を設定することができます。



〔LV時に **INFO** ボタンで表示する内容〕 を選ぶ

- 〔**4**〕 タブの 〔LV時に **INFO** ボタンで表示する内容〕 を選び、〈**SET**〉を押します。

● 切り換え設定



1 〔切り換え設定〕 を選ぶ



2 番号を選ぶ

- 1～4の番号は、情報表示なしの画面から、〈INFO〉ボタンを押す回数を表しています。
- 表示内容を変更する番号を選び、〈INFO〉ボタンを押します。
- 〈**SET**〉を押して番号の〔**✓**〕を外すこともできます。4項目すべての〔**✓**〕を外すことはできません。

初期状態の設定内容は以下のとおりです。

内容／番号	1	2	3	4
基本撮影情報	○	○	○	—
詳細撮影情報	—	○	○	—
タッチボタン	○	○	○	—
ヒストグラム	—	—	○	—
水準器	—	—	○	—



3 編集する

- 表示する内容を選び、〈SET〉を押して [✓] を付けます。
- 非表示にする内容は、〈SET〉を押して [✓] を外します。
- [OK] を選べると設定されます。
- 必要に応じて手順2、3を繰り返します。

● ヒストグラム

・輝度/RGB

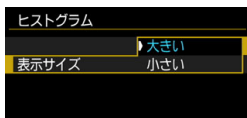
〈INFO〉ボタンを押したときに画面に表示するヒストグラム (p.398) を、[輝度] [RGB] から選ぶことができます。



[ヒストグラム] の [輝度/RGB] を選び、[輝度] または [RGB] を選びます。

・表示サイズ

ヒストグラムの表示サイズを変更することができます。






[ヒストグラム] の [表示サイズ] を選び、[大きい] または [小さい] を選びます。

● 初期化




手順1で [初期化] を選ぶと、[⚡4: LV時にINFOボタンで表示する内容] で設定した内容が初期化されます。




撮影機能の設定

AF / DRIVE / ISO / 設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈AF〉 / 〈DRIVE〉 / 〈ISO〉 / 〈〉 ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈〉 または 〈〉 を回して撮影機能の設定を行うことができます。

- 〈AF〉 ボタンを押したあと、〈〉 を回すとAF方式 (p.308) 、〈〉 〈〉 を押すとAF動作 (p.305) を設定することができます。

 ライブビュー撮影時は、ドライブモードの〈S〉 〈S〉 は設定できません。また、ファインダー撮影時に設定した連続撮影モードの設定は、ライブビュー撮影には引き継がれません。

 〈〉 (部分測光)、〈〉 (スポット測光) 設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。

Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、以下の機能を設定することができます。

応用撮影ゾーンの場合は、**AF方式**／**AF動作**／**ドライブモード**／**測光モード**／**記録画質**／**ホワイトバランス**／**ピクチャースタイル**／**オートライティング**／**オプティマイザ**の設定を行うことができます。

かんたん撮影ゾーンの場合は、**太字の項目**と127ページの表に示した設定を行うことができます（背景ぼかし設定を除く）。



1 〈Q〉ボタンを押す (Q)

→ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。
- 選んだ機能の設定内容と機能ガイドが、画面に表示されます。
- 〈☀〉または〈☾〉を回して設定します。

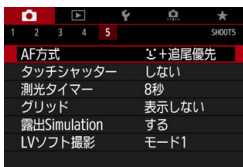
- 記録画質のRAW画像の設定、ドライブモードの〈c〉の設定、WB補正/WBブラケットिंगの設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、〈INFO〉ボタンを押します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、[AWB]（または [AWB W]）を選んだ状態で〈SET〉を押します。
- 〈SET〉または〈Q〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影に戻ります。
- [↶] を選んでライブビュー撮影に戻ることもできます。



[AF動作] を [サーボAF] に設定したときは、[記録画質] でRAW画像の設定を行うときに、**M RAW**、**S RAW**は選択できません。

MENU メニュー機能の設定

📷5



ライブビュー撮影のときは、[📷5] タブにライブビュー撮影特有の項目が表示されます（かんたん撮影ゾーンのときは [📷2] タブ）。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

● AF方式

[📷+追尾優先] [スムーズゾーン] [ライブ1点] を選択することができます。AF方式については、308～314ページを参照してください。

● タッチシャッター

タッチシャッター [しない] [する] を選択することができます。画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。詳しくは319ページを参照してください。

● 測光タイマー 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● グリッド

[9分割井] または [24分割井井] でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、[9分割+対角井井] では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● 露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

● する (Exp.SIM)

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

● 絞込み中

通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます (DISP)。絞込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます (Exp.SIM)。

● しない (DISP)

ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

● LVソフト撮影 応用


● モード1




ファインダー撮影時よりも作動音を抑えた撮影を行うことができます。連続撮影を行うこともできます。


● モード2

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

・しない

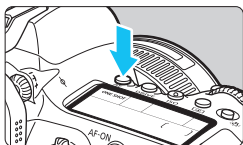
TS-Eレンズ（に記載したレンズを除く）を使用してシフトやティルトを行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず [しない] に設定してください。[モード1] [モード2] に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- [モード2] 設定時にドライブモードを   に設定しても、連続撮影はできません。
- ストロボ撮影時に発光モードがE-TTL II/E-TTL自動調光のときは、ファインダー撮影時と同じ内部機構の動作で撮影が行われるため、（[LVソフト撮影] の設定に関わらず）作動音を抑えた撮影はできません。
- 汎用ストロボを使用するときは、[しない] に設定してください。[モード1] [モード2] に設定されていると、ストロボが発光しません。
- リモートコントローラー（p.271）を使用して [モード2] の設定で撮影したときは、[モード1] と同じ動作になります。
- [📷3:ダストデリートデータ取得]、および [🔧4:センサークリーニング] の [今すぐクリーニング] [手作業でクリーニング] を選ぶと、ライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度  ボタンを押してください。

 TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II は、[モード1] [モード2] を使用することができます。

AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンの場合は、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。



1 <AF> ボタンを押す



2 AF動作を選ぶ

- <◀><▶>を押してAF動作を選び、<SET>を押します。

ONE SHOT：ワンショットAF

SERVO：サーボAF

3 ピントを合わせる





- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピント合わせが行われます。




- ライブビュー撮影時のみ設定できます（動画撮影時は設定できません）。
- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（p.316）を参照してください。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。







- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- ドライブモードが〈H〉**高速連続撮影**に設定されているときは、**最高約6.5コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。
- ドライブモードが〈L〉**低速連続撮影**に設定されているときは、**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。
- **外部ストロボ使用時**は、連続撮影速度が低下します。〈H〉〈L〉の設定に関わらず、連続撮影速度が**最高約1.7コマ/秒**になります。







〔4：電子音〕を〔切〕に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- [ 5: AF方式] が [ + 追尾優先] [スムーズゾーン] のときは、エリアAFフレーム、またはゾーンAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。
- ドライブモードが  高速連続撮影 に設定されているときは、連続撮影速度が最高約4.0コマ/秒になります。「連続撮影速度優先」で撮影されます。
- ドライブモードが  低速連続撮影 に設定されているときは、連続撮影速度が最高約3.0コマ/秒になります。「被写体追従優先」で撮影されます。
- 外部ストロボ使用時は、連続撮影速度が低下します。  の設定に関わらず、連続撮影速度が最高約1.7コマ/秒になります。

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。
- [サーボAF] 設定時は、記録画質 **M RAW**、**S RAW** は選択できません。**M RAW**、**S RAW** に設定されているときは、**RAW** で記録されます。
- [サーボAF] 設定時に、[マルチショットノイズ低減機能] (p.195) が設定されているときは、[高感度撮影時のノイズ低減] の設定が、自動的に [標準] に切り換わります。

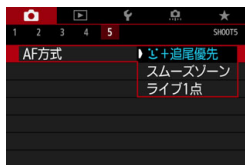
 サーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません (<SCN:    > モードを除く)。

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、[**∞**+追尾優先]（p.309）、[スムーズゾーン]（p.311）、[ライブ1点]（p.313）からAF方式を選ぶことができます。

なお、手動でピント合わせを行いたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.321）。



AF方式を選ぶ

- [📷5] タブの [AF方式] を選びます（動画撮影のときは [📷4] タブ、かんたん撮影ゾーンの場合は [📷2] タブ）。
- AF方式を選び 〈SET〉 を押します。
- ライブビュー映像が表示されているときに、〈AF〉 ボタンを押して、〈🔍〉 を回してAF方式を選択することもできます。

- 309～314ページでは、[AF動作] が [ワンショットAF]（p.305）に設定されていることを前提に説明しています。[サーボAF]（p.307）に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFと撮影）については、319ページを参照してください。

② (顔) + 追尾優先 : AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレームも動いて顔を追尾します。

1 ライブビュー映像を表示する

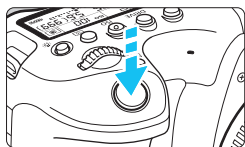
- 〈START/STOP〉 ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➔ エリアAFフレームが表示されます。



エリアAFフレーム

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う 〈AF〉 が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは 〈AF〉 が表示されます。〈AF〉 でピントを合わせたい顔に 〈AF〉 を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外の被写体にタッチしたときは、AFフレームが 〈AF〉 に変わります。



3 ピントを合わせる







- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➔ 顔が検知できないときや、画面にタッチしなかったときは、エリアAFフレーム内でピント合わせが行われます。
- ➔ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➔ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。




4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.290）。

● 人の顔以外にピントを合わせるとき

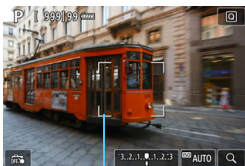
- ・ピントを合わせたい被写体（位置）にタッチします。
- ・〈〉または〈〉ボタンを押すと、画面にAFフレーム〈〉が表示され、〈〉でAFフレームを移動することができます。
- ・被写体にAFフレーム〈〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈〉も動いて被写体を追尾します。

- ❗ ● ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（p.321）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 📄 ● （エリアAFフレームの外側の）画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体をエリアAFフレーム内に入れてピント合わせを行ってください。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

スムーズゾーン：AF()

[ライブ1点] (p.313) のAFフレームよりも広い範囲 (ゾーンAFフレーム) でピントを合わせることができます。



ゾーンAFフレーム

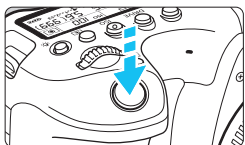
1 ライブビュー映像を表示する

- <START STOP> ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➔ ゾーンAFフレームが表示されます。



2 AFフレームを選ぶ

- <⊛> を操作して、ピントを合わせたい位置にゾーンAFフレームを動かします (画面の一番端までは動きません)。
- <SET> または <⏏> ボタンを押すと、ゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、ゾーンAFフレームを移動することもできます。



3 ピントを合わせる

- ゾーンAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ピントが合うと、ピントが合った位置のAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➔ ピントが合わないときは、ゾーンAFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.290）。

⚠ 意図したところにピントが合わないときは、[ライブ1点]（p.313）に変更して、ピントを合わせなおしてください。

ライブ1点：AF口

1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。



AFフレーム

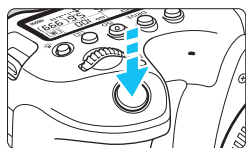
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉 ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➔ AFフレーム 〈□〉 が表示されます。



2 AFフレームを移動する

- 〈方向キー〉 を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈GET〉 または 〈戻る〉 ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、AFフレームを移動することもできます。




3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➔ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.290）。

 動画撮影時に [📷4:動画サーボAF] が [する] に設定されているときは、手順1でAFフレームが大きく表示されます。

AFに関するおことわり

AFの動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AF中とAFを行った後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。

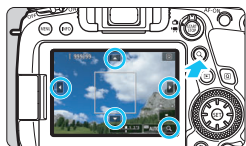


- AFでピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行ってください (p.321)。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 外部ストロボからAF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

拡大表示について



AF方式が[スムーズゾーン][ライブ1点]のときに〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された[Q]にタッチすると、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

[追尾優先]のときは拡大表示できません。

- AFフレームやゾーンAFフレームを移動するときは、〈※〉を操作するか、拡大したい部分にタッチします。
- 〈Q〉ボタンを押すか[Q]にタッチすると、拡大表示されます。操作することにより拡大倍率が切り換わります。
- [スムーズゾーン]設定時は、ゾーンAFフレームの中央部分、[ライブ1点]設定時は、AFフレームの位置が拡大表示されます。
- 等倍(約1倍)表示のときに〈※〉を操作するか、画面にタッチすると、拡大表示枠を移動することができます。〈SET〉または〈⏏〉ボタンを押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。
- 〈Q〉ボタンを押すか[Q]にタッチすると、拡大表示枠の位置が拡大表示されます。
- 約5倍、約10倍表示のときに〈※〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークにタッチすると、拡大位置を変更することができます。
- シャッターボタンを半押しすると、[スムーズゾーン]のときは通常表示に戻って、[ライブ1点]のときは拡大表示のままAFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

- 拡大表示の状態ではピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態ではAFを行ったあとに拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態では異なります。
- 拡大表示中、動画サーボAF（p.373）は行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

👆 タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。



1 ライブビュー映像を表示する

- <START/STOP> ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターに映像が表示されます。







2 タッチシャッター機能を設定する





- 画面左下の [👆] にタッチします。タッチするたびに、[👆] と [📷] が切り換わります。
- [👆] (タッチシャッター：する)
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- [📷] (タッチシャッター：しない)
タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。



3 画面にタッチして撮影する

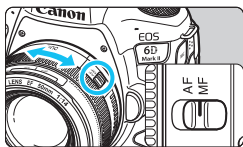
- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➔ 設定されているAF方式 (p.308～314) で、タッチした位置でピント合わせが行われます (タッチAF)。
- ➔ [👆] に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ➔ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- ドライブモードを  (M)  (M) に設定していても、1枚撮影になります。
- [AF動作] が [サーボAF] に設定されていても、画面にタッチしたときは [ワンショットAF] でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- [ 1:撮影画像の確認時間] を [ホールド] に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。
- [ C.Fn III-4:操作ボタンカスタマイズ] でボタンに [ワンショット⇄AIサーボ/サーボ] や、測光タイマーが作動する機能を割り当てているときは (p.497)、そのボタンを押している間、タッチシャッターによる撮影はできません。

- タッチシャッターの機能は、 [ 5:タッチシャッター] で設定することもできます (かんたん撮影ゾーンのときは [ 2] タブ)。
- [ 5:AF方式] が [スムーズゾーン] の設定で、 (タッチシャッター:する) に設定されているときは、画面にタッチすると、[ライブ1点] でピント合わせが行われ、撮影されます。
- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

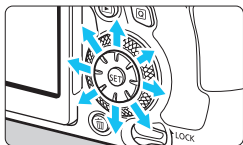
- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



2 拡大表示枠を表示する

- 〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された [Q] にタッチします。
- 拡大表示枠が表示されます。

拡大表示枠



3 拡大表示枠を移動する

- 〈〉を操作するか、拡大したい部分にタッチして、ピントを合わせたい位置に拡大表示枠を移動します。
- 〈〉または 〈〉ボタンを押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。



4 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押すか、画面右下に表示された [Q] にタッチするたびに、次のように画面が切り換わります。

— 通常表示 → 1倍 → 5倍 → 10倍 —

AEロック
拡大表示位置
拡大率 (約)


- 拡大した状態で 〈〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークにタッチすると、拡大位置を変更することができます。

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈Q〉ボタンを押して通常表示にします。

6 撮影する

- 露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します (p.290)。

- 
- 拡大表示中は露出が固定されます (シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます)。
 - 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

ライブビュー撮影全般の注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白いと赤い表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白いまたは赤いが表示されます。
- 白いは、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤いは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、ライブビュー撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行くと、白いまたは赤いが表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白いが表示されていないなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

ライブビュー撮影全般の注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【**42**:液晶の明るさ】を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

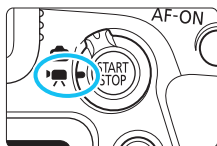
- ライブビュー撮影時は、一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になるカスタム機能があります）。詳しくは、469ページを参照してください。


レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

9

動画を撮影する



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを「」にすると、動画を撮影することができます。

- 動画撮影を行う前に343ページを参照して、各動画記録画質で動画が記録できるカードを確認してください。
- カメラを手にとって動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。
- カメラの持ち方については、99ページを参照してください。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。



📹 動画を撮影する

📹^{A+}/📹 自動露出撮影

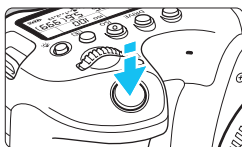
撮影モードが〈A+〉〈CA〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📹〉にする

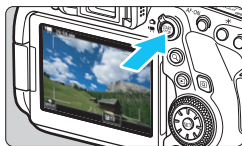
→ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 モードダイヤルを〈A+〉〈CA〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉のいずれかにする



3 ピントを合わせる

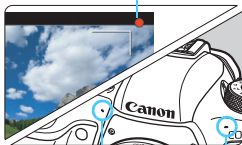
- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます (p.308、321)。
- 初期状態では、[📹4:動画サーボAF]が[する]に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (p.373)。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。



4 動画を撮影する

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。
- 音声は内蔵マイクでステレオ記録されます。
- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

動画撮影中



内蔵マイク

〈A+〉〈CA〉モード時のISO感度について

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード時のISO感度について

- ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- [📷2: 📹ISO感度に関する設定] の [ISOオート] を [上限H2 (102400)] に設定すると (p.372)、自動設定範囲の上限がH2 (ISO102400相当) まで拡張されます。[上限6400] [上限12800] を選ぶと、自動設定範囲を狭める (上限を低くする) ことができます。
- [📷3: 高輝度側・階調優先] を [する] に設定したときは (p.199)、ISO感度の自動設定時の下限がISO200になります。また、[ISOオート] を [上限H1 (51200)] [上限H2 (102400)] に設定しても、上限の拡張は行われません。

- **📷** 〈SCN〉モードに設定したときは、HDR動画撮影になります (p.348)。
- 〈Tv〉〈Av〉モードに設定しても、シャッター速度、絞り数値を優先した動画撮影はできません。〈P〉モードと同じ、自動露出撮影になります。
- 動画撮影時は、L (ISO50相当) のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- タイムラプス動画撮影時のISO感度については、354、372ページを参照してください。









〈A+〉〈CA〉〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード共通事項

- 〈A+〉〈CA〉モードのときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます (p.329)。
- 〈*〉ボタンを押すと、露出を固定 (AEロック) することができます (〈A+〉〈CA〉〈SCN〉モードを除く / p.249)。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈Fn〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます (〈Fn〉ボタンを押すまで保持されます)。
- 〈LOCK〉スイッチを下側にして 〈○〉を回すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます (〈A+〉〈CA〉〈SCN〉モードを除く)。
- 動画の画像情報 (Exif情報) にISO感度、シャッター速度、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、自動露出で動画を撮影する際 (タイムラプス動画撮影を除く)、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

シーン判別のアイコン一覧

撮影モードが〈A+〉〈CA〉モードのときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った自動露出撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

背景	被写体		人物以外の被写体		背景色
	人物 ^{*1}		自然や屋外シーン	近いとき ^{*2}	
明るい					灰色
	逆光				
青空を含む					水色
	逆光				
夕景	*3			*3	オレンジ色
スポットライト					紺色
暗い					

*1: AF方式を「[L]+追尾優先」に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

タイムラプス動画撮影時は、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

🔍 シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

📹M マニュアル露出撮影

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。

1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📹〉にする

2 モードダイヤルを〈M〉にする



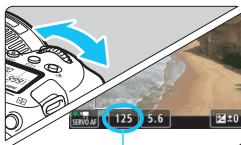
3 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➔ 液晶モニターにISO感度の設定画面が表示されます。
- 〈🔧〉または〈🌀〉を回して設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。

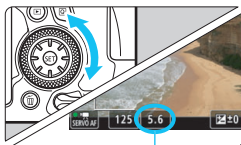


4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は〈🔧〉、絞り数値は〈🌀〉を回して設定します。
- 設定できるシャッター速度は、フレームレートにより異なります。333ページを参照してください。



シャッター速度



絞り数値



5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです (p.326)。

〈M〉モード時のISO感度について

- [AUTO] (A) のときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。なお、[📷2: 📷ISO感度に関する設定] の [ISOオート] を [上限H2 (102400)] に設定すると (p.372)、自動設定範囲の上限がH2 (ISO102400相当) まで拡張されます。[上限6400] [上限12800] を選ぶと、自動設定範囲を狭める (上限を低くする) ことができます。
- 手動設定のときは、ISO100～25600の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。なお、[📷2: 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] の [上限値] を [H2 (102400)] に設定すると (p.372)、手動設定範囲の上限がH2 (ISO102400相当) まで拡張されます。また、[上限値] [下限値] による範囲を初期状態 (ISO100～25600) から狭めることもできます。
- [📷3: 高輝度側・階調優先] を [する] に設定したときは (p.199)、ISO感度の自動/手動設定時の下限がISO200になります。また、ISO感度の上限を「H1 (ISO51200相当)」「H2 (ISO102400相当)」に拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。

- 📷 動画撮影時は、L (ISO50相当) のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時のISO感度については、354ページを参照してください。

- 📷 手順4でシャッター速度、絞り数値が設定できないときは、〈LOCK〉スイッチを下側にしてから  または  を回します。
- [点.CFn III-4 : 操作ボタンカスタマイズ] で [📷: 露出補正 (押しながら📷)] に設定すると (p.502)、ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈*〉ボタンを押すと、ISO感度を固定 (ロック) することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈📷〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます (〈📷〉ボタンを押すまで保持されます)。
- 〈*〉ボタンを押して構図を変えると、〈*〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈M〉モード時に撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

設定できるシャッター速度について

〈M〉マニュアル露出撮影時に設定できるシャッター速度は、設定した動画記録画質のフレームレートによって異なります。

(秒)

フレームレート	シャッター速度
59.94P	1/4000~1/60
50.00P	1/4000~1/50
29.97P	1/4000~1/30
25.00P 23.98P	1/4000~1/25

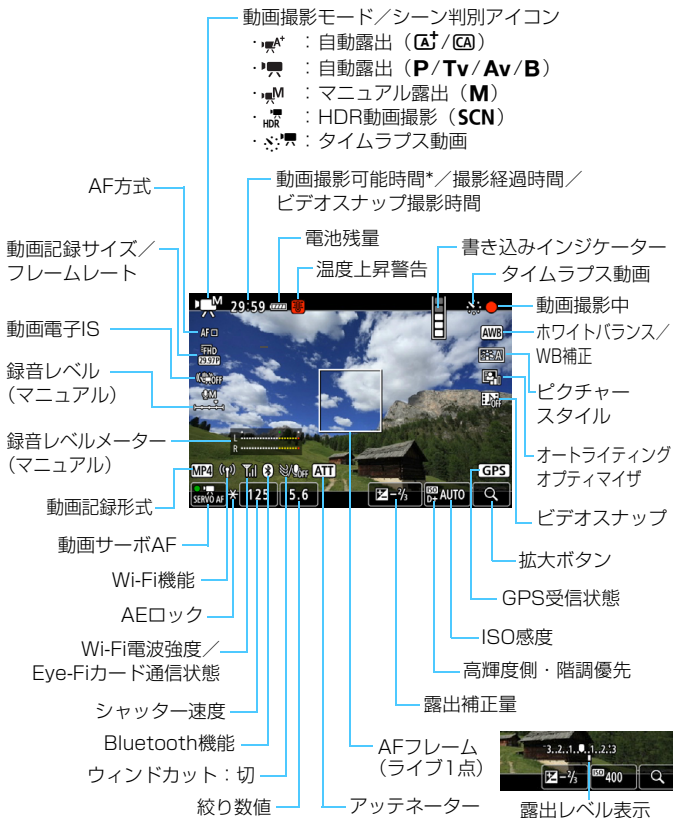
📹 タイムラプス動画撮影 (p.349) のときは、設定できるシャッター速度が異なります。

静止画撮影について

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

情報表示について

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



* 1回の撮影可能時間です。

● 設定に応じた部分のみ表示されます。



- [📷4:AF方式] が [スムーズゾーン] [ライブ1点] のときに <INFO> ボタンを押すと、水準器を表示することができます (p.80)。
- <INFO> ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (p.298)。
- [📷4:AF方式] が [📷+追尾優先] のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません (表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます)。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

📹 動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- 〈AWB〉〈AWBw〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカシングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- 動画撮影中に〈Q〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 内蔵マイク（p.326）を指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 『動画撮影全般の注意事項』は、382～383ページにまとめて記載しています。
- 必要に応じて323～324ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。



動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、フルHD/HD撮影時ともに約100%です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピント合わせを行うこともできます。
- [📷4: 👁 ボタンの機能] で [📷AF/👁] [📷/👁] を選ぶと、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始/終了することができます (p.378/かんたん撮影ゾーンのときは [📷2] タブ)。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク (p.326) でステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子 (p.29) に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1 (別売) を接続すると、外部マイクが優先されます (p.347)。
- ミニプラグ (φ3.5mm) を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで動画撮影できる時間は、常温 (+23℃) : 合計約2時間40分、低温 (0℃) : 合計約2時間20分です ([📷1: 動画記録サイズ] : 📷HD 29.97P 25.00P 23.98P [PB]、[📷4: 動画サーボAF: しない] 設定時)。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた(超)望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、YCbCr 4:2:0 (8bit)、カラーマトリックスは、Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

ファイナルイメージシミュレーションについて

「ファイナルイメージシミュレーション」は、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、以下に示す機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。なお、表示される映像は、撮影結果と若干異なる場合があります。


動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
 - * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度（タイムラプス動画撮影時を除く）
- オートライティング最適化
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先
- HDR動画

🚫 タイムラプス動画撮影時に、露出が適切にシミュレーションされていない場合は、〈Exp.SIM〉マークが点滅します。

撮影機能の設定

AF/ISO設定



液晶モニターに映像が表示された状態で〈AF〉／〈ISO〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、で撮影機能の設定を行うことができます。

- マニュアル露出撮影時（p.330）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO 感度を設定することができます。
- AF動作、ドライブモード、測光モードは設定できません。


Q クイック設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押すと、以下の機能を設定することができます。

応用撮影ゾーンのときは、**AF方式**／**動画記録サイズ**／**動画電子IS**／録音レベル（マニュアル設定時のみ）／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／**ビデオスナップ**の設定を行うことができます。


〈〉〈〉モードのときは、**太字の項目のみ**設定できます。〈**SCN**〉モードのときはAF方式のみ設定できます。




- 1 〈Q〉ボタンを押す（)
→ 設定できる項目が表示されます。

2 機能を選んで設定する

- <▲> <▼> を押して機能を選びます。
- ➔ 選んだ機能の設定内容と機能ガイドが、画面に表示されます。
- <☀> または <☉> を回して設定します。
- WB補正の設定、ピクチャースタイルの詳細設定を行うときは、<INFO> ボタンを押します。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、[AWB] (または [AWB w]) を選んだ状態で <SET> を押します。
- <SET> または <Q> ボタンを押すと、動画撮影に戻ります。
- [👉] を選んで動画撮影に戻ることができます。

 [📷1:録音] が [マニュアル] の設定で、[📷5:タイムラプス動画] を [する] に設定して、<Q> ボタンを押したときは、録音レベル (マニュアル設定時のみ) の項目は表示されません。

 動画撮影中に <Q> ボタンを押したときは、録音レベル (マニュアル設定時のみ) の設定を行うことができます。

MENU 動画記録画質の設定



[**📷1**:動画記録サイズ] で、動画記録画質（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）を設定することができます。

撮影した動画は、MP4形式で記録されます。

なお、[**📷1**:動画記録サイズ] の画面に表示されるフレームレートは、[**📷3**:ビデオ方式] の設定 (p.541) により、自動的に切り換わります。

- 🔊 動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録画質により異なります。動画撮影を行う前に343ページを参照して、要求カード性能を確認してください。

動画記録サイズ

● 画像サイズ

FHD 1920×1080

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。

HD 1280×720

ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。

- 🔊 [**📷3**:ビデオ方式] の設定を変更したときは、[**📷1**:動画記録サイズ] の再設定を行ってください。
- 標準（VGA）画質の動画を撮影することはできません。

● フレームレート (fps : frame per second)

59.94P 59.94fps / **29.97P** 29.97fps

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

50.00P 50.00fps / **25.00P** 25.00fps

テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

23.98P 23.98fps

【**43**:ビデオ方式】を【NTSC】に設定したときに選択できます。主に映画関連で使用します。

● 圧縮方式

IPB IPB（標準）

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録されます。

IPB  IPB（軽量）

IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録されるため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

● 動画記録形式

MP4 MP4

MP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。MOV形式の動画よりも、再生互換性が高いファイル形式です。

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が下表の速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録画質（p.341）で正しく記録できるかどうか確認してください。

動画記録画質				SDカード
通常動画				
4K FHD	59.94P 50.00P	IPB	MP4	SDスピードクラス10以上
	29.97P 25.00P 23.98P			SDスピードクラス6以上
	HDR動画			SDスピードクラス4以上
29.97P 25.00P	IPB	SDスピードクラス6以上		
4K HD	59.94P 50.00P	IPB		SDスピードクラス4以上
	29.97P 25.00P	IPB		
タイムラプス動画 (p.349)				
4K	29.97P 25.00P	MJPG	MOV	UHS-I 90MB/秒以上
FHD		ALL-I		UHS-I スピードクラス3以上

* タイムラプス動画の要求カード性能は「読み取り速度」です。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。
- このカメラはSDHC/SDXCカードの高速転送規格であるUHS-IIには対応していません（UHS-IIに対応）。UHS-II対応のカードを使用したときは、UHS-Iによる高速転送ができないことがあります（カード側の仕様による）。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前に、このカメラでカードを初期化することをおすすめします (p.75)。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- ビットレートについては、574ページを参照してください。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

● 通常動画 (約)

動画記録画質	カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ	
	8GB	32GB	128GB		
FHD ：フルHD動画					
59.94P 50.00P	IPB	17分	70分	283分	431MB/分
29.97P 25.00P 23.98P		35分	140分	563分	216MB/分
HDR動画		35分	140分	563分	216MB/分
29.97P 25.00P	IPB	86分	347分	1391分	87MB/分
HD ：HD動画					
59.94P 50.00P	IPB	40分	162分	649分	184MB/分
29.97P 25.00P	IPB	250分	1001分	4004分	30MB/分

● タイムラプス動画 (約)

動画記録画質	カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ	
	8GB	32GB	128GB		
4K ：4Kタイムラプス動画					
29.97P 25.00P	MJPG	2分	8分	34分	3576MB/分
FHD ：フルHDタイムラプス動画					
29.97P 25.00P	ALL-I	11分	47分	189分	643MB/分

* タイムラプス動画撮影時の動画記録時間（再生時間）については、351ページを参照してください。

- ⚠ カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります (p.382)。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます（タイムラプス動画撮影時を除く）。

● このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用時

SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。

FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時

SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。

exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

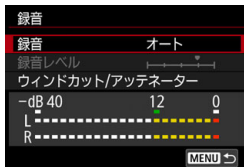
撮影時間の制限について

1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。



- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか（p.594）、カードリーダーを使用してください（p.599）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルは取り込まれません。
- 4Kタイムラプス動画撮影時は（p.350）、SDXCカードの使用をおすすめします。

MENU 録音の設定



内蔵のステレオマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

[1: 録音] で録音に関する設定を行うことができます。

録音／録音レベル

オート : 録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

マニュアル : 上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。

[録音レベル] を選び、レベルメーターを見ながら <◀> <▶> を押すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（-12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

しない : 録音は行われません。

ウィンドカット

[オート] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ポコポコ」という音を自動的に低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。[録音] を [オート] または [マニュアル] に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは [入] に設定することをおすすめします。

● マイクについて

通常は内蔵マイクでステレオ録音されます。

外部マイク入力端子 (p.29) に、ミニプラグ (φ3.5mm) を備えた外部ステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1 (別売) の使用をおすすめします。



- 外部マイク使用時にWi-Fi (無線通信) 機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホン DM-E1 (別売) を使用すると、これらの音を低減できることがあります。
- カメラに外部マイクを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。



- かんたん撮影ゾーンのときは [録音] : [する] [しない] になります。なお、[する] に設定したときは、録音レベルが自動調整され ([オート] と同じ)、ウィンドカットが行われます。
- L/R (左/右) の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz/16bitで記録されます。

HDR動画を撮影する

モードダイヤルを〈SCN〉にすると、明暗差の大きいシーンで白とびが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。

HDR動画は、**FHD 29.97P IPB**（NTSC）、または**FHD 25.00P IPB**（PAL）で記録されます。

* 「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする



2 HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。

! HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手持ち撮影のときは、手ブレにより、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。

タイムラプス動画を撮影する

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時：**4K 29.97P MJPG** (NTSC) / **4K 25.00P MJPG** (PAL)、フルHD撮影時：**FHD 29.97P ALL-I** (NTSC) / **FHD 25.00P ALL-I** (PAL)の設定で、ともにMOV形式で記録されます。

なお、フレームレートは、**[43:ビデオ方式]**の設定 (p.541) により自動的に切り換わります。

1 撮影モードを選ぶ

- 通常の動画撮影のときと同じように、**<A+>** **<CA>** **<P>** **<Tv>** **<Av>** ****モードのときは自動露出撮影、**<M>**モードのときはマニュアル露出撮影になります。



2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを<Fn>にする

- 液晶モニターに映像が表示されます。

3 [タイムラプス動画] を選ぶ

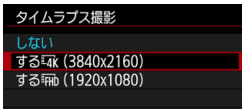
- **[5]** タブの**[タイムラプス動画]**を選び、**<GET>**を押します (**<A+>** **<CA>**モードは**[3]**タブ)。



4 [タイムラプス撮影] を選ぶ



<Tv> **<Av>**モードに設定しても、シャッター速度、絞り数値を優先したタイムラプス動画撮影はできません。**<P>**モードと同じ、自動露出撮影になります。



5 動画記録サイズを選ぶ

- [する 4K (3840×2160)] または [する FHD (1920×1080)] を選びます。

● する 4K (3840×2160)

4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps (29.97P) / PAL：25.00fps (25.00P)、映像記録方式はMotion JPEG形式 (MJPEG)、動画記録形式はMOV形式 (MOV) で記録されます。

● する FHD (1920×1080)

フルハイビジョン (Full HD) 画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps (29.97P) / PAL：25.00fps (25.00P)、圧縮方式はALL-I形式 (ALL-I)、動画記録形式はMOV形式 (MOV) で記録されます。

● 映像記録方式 / 圧縮方式

MJPEG MJPG

1フレーム単位で圧縮して記録されます。圧縮率は低くなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

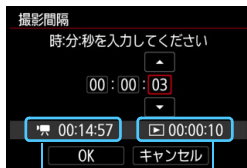
ALL-I ALL-I (編集用 / I-only)

1フレーム単位で圧縮して記録されます。圧縮率は低くなりますが、IPBよりも撮影後の編集作業に適しています。

● 動画記録形式

MOV MOV

MOV形式の動画ファイルとして記録されます (拡張子：「.MOV」)。



撮影所要時間

再生時間

6 撮影間隔を設定する

- [撮影間隔] を選びます。
- 画面の下側に表示される [📷:撮影所要時間] [▶:再生時間] を参考にして設定します。
- 項目(時:分:秒)を選びます。
- <SET> を押して <⬆> の状態にします。
- 数値を設定し <SET> を押します (<⬆> の状態に戻ります)。
- [00:00:01] ~ [99:59:59] の範囲で設定することができます。
- [OK] を選ぶと、撮影間隔が設定されます。

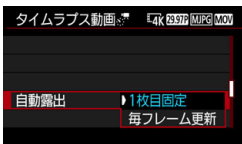


7 撮影回数を設定する

- [撮影回数] を選びます。
- 画面の下側に表示される [📷:撮影所要時間] [▶:再生時間] を参考にして設定します。
- 項目(桁)を選びます。
- <SET> を押して <⬆> の状態にします。
- 数値を設定し <SET> を押します (<⬆> の状態に戻ります)。
- [0002] ~ [3600] の範囲で設定することができます。
- [▶:再生時間] が赤く表示されていないことを確認します。
- [OK] を選ぶと、撮影回数が設定されます。



- タイムラプス動画が記録できるカード(要求カード性能)については、343ページを参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時:約2分、PAL設定時:約2分24秒のタイムラプス動画になります。



8 露出の設定方法を選ぶ

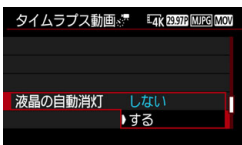
- [自動露出] を選びます。

● 1枚目固定

1枚目を撮影するとき測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

● 毎フレーム更新

2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、[オート] に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。



9 映像の表示有無を設定する

- [液晶の自動消灯] を選びます。

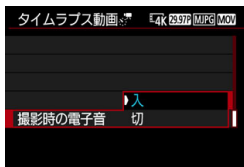
● しない

タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ液晶モニターが消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、液晶モニターが消灯します。

● する

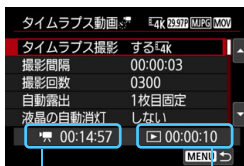
撮影開始から約10秒経過すると、液晶モニターが消灯します。

タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、液晶モニターを点灯／消灯することができます。



10 電子音を設定する

- [撮影時の電子音] を選びます。
- [切] に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。



11 設定内容を確認する

撮影所要時間 再生時間

● 撮影所要時間

撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

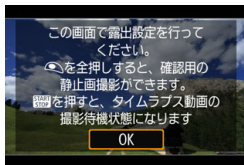
● 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

12 メニューを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押してメニュー画面を消します。

⚠ [4: 電子音] が [切] に設定されているときは、手順10の設定はできません。



13 メッセージを確認する

- メッセージを確認して[OK]を選びます。

14 テスト撮影する

- ライブビュー撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像(静止画)が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

- テスト撮影画像は、[📷1:記録画質]の設定で記録されます。
- <M>モードのときは、1/4000~30秒の範囲でシャッター速度を設定することができます。
- 自動露出撮影時 (<☀> <☀>モードを除く)、およびマニュアル露出撮影+ISOオート設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、[📷2:ISO感度に関する設定]の[ISOオート]で設定することができます(p.372)。
- マニュアル露出撮影時に、[📷2:ISO感度に関する設定]の[ISO感度の範囲]の[上限値]を[H2(102400)]に設定すると、手動設定範囲の上限がH2(ISO102400相当)まで拡張されます。



15 <START/STOP> ボタンを押す

- ➔ タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順13に戻る時は、もう一度<START/STOP> ボタンを押します。

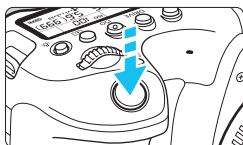
撮影回数



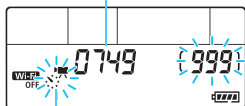
撮影所要時間 撮影間隔

16 タイムラプス動画を撮影する

- <INFO> ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間」「撮影間隔」を再確認します。
- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、表示パネルの<INFO> が点滅します。また、「●」の左側に<INFO> が表示されます。
- 電子シャッターによる撮影のため、タイムラプス動画撮影中は、ミラーやシャッターの作動音はしません。
- ➔ 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- ➔ タイムラプス動画撮影が自動的に解除されます。



残り撮影回数



タイムラプス動画



- 三脚の使用をおすすめします。
 - 事前に手順 14 の静止画のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
 - [📷1:動画記録サイズ] の設定に関わらず、4Kタイムラプス動画：**4K 29.97P [MPG]** (NTSC) / **4K 25.00P [MPG]** (PAL)、フルHDタイムラプス動画：**FHD 29.97P [ALL-I]** (NTSC) / **FHD 25.00P [ALL-I]** (PAL) で記録されます。
 - 映像の視野率は、4K/フルHDタイムラプス撮影時ともに約100%です。
 - タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、<停止> ボタンを押します（設定が [しない] になります）。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
 - 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のおきも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
 - タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき [再生時間] は「00:00:00」と表示されます。
 - 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売/ p.520）の使用をおすすめします。
 - <A+> <CA> モードのときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.329）。
 - カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画：YCbCr 4:2:2 (8bit)、フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0 (8bit)、カラーマトリックスは、4Kタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.601、フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。
-
- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、[再生時間]（p.353）が赤く表示されます。そのまま撮影することはできませんが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
 - カードに空き容量がないときは、「撮影回数」（p.355）が「📷0000」で赤く表示され、撮影することはできません。
 - 設定した [撮影回数] でファイルサイズが4GBを超えると、カードがeXFAT形式でフォーマットされていないときは（p.71）、[再生時間] が赤く表示されます（p.353）。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。



- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。画像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブル（別売）でパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、[する] を選ぶことはできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッター速度が1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや被写界深度など）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは〈Exp.SIM〉マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、[👁️ ボタンの機能] の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- [撮影間隔] が3秒以下で、[自動露出] が[毎フレーム更新] に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッター速度が自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- [液晶の自動消灯] を [しない] に設定しても、露光中は液晶モニターが消灯しません。また、撮影間隔が1秒のときは、映像は表示されません。
- [液晶の自動消灯] を [しない] に設定しても、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブル（別売）で接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷5：タイムラプス動画] を [しない] に設定してください。[する] に設定されているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ操作などが行われたときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が [しない] になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が [しない] になります。
 - ・ [📷4：センサークリーニング] の [今すぐクリーニング] [手作業でクリーニング]、[📷5：カメラ設定初期化] を選んだとき
 - ・ 撮影モード〈SCN〉〈G1〉〈G2〉を選んだとき



- タイムラプス動画撮影が終了すると、設定が自動解除され、通常の動画撮影に戻ります。タイムラプス動画撮影時に遅いシャッター速度に設定していたときは、設定が自動解除された際に、シャッター速度が（通常の動画撮影で設定可能な速度に）自動変更されることがありますので、注意してください。
- 白い「」温度上昇警告（p.334）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い「」が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- 4Kタイムラプス動画をカメラで再生したときや、[スロー再生] を選び再生速度を一番早く（）を回して右端に設定）したときは（p.420）、1フレームずつ間引かれた状態で再生されます。
- 再生時に4Kタイムラプス動画からフレームを切り出す（4Kフレームキャプチャー）機能は備えていません。
- [自動露出] を [毎フレーム更新] に設定して撮影したときは、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、以下の情報は記録されません。
 - ・自動露出撮影時：シャッター速度、絞り数値





フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでタイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始から電池切れまで）の目安は、以下のとおりです。なお、撮影条件により、撮影可能時間は変動します。

タイムラプス動画撮影可能時間の目安

（約）


タイムラプス動画撮影		常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影間隔	液晶モニター		
1秒	点灯	5時間10分	4時間30分
	消灯		
10秒	点灯	3時間10分	2時間50分
	消灯	7時間00分	6時間20分

リモートコントローラー RC-6（別売／p.271）、またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／p.273）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。あらかじめ、[5:リモコン撮影]を[]に設定してください。

● リモートコントローラー RC-6使用時

カメラの状態／リモコン設定	〈2〉「2秒後撮影」	〈●〉「すぐに撮影」
テスト撮影画面	撮影待機状態へ	静止画撮影
撮影待機状態	テスト撮影画面へ	撮影開始
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

● ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- ・ あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください（p.273）。
- ・ テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態（p.355 手順15の状態）にしたあと、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即リリース（すぐに撮影）、または〈2〉2秒後リリース（2秒後撮影）に設定してください。
- ・ リモコンのスイッチが〈〉に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

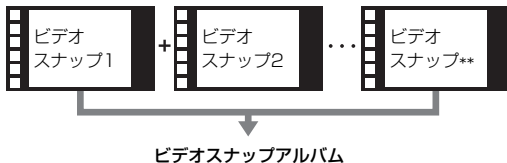
カメラの状態／リモコン設定	〈2〉「2秒後撮影」 〈●〉「すぐに撮影」	〈  〉「動画撮影」
テスト撮影画面	静止画撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

MENU ビデオスナップを撮影する

1シーンが数秒間（約2/4/8秒）の短い動画「ビデオスナップ」（以下スナップ）を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの思い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。

できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（p.368、426）。

ビデオスナップアルバムの概念



1 スナップの撮影時間を決める

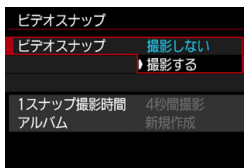
- 1 モードダイヤルを〈SCN〉以外にする

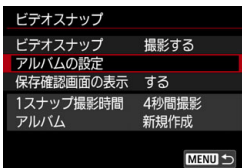


- 2 [ビデオスナップ] を選ぶ

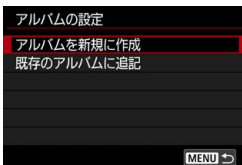
- [CAMERA 5] タブの [ビデオスナップ] を選び、〈GET〉を押します（かんたん撮影ゾーンの場合は [CAMERA 3] タブ）。

- 3 [撮影する] を選ぶ

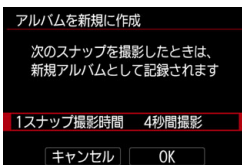




4 [アルバムの設定] を選ぶ



5 [アルバムを新規に作成] を選ぶ

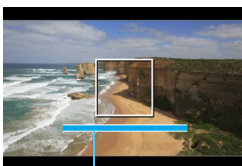


6 [1スナップ撮影時間] を選ぶ



7 1スナップの撮影時間を設定する

- 撮影時間を選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選びます。



撮影時間

8 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- ➔ 画面に撮影時間を示す青いバーが表示されます。
- 『スナップを撮影してアルバムを作る』に進みます (p.363)。

スナップを撮影してアルバムを作る



9 最初のスナップを撮影する

- 〈START/STOP〉 ボタンを押して撮影します。
- ➔ 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- ➔ 確認画面が表示されます (p.364～365)。



10 アルバムとして保存する

- [OK アルバムとして保存] を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ アルバムの先頭スナップとして保存されます。



11 続けてスナップを撮影する







- 手順9と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- [OK アルバムに追加する] を選び、〈SET〉を押します。
- 別のアルバムを作るときは、[OK 新しいアルバムとして保存] を選びます。
- 必要に応じて手順11を繰り返します。






12 ビデオスナップ撮影を終了する


- [ビデオスナップ] を [撮影しない] に設定します。通常の動画を撮影するときには、[撮影しない] に設定してください。
- 〈MENU〉 ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

手順10、手順11の画面について

項目	内容
 アルバムとして保存 (手順10)	アルバムの最初のスナップとして保存します。
 アルバムに追加する (手順11)	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
 新しいアルバムとして保存 (手順11)	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
 撮影したスナップを再生する (手順10、手順11)	いま撮影したスナップを再生します。再生操作の内容は、次ページの表を参照してください。
 アルバムとして保存しない (手順10)  アルバムに追加しないで消去 (手順11)	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で [OK] を選びます。

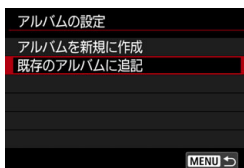
 スナップを撮影したあと、すぐに次のスナップを撮影したいときは、[5:ビデオスナップ] の [保存確認画面の表示] を [しない] に設定します。この設定にしておくと、撮影直後に確認画面が表示されなくなるため、すぐに次のスナップを撮影することができます。

手順10、手順11の【 撮影したスナップを再生する】の再生操作

項目	再生内容
▶ 再生	<SET> を押すたびに、いま撮影したスナップの再生/停止を繰り返します。
⏪ 先頭フレーム	アルバムの最初のスナップの先頭画面を表示します。
⏮ 前スキップ*	<SET> を押すたびに、数秒前の画面に戻します。
⏪ フレーム戻し	<SET> を押すたびに1コマ戻します。<SET> を押し続けると、早戻しします。
⏩ フレーム送り	<SET> を押すたびに1コマ送ります。<SET> を押し続けると、早送りします。
⏭ 次スキップ*	<SET> を押すたびに、数秒後の画面に送ります。
⏭ 最終フレーム	アルバムの最後のスナップの最終画面を表示します。
	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' :分、ss" :秒)
🔊 音量	<🔊> を回すと、内蔵スピーカー (p.419) の音量を調整することができます。
MENU ↵	<MENU> ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

* [前スキップ] [次スキップ] は、撮影時に設定した [ビデオスナップ] の時間 (約2/4/8秒間撮影) 分、画面を戻したり、送ったりします。

既存のアルバムに追記する



1 【既存のアルバムに追記】を選ぶ

- 362 ページの手順5で「既存のアルバムに追記」を選び、〈SET〉を押します。



2 既存のアルバムを選ぶ

- 〈○〉を回して既存のアルバムを選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選び 〈SET〉を押します。
- 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。

3 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

4 スナップを撮影する

- 『スナップを撮影してアルバムを作る』(p.363)を参照し、スナップを撮影します。

⚠ 他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

- 1つのアルバムには、同じ撮影時間（約2/4/8秒のいずれか）のスナップしか追加できません。
- スナップ撮影の途中で、以下の操作を行うと、次に撮影するスナップから新規のアルバムになります。
 - ・[📷1:動画記録サイズ] の設定を変更したとき
 - ・[録音] の設定を、[オート] [マニュアル] から [しない]、または [しない] から [オート] [マニュアル] に変更したとき
 - ・ファームウェアの変更を行ったとき
- 1スナップの撮影時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

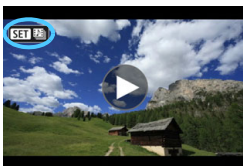
アルバムを再生する

できあがったアルバムは、通常の動画と同じ方法で再生することができます (p.419)。



1 動画を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押して画像を表示します。



2 アルバムを選ぶ

- 1枚表示のときに、画面左上に [SET 映] が表示されている画像がアルバムです。
- 〈◂〉 を回してアルバムを選びます。



3 再生する

- 〈SET〉 を押します。
- 表示された動画再生パネルの [▶] (再生) を選び、〈SET〉 を押します。



BGMについて

- カメラでアルバムや通常の動画を再生するときや、スライドショーで再生するとき、BGMと一緒に再生することができます (p.420、426)。あらかじめEOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、BGMをカードにコピーしておく必要があります。カードへのコピー方法については、EOS Utility使用説明書 (p.596) を参照してください。
- メモリーカードに取り込んだ音楽は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。十分ご注意ください。

アルバムを編集する

撮影後に、アルバム内のスナップの順序の入れ換えや、削除、再生を行うことができます。



1 【✂】を選ぶ

- 動画再生パネルの【✂】（編集）を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ 編集画面が表示されます。



2 編集内容を選ぶ

- 編集項目を選び 〈SET〉を押します。

項目	内容
⇄ スナップ移動	〈◀〉〈▶〉で移動したいスナップを選び、〈SET〉を押します。〈◀〉〈▶〉で移動し 〈SET〉を押します。
🗑️ スナップ削除	〈◀〉〈▶〉で削除したいスナップを選び、〈SET〉を押します。選択したスナップに、[🗑️]が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、選択が解除され [🗑️]が消えます。
▶ スナップ再生	〈◀〉〈▶〉で再生したいスナップを選び、〈SET〉を押します。



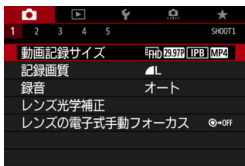
3 アルバムを保存する

- 〈MENU〉 ボタンを押して、画面下の編集パネルに戻ります。
- [] (保存) を選んで〈SET〉を押します。
→ 保存画面が表示されます。
- 別のアルバムとして保存するときは [新規保存]、編集前のアルバムを残さないときは [上書き保存] を選択して、〈SET〉を押します。

- カードの空き容量が少ないときは、[新規保存] は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、アルバムの編集はできません。フル充電した電池を使用してください。

MENU メニュー機能の設定

📷 1



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈**!**〉にすると、[📷1] タブの一部の内容が、動画撮影に関係する内容に変わります。

● 動画記録サイズ

動画記録画質（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）を設定することができます。詳しくは、341～342ページを参照してください。

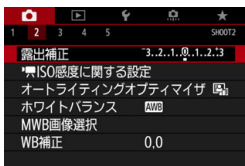
● 録音

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは、346ページを参照してください。



[📷1] タブの [記録画質] は162ページ、[レンズ光学補正] は200ページ、[レンズの電子式手動フォーカス] は155ページを参照してください。

📷 2



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈**!**〉にすると、ISO感度の設定を行う項目が、[📷2: **!** ISO感度に関する設定] に変わります（かんたん撮影ゾーンの場合は、[**!** ISO感度に関する設定] は表示されません）。



[📷2] タブの [露出補正] は245ページ、[オートライティングオフティマイザ] は194ページ、[ホワイトバランス] は185ページ、[MWB画像選択] は188ページ、[WB補正] は191ページを参照してください。

● ISO感度に関する設定

● ISO感度

〈M〉モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。〈ISO〉ボタンでも同じ設定を行うことができます。

● ISO感度の範囲

動画撮影時のISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～25600に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO51200相当）、上限値はISO200～H2（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。



● ISOオート

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード、または〈M〉モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。初期状態では[上限25600]に設定されています。[上限6400]～[上限H2(102400)]の範囲で上限を設定することができます。

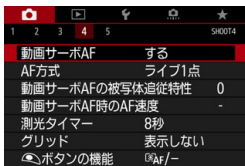
● ISOオート




〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード、または〈M〉モード+ISOオートの設定でタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。初期状態では[上限12800]に設定されています。[上限400]～[上限25600]の範囲で上限を設定することができます。



- 動画撮影時のISO32000/40000は拡張感度です。設定時に[H]と表示されます。
- 静止画撮影（ファインダー撮影／ライブビュー撮影）時の[2: ISO感度に関する設定]については、170～174ページを参照してください。

4









ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にすると、[4] タブが、動画撮影特有の項目として表示されます（かんたん撮影ゾーンのときは [2] タブ）。

● 動画サーボAF

動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。初期状態では [する] に設定されています。

[する] 設定時


- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、以下の方法で動画サーボAFを一時的に停止することができます。
 - ・画面左下の [] にタッチする
 - ・ [.C.Fn III-4:操作ボタンカスタマイズ] で [動画サーボAF一時停止] (p.500) を 〈〉 に割り当てたときは、〈〉 を押すと動画サーボAFが停止します。もう一度 〈〉 を押すと動画サーボAFが再開します。
 - ・ [AF停止] (p.500) を割り当てたときは、そのボタンを押している間、動画サーボAFが停止します。ボタンを離すと動画サーボAFが再開します。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや 〈〉 ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

[しない] 設定時

- シャッターボタンを半押しするか、〈AF-ON〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。



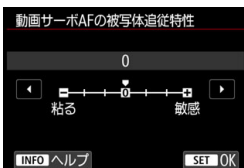
[動画サーボAF:する] 設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
 - ・ 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
 - ・ 近距離で動いている被写体
 - ・ 絞り数値が大きいとき
 - ・ 316ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。
- 常にレンズが作動して電池を消耗するため、動画撮影できる時間 (p.344) が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホン DM-E1 (別売) を使用することで、作動音の記録を低減できることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと (パンニング)、映像が一瞬伸縮 (像倍率変化) して記録されることがあります。
- 動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にするときは、ライブビュー撮影/動画撮影スイッチを〈〉にしてから操作してください。

● AF方式

[+追尾優先] [スムーズゾーン] [ライブ1点] が選択できます。AF方式については、308~314ページを参照してください。

● 動画サーボAFの被写体追従特性 応用



動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、AFフレームが被写体から外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は [📷4:動画サーボAF] が [す
る]、[📷4:AF方式] が [ライブ1点] のとき
に設定することができます。

粘る：-3/-2/-1

AFフレームが被写体から外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

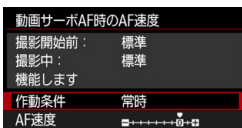
敏感：+1/+2/+3

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。



[📷4:AF方式] が [じ+追尾優先] [スムーズゾーン] のときは、[0] に設定したときと同じ動作になります。

● 動画サーボAF時のAF速度 応用



動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。

この機能は [CAMERA 4: 動画サーボAF] が [す]、[CAMERA 4: AF方式] が [ライブ1点] のときに設定することができます。

また、この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

作動条件：


設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（[常時]）、動画撮影中のみ有効にするか（[撮影中]）を設定することができます。

AF速度：

作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1～-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

*「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

- [CAMERA 4: AF方式] が [追尾優先] [スムーズゾーン] のときは、[AF速度] を [標準 (0)] に設定したときと同じ動作になります。
- [CAMERA 4: 動画サーボAF時のAF速度] の設定内容が、初期状態から変更されているときは、[CAMERA 4: 動画サーボAF時のAF速度] の右端に「*」が表示されます。

● 測光タイマー **応用**

露出値の表示時間(AEロック時の保持時間)を変えることができます。

● グリッド

[9分割井] または [24分割井井] でグリッド(格子線)を表示して、水平、垂直の傾きを撮影開始前に確認することができます。また、[9分割+対角井] では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図にすることができます。

なお、動画撮影中は液晶モニターにグリッドは表示されません。

● ボタンの機能



動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。


項目	半押し	全押し
[AF]/-	測光・AF	無効
[CAM]/-	測光のみ	無効
[AF]/	測光・AF	動画撮影の開始/終了
[CAM]/	測光のみ	動画撮影の開始/終了

なお、[AF/Start/Stop] [CAM/Start/Stop] に設定すると、<START/STOP> ボタンだけでなく、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-80N3 (別売/p.276) や、タイマーリモートコントローラー TC-80N3 (別売/p.276)、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売/p.273) で、動画撮影を開始/終了することができます。

- [CAM: ボタンの機能] を [AF/-] [CAM/-] に設定しても、タイムラプス動画撮影時にシャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が開始/終了します。
- [点C.Fn III-4: 操作ボタンカスタマイズ] でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は [CAM: ボタンの機能] の設定が優先されます。

📷5



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にすると、[📷5] タブが、動画撮影特有の項目として表示されます（かんたん撮影ゾーンのときは [📷3] タブ）。

● ビデオスナップ

ビデオスナップを撮影することができます。詳しくは、361ページを参照してください。

● タイムラプス動画

タイムラプス動画を撮影することができます。詳しくは、349ページを参照してください。

● 動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの電子式手ブレ補正機能で軽減することができます。この機能を「動画電子IS」といいます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズでも、動画電子IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。レンズに光学式手ブレ補正機能が内蔵されているときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、動画電子ISが機能します。

しない (OFF) : 動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。

する (ON) : 手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。

強 (ON) : [する] 設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- レンズの焦点距離が800mmを超えるとときは、動画電子ISは機能しません。
- HDR動画撮影時（SCNモード設定時）、タイムラプス動画撮影時は、動画電子ISは設定できません。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は[しない]に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、他社製レンズ使用時は、[しない]に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISの効果は、拡大表示を行ったときの映像には反映されません。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- 動画電子ISを設定すると、AFフレームの大きさも変わります。
- 一部のレンズは、動画電子IS機能に対応していません。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください。

● リモコン撮影

[する]に設定すると、リモートコントローラー RC-6 (別売/p.271)、またはワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売/p.273) を使用して、動画撮影の開始/停止を行うことができます。

・ リモートコントローラー RC-6使用時

切り換えスイッチを〈2〉の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉(すぐに撮影)の位置のときは、[📷4: 👁️ボタンの機能]の設定で動作します。

・ ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

通常の動画撮影を行うときは、撮影タイミング/動画撮影切り換えスイッチを〈📷〉の位置にして、リリースボタンを押します。

タイムラプス動画撮影を行うときは、360ページを参照してください。

🔊 動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い「🔥」表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い「🔥」が表示されます。
- 赤い「🔥」は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行くと、赤い「🔥」が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

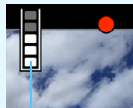
記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(MP4/MOV形式に対応していても)再生できないことがあります。

🔊 動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。



インジケータ

- 書き込み速度が速いカードは、インジケータが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケータがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されることがあります。
 - カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケータが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

再生とテレビ接続について

- カメラとテレビを接続（p.427）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

🔊 MP4形式の動画の制約について

MP4形式の動画には、一般的に以下の制約事項があります。ご了承ください。

- 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
- Windowsで動画を再生すると、映像と音声若干ズレることがあります。

10

画像の再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。

▶ 画像を再生する

1枚表示



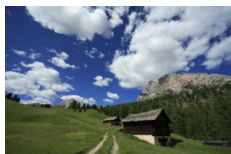
1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。
- ➔ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◂〉 を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉 ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



情報表示なし



簡易情報表示



撮影情報表示

3 再生を終了する

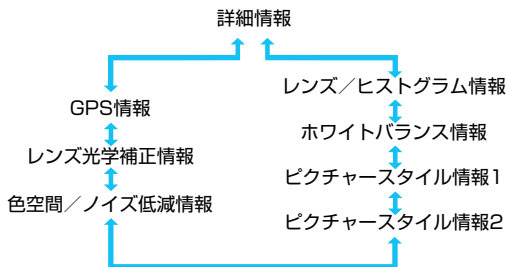
- ◀▶ ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。



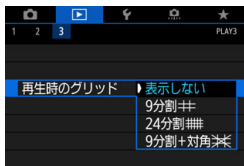
- [▶4:アスペクト比] を [3:2] 以外に設定して (p.168) 撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- [▶2:画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面 (p.388) が表示されている状態で ◀▲▶ ◀▼▶ を押すと、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。詳しくは、392～395ページを参照してください。



MENU グリッド表示について



1枚表示のときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。

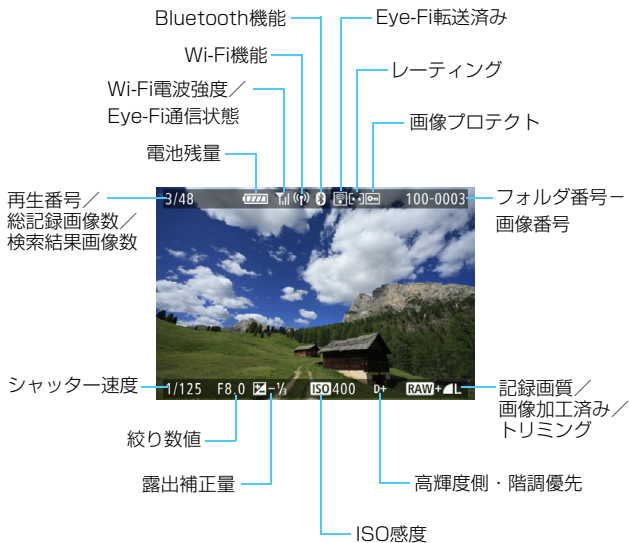
[▶3:再生時のグリッド]で[9分割 井][24分割 井井][9分割+対角 井井]から選ぶことができます。

撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

INFO: 撮影情報の内容

静止画の例

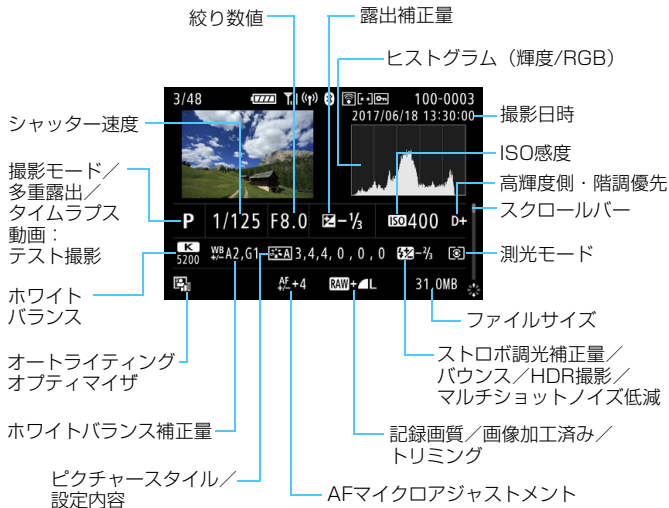
● 簡易情報表示



- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

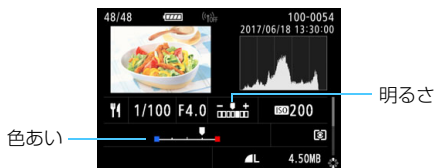
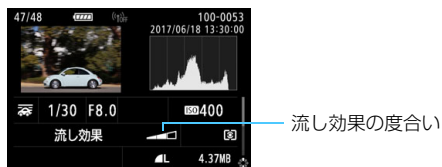
● 撮影情報表示

- 詳細情報：応用撮影ゾーンで撮影した画像



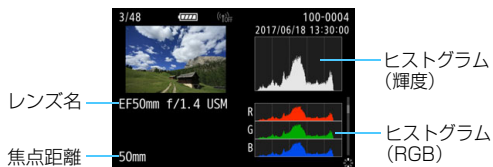
- * RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
- * RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は (p.168)、撮影範囲が線で表示されます。
- * 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、<⚡>が表示されます。
- * バウンス撮影を行った画像は、<⚡>が表示されます。
- * HDR撮影を行った画像は、仕上がり効果のマーク (p.254) とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
- * 多重露出撮影を行った画像は、<Ⓚ>が表示されます。
- * マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、<Ⓜ>が表示されます。
- * タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、<Ⓜ>が表示されます。
- * RAW現像、リサイズ処理、トリミングを行って保存した画像は、<Ⓜ>が表示されます。
- * トリミングを行って保存した画像は、<Ⓜ>が表示されます。

- 詳細情報：かんたん撮影ゾーンで撮影した画像



* [明るさ] の項目は、明るさの調整を行って撮影した画像のときに表示されます。

• レンズ/ヒストグラム情報



• ホワイトバランス情報



• ピクチャースタイル情報1



• ピクチャースタイル情報2



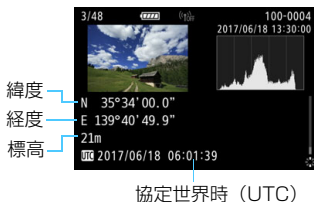
- 色空間／ノイズ低減情報



- レンズ光学補正情報



- GPS情報



- 画像にGPS情報が記録されていないときは、GPS情報の画面は表示されません。
- 他のカメラで撮影した（GPS情報が記録された）画像を、このカメラで再生しても、GPS情報の画面は表示されません。

動画の例



- ・〈 / / 〉: シャッター速度、絞り数値、ISO感度は表示されません。
- ・〈 M〉 + ISOオート: ISO感度は表示されません。
- ・タイムラプス動画は 〈 / M / A〉が表示されます。なお、[5: タイムラプス動画] の [自動露出] を [毎フレーム更新] に設定して、「自動露出撮影」を行ったタイムラプス動画のときは、「シャッター速度、絞り数値、ISO感度」は表示されません。「マニュアル露出撮影」を行ったタイムラプス動画のときは、「ISO感度」は表示されません。
- ・ビデオスナップは 〈〉が表示されます。
- ・動画電子ISにより手ブレ補正が行われた動画は、〈 1〉または 〈 2〉が表示されます。

動画再生時、[ピクチャースタイル] の [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、[*,*] と表示されます。

- **ハイライト警告表示について**

〔▶3:ハイライト警告表示〕を〔する〕に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

- **AFフレーム表示について**

〔▶3:AFフレーム表示〕を〔する〕に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

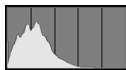
● ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、[▶3:ヒストグラム]で行います。

● [輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

● [RGB] 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

❑ インデックス表示（複数画像表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、「インデックス表示」といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。



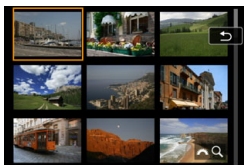
1 <Q> ボタンを押す

- 画像を再生した状態、または撮影準備状態で <Q> ボタンを押します。
- ➔ 画面右下に [🔧 Q] が表示されます。



2 インデックス表示にする

- <🔧> を左に回していきます。
- ➔ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- <🔧> をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



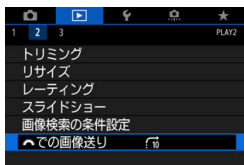
3 画像を選ぶ

- <🔍> または <🔧> を操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- <Q> ボタンを押して [🔧 Q] が表示されていない状態で <🔧> を回すと、1画面分先、または1画面分前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態でも <SET> を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

📄 [▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

🔍 ジャンプ表示（画像飛ばし表示）

1枚表示のときに〈🔍〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。



1 [🔍での画像送り] を選ぶ

- [▶2] タブの [🔍での画像送り] を選び、〈SET〉を押します。

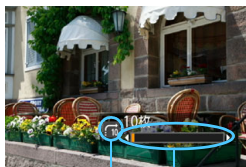


2 ジャンプ方法を選ぶ

- ジャンプ方法を選び〈SET〉を押します。

- 🔍 : 1枚ずつ画像表示
- 🔍 : 10枚ごとに画像表示
- 🔍 : 指定した枚数ごとに画像を表示
- 🔍 : 撮影日を切り換えて画像を表示
- 🔍 : フォルダを切り換えて画像を表示
- 🔍 : 動画だけを表示
- 🔍 : 静止画だけを表示
- 🔍 : プロテクト画像だけを表示
- 🔍 : 指定したレーティング (p.412) の画像を表示

- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、〈🔍〉を回して1～100枚の範囲でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、〈🔍〉を回してレーティングを指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。



ジャンプ方法

再生位置

3 画像送りをする

- <▶> ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態では <🔄> を回します。
- ➔ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。

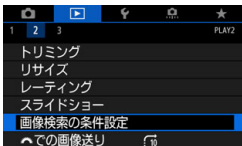


- [📅:撮影日] は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- [📁:フォルダ] は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- [🎞️:動画] [🖼️:静止画] は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
- [🛡️:プロテクト] [🌟:レーティング] 設定時に対象となる画像がないときは、<🔄> を回しても画像送りは行われません。
- [▶️2:画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像に対する画像送りになります。

再生する画像を絞り込む

画像を条件で絞り込んで再生することができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。

なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去、印刷指定、フォトブック指定を行うこともできます。そのため、この機能を活用すると、目的の画像だけを、まとめて素早く処理することができます。



1 【画像検索の条件設定】を選ぶ

- [▶2] タブの【画像検索の条件設定】を選び、<SET>を押します。

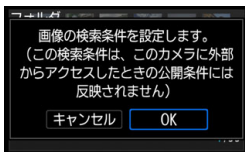


チェックマーク

2 検索条件を設定する

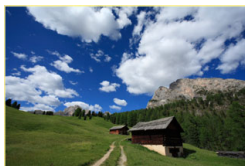
- <▲> <▼> を押して項目を選びます。
- <◀> <▶> を押して内容を設定します。
→ 項目の左端に [✓] が付きます (検索条件として指定されます)。
- 項目を選び <INFO> ボタンを押すと、[✓] が消えます (指定が解除されます)。

項目	内容
★レーティング	選択した (レーティング) 条件の画像を表示します。
☉日付	選択した撮影日の画像を表示します。
■フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒プロテクト	選択した (プロテクト) 条件の画像を表示します。
📁ファイルの種類	選択した種類の画像ファイルを表示します。 設定できるファイルの種類は以下のとおりです。 [📷静止画] [📷(RAW)] [📷(RAW,RAW+JPEG)] [📷(RAW+JPEG)] [📷(RAW+JPEG,JPEG)] [📷(JPEG)] [📽動画]



3 検索条件を確定する

- 表示されるメッセージを確認します。
- [OK] を選び、<Ⓔ> を押します。
- ➔ 検索条件が設定されます。



黄色い枠

4 検索した画像を表示する

- <▶> ボタンを押して画像を再生します。
- ➔ 検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
- ➔ 絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠が付きます。

検索条件の解除

手順2の画面で <Ⓔ> ボタンを押すと、すべての [✓] が消えます。<Ⓔ> ボタンを押して [OK] を選ぶと、検索条件が解除されます。

設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順2の画面で <Ⓔ> を押しても [OK] できません（手順3に進めません）。



- [Ⓔ2: オートパワーオフ] を [1分] [2分] [4分] に設定していても、[▶2: 画像検索の条件設定] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が約6分になります。
- 下記の操作を行うと、検索条件の設定が解除され、絞り込み表示が終了します（操作によっては、画面に「画像検索を終了しました」と表示されます）。
 - ・撮影を行ったとき
 - ・オートパワーオフ機能が作動したとき
 - ・電源スイッチを <OFF> にしたとき
 - ・カードを初期化したとき
 - ・電池室ふた／カードスロットカバーを開けたとき
 - ・画像が追加されたとき (RAW現像、リサイズ、トリミングなどを行ったとき)
 - ・検索条件に一致する画像がなくなったとき
 - ・カメラ設定初期化を行ったとき

Q 拡大する

撮影した画像を約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。



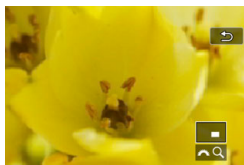
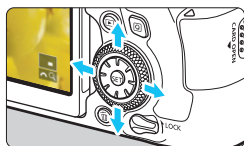
拡大表示位置

1 画像を拡大する

- ①画像再生中、②撮影直後の画像表示中、③撮影準備状態から拡大表示を行うことができます。
- 〈Q〉 ボタンを押します。
→ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置と [🔍 Q] が表示されます。
- 〈🔍〉 を右に回すたびに拡大します。約10倍まで拡大することができます。
- 〈🔍〉 を左に回すたびに縮小します。さらに回していくと、インデックス表示 (p.399) になります (①③のみ)。

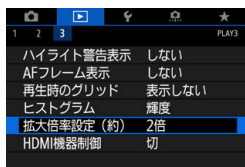
2 表示位置を移動する

- 〈🔍〉 を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈Q〉 ボタンまたは 〈▶〉 ボタンを押すと、拡大表示が終了します。



- 〈🔍〉 を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります (①③のみ)。
- 動画は拡大表示できません。

MENU 拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する



[▶3] タブの [拡大倍率設定 (約)] を選ぶと、拡大表示を開始したときの、表示倍率、拡大位置を設定することができます。



● 1倍 (拡大なし)

拡大表示は行われません。1枚表示の状態から拡大表示が始まります。

● 2倍／4倍／8倍／10倍 (中央から)


選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。

● 等倍 (任意選択合焦点から)

記録画像の画素を約100%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

● 前回と同じ倍率 (中央から)

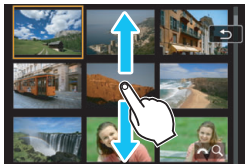
前回、<▶> <Q> ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

 [ライブ1点] (p.313) で撮影した画像や、[歪曲収差補正] を [する] に設定して (p.202) 撮影した画像は、[等倍 (任意選択合焦点から)] に設定しても画面中央から拡大表示が始まります。

画面にタッチして再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生を行うことができます。まず〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。

画像を送る



指1本でドラッグする

- 1枚表示のときは「指1本」で液晶モニターに触れます。指を左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。左に動かすと新しい画像、右に動かすと古い画像が表示されます。
- インデックス表示のときも「指1本」で液晶モニターに触れます。指を上または下に動かすと1画面ずつ画像が送られます。上に動かすと新しい画像、下に動かすと古い画像が表示されます。画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

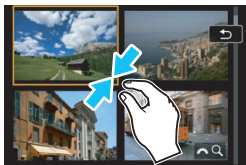
画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



指2本でドラッグする

液晶モニターに「指2本」で触れます。指を左または右に動かすと、[▶2] タブの [🔄] での画像送り] で設定されている方法で、画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。

画像を縮小表示する（インデックス表示）

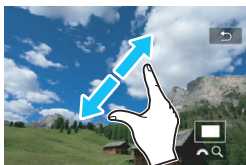


2本の指を閉じる

指2本を広げた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに縮小します。1枚表示の状態で行うと、4枚インデックス表示になります。
- 画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を拡大表示する



2本の指を開く

指2本を閉じた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに拡大します。
- 最大約10倍に拡大できます。
- 指を閉じると縮小します。
- 4枚インデックス表示の状態で行うと、1枚表示になります。

ダブルタップする

液晶モニターに指1本で素早く2回触れると（ダブルタップすると）、触れた位置を中心に拡大表示されます。もう一度ダブルタップすると、1枚表示に戻ります。

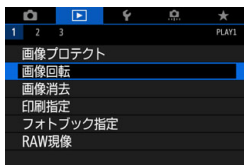
- 画像が拡大表示された状態で、液晶モニターに指1本で触れ、指を動かすと、表示位置を移動することができます。



- インデックス表示のときは、ダブルタップによる拡大表示はできません。
- カメラとテレビを接続して（p.427）、撮影した画像をテレビで再生しているときも、液晶モニターにタッチして操作することができます。

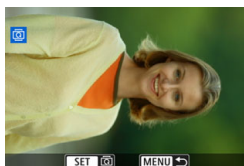
🔄 回転させる

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で画像を回転させることができます。



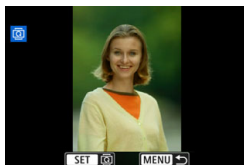
1 【画像回転】を選ぶ

- [▶1] タブの【画像回転】を選び、<SET>を押します。



2 画像を選ぶ

- <🔄> を回して回転させる画像を選びます。
- インデックス表示 (p.399) にして選ぶこともできます。



3 回転させる

- <SET> を押すたびに、時計方向に回転 (90° → 270° → 0°) します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順 2、3を繰り返します。

- [📷1: 縦位置画像回転表示] を [する📷📷] (p.435) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、[📷1: 縦位置画像回転表示] を [する📷📷] に設定します。
- 動画は回転できません。
- [[▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

保護する (プロテクト)

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクト (保護) することができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト



1 [画像プロテクト] を選ぶ

- [▶1] タブの [画像プロテクト] を選び、
<ⓈET> を押します。



2 [画像を選択] を選ぶ

- ➔ 画像が表示されます。

プロテクト表示




3 プロテクトする画像を選ぶ

- <⦿> を回してプロテクトする画像を選びます。

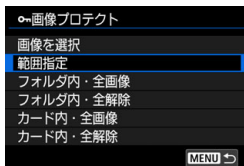
4 プロテクトする

- <ⓈET> を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に <ⓈET> が表示されます。
- もう一度 <ⓈET> を押すと、プロテクトが解除され <ⓈET> が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

 [▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

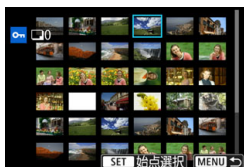
MENU 範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。



1 【範囲指定】を選ぶ

- [▶]1:画像プロテクト] の [範囲指定] を選び、<SET>を押します。



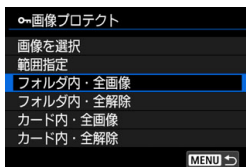
2 範囲を指定する

- 最初の画像（始点）を選び、<SET>を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、<SET>を押します。
- ➔ 指定した範囲の画像がプロテクトされ、<保護>が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

- [▶]2:画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。
- プロテクトされている画像を始点にしたときは、始点から終点までの範囲のプロテクトが解除されます（プロテクトなしの範囲指定になります）。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

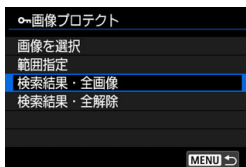
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



[▶1:画像プロテクト] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。

解除するときは [フォルダ内・全解除] または [カード内・全解除] を選びます。

[▶2:画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、表示される内容が [検索結果・全画像] [検索結果・全解除] に変わります。



[検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。

[検索結果・全解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

🔄 カードを初期化すると (p.70)、プロテクトされた画像も消去されます。



- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去 (p.433) を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

【☆☆】 レーティングを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[・]/[♪]/[♡]/[★]/[☆☆]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

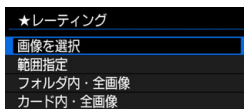
* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

MENU 画像を選択して1枚ずつレーティング



1 【レーティング】を選ぶ

- [▶]2 タブの【レーティング】を選び、<SET>を押します。



2 【画像を選択】を選ぶ

- ➔ 画像が表示されます。



3 レーティングする画像を選ぶ

- <○> を回してレーティングを行う画像を選びます。
- <Q> ボタンを押して <☀> を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。



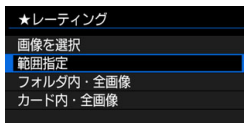
4 レーティングを設定する

- <SET> を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- <▲> <▼> を押して、お気に入りマークを選び、<SET>を押します。
- ➔ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

【▶2：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは（p.402）、絞り込まれた画像だけが表示されます。

MENU 範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

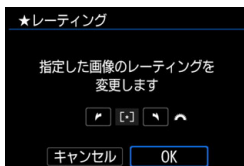
- [▶2:レーティング] の [範囲指定] を選び、〈SET〉を押します。



2 範囲を指定する

- 最初の画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈Q〉 ボタンを押す



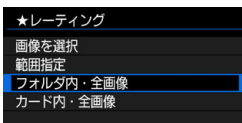
4 レーティングを設定する

- 〈☺〉を回してお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
- ➔ 指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

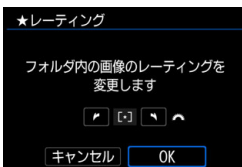
☰ [▶2:画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像レーティング

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



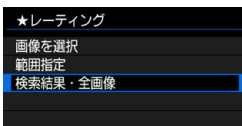
〔☒2：レーティング〕で〔フォルダ内・全画像〕または〔カード内・全画像〕を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



〈☒〉を回して、レーティングを選び、〔OK〕を選びます。

レーティングを行わないときや、解除するときは〔OFF〕を選びます。

〔☒2：画像検索の条件設定〕で検索条件が設定されているときは (p.402)、表示される内容が〔検索結果・全画像〕に変わります。



〔検索結果・全画像〕を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

☒ 412 ページの手順4の画面のときに、お気に入りマークの横に表示される数値は、3桁 (999枚) までしか表示されません。1000枚を超えると [###] と表示されます。

☒ レーティングの利用方法

- 〔☒2：画像検索の条件設定〕〔☒2：☒での画像送り〕で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- パソコンのOSによっては、ファイルの詳細表示を行ったときや、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます (JPEG画像のみ)。

Q 再生時のクイック設定

画像再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら [ON: 画像プロテクト] [Ⓜ: 画像回転] [★: レーティング] [RAW JPEG↓: RAW現像 (RAW 画像のみ)] [Ⓜ: リサイズ (JPEG画像のみ)] [✂: トリミング (JPEG画像のみ)] [📍: ハイライト警告表示] [📄: AFフレーム表示] [🔍: での画像送り] [🔍: 画像の検索] [📱: スマートフォンへ画像を送信*] の設定を行うことができます。

なお、動画のときは太字の項目のみ設定できます。

* [📶: 無線通信の設定] の [Wi-Fi設定] の [Wi-Fi] が [使わない] に設定されているときは選択できません。



1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➔ クイック設定の項目が表示されます。







2 項目を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して、項目を選びます。
- ➔ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。
- 〈🔍〉または〈📄〉を回して設定します。
- 画像プロテクト (p.409)、レーティング (p.412) は、さらに〈INFO〉ボタンを押して設定を行います。
- RAW現像 (p.438)、リサイズ (p.444)、トリミング (p.446)、画像の検索 (p.402)、スマートフォンへ画像を送信は、さらに〈SET〉を押して設定を行います。
- キャンセルするときには、〈MENU〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

- 〈Q〉 ボタンを押すとクイック設定が終了します。

 画像回転を行うときは、[▼1:縦位置画像回転表示] を [する ] に設定してください (p.435)。[▼1:縦位置画像回転表示] が [する ] [しない] に設定されているときは、[ⓐ 画像回転] で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

-  ● インデックス表示中に 〈Q〉 ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定の状態になります。再度 〈Q〉 ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.427)

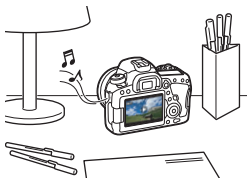


カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。



- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、4K画質で撮影したタイムラプス動画を再生しても、フルHD画質で再生されます（4K画質での再生はできません）。
- ハードディスクレコーダーは、HDMI入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.419)



カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。

また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することができます。



- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する



カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、(カメラで撮影した動画の記録形式に対応した) OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

- 市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MP4形式、MOV形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- EOS MOVIE Utility (p.595) を使用すると、4Kタイムラプス動画を再生することができます。

🗨 動画を再生する

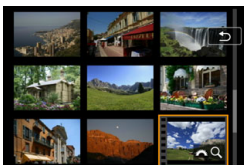


1 画像を再生する

- <▶> ボタンを押して画像を再生します。

2 動画を選ぶ

- <⦿> を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に<SET 雲>が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画のときは<SET 山>が表示されます。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、<⦿>を押して1枚表示にします。



3 1枚表示の状態に<SET>を押す

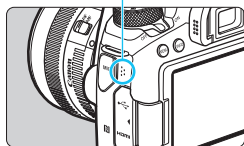
- ➔ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。



4 動画を再生する


- [▶] (再生) を選び、<⦿>を押します。
- ➔ 動画再生が始まります。
- 再生中に<⦿>を押すと、再生が一時停止します。もう一度押すと再開します。
- <⦿>を回すと、再生中でも音量を調整することができます。
- 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

スピーカー



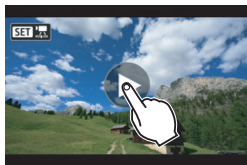
[▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、手順2で絞り込まれた画像だけが表示されます。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生*	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈☉〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏪ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
⏪ フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
⏩ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
▶▶ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
🎵 BGM選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます (p.426)。
✂ 編集	編集画面を表示します (p.422)。
	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分、ss" : 秒)
🔊 音量	〈🔊〉を回すと、内蔵スピーカー (p.419) の音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

* 4Kタイムラプス動画再生時は、項目名が「フレーム間引き再生」になります。

タッチパネルで再生する



画面中央の【▶】にタッチする

- ➔ 動画再生が始まります。
- 画面左上の〈SET ▶▶〉または〈SET ▶▶〉をタッチすると、動画再生パネルが表示されます。
- 動画再生中に画面にタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

- 4Kタイムラプス動画をカメラで再生したときは、フルHD動画をカメラで再生したときと同等の解像度で表示されます。
- 4Kタイムラプス動画をカメラで再生したときや、[スロー再生]を選び再生速度を一番早く(◀○▶)を回して右端に設定したときは、1フレームずつ間引かれた状態で再生されます。
- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは (p.427)、テレビ側で音量の調整を行ってください(◀🔊▶)を回しても音量は変わりません)。
- 動画再生中にレンズの取り付け/取り外しを行ったときや、カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了します。
- [BGM選択]でBGMを設定すると、動画再生時に動画に録音されている音声は再生されません。

- 4Kタイムラプス動画のときは、動画再生パネルで【▶】を選んだときに、[フレーム間引き再生]と表示されます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで連続再生できる時間は、常温(+23℃)：約4時間40分です(🔊/🔊設定時)。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。



1 動画再生画面で【✂】を選ぶ

- ➔ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。



2 削除する範囲を指定する

- 【✂】（前部を削除）か、【✂】（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。〈⌚〉を回すと、1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面上部に白く表示された範囲が残ります。



3 編集内容を確認する

- 【▶】を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押し、確認画面で【OK】を選びます。



4 保存する

- [] を選んで <SET> を押します。
- ➔ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは [新規保存]、編集前の動画を残さないときは [上書き保存] を選んで、<SET> を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。



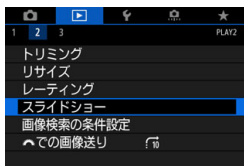
- 約1秒単位（画面上部に [✂] が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、[新規保存] は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。

MENU 自動再生する (スライドショー)

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶2] タブの [画像検索の条件設定] で絞り込みます (p.402)。



2 [スライドショー] を選ぶ

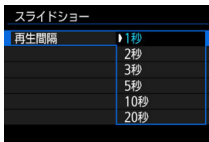
- [▶2] タブの [スライドショー] を選び、〈SET〉を押します。



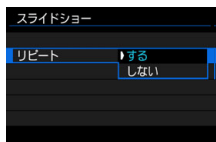
3 再生内容を設定する

- [設定] を選び 〈SET〉 を押します。
- 静止画の [再生間隔] と [リピート] (繰り返し再生)、[切り換え効果] (画像を切り換える際の演出効果)、[BGM選択] を設定します。
- [BGM選択] については、426 ページを参照してください。
- 設定が終わったら、〈MENU〉 ボタンを押します。

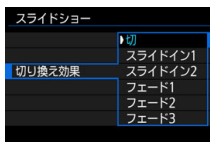
再生間隔



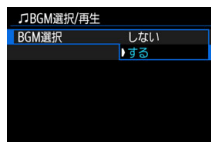
リピート



切り換え効果



BGM選択



4 スライドショーを開始する

- [スタート] を選び <SET> を押します。
- ➔ [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

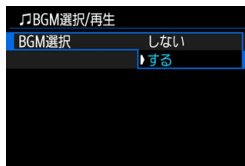
- <MENU> ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。



- [▶2: 画像検索の条件設定] で、再生する画像の絞り込みが行われて (検索条件が設定されて) いるときは、条件に該当する画像がスライドショーで再生されます。
- 一時停止したいときは <SET> を押します。一時停止中は画面の左上に [||] が表示されます。再度 <SET> を押すと再開します。画面にタッチして、一時停止することもできます。
- 静止画を自動再生しているときに <INFO> ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます (p.388)。
- 動画再生中に <設定> を回すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に <停止> を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なる場合があります。
- テレビでスライドショーを見るときは、427ページを参照してください。

BGMを選択する

EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) を使用して、BGM用の音楽をカードに保存 (コピー) すると、BGMを流しながらスライドショーを行うことができます。



1 [BGM選択] を選ぶ

- [BGM選択] で [する] を選び、 $\langle \text{SET} \rangle$ を押します。
- カードに BGM が入っていないときは、手順2の操作はできません。



2 音楽を選ぶ

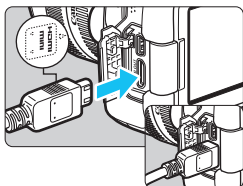
- $\langle \blacktriangle \rangle$ $\langle \blacktriangledown \rangle$ を押して、音楽を選びます。
- $\langle \text{INFO} \rangle$ ボタンを押すと、音楽を試聴 (再生) することができます。再生中に $\langle \blacktriangle \rangle$ $\langle \blacktriangledown \rangle$ を押すと、音楽を切り換えることができます。もう一度 $\langle \text{INFO} \rangle$ ボタンを押すと、音楽の再生が停止します。
- $\langle \text{VOL} \rangle$ を回すと、音量を調整することができます。
- 音楽を選び $\langle \text{SET} \rangle$ を押すと、[✓] が付きます。複数の音楽を選ぶこともできます。
- スライドショーの際に、[✓] を付けた音楽がBGMとして再生されます。

- 購入時にカメラにBGMは入っていません。BGMをカードに保存 (コピー) する方法については、EOS Utility使用説明書 (p.596) を参照してください。
- (カードに保存されている) 音楽を削除するときは、手順2で $\langle \text{DELETE} \rangle$ ボタンを押します。

テレビで見る

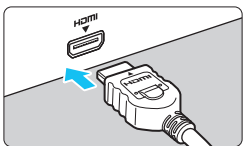
カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、**[▼3:ビデオ方式]** の **[NTSC]** / **[PAL]** の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈▲HDMI MINI〉がカメラの前面に向くようにして、〈HDMI OUT〉端子に差し込みます。

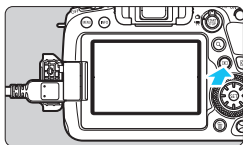


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

- ➔ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます。
- 動画の再生方法は、419ページを参照してください。

- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、4K画質で撮影したタイムラプス動画を再生しても、フルHD画質で再生されます（4K画質での再生はできません）。
- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈HDMI OUT〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。



- 1 **【HDMI機器制御】を選ぶ**
 - [▶3] タブの [HDMI 機器制御] を選び、〈SET〉を押します。
- 2 **【入】を選ぶ**
- 3 **テレビとカメラを接続する**
 - HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。
 - ➔ テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に自動的に切り換わります。切り換わらないときは、テレビのリモコンなどを操作して、接続したHDMIの入力端子を選びます。

4 カメラの〈▶〉ボタンを押す

- テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで再生操作ができるようになります。

5 画像を選ぶ

- リモコンをテレビに向けて、リモコンの ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

6 リモコンの決定ボタンを押す

- メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。
- リモコンの ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。
- [戻る] を選択し決定ボタンを押すと、メニューが消え、リモコンの ←/→ ボタンで画像が選べるようになります。

静止画再生メニュー



動画再生メニュー




- ↶ : 戻る
- ☰ : 9枚インデックス表示
- ▶ : 動画再生
- 🔄 : スライドショー
- INFO : 撮影情報の切り換え
- 🔄 : 画像回転



- テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくは、テレビの使用説明書を参照してください。
- HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、[▶3: HDMI機器制御] を [切] にして、カメラ側で再生操作を行ってください。
- [スライドショー] 選択時に再生する画像は、[▶2: 画像検索の条件設定] で設定することができます。

消去する

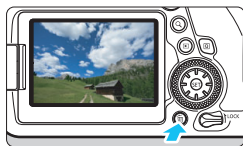
不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト (p.409) をかけた画像は消去されません。

 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。なお、RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去する画像を選ぶ

- <▶> ボタンを押して画像を再生します。
- <⊙> を回して消去する画像を選びます。




2 <🗑> ボタンを押す

→ 消去メニューが表示されます。



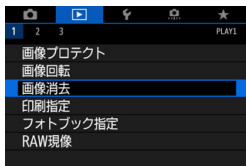
3 消去する

- [消去] を選び <SET> を押すと、表示されている画像が消去されます。

 [▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

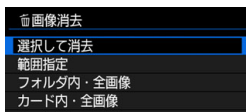
MENU チェック [✓] を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



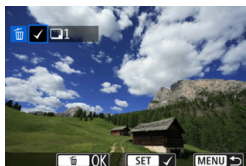
1 [画像消去] を選ぶ

- [▶1] タブの [画像消去] を選び、<SET> を押します。



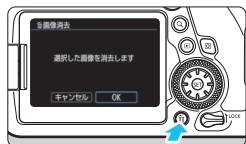
2 [選択して消去] を選ぶ

- ➔ 画像が表示されます。



3 消去する画像を選ぶ

- <Q> を回して消去する画像を選び、<SET> を押します。
- ➔ 画面の左上に [✓] が表示されます。
- <Q> ボタンを押して <🌅> を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



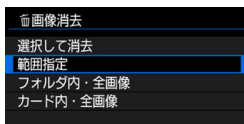
4 消去する

- <🗑> ボタンを押して [OK] を選びます。
- ➔ 選択した画像がまとめて消去されます。

🔊 [▶2: 画像検索の条件設定] の [プロテクト] が [あり] に設定されているときは、[▶1: 画像消去] は選べません。

MENU 範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。



1 【範囲指定】を選ぶ

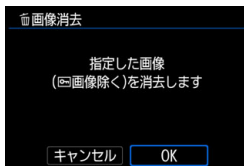
- [▶]1: 画像消去 の [範囲指定] を選び、
〈SET〉を押します。



2 範囲を指定する

- 最初の画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、
〈SET〉を押します。
- ➔ 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈🗑〉ボタンを押す



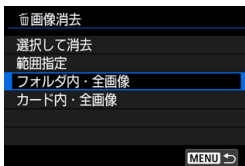
4 消去する

- [OK] を選びます。
- ➔ 指定した範囲の画像が消去されます。

🗑 [▶]2: 画像検索の条件設定 で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

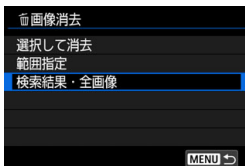
MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。




[▶1:画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

[▶2:画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。

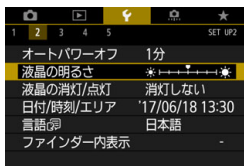


[検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容で消去されます。

 プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います (p.70)。

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。



1 [液晶の明るさ] を選ぶ

- [F2] タブの [液晶の明るさ] を選び、<SET> を押します。

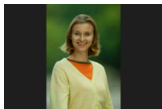


2 明るさを調整する

- グレーチャートを参考にして、<◀><▶> を押して明るさを調整し、<SET> を押します。

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (p.398) で確認することをおすすめします。
- 画像再生時に最後に再生した画像が、手順2の画面に表示されます。

MENU 縦位置撮影画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像をカメラで再生したときや、パソコンで表示したときに、被写体が横向きで表示されないように、画像が自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。



1 [縦位置画像回転表示] を選ぶ

- [F1] タブの [縦位置画像回転表示] を選び、〈SET〉を押します。

2 表示方法を設定する

- 内容を選び 〈SET〉を押します。

● する

カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

● する

パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

● しない

自動回転させたくないとき



[しない] で撮影した画像は、[する] に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。



- 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示は行われません。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われません。
- パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

11

撮影した画像を加工する

この章では、RAW画像の現像、JPEG画像のリサイズ、JPEG画像のトリミングについて説明しています。

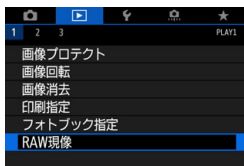
- ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉モード）限定の機能であることを示しています。

- 他カメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブル（別売）で接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

RAW↓ JPEG↓ RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、**M RAW**、**S RAW**で撮影した画像はカメラで現像処理できません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (p.594)で現像処理を行ってください。



1 [RAW現像] を選ぶ

- [▶] 1) タブの [RAW現像] を選び、<SET> を押します。

→ **RAW**で撮影された画像が表示されます。



2 現像する画像を選ぶ

- <○> を回して現像処理を行う画像を選びます。
- <Q> ボタンを押して <☀> を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 現像条件を設定する

- <SET> を押してしばらくすると、現像処理の項目 (p.441) が表示されます。
 - <☀> で項目を選び、<☀> または <○> を回すと、設定が切り換わります。
- 「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その設定が反映された画像が表示されます。
- <INFO> ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。



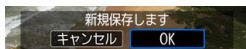
設定画面について

- $\langle \text{SET} \rangle$ を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。 $\langle \text{MENU} \rangle$ または $\langle \text{INFO} \rangle$ を回して設定を変更します。 $\langle \text{SET} \rangle$ を押すと設定され、元の画面に戻ります。



4 保存する

- [保存] (Save) を選び $\langle \text{SET} \rangle$ を押します。
- [OK] を選ぶと、現像処理によって生成されたJPEG画像がカードに保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2~4を繰り返します。




拡大表示について

手順3で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、[▶1:RAW現像]の画面で設定した[記録画質]の設定により異なります。〈⌂〉で拡大表示位置を変えることができます。

もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

[📷4:アスペクト比] (p.168) を [3:2] 以外に設定して撮影した RAW 画像のときは、撮影範囲を示す線が表示されます。RAW 現像を行って生成した JPEG 画像は、設定したアスペクト比で保存されます。

 RAW 画質で撮影した多重露出画像を現像するときは、一部の項目の設定変更はできません。

現像処理の項目について

● 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● ホワイトバランス (p.185)

ホワイトバランスを選ぶことができます。[AWB] を選んだときは、〈INFO〉ボタンを押すと、[オート (雰囲気優先)] [オート (ホワイト優先)] を選ぶことができます。[K] を選んだときは、〈INFO〉ボタンを押すと、色温度を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● ピクチャースタイル (p.176)

ピクチャースタイルを選ぶことができます。〈INFO〉ボタンを押すと、シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● オートライティングオプティマイザ (p.194)

オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● 高感度撮影時のノイズ低減 (p.195)

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (p.440) で確認してください。

● 記録画質 (p.162)

JPEG画像を生成する際の記録画質を設定することができます。

● sRGB 色空間 (p.208)

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● レンズ光学補正

● 周辺光量補正 (p.200)

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (p.440) で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (p.594) で最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。


● 歪曲収差補正 (p.202)

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。[する]を選ぶと、補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。

解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● 色収差補正 (p.201)

レンズの特性によって起こる色収差(被写体の輪郭部分に現れる色ズレ)を補正することができます。[する]を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (p.440) で確認してください。

●  **回折補正** (p.203)

レンズの絞りの影響によって画像の先鋭さが低下する現象を補正することができます。[する] を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (p.440) で確認してください。



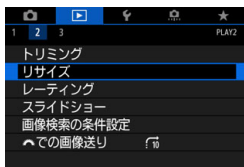
- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- [明るさ補正] を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- [歪曲収差補正] を [する] に設定して現像を行ったときは、AFフレーム表示用の情報 (p.397)、ダストデリートデータ (p.452) は画像に付加されません。
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。



レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録 (保存) されています。

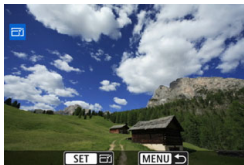
📄 JPEG画像をリサイズする

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGのL/M/S1で撮影した画像で行うことができます。JPEGのS2とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。



1 [リサイズ] を選ぶ

- [▶2] タブの [リサイズ] を選び、<SET> を押します。
- ➔ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- <Q> を回してリサイズする画像を選びます。
- <Q> ボタンを押して <Q> を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。



リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- <SET> を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズを選び、<SET> を押します。



4 保存する

- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2~4を繰り返します。

撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M	S1	S2
L	○	○	○
M		○	○
S1			○

画像サイズについて

リサイズした画像の画像サイズは下表のとおりです。

(約・画素)

記録画質	フルサイズ (3:2)	4:3 (アスペクト)
M	4160×2768* (約1150万)	3680×2768* (約1020万)
S1	3120×2080 (約650万)	2768×2080* (約580万)
S2	2400×1600 (約380万)	2112×1600* (約340万)

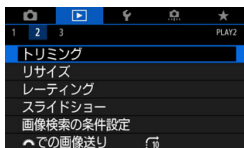
記録画質	16:9 (アスペクト)	1:1 (アスペクト)
M	4160×2336* (約970万)	2768×2768 (約770万)
S1	3120×1752* (約550万)	2080×2080 (約430万)
S2	2400×1344* (約320万)	1600×1600 (約260万)



- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- リサイズ条件により、画像がわずかにトリミングされることがあります。

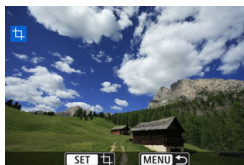
📷 JPEG画像をトリミングする

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGのL/M/S1/S2で撮影した画像で行うことができます。RAWで撮影した画像は、トリミングできません。



1 「トリミング」を選ぶ

- [▶2] タブの「トリミング」を選び、<SET>を押します。
- ➔ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- <○> を回してトリミングする画像を選びます。
- <Q> ボタンを押して <🔍> を左に回していくと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 トリミング枠の設定を行う

- <SET> を押すと、トリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

● 枠の大きさを変える

<🔍> を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

● 枠のアスペクト比と縦横を変える

<○> を回すと、枠のアスペクト比が変わります。[3:2] [16:9] [4:3] [1:1] から選ぶことができます。

さらに <○> を回すと、枠の縦横が切り換わります。[2:3] [9:16] [3:4] を選ぶと、横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにトリミングすることができます。

● 枠を移動する

〈☒〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● 傾きを補正する

±10° の範囲で傾きを補正することができます。〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈☉〉を回す(0.1° 単位)、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして(0.5° 単位)、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉ボタンを押します。



4 トリミング範囲を確認する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➔ 切り抜かれる範囲が表示されます。
- もう一度 〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。



5 保存する

- 〈SET〉を押して [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。



- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報 (p.397)、ダストデリートデータ (p.452) は付加されません。

12

撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (p.594) で、自動的に消去することができます。

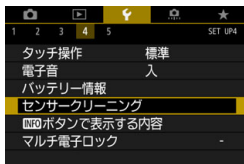
撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

撮像素子の自動清掃

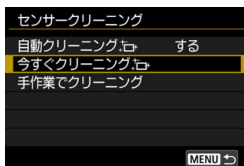
このカメラは、電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する




1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [4] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。



2 [今すぐクリーニング] を選ぶ

- [今すぐクリーニング ] を選び 〈SET〉を押します。
- [OK] を選びます。

- ➔ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません。
- ➔ クリーニングが終わると、自動的にカメラが再起動（電源OFF→ON）します。



- 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
- 繰り返し清掃を行っても効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、[今すぐクリーニング] が一時的に選べなくなります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点」が生じることがあります。[今すぐクリーニング] を行うと、輝点の発生が改善することがあります（p.565）。

自動清掃を行わないようにする

- 手順2で [自動クリーニング] を選び、[しない] を選びます。
- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと〈OFF〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

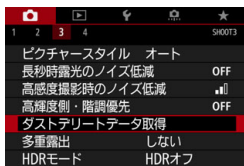
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する^{応用}

通常はセルフクリーニングセンサーユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができますが、除去できなかったゴミがある場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (p.594) で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

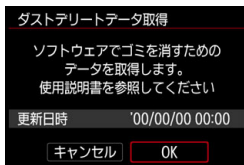
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する



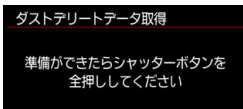
1 [ダストデリートデータ取得] を選ぶ

- [CAMERA] タブの [ダストデリートデータ取得] を選び、〈SET〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

- ➔ 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。





3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、(模様などが無い) 真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➔ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入ってなくてもデータを取得することができます。
- ➔ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK] を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストテリートデータ取得

データの取得が完了しました


OK

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (p.594) による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書 (p.596) を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

 未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

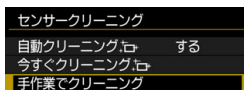
撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブローアなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口にお申し付けください。

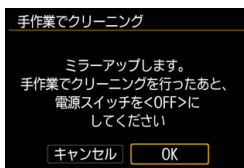


1 [センサークリーニング] を選ぶ

- [4] タブの [センサークリーニング] を選び、<SET> を押します。



2 [手作業でクリーニング] を選ぶ




3 [OK] を選ぶ


- ➔ 一瞬の間を置いたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。
- 表示パネルに「CLn」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

- 電源スイッチを <OFF> にします。

 手作業で撮像素子の清掃を行うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。

 家庭用電源アクセサリ（別売／p.520）の使用をおすすめします。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、ミラーが下がるため、撮像素子やシャッター幕、ミラーが損傷する恐れがあります。**
 - 電源スイッチを〈OFF〉にする
 - 電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご連絡ください。

13

印刷指定／ フォトブック指定

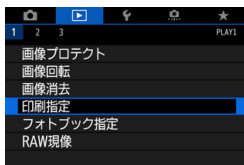
- **画像を印刷指定する／DPOF** (p.458)
カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができます。
- **フォトブックにする画像を指定する** (p.464)
カードに記録されている画像の中から、フォトブックにする画像を指定することができます。

画像を印刷指定する / DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF (Digital Print Order Format) 機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

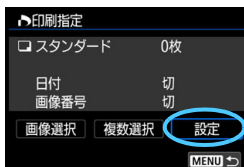
印刷タイプや日付、画像番号の入/切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます(1画像ごとに別々の設定はできません)。

MENU 印刷内容を設定する



1 [印刷指定] を選ぶ

- [▶1] タブの [印刷指定] を選び、<SET> を押します。

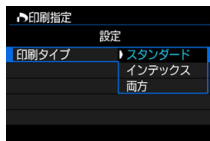


2 [設定] を選ぶ

3 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。
- 項目を選び <SET> を押します。内容を選び <SET> を押します。

印刷タイプ







日付



画像番号




印刷タイプ	 スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
	 インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
	  両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切	
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切	

4 設定を終了する

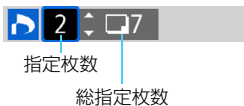
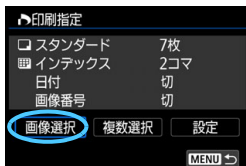
- <MENU> ボタンを押します。
- ➔ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の [画像選択] [複数選択] で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- 画像サイズが大きい画像を [インデックス] [両方] の設定で印刷すると (p.458)、プリンターにより、インデックス印刷が行われなかったことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから (p.444) インデックス印刷を行ってください。
- [日付] [画像番号] を [入] にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] を同時に [入] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。


 PictBridge (Wireless LAN) に対応したプリンターに、カメラからWi-Fiで画像を送信して、印刷 (ダイレクトプリント) することができます。詳しくは「Wi-Fi (無線通信) 機能使用説明書」(p.4) を参照してください。

MENU 印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。


〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方

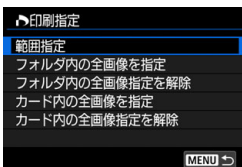
〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈▲〉〈▼〉を押すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

● インデックス

〈SET〉を押して [✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

 [▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

● 複数選択



● 範囲指定

〔複数選択〕の〔範囲指定〕を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に〔✓〕が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

〔✓〕が表示されている画像を始点にしたときは、始点から終点までの範囲の〔✓〕が解除されます（〔✓〕なしの範囲指定になります）。

● フォルダ内の全画像

〔フォルダ内の全画像を指定〕を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

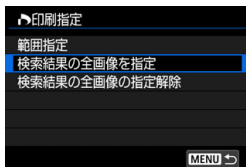
〔フォルダ内の全画像指定を解除〕を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

〔カード内の全画像を指定〕を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

〔カード内の全画像指定を解除〕を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

【▶2：画像検索の条件設定】で検索条件が設定されているときは (p.402)、**【複数選択】** を選んだときに、表示される内容が **【検索結果の全画像を指定】** **【検索結果の全画像の指定解除】** に変わります。



● 検索結果の全画像

【検索結果の全画像を指定】 を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

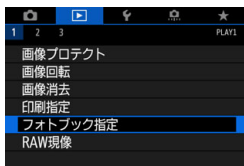
【検索結果の全画像の指定解除】 を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

- RAW 画像と動画は印刷指定できません。また、**【複数選択】** でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

☑ フォトブックにする画像を指定する

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

MENU 画像を選択して1枚ずつ指定

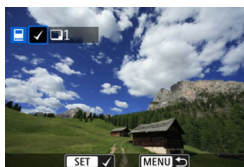


1 [フォトブック指定] を選ぶ

- [▶1] タブの [フォトブック指定] を選び、
〈SET〉を押します。



2 [画像を選択] を選ぶ

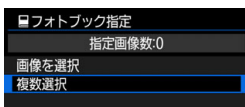


3 指定する画像を選ぶ

- 〈○〉を回して指定する画像を選び、
〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈🌀〉を左に回していくと、3画像表示になります。右に回すと1枚表示に戻ります。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

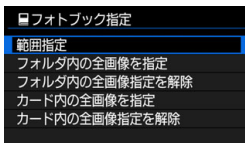
MENU 範囲を指定してフォトブック指定

インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。

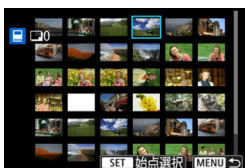


1 【複数選択】を選ぶ

- [▶1：フォトブック指定] の [複数選択] を選び、〈SET〉を押します。



2 【範囲指定】を選ぶ



3 範囲を指定する

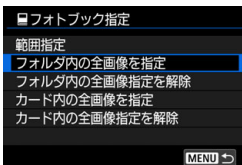
- 最初の画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。
- ➔ 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



- [▶2：画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは（p.402）、絞り込まれた画像だけが表示されます。
- [✓] が表示されている画像を始点にしたときは、始点から終点までの範囲の [✓] が解除されます（[✓] なしの範囲指定になります）。

MENU フォルダ内／カード内全画像指定

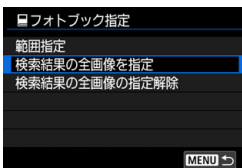
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



[▶1: フォトブック指定] の [複数選択] で [フォルダ内の全画像を指定] または [カード内の全画像を指定] を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。

解除するときは [フォルダ内の全画像指定を解除] または [カード内の全画像指定を解除] を選びます。

[▶2: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (p.402)、[複数選択] を選んだときに、表示される内容が [検索結果の全画像を指定] [検索結果の全画像の指定解除] に変わります。



[検索結果の全画像を指定] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。

[検索結果の全画像の指定解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、[複数選択] でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW 画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。

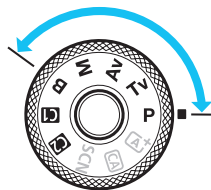
14

カメラをカスタマイズする

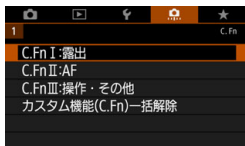
撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。この機能を「カスタム機能」「操作ボタンカスタマイズ」といいます。

また、カメラに設定されている内容を、〈C1〉〈C2〉モードに登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、応用撮影ゾーンで設定・機能します。



MENU カスタム機能の設定方法 応用



1 [点] タブを選ぶ

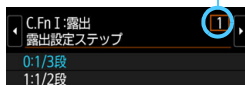
2 グループを選ぶ

- [C.Fn I:露出] [C.Fn II:AF] [C.Fn III:操作・その他] のいずれかを選び、**<SET>** を押します。

カスタム機能番号

3 カスタム機能番号を選ぶ

- **<◀>** **<▶>** を押して設定するカスタム機能番号を選び、**<SET>** を押します。



4 設定を変更する

- **<▲>** **<▼>** を押して設定内容（番号）を選び、**<SET>** を押します。
- 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。




5 設定を終了する

- **<MENU>** ボタンを押します。
→ 手順2の画面に戻ります。



カスタム機能の設定をすべて解除するときは

手順2で [カスタム機能 (C.Fn) 一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

 [カスタム機能 (C.Fn) 一括解除] を行っても、[点.C.Fn III-4:操作ボタンカスタマイズ] の設定内容は解除されません。

MENU カスタム機能一覧^{応用}

C.Fn I : 露出

C.Fn I : 露出			 LV撮影	 動画撮影
1	露出設定ステップ	p.471	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	ISO感度設定ステップ		<input type="radio"/>	M 時
3	ブラケティング自動解除		<input type="radio"/>	
4	ブラケティング順序	p.472	<input type="radio"/>	
5	ブラケティング時の撮影枚数		<input type="radio"/>	
6	セーフティシフト	p.473	<input type="radio"/>	
7	露出補正の自動解除	p.474	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	合焦後にAEロックする測光モード		<input type="radio"/>	

C.Fn II : AF

C.Fn II : AF			 LV撮影	 動画撮影
1	被写体追従特性	p.475		
2	速度変化に対する追従性	p.476		
3	測距点乗り移り特性	p.477		
4	AIサーボAF1コマ目リリース	p.478		
5	AIサーボAF連続撮影中リリース	p.479		
6	AF補助光の投光	p.480	*1	*1*2
7	AF測距不能時のレンズ動作	p.481		
8	測距エリア選択モードの限定			


*1 : LEDライト付きEXスピードライト (別売) 使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。

*2 : タイムラプス動画撮影時のみ機能します。






が付いたカスタム機能は、ライブビュー (LV) 撮影時、または動画撮影時は機能しません (設定が無効になります)。

C.Fn II : AF

C.Fn II : AF			 LV撮影	 動画撮影
9	測距エリア選択モードの切換	p.482		
10	縦位置/横位置のAFフレーム設定	p.483		
11	(C)時のAIサーボAF開始測距点	p.484		
12	自動選択：色検知	p.485		
13	AFフレーム選択時の循環	p.486		
14	測距時のAFフレーム表示	p.487		
15	ファインダー情報の照明	p.488		
16	AFマイクロアジャストメント			

C.Fn III : 操作・その他

C.Fn III : 操作・その他			 LV撮影	 動画撮影
1	ファインダー内  警告の項目	p.489		
2	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	p.490	○	○
3	電源オフ時のレンズ収納		○	○
4	操作ボタンカスタマイズ		設定により異なる	

MENU カスタム機能で変更できる内容^{応用}

C.Fn I：露出

C.Fn I-1 露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。



[1：1/2段] 設定時は、図のように表示されます。



C.Fn I-2 ISO感度設定ステップ

0：1/3段

1：1段

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。



- [1：1段] に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。
- [1：1段] 設定時もISO400000に設定することができます（静止画撮影時）。

C.Fn I-3 ブラケットング自動解除

0：する

電源スイッチを〈OFF〉にすると、AEB、WBブラケットングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチを〈OFF〉にしても、AEB、WBブラケットングの設定は解除されません（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

C.Fn I-4 ブラケットング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケットング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0 : 0 → - → +

1 : - → 0 → +

2 : + → 0 → -

AEB	WBブラケットング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 : 標準露出	0 : 基準ホワイトバランス	0 : 基準ホワイトバランス
- : マイナス補正	- : ブルー寄りに補正	- : マゼンタ寄りに補正
+ : プラス補正	+ : アンバー寄りに補正	+ : グリーン寄りに補正

C.Fn I-5 ブラケットング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケットング撮影時の撮影枚数を、初期設定の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

なお、**[C.Fn I-4 : ブラケットング順序]** を [0 → - → +] に設定したときは、下表のように撮影されます。

0 : 3枚


2 : 5枚

1 : 2枚

3 : 7枚

(1段ステップ設定時)

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3 : 3枚	標準 (0)	-1	+1				
2 : 2枚	標準 (0)	±1					
5 : 5枚	標準 (0)	-2	-1	+1	+2		
7 : 7枚	標準 (0)	-3	-2	-1	+1	+2	+3

 [1 : 2枚] 設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または-）を選ぶことができます。WBブラケットング設定時は、B/A方向、またはM/G方向の補正になります。

C.Fn I-6 セイフティシフト

0：しない

1：Tv値/Av値

〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

2：ISO感度

〈**P**〉プログラムAE、〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。



- [📷2: 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] [オートの低速限界] が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、[📷2: 📷ISO感度に関する設定] の [オートの範囲] の設定によります (p.174)。ただし、手動設定されているISO感度が [オートの範囲] を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

C.Fn I-7 露出補正の自動解除

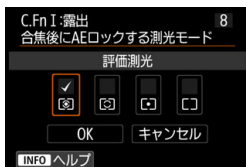
0：しない

電源スイッチを〈OFF〉にしても、露出補正の設定は解除されません。

1：する

電源スイッチを〈OFF〉にすると、露出補正の設定が解除されます。

C.Fn I-8 合焦後にAEロックする測光モード



シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定(AEロック)するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。

AEロックする測光モードに[✓]を付けます。測光モード[☉/☐/□/□]を選び、〈**ET**〉を押して[✓]を付けます。[OK]を選ぶと設定されます。

C.Fn II : AF

C.Fn II-1 被写体追従特性



AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

0

標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

粘る：-2 / 粘る：-1

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとしめます。-1よりも-2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとしめます。


その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

俊敏：+2 / 俊敏：+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。



[ C.Fn II-1 : 被写体追従特性] は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7Dの [AIサーボ時の被写体追従敏感度] と同じ機能です。

C.Fn II-2 速度変化に対する追従性



被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

0 移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

+2/+1

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

C.Fn II-3 測距点乗り移り特性



被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

測距エリア選択モードが、ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFのときに機能します。

0

測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。

+2/+1

狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点乗り移りやすくなります。

その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

C.Fn II-4 AIサーボAF1コマ目リリース



AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます。

バランス重視

ピントとリリースタイミングのバランスをとった設定です。

□: リリース優先

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていないくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

◎: ピント優先

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

C.Fn II-5 AIサーボAF連続撮影中リリース



AIサーボAF + 連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とリリースタイミングを設定することができます。

バランス重視

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや被写体のコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

撮影速度優先

ピントよりも連続撮影速度を優先します。

ピント優先

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。



【撮影速度優先】に設定しても、フリッカー低減処理が行われる撮影条件のときは(p.206)、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。



【バランス重視】設定時に暗い場所でピントが合わないときは、【ピント優先】に設定すると改善することがあります。

C.Fn II-6 AF補助光の投光

EOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じて外部ストロボからAF補助光が投光されます。


1：しない

外部ストロボからAF補助光は投光されません。「AF補助光が他の人の迷惑になるとき」などに設定します。

2：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、「赤外光方式」のAF補助光だけを投光します。「ストロボ間欠発光方式のAF補助光は投光したくない」というときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

 外部ストロボのカスタム機能の【AF補助光の投光】が【しない】に設定されているときは、この設定内容に関わらず、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn II-7 AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。

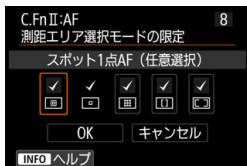
1：サーチ駆動しない

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。








超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、[1：サーチ駆動しない] に設定することをおすすめします。

C.Fn II-8 測距エリア選択モードの限定



測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。測距エリア選択モード選び、<Fn>を押して [✓] を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。

なお、測距エリア選択モードについては、134～135ページを参照してください。

- ：スポット1点AF (任意選択)
- ：1点AF (任意選択)
- ：ゾーンAF (ゾーン任意選択)
- ：ラージゾーンAF (ゾーン任意選択)
- ：自動選択AF






- [1点AF (任意選択)] の [✓] を外すことはできません。
- 使用レンズがG、Hグループのときは、[測距エリア選択モードの限定] で [✓] を付けても、使用できない測距エリア選択モードがあります (p.148)。




C.Fn II-9 測距エリア選択モードの切換




測距エリア選択モードの切り換え方法を設定することができます。

0: → 測距エリア選択ボタン

〈〉または〈〉ボタンを押したあと、〈〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

1: → メイン電子ダイヤル

〈〉または〈〉ボタンを押したあと、〈〉を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

 [1:  → メイン電子ダイヤル] 設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈〉を操作してください。

C.Fn II-10 縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モード+AFフレーム、またはAFフレームを別々に設定することができます。

0：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム（またはゾーン）になります。

1：別々に設定：エリア+フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。

2：別々に設定：フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームを設定することができます。同じ測距エリア選択モードで、姿勢に応じて自動的にAFフレームを切り換えたいときに有効です。

①②③のそれぞれの姿勢で、AFフレームを任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、任意選択したAFフレームに切り換わります。測距エリア選択モードをスポット1点AF、または1点AFに変更したときは、各姿勢で設定したAFフレームは保持されます。

測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに変更したときは、各姿勢で任意選択していたゾーンに切り換わります。



- [点：カスタム機能 (C.Fn) 一括解除] を選択すると (p.468)、①②③の姿勢で設定した内容が解除されます。
- 設定後に異なるAFグループ (p.145~148/特にHグループ) のレンズを装着したときは、設定した内容が解除されることがあります。

C.Fn II-11 (C) 時のAIサーボAF開始測距点

測距エリア選択モードを自動選択AFに設定したときに、AIサーボAFをどのAFフレーム（測距点）から開始するかを設定することができます。

0：自動


撮影状況に応じてAIサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

1：(C)時に選択した開始測距点

AF動作がAIサーボAF、測距エリア選択モードが自動選択AFに設定されているときに、任意選択したAFフレームからAIサーボAFが始まります。

2：口時の任意選択測距点

スポット1点AF、または1点AFから、自動選択AFに切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからAIサーボAFが始まります。自動選択AFに切り換える前に選択していたAFフレームからAIサーボAFを開始したいときに有効です。

 [2：口時の任意選択測距点] 設定時に、測距エリア選択モードをゾーンAF、ラージゾーンAFに切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからAIサーボAFが始まります。

C.Fn II-12 自動選択：色検知

人物の肌色に相当する色を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AFのときに機能します。

0：する

AF情報と人物の肌色に相当する色の情報を基に、カメラが測距点を自動選択します。

ワンショットAF時は、測距エリアの中にいる、静止している人物にピントが合いやすくなります。

AIサーボAF時は、測距エリアの中にいる、人物にピントが合いやすくなります。人物の肌色が検知できないときは、最も近距離にある被写体にピントが合います。一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした部分の色にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。

1：しない

AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。



- [0：する] 設定時は、[1：しない] に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかります。
- [0：する] に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- EOS用の外部ストロボから、AF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます（人物の肌色に相当する色の情報を使用したAFは行われません）。

C.Fn II-13 AFフレーム選択時の循環


AFフレーム選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。

0：しない（端で突き当たり）

一番端のAFフレームを頻繁に使用するときには有効です。

1：する

一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

 [C.Fn II-11 : (○)時のAIサーボAF開始測距点] が [1 : (○)時に選択した開始測距点] に設定されているときは、AIサーボAFの開始測距点を選択するときにも機能します。

C.Fn II-14 測距時のAFフレーム表示

AF開始前（撮影準備状態）、AF開始時、AF中、合焦時、合焦後の測光タイマー作動中に、AFフレームを表示するかどうかを設定することができます。

- 0：選択AFフレーム（常時表示）
- 1：全AFフレーム（常時表示）
- 2：選択フレーム（測距前/合焦時）
- 3：選択AFフレーム（合焦時表示）
- 4：表示しない

○：表示／×：非表示

測距時のAFフレーム表示	AFフレーム 選択時	AF開始前 (撮影準備状態)	AF開始時
0：選択AFフレーム（常時表示）	○	○	○
1：全AFフレーム（常時表示）	○	○	○
2：選択フレーム（測距前/合焦時）	○	○	○
3：選択AFフレーム（合焦時表示）	○	×	○
4：表示しない	○	×	×

測距時のAFフレーム表示	AF中	合焦時	合焦後の測光 タイマー作動中
0：選択AFフレーム（常時表示）	○	○	○
1：全AFフレーム（常時表示）	○	○	○
2：選択フレーム（測距前/合焦時）	×	○	○
3：選択AFフレーム（合焦時表示）	×	○	×
4：表示しない	×	×	×

C.Fn II-15 ファインダー情報の照明

ピントが合ったときに、ファインダー内に表示されるAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

0：自動

暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに、自動的に赤く照明されます。

1：する

周囲の明るさに関わらず、赤く照明されます。

2：しない

赤い照明は行われません。

AIサーボAF時の照明	
しない	OFF
する	ON

[自動] [する] 設定時に <Q> ボタンを押すと、AIサーボAF時にAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

OFF：しない

AIサーボAF時に赤い照明は行われません。

ON：する

AIサーボAF時にピントを合わせているAFフレームが赤く照明されます。連続撮影中も照明が行われます。

なお、[2：しない] に設定したときは機能しません。




- <Fn> または <Fn2> ボタンを押したときは、この設定に関わらず赤く照明されます。
- ファインダー内に表示されるアスペクト線、水準器、グリッド、[ファインダー内表示設定] (p.82) で設定した情報なども赤く照明されます。


C.Fn II-16 AFマイクロアジャストメント

AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、491ページを参照してください。


C.Fn III : 操作・その他

C.Fn III-1 ファインダー内警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内と表示パネルに  を表示することができます (p.31)。

警告表示を行う対象を選び、 を押して [✓] を付けます。[OK] を選ぶと設定されます。


モノクロ設定時

[ 3:ピクチャースタイル] が [モノクロ] に設定されているときに (p.178)、警告表示が行われます。


ホワイトバランス補正時

ホワイトバランス補正が設定されているときに (p.191)、警告表示が行われます。


設定時

[ 3:高感度撮影時のノイズ低減] が [マルチショットノイズ低減機能] に設定されているときに (p.195)、警告表示が行われます。

HDR設定時

[ 3:HDRモード] が設定されているときに (p.253)、警告表示が行われます。








[✓] を付けた機能を設定したときは、クイック設定画面 (p.61) に表示される各設定項目にも  が表示されます。

C.Fn III-2 Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。


撮影モードが〈M〉のときは〈〉〈〉、それ以外の撮影モードでは〈〉の設定方向が反転します。〈M〉モード時に〈〉を操作したときの設定方向と、〈P〉〈Tv〉〈Av〉モード時に〈〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。


C.Fn III-3 電源オフ時のレンズ収納

ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

-  ● オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

 [0：する] 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

C.Fn III-4 操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは、497ページを参照してください。

⦿ : AFによる合焦位置を微調整する 応用

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、496ページの『AFマイクロアジャストメント全般の注意事項』『AFマイクロアジャストメント共通事項』をあわせてお読みください。

! 通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

1 : 全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

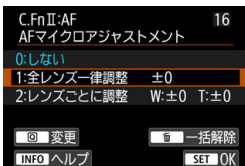


1 [C.Fn II : AF] を選ぶ

- [⦿] タブの [C.Fn II : AF] を選び、<SET>を押します。



2 [16 : AFマイクロアジャストメント] を選ぶ



3 [1 : 全レンズ一律調整] を選ぶ

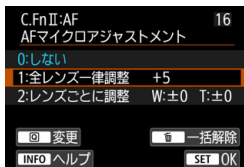
4 <Q> ボタンを押す

- ➔ [1 : 全レンズ一律調整] 画面が表示されません。



5 調整する

- 調整値を設定します。調整範囲は±20ステップです。
- 「- : 👁️」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「+ : ▲」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら〈SET〉を押します。
- [1:全レンズ一律調整] を選び 〈SET〉を押します。



6 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して (p.388)、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「+ : ▲」側、奥側にピントが合っているときは「- : 👁️」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

🗨️ [1:全レンズ一律調整] のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

2 : レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズは最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。



1 [2 : レンズごとに調整] を選ぶ



2 <Q> ボタンを押す

→ [2 : レンズごとに調整] 画面が表示されません。



登録番号

3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報表示

- <INFO> ボタンを押します。
- 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、[OK] を選び手順4に進みます。
- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、次ページの操作で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。

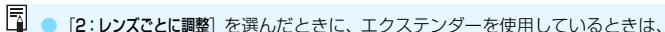


シリアル番号の入力

- 入力する桁を選び〈SET〉を押して〈☑〉の状態にします。
- 数値を入力し〈SET〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら [OK] を選びます。

レンズのシリアル番号について

- 手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。
- レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。

- 
- [2:レンズごとに調整] を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
 - すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。



単焦点レンズ





ズームレンズ




4 調整する

- ズームレンズのときは、広角側 (W) または望遠側 (T) を選びます。〈SET〉を押すとオレンジ色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し〈SET〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「- : 」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側 (前方) に調整されます。
- 「+ : 」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側 (後方) に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側 (W)、望遠側 (T) の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- [2: レンズごとに調整] を選び 〈SET〉を押します。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して (p.388)、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「+ : 」側、奥側にピントが合っているときは「- : 」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

 ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正が行われます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に **🔍 一括解除** が表示されているときに、**<右>** ボタンを押すと、**[1:全レンズ一律調整]** **[2:レンズごとに調整]** で調整した内容をすべて解除することができます。

🔍 AFマイクロアジャストメント全般の注意事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- **[👁️ : カスタム機能 (C.Fn) 一括解除]** を行っても (p.468)、調整した内容は保持されますが、設定は **[0:しない]** になります。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは三脚の使用をおすすめします。
- 調整を行うときは、記録画質 **▲L** で撮影することをおすすめします。

⦿ : 操作ボタンカスタマイズ 応用

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。



1 [C.Fn III : 操作・その他] を選ぶ

- [⦿] タブの [C.Fn III : 操作・その他] を選び、<SET> を押します。



2 [4 : 操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

- ➔ 操作部材の設定画面が表示されます。



3 操作部材を選ぶ

- 操作部材を選び <SET> を押します。
- ➔ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。
- ➔ 画面左側のイラストで操作部材の位置を確認することができます。



4 機能を割り当てる

- 機能を選び <SET> を押します。





5 設定を終了する


- <MENU> を押して設定が終了すると、手順3の画面に戻ります。
- <MENU> ボタンを押して設定を終了します。

手順3の画面で <MENU> ボタンを押すと、設定した内容を解除することができます。なお、[⦿.C.Fn III-4 : 操作ボタンカスタマイズ] の設定は、[⦿ : カスタム機能 (C.Fn) 一括解除] を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

機能		参照頁		AF-ON	
A F	AF 測光・AF開始	500	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	AF-OFF AF停止		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	ワンショット・AIサーボ/サーボ		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	AFフレームダイレクト選択		<input type="checkbox"/>		
	動画サーボAF一時停止		<input type="checkbox"/>		
露 出	測光開始	501	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	AEL FEL AEロック/FEロック		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	AEロック (ホールド)		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	AEロック		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	AEロック (押ししている間)		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	FEL FEロック	502	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	ISO ISO感度設定 (押しながら)		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	露出補正 (押しながら)		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	調光補正		<input type="checkbox"/>		
	Tv Mモード時、シャッター速度変更		<input type="checkbox"/>		
Av Mモード時、絞り数値変更	<input type="checkbox"/>				
画 像	記録画質選択	503	<input type="checkbox"/>		
	ピクチャースタイル選択		<input type="checkbox"/>		
	WB ホワイトバランス選択		<input type="checkbox"/>		
操 作	絞り込み	503	<input type="checkbox"/>		
	手ブレ補正機能作動		<input type="checkbox"/>		
	MENU メニュー表示		<input type="checkbox"/>		
	ストロボ機能設定	504	<input type="checkbox"/>		
	Wi-Fi機能		<input type="checkbox"/>		
OFF 無効		<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

	LENS	SET			
	○				
○	○				
○	○				
					○
		○			
○	○				
○	○				
○	○				
○	○				
		○			
		○			
		○			
			○	○	
			○	○	
		○			
		○			
		○			
○		○			
○	○				
		○			
		○			
		○			
○		○			○

 <LENS> は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

AF

AF : 測光・AF開始


この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

AF-OFF : AF停止




この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にAFを停止したいときなどに有効です。

ONE SHOT SERVO : ワンショット⇄AIサーボ/サーボ


AF動作を切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、AIサーボAF/サーボAFになり、AIサーボAF/サーボAF時に押すと、ワンショットAFになります。移動/停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAF/サーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

 ライブビュー撮影時にマルチショットノイズ低減機能が設定されているときは、機能しません。

AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、 または  ボタンを押さずに、 で直接AFフレームを選択することができます。

VIDEO SERVO AF : 動画サーボAF一時停止

動画サーボAF作動中に  を押すと、AFを一時停止することができます。もう一度押すと動画サーボAFが再開します。

露出

: 測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光が行われます（AFは行われません）。

AE/L : AEロック/FEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときに有効です。

ストロボ撮影時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがブリーチして、撮影に必要な発光量が記憶されます（FEロック）。

* : AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときに有効です。

* : AEロック（押している間）

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます（AEロック）。



*_H : AEロック（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます（AEロック）。もう一度この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。


FEL：FEロック

ストロボ撮影時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがブリーチして撮影に必要な発光量が記憶されます（FEロック）。


ISO ：ISO感度設定（押しながら ）

この機能を割り当てたボタンを押しながら  を回すと、ISO感度を設定することができます（静止画撮影時のみ）。ISOオートのときに操作すると、ISO感度を手動設定することができます。測光タイマー（4）が終了すると、ISOオートに戻ります。なお、**〈M〉** モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

：露出補正（押しながら ）

この機能を割り当てたボタンを押しながら  を回すと、露出補正を行うことができます。**〈M〉** マニュアル露出+ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。



：調光補正

 を押すと、ファインダー内、または表示パネルの露出レベル表示を見ながら、調光補正量を設定することができます。

Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈M〉 マニュアル露出時に、 または  でシャッター速度を設定することができます。

Av：Mモード時、絞り数値変更

〈M〉 マニュアル露出時に、 または  で絞り数値を設定することができます。

画像

◀ : 記録画質選択

〈**SET**〉を押すと、液晶モニターに記録画質の設定画面 (p.162) が表示されます。

🖼️ : ピクチャースタイル選択

〈**SET**〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイルの選択画面 (p.176) が表示されます。

WB : ホワイトバランス選択

〈**SET**〉を押すと、液晶モニターにホワイトバランスの設定画面 (p.185) が表示されます。

操作

🌀 : 絞り込み

絞り込みボタン、または 〈**SET**〉を押すと、絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます (p.240)。

👉 : 手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正スイッチが 〈**ON**〉 のときに、絞り込みボタン、またはレンズのAFストップボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

MENU : メニュー表示

〈**SET**〉を押すと、液晶モニターにメニュー画面が表示されます。

：ストロボ機能設定

〈〉を押すと、ストロボ機能設定の画面（p.283）が表示されます。

：Wi-Fi機能

〈〉を押すと、無線通信の設定画面（p.540）が表示されます。

OFF：無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

MENU マイメニューを登録する 応用

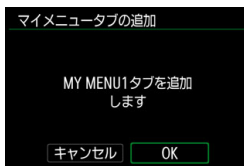
設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。また、登録したタブに名前を付けたり、〈MENU〉ボタンを押したときにマイメニュータブから表示することもできます。

マイメニュータブを追加（作成）する



1 [マイメニュータブの追加] を選ぶ

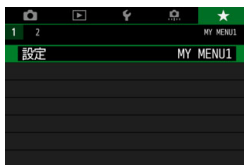
- [★] タブの [マイメニュータブの追加] を選び、〈SET〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

- ➔ [MY MENU1] タブが作成されます。
- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する

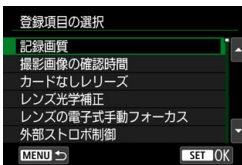


1 [設定: MY MENU*] を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して [設定: MY MENU*] (項目を登録するタブ) を選び、〈SET〉を押します。



2 【登録項目の選択】を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並び替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

● 登録項目の並び替え

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並び替え]を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。[◆]が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。

● 選択して削除／タブ内の全項目削除

登録した項目を削除することができます。[選択して削除]を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● タブの削除

現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除] を選ぶと、[MY MENU*] のタブが削除されます。

● タブ名の変更

タブの名称を [MY MENU*] から任意の名称に変更することができます。

1 [タブ名の変更] を選ぶ



入力モード

2 文字を入力する

- <⌫> ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- <⊙> または <⊕> <⊖> を操作して□を移動し、希望する文字を選び、<Ⓢ> を押すと入力されます。
- [Aa↔1@] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 最大16文字入力できます。
- 入力をキャンセルするときは、<INFO> ボタンを押して [OK] を選びます。

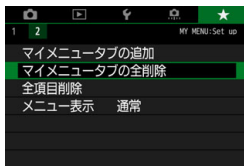
3 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、<MENU> ボタンを押して [OK] を選びます。
- ➔ 設定した内容が保存されます。



手順2で文字が入力できないときは、<Ⓢ> ボタンを押して、文字パレットに青い枠を付けてから操作します。

マイメニュータブの全削除／全項目削除




作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

● マイメニュータブの全削除

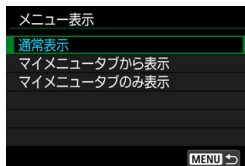
作成したタブをすべて削除することができます。[マイメニュータブの全削除] を選ぶと、[MY MENU1] ～ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、[★] タブが初期状態に戻ります。

● 全項目削除

[MY MENU1] ～ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[全項目削除] を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

 [タブの削除] [マイメニュータブの全削除] を行うと、[タブ名の変更] で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



〔メニュー表示〕を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

● 通常表示

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

● マイメニュータブから表示

〔★〕タブの画面から表示されます。

● マイメニュータブのみ表示

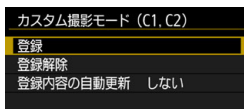
〔★〕タブの画面だけが表示されます（〔📷〕〔▶〕〔👤〕〔.⦿〕タブは表示されません）。

④: カスタム撮影モードの登録^{応用}

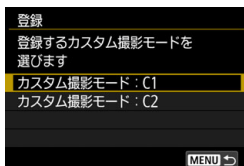
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、**④** **⑤** モードにカスタム撮影モードとして登録することができます。



- 1 **【カスタム撮影モード (C1, C2)】** を選ぶ
 - **〔F5〕** タブの **【カスタム撮影モード(C1, C2)】** を選び、**〔SET〕** を押します。



- 2 **【登録】** を選ぶ




- 3 **登録する**
 - 登録するカスタム撮影モードを選び、**〔SET〕** を押します。
 - 確認画面で **【OK】** を選びます。
 - ➔ カメラの設定内容 (p.511) がモードダイヤルの **C*** に登録されます。


登録内容の自動更新

④ **⑤** モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます (自動更新)。自動更新するときは、手順2で **【登録内容の自動更新】** を **【する】** に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で **【登録解除】** を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

 マイメニューの設定内容は、カスタム撮影モードには登録されません。










 <☑1> <☑2> モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

登録される設定内容


● 撮影機能

撮影モード、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、AF動作、測距エリア選択モード、AFフレーム、ドライブモード、測光モード、露出補正量、AEBステップ量、ストロボ調光補正量

● メニュー機能


- [ 1] 記録画質、撮影画像の確認時間、カードなしリリース、レンズ光学補正、レンズの電子式手動フォーカス、ストロボの発光、E-TTL II 測光方式、Avモード時のストロボ同調速度
- [ 2] 露出補正/AEB 設定、 ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正/BKT設定、色空間
- [ 3] ピクチャースタイル、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先、多重露出(設定値)、HDRモード(設定値)
- [ 4] インターバルタイマー、バルブタイマー、フリッカーレス撮影、ミラーアップ撮影、アスペクト比、ライブビュー撮影
- [ 5 (ライブビュー撮影)]
AF方式、タッチシャッター、測光タイマー、グリッド、露出Simulation、LVソフト撮影
- [ 1 (動画撮影)]
動画記録サイズ、記録画質、録音、周辺光量補正、色収差補正、レンズの電子式手動フォーカス
- [ 2 (動画撮影)]
露出補正、 ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、MWB画像選択、WB補正

[📷4 (動画撮影)]

動画サーボAF、AF方式、動画サーボAFの被写体追従特性、動画サーボAF時のAF速度、測光タイマー、グリッド、 ボタンの機能

[📷5 (動画撮影)]

ビデオスナップ、タイムラプス動画（設定値）、動画電子IS、リモコン撮影


[▶2] スライドショー（設定値）、 での画像送り

[▶3] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム、拡大倍率設定（約）

[🔍1] 画像番号、縦位置画像回転表示

[🔍2] オートパワーオフ、液晶の明るさ、液晶の消灯 / 点灯、ファインダー内表示

[🔍3] ヘルプの文字サイズ

[🔍4] タッチ操作、電子音、自動クリーニング、(LV時に)  ボタンで表示する内容、マルチ電子ロック

[..1] C.Fn I

露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケットング自動解除、ブラケットング順序、ブラケットング時の撮影枚数、セーフティシフト、露出補正の自動解除、合焦後にAEロックする測光モード

C.Fn II

被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性、AIサーボAF1コマ目リリース、AIサーボAF連続撮影中リリース、AF補助光の投光、AF測距不能時のレンズ動作、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定、(○)時のAIサーボAF開始測距点、自動選択：色検知、AFフレーム選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、ファインダー情報の照明、AFマイクロアジャストメント（調整値を除く）

C.Fn III

Tv/Av値設定時のダイヤル回転、電源オフ時のレンズ収納、操作ボタンカスタマイズ

15

資料

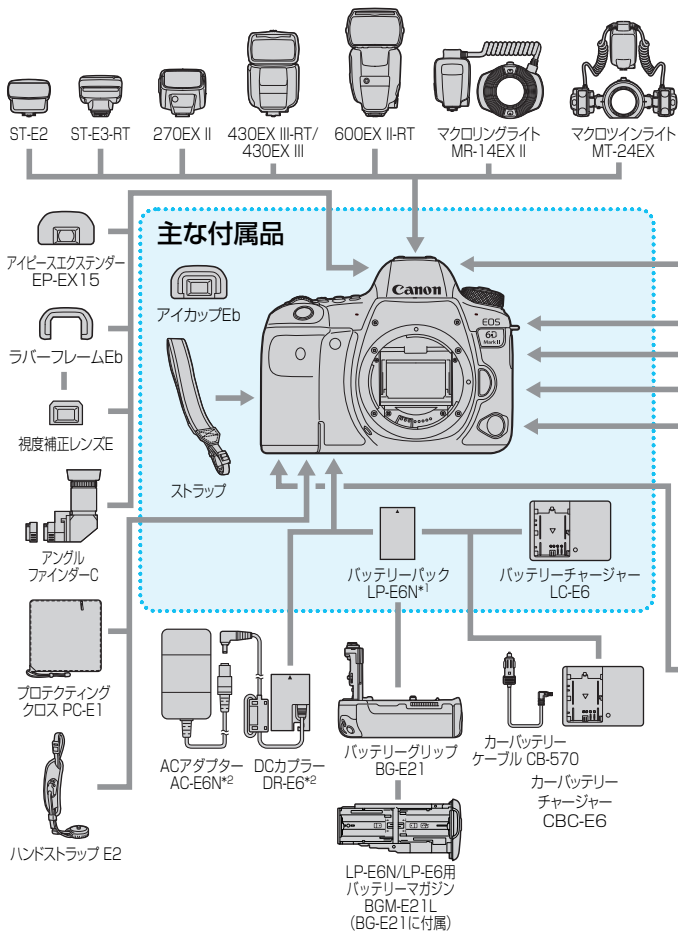
この章では、システムアクセサリーの紹介や、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

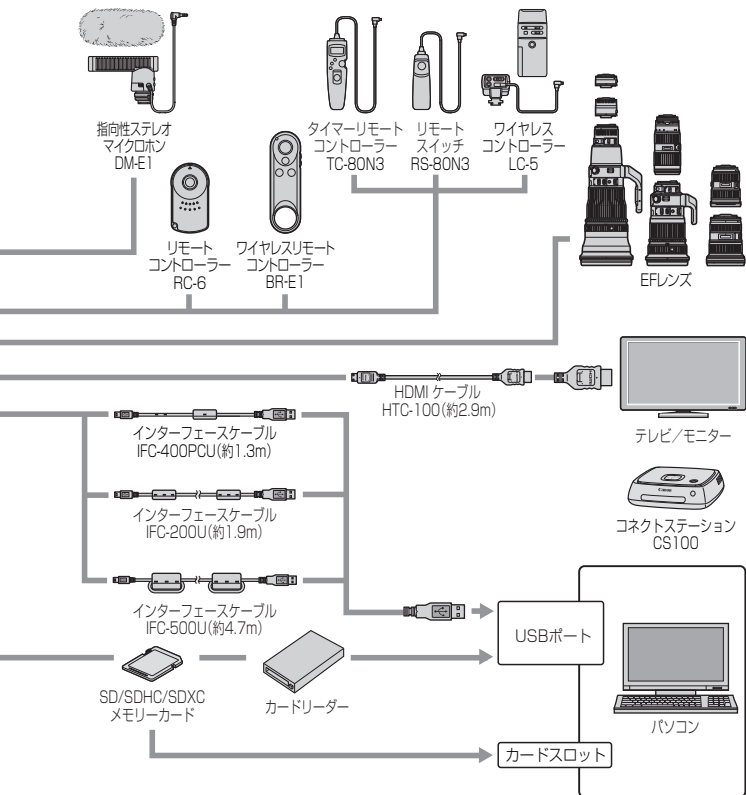


認証マークについて

〔**▼5**: 認証マーク表示〕を選び〈**Ⓢ**〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

システム図



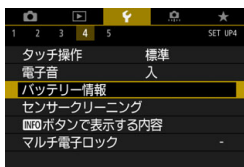


*1: バッテリーパック LP-E6を使用することもできます。

*2: ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。

MENU 電池情報を確認する

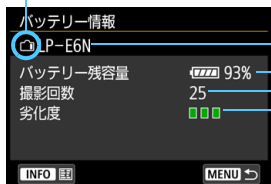
使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池のおおよその残量や、使用履歴を確認することができます。



【バッテリー情報】を選ぶ

- [4] タブの [バッテリー情報] を選び、
〈SET〉を押します。
- ➔ 電池情報の画面が表示されます。

電池位置



使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。

電池残量表示 (p.48) とともに、残量が1%単位で表示されます。

使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。

電池の劣化状態が3段階で表示されます。

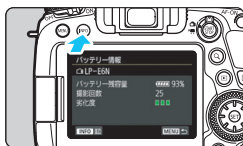
- (緑)：劣化していません
- (緑)：少し劣化しています
- (赤)：電池の買い換えをおすすめします

⚠ キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6の使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E21（別売）使用時も電池情報が表示されます。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときには、電池ごとに以下の操作を行ってください。



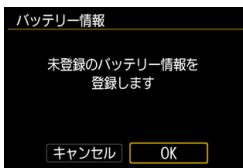
1 <INFO> ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、<INFO> ボタンを押します。
- ➔ 使用履歴画面が表示されます。
- ➔ 登録されていない電池は灰色で表示されます。



2 [登録] を選ぶ

- ➔ 確認画面が表示されます。



3 [OK] を選ぶ

- ➔ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➔ 表示が灰色から白色に変わります。
- <MENU> ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

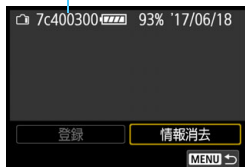


- 家庭用電源アクセサリ（別売／p.520）使用時は、登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは、[登録] は選べません。519ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

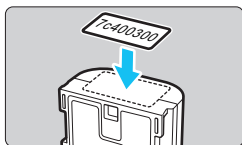
登録したバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。

シリアル番号



1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。



2 電池を取り出しシールを貼り付ける

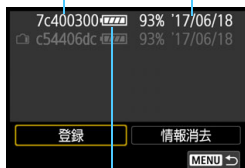
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けしないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E21（別売）使用時は、バッテリーマガジンへの電池の取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していない電池の残量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残量や前回使用した日を、画面で確認することができます。

シリアル番号 前回使用日



電池残量

シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。
- ➔ 手元にある電池のおおよその残量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 【情報消去】を選ぶ

- 517ページの手順2で【情報消去】を選び〈SET〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

- 消去する電池を選び〈SET〉を押します。
- ➔ [✓]が表示されます。
- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈右〉ボタンを押す

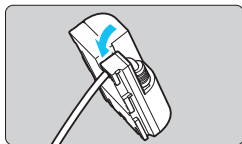
- ➔ 確認画面が表示されます。

4 [OK]を選ぶ

- ➔ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

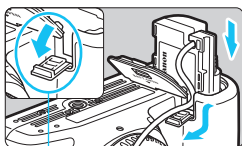
家庭用電源を使用する

DCカプラー DR-E6（別売）と、ACアダプター AC-E6N（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。



1 コードを溝にはめ込む

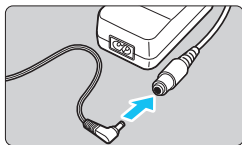
- DCカプラーのコードを傷つけないように、ていねいに溝にはめ込みます。



DCカプラーコード
通し部

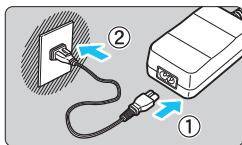
2 DCカプラーを入れる

- 電池室ふたを開け、DCカプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DCカプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。



3 DCカプラーとACアダプターを接続する

- DCカプラーのプラグをACアダプターのコネクタにしっかりと接続します。



4 電源コードを接続する

- 電源コードをACアダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする (p.47)



- ACアダプター AC-E6N（別売）以外は使用しないでください。
- カメラの電源が入った状態で、電源コードやコネクターの抜き差し、DCケーブルの取り出しを行わないでください。
- 使い終わったら、電源プラグをコンセントから抜いてください。



ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。

📶 Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送はEye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するか、カードメーカーにお問い合わせください。

! 本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

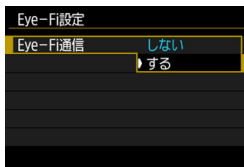
1 Eye-Fiカードを入れる (p.43)



2 [Eye-Fi設定] を選ぶ

- [🔧1] タブの [Eye-Fi設定] を選び、<SET> を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。

3 通信機能を有効にする

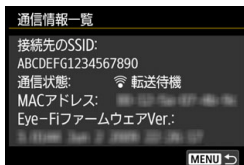


- [Eye-Fi通信] を選び <SET> を押します。
- [する] を選び <SET> を押します。
- [しない] のときは、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク📶OFF）。



4 通信情報一覧を表示する

- [通信情報一覧] を選び <MENU> を押します。



5 [接続先のSSID:]を確認する

- [接続先のSSID:] に転送先が表示されているか確認します。
- Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
- <MENU> ボタンを押してメニューを終了します。



6 撮影する

- ➔ 画像が転送され、[Wi-Fi] が灰色 (未接続) 状態から、下記のように切り換わってきます。
- 転送した画像は、撮影情報表示 (p.392) の画面に [Wi-Fi] が表示されます。

通信状態

- (灰色) **未接続** : 転送先に接続していません。
- (点滅) **接続中** : 転送先に接続しています。
- (点灯) **転送待機** : 転送先に接続しました。
- (↑) **転送中** : 画像を転送しています。

🔊 Eye-Fiカード使用時の注意事項

- [📶1:無線通信の設定] の [Wi-Fi設定] の [Wi-Fi] が [使う] に設定されているときは、Eye-Fiカードによる画像転送はできません。
- 「🔊」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- [Eye-Fi通信] を [しない] に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくは、カードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。
- Eye-Fiカード以外の無線LANカードを入れたときは、[📶1:Eye-Fi設定] は表示されません。また、通信状態マーク (📶) も表示されません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

静止画撮影時 (A⁺ / CA / 応用撮影ゾーン)

● : 自動設定 ○ : 選択可能 □ : 選択不可 / 無効

機能		A ⁺	CA	P	Tv	Av	M	B
雰囲気を選んで撮影			○					
背景ぼかし設定			○					
記録画質	RAW	○	○	○	○	○	○	○
	JPEG	○	○	○	○	○	○	○
アスペクト比				○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	●	●	○	○	○	○	○
	手動設定			○	○	○	○	○
ピクチャー スタイル	オート	●	●	○	○	○	○	○
	任意設定			○	○	○	○	○
ホワイト バランス	オート	●	●	○	○	○	○	○
	プリセット			○	○	○	○	○
	マニュアル			○	○	○	○	○
	色温度指定			○	○	○	○	○
補正/ブラケティング				○	○	○	○	○
オートライティングオブティマイザ		●	●	○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減				○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先				○	○	○	○	○
レンズ 光学補正	周辺光量補正	●	●	○	○	○	○	○
	色収差補正	●	●	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正			○	○	○	○	○
	回折補正	●	●	○	○	○	○	○
フリッカーレス撮影 ^{*1}		●	●	○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB			○	○	○	○	○
AF (ファイ ンダー撮影)	ワンショットAF			○	○	○	○	○
	AIフォーカスAF	●	●	○	○	○	○	○
	AIサーボAF			○	○	○	○	○
	測距エリア選択モード	○	○	○	○	○	○	○
	AFフレーム選択	○	○	○	○	○	○	○
手動ピント合わせ (MF)		○	○	○	○	○	○	○
AF (ライブ ビュー撮影)	ワンショットAF	●	●	○	○	○	○	○
	サーボAF			○	○	○	○	○
	追尾優先	○	○	○	○	○	○	○
	スムーズゾーン	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ1点	○	○	○	○	○	○	○
手動ピント合わせ (MF)		○	○	○	○	○	○	○

機能		△ ⁺	CA	P	Tv	Av	M	B
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
	低速連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
	ソフト1枚撮影*1	○	○	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*1	○	○	○	○	○	○	○
	セルフ：10秒／リモコン	○	○	○	○	○	○	○
	セルフ：2秒／リモコン	○	○	○	○	○	○	○
	セルフ：連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
測光	評価測光	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光			○	○	○	○	○
	スポット測光			○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光			○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト			○				
	露出補正			○	○	○	○*2	
	AEB			○	○	○	○	
	AEロック			○	○	○	○*3	
	被写界深度確認			○	○	○	○	○
	HDR撮影			○	○	○	○	
	多重露出撮影			○	○	○	○	○
	インターバルタイマー*1	○	○	○	○	○	○	
	バルブタイマー							○
ミラーアップ撮影*1			○	○	○	○	○	
外部 ストロボ	ストロボ発光*4	●	●	○	○	○	○	○
	発光禁止*4			○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正			○	○	○	○	○
	FEロック*1			○	○	○	○	○
	ストロボ機能設定			○	○	○	○	○
	カスタム機能設定			○	○	○	○	○
GPS機能	○	○	○	○	○	○	○	
ライブビュー撮影	○	○	○	○	○	○	○	
クイック設定	○	○	○	○	○	○	○	
タッチ操作	○	○	○	○	○	○	○	

*1：ファインダー撮影時のみ設定できます（機能します）。

*2：ISOオート設定時のみ設定できます。

*3：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。

*4：[外部ストロボ制御] の [ストロボの発光] で設定できます。

静止画撮影時（SCN：📷📷📷📷📷📷📷）

●：自動設定 ○：選択可能 □：選択不可／無効

機能		SCN					
		📷	📷	📷	📷	📷	📷
明るさ		○	○	○	○	○	○
色あい							
流し効果							○
記録画質	RAW	○	○	○	○	○	○
	JPEG	○	○	○	○	○	○
アスペクト比							
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●
	手動設定						
ピクチャー スタイル	オート	●	●	●	●	●	●
	任意設定						
ホワイト バランス	オート	●	●	●	●	●	●
	プリセット						
	マニュアル						
	色温度指定						
補正/ブラケティング							
オートライティングオブティマイザ		●	●	●	●	●	●
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●
長時露光のノイズ低減							
高輝度側・階調優先							
レンズ 光学補正	周辺光量補正	●	●	●	●	●	●
	色収差補正	●	●	●	●	●	●
	歪曲収差補正		●				
	回折補正	●	●	●	●	●	●
フリッカーレス撮影 ¹		●	●	●	●	●	●
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●
	Adobe RGB						
AF (ファイ ンダー撮影)	ワンショットAF	●	●	●			
	AIフォーカスAF						
	AIサーボAF				●	●	●
	測距エリア選択モード	○	○	○	○	○	○
	AFフレーム選択	○	○	○	○	○	○
手動ピント合わせ (MF)		○	○	○	○	○	○
AF (ライブ ビュー撮影)	ワンショットAF	●	●	●			
	サーボAF				●	●	●
	☑+追尾優先	○	○	○	○	○	
	スムーズゾーン	○	○	○	○	○	●
	ライブ1点	○	○	○	○	○	
手動ピント合わせ (MF)		○	○	○	○	○	○

機能		SCN					
							
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	○	○	
	低速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	ソフト1枚撮影*1	○	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*1	○	○	○	○	○	
	セルフ：10秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ：2秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ：連続撮影	○	○	○	○	○	○
測光	評価測光	●	●	●	●	●	●
	部分測光						
	スポット測光						
	中央部重点平均測光						
露出	プログラムシフト						
	露出補正						
	AEB						
	AEロック						
	被写界深度確認						
	HDR撮影						
	多重露出撮影						
	インターバルタイマー*1	○	○	○	○	○	○
	バルブタイマー						
	ミラーアップ撮影						
外部ストロボ	ストロボ発光	●	●	●	●	●	
	発光禁止						●
	ストロボ調光補正						
	FEロック*1						
	ストロボ機能設定						
カスタム機能設定							
GPS機能	○	○	○	○	○	○	
ライブビュー撮影	○	○	○	○	○	○	
クイック設定	○	○	○	○	○	○	
タッチ操作	○	○	○	○	○	○	

*1：ファインダー撮影時のみ設定できます（機能します）。

静止画撮影時（SCN：🌞🍴🏠🏡🏢🏨）

●：自動設定 ○：選択可能 □：選択不可／無効

機能		SCN					
		🌞	🍴	🏠	🏡	🏢	🏨
明るさ		○	○	○	○	○	
色あい			○	○			
流し効果							
記録画質	RAW	○	○	○	○		
	JPEG	○	○	○	○	○	○
アスペクト比							
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●
	手動設定						
ピクチャー スタイル	オート	●	●	●	●	●	●
	任意設定						
ホワイト バランス	オート	●	●	●	●	●	●
	プリセット						
	マニュアル						
	色温度指定						
補正/ブラケティング							
オートライティングオブティマイザ		●	●	●	●	●	●
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●
長時露光のノイズ低減							
高輝度側・階調優先							
レンズ 光学補正	周辺光量補正	●	●	●	●	●	●
	色収差補正	●	●	●	●	●	●
	歪曲収差補正						
	回折補正	●	●	●	●	●	●
フリッカーレス撮影 ¹		●	●	●	●	●	●
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●
	Adobe RGB						
AF (ファイ ンダー撮影)	ワンショットAF	●	●	●	●	●	●
	AIフォーカスAF						
	AIサーボAF						
	測距エリア選択モード	○	○	●	○	○	○
	AFフレーム選択	○	○	●*2	○	○	○
手動ピント合わせ (MF)		○	○	○	○	○	○
AF (ライブ ビュー撮影)	ワンショットAF	●	●		●	●	●
	サーボAF						
	☑+追尾優先	○	○		○	○	○
	スムーズゾーン	○	○		○	○	○
	ライブ1点	○	○		○	○	○
手動ピント合わせ (MF)		○	○		○	○	○

機能		SCN					
							
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	低速連続撮影	○	○	○	○	○	○
	ソフト1枚撮影*1	○	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*1	○	○	○	○	○	○
	セルフ：10秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ：2秒/リモコン	○	○	○	○	○	○
	セルフ：連続撮影	○	○	○	○	○	○
測光	評価測光	●	●		●	●	●
	部分測光						
	スポット測光						
	中央部重点平均測光			●			
露出	プログラムシフト						
	露出補正						
	AEB						
	AEロック						
	被写界深度確認						
	HDR撮影						
	多重露出撮影						
	インターバルタイマー*1	○	○	○	○	○	○
	バルブタイマー						
	ミラーアップ撮影						
外部ストロボ	ストロボ発光	●	●		●	●	
	発光禁止			●			●
	ストロボ調光補正						
	FEロック*1						
	ストロボ機能設定						
	カスタム機能設定						
GPS機能	○	○	○	○	○	○	
ライブビュー撮影	○	○		○	○	○	
クイック設定	○	○	○	○	○	○	
タッチ操作	○	○	○	○	○	○	





*1：ファインダー撮影時のみ設定できます（機能します）。





*2：ファインダー内中央のAFフレーム（1点）でピント合わせが行われます。

動画撮影時

●：自動設定 ○：選択可能 □：選択不可／無効

機能		(A+) / (CA)	SCN	P / Tv / Av / B	M
		●	● ^{HDR}	●	● ^M
動画記録画質の選択		○	●*1	○	○
録音	オート	●	●	○	○
	マニュアル			○	○
	ウィンドカット	●	●	○	○
	アッテネーター			○	○
HDR動画			●*2		
タイムラプス動画	4K	○		○	○
	フルHD	○		○	○
ビデオスナップ		○		○	○
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	○
	手動設定				○
ピクチャースタイル	オート	●	●	○	○
	任意設定			○	○
ホワイトバランス	オート	●	●	○	○
	プリセット			○	○
	マニュアル			○	○
	色温度指定			○	○
	補正			○	○
オートライティングオブティマイザ		●	●	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	○	○
高輝度側・階調優先				○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	●		○	○
	色収差補正	●	●	○	○
動画電子IS		○		○	○

機能		A ⁺ /CA	SCN	P/Tv/Av/B	M
			 HDR		
AF	☺+追尾優先	○	○	○	○
	スムーズゾーン	○	○	○	○
	ライブ1点	○	○	○	○
	手動ピント合わせ (MF)	○	○	○	○
	動画サーボAF	○	○	○	○
	・被写体追従特性			○	○
	・AF速度			○	○
測光		●	●	●	●
露出	プログラムシフト				
	露出補正			○	○*3
	AEロック			○	○*4
GPS機能		○	○	○	○
リモコン撮影		○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○
タッチ操作		○	○	○	○

*1：NTSC：  / PAL：  に自動設定されます。

*2：〈SCN〉モード設定時は、自動的にHDR動画撮影になります。

*3：ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。

*4：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。

MENU メニュー機能一覧

ファインダー撮影時（かんたん撮影ゾーン）

📷：撮影1（赤）

参照頁

記録画質*1	RAW / M RAW / S RAW	162
	▲L / ▲L / ▲M / ▲M / ▲S1 / ▲S1 / S2	
撮影画像の確認時間	切 / 2秒 / 4秒 / 8秒 / ホールド	74
カードなしリリース	する / しない	44
インターバルタイマー	しない / する（撮影間隔 / 撮影回数）	267
ライブビュー撮影	する / しない	291

*1：<📷> <📷> モードのときは、RAW画質は選択できません。

ライブビュー撮影時（かんたん撮影ゾーン）

📷：撮影1（赤）

参照頁

記録画質*1	RAW / M RAW / S RAW	162
	▲L / ▲L / ▲M / ▲M / ▲S1 / ▲S1 / S2	
撮影画像の確認時間	切 / 2秒 / 4秒 / 8秒 / ホールド	74
カードなしリリース	する / しない	44

*1：<📷> <📷> モードのときは、RAW画質は選択できません。

📷：撮影2（赤）

参照頁

AF方式*1	☑+ 追尾優先 / スムーズゾーン / ライブ1点	308
タッチシャッター	しない / する	319
グリッド	表示しない / 9分割井 / 24分割井 / 9分割+ 対角線	302

*1：<📷> モードのときは設定できません（[スムーズゾーン] に自動設定されます）。

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時（応用撮影ゾーン）

📷：撮影1*¹（赤）

参照頁

記録画質	RAW / M RAW / S RAW	162
	■L / ■L / ■M / ■M / ■S1 / ■S1 / S2	
撮影画像の確認時間* ²	切 / 2秒 / 4秒 / 8秒 / ホールド	74
カードなしリリース* ²	する / しない	44
レンズ光学補正	周辺光量補正：する / しない	200
	色収差補正：する / しない	
	歪曲収差補正* ² ：しない / する	
	回折補正* ² ：する / しない	
レンズの電子式 手動フォーカス	ワンショットAF作動後・不可 / ワンショット AF作動後・可能	155
外部ストロボ制御* ²	ストロボの発光 / E-TTL II 調光方式 / Avモード 時のストロボ同調速度 / ストロボ機能設定 / ス トロボカスタム機能設定 / 設定初期化	281

*1：動画撮影のときは、[📷1：動画記録サイズ] [📷1：録音] が表示されます（p.545）。

*2：動画撮影のときは表示されません。

📷：撮影2（赤）

参照頁

露出補正/AEB設定*1	露出補正：1/3段、1/2段ステップ±5段*2	245
	AEB：1/3段、1/2段ステップ±3段	247
📷ISO感度に関する設定*3	ISO感度/ISO感度の範囲/オートの範囲/ オートの低速限界	170 173 174 175
	オートライティング 最適マイザ	しない/弱め/標準/強め
		M, Bulb時はOFF
		194
ホワイトバランス	AWB（雰囲気優先）/AWBw（ホワイト優先）/ ☀️/🏠/☁️/☀️/🌋/⚡️/📷/📷/ 📷（約2500~10000）	185
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	188
WB補正/BKT設定*4	WB補正：B/A/M/G寄り、各色9段	191
	WB-BKT：B/A、M/G方向、1段ステップ ±3段	192
色空間*5	sRGB/Adobe RGB	208

*1：動画撮影のときは、[📷2：露出補正] になります。

*2：ライブビュー撮影、動画撮影のときは、±3段になります。

*3：動画撮影のときは、[📷2：📷ISO感度に関する設定] になります。

*4：動画撮影のときは、[📷2：WB補正] になります。

*5：動画撮影のときは表示されません。

📷の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

📷：撮影3（赤）

参照頁

ピクチャースタイル	📷A オート／📷S スタンダード／📷P ポートレート／📷L 風景／📷Fi デティール重視／📷N ニュートラル／📷Fi 忠実設定／📷M モノクロ／📷1 ユーザー設定1～3	176
長秒時露光のノイズ低減* ¹	しない／自動／する	197
高感度撮影時のノイズ低減	しない／弱め／標準／強め／マルチショットノイズ低減機能* ¹	195
高輝度側・階調優先	しない／する	199
ダストデリートデータ取得* ¹	EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	452
多重露出* ¹	多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／多重露出撮影の継続／重ねる画像を選択	258
HDRモード* ¹	Dレンジ調整／仕上げり効果／HDR撮影の継続／画像位置自動調整	253

*¹：動画撮影のときは表示されません。

📷：撮影4 (赤)

参照頁

インターバルタイマー*1*2	しない/する (撮影間隔/撮影回数)	267
バルブタイマー	しない/する (露光時間)	251
フリッカーレス撮影*1	しない/する	206
ミラーアップ撮影*1	しない/する	265
アスペクト比	3:2/4:3/16:9/1:1	168
ライブビュー撮影*1*2	する/しない	291

*1：ライブビュー撮影のときは表示されません。

*2：かんたん撮影ゾーンのときは、[📷1] タブに表示されます。

📷：撮影5*1*2 (赤)

参照頁




AF方式	📍+追尾優先/スムーズゾーン/ライブ1点	308
タッチシャッター	しない/する	319
測光タイマー	4秒/8秒/16秒/30秒/1分/10分/30分	302
グリッド	表示しない/9分割井/24分割井井井/9分割+対角井井	302
露出Simulation	する/🌀絞り込み中/しない	303
LVソフト撮影	モード1/モード2/しない	303

*1：[📷5] タブは、ライブビュー撮影のときに表示されます (ファインダー撮影のときは、表示されません)。

*2：かんたん撮影ゾーンのときは、[📷2] タブに表示されます。

🔧：機能設定1（黄）


参照頁

フォルダ選択	フォルダの選択と作成	209
画像番号	番号の付け方：通し番号／オートリセット	211
	強制リセット	
縦位置画像回転表示	する   / する  / しない	435
カード初期化	記録内容を初期化して消去	70
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	522
無線通信の設定*1	Wi-Fi設定： Wi-Fi/NFC接続／パスワード／接続先履歴の表示／MACアドレス	—
	Wi-Fi機能： カメラ間で画像を送受信／スマートフォンと通信／EOS Utilityでリモート操作／Wi-Fi対応プリンターで印刷／Webサービスへ画像を送信	
	Bluetooth機能： Bluetooth機能／ペアリング／接続先情報の確認／登録解除／Bluetoothアドレス	
	スマートフォンへ画像を送信	
	ニックネーム	
	設定初期化	

*1：詳しくは「Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書」（p.4）を参照してください。

🔧：機能設定2 (黄)

参照頁

オートパワーオフ	1分/2分/4分/8分/15分/30分/ しない	73
液晶の明るさ	液晶モニターの明るさを7段階で調整	434
液晶の消灯/点灯* ¹	消灯しない/半押し連動	74
日付/時刻/エリア	日付 (年/月/日・表示順序) /時刻 (時/分/ 秒) /サマータイム/エリア	49
言語 	表示言語を選択	52
ファインダー内表示* ¹	水準器：表示しない/表示する	81
	グリッド：表示しない/表示する	79
	ファインダー内表示設定： バッテリー (電池残量) /撮影モード/ AF動作/記録画質 (画像タイプ) /ドライブ モード/測光モード/フリッカー検知	82

*1：ライブビュー撮影、動画撮影のときは表示されません。

🔧：機能設定3 (黄)



参照頁

GPSの設定	GPS/自動時刻設定/位置情報の更新間隔/ GPS情報の表示/ロガー	217
ビデオ方式	NTSC/PAL	341 427
撮影モードガイド* ¹	表示する/表示しない	89
機能ガイド	表示する/表示しない	90
ヘルプの文字サイズ	小/標準	92

*1：ライブビュー撮影、動画撮影のときは表示されません。

☛ 機能設定4 (黄) : ファインダー撮影時

参照頁

タッチ操作	標準／敏感／しない	69
電子音	入／タッチ音切／切	73
バッテリー情報	電源／電池残量／撮影回数／劣化度	516
センサークリーニング	自動クリーニング  : する／しない	450
	今すぐクリーニング 	
	手作業でクリーニング	455
INFO ボタンで表示する内容*1	水準器／クイック設定画面	84
マルチ電子ロック	メイン電子ダイヤル	88
	サブ電子ダイヤル	
	マルチコントローラー	
	タッチ操作	

*1 : ライブビュー撮影、動画撮影のときは、[LV時に **INFO** ボタンで表示する内容] になります。

☛ 機能設定4 (黄) : ライブビュー撮影／動画撮影時

参照頁

LV時に INFO ボタンで表示する内容	切り換え設定 : 1 / 2 / 3 / 4	298
	ヒストグラム ・輝度/RGB : 輝度/RGB ・表示サイズ : 大きい/小さい	299
	初期化	

🔧：機能設定5（黄）

参照頁

カスタム撮影モード (C1, C2)	登録／登録解除／登録内容の自動更新	510
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	75
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／ 著作権者名入力／著作権情報の消去	214
使用説明書・ ソフトウェア URL	使用説明書／ソフトウェアの ダウンロードサイトのURLとQRコード	5
認証マーク表示	このカメラが対応している認証マークの 一部を確認可能	513
ファームウェア*1	カメラ、レンズ、ストロボなどのファーム ウェアを変更するときに選択	—

*1：ライブビュー撮影、動画撮影のときは表示されません。

●：カスタム機能（橙）

参照頁

C.Fn I：露出		471
C.Fn II：AF	カメラの機能を細かく設定	475
C.Fn III：操作・その他		489
カスタム機能（C.Fn） 一括解除	カスタム機能の設定内容を解除	468

★：マイメニュー（緑）

参照頁

マイメニュータブの追加	マイメニュー 1～5タブを追加	505
マイメニュータブの 全削除	マイメニュータブをすべて削除	508
全項目削除	マイメニュー 1～5タブに登録されている項目をすべて削除	508
メニュー表示	通常表示／マイメニュータブから表示／マイメニュータブのみ表示	509

動画撮影時

📷：撮影1（赤）

参照頁

動画記録サイズ	1920×1080／1280×720	341
	NTSC：59.94p／29.97p／23.98p PAL：50.00p／25.00p	
	標準（IPB）／軽量（IPB）	
録音	録音*1：オート／マニュアル／しない	346
	録音レベル	
	ウィンドカット：オート／切	
	アッテネーター：切／入	347

*1：かんたん撮影ゾーンのときは、[する] [しない] になります。

📷：撮影2（赤）

参照頁

🔊 ISO感度に関する設定	ISO感度／ISO感度の範囲／ISOオート／ 🔊 ISOオート	372
---------------	------------------------------------	-----



- 「動画撮影時」の内容は、「ファインダー撮影／ライブビュー撮影時」に対する差分のみ記載しています。
- [📷：撮影3]（赤）については、537ページを参照してください。

📷：撮影4*¹（赤）

参照頁

動画サーボAF	する／しない	373
AF方式	📷+追尾優先／スムーズゾーン／ライブ1点	374
動画サーボAFの被写体追従特性	粘る (-3/-2/-1) / 0 / 敏感 (+1/+2/+3)	375
動画サーボAF時のAF速度	作動条件：常時／撮影中	376
	AF速度：遅い (-7/-6/-5/-4/-3/-2/-1) / 標準／速い (+1/+2)	
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	377
グリッド	表示しない／9分割井／24分割井井井／9分割+対角井井	377
👁️ ボタンの機能	📷AF/- / 📷/- / 📷AF/📷 / 📷/📷	378

*1：かんたん撮影ゾーンのときは、[📷2] タブに表示されます。

📷：撮影5*¹ (赤)

参照頁

ビデオスナップ	ビデオスナップ：撮影する／撮影しない	361
	アルバムの設定：アルバムを新規に作成／既存のアルバムに追記	
	保存確認画面の表示：する／しない	364
タイムラプス動画	タイムラプス動画：しない／する 4K (3840×2160) / する FHD (1920×1080)	350
	撮影間隔 (時/分/秒)	351
	撮影回数	
	自動露出：1枚目固定／毎フレーム更新	352
	液晶の自動消灯：しない／する	
撮影時の電子音：入／切	353	
動画電子IS	しない／する／強	380
リモコン撮影	しない／する	381

*1：かんたん撮影ゾーンのときは、[📷3] タブに表示されます。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリー残量 (p.516) が94%以上のときは、充電は行われません。
- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.42)。
- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください (p.42)。
- 電池を充電してください (p.40)。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください (p.43)。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

【ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか?】と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- 電池の出し入れを行ってください (p.42)。
- 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください (p.40)。
- 電池の性能が劣化している可能性があります。[▼4:バッテリー情報] で電池の劣化状態を確認してください (p.516)。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
 - ・ シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
 - ・ AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - ・ レンズの手ブレ補正機能を使う
 - ・ GPS機能を使用する
 - ・ 液晶モニターを頻繁に使用する
 - ・ ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
 - ・ Wi-Fi/NFC/Bluetooth (無線通信) 機能を使用する
 - ・ Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[**▼2:オートパワーオフ**]を[**しない**]にしてください (p.73)。
- [**▼2:オートパワーオフ**]を[**しない**]に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます (カメラの電源は切れません)。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Sレンズ、EF-Mレンズは使用できません (p.53)。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください (p.40)。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (p.43)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (p.43)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (p.43、430)。
- ワンショットAFでピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときや、ライブビュー撮影/動画撮影時にAFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (p.56、154)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、45、567ページを参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

シャッターボタンを2回押さないと撮影できない

- [📷4:ミラーアップ撮影] を [しない] に設定してください。



画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にしてください (p.53)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (p.55、56)。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなる場合があります。シャッター速度を速くする (p.236)、ISO感度を上げる (p.170)、ストロボを使用する (p.278)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 96ページの『ブレの少ない画像を撮影するには』を参照してください。

AFフレーム（測距点）が少ない／エリアAFフレームの形が異なる

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なり、A～Hの8グループに分類されま
す（p.145）。使用するレンズがどのグループに属しているか確認し
てください。なお、E～Hグループのレンズを使用したときは、測距
点が少なくなります（p.147～148）。

AFフレームが点滅している／2つ表示される

-  または  ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅
については、138ページを参照してください。

AFフレームが赤く照明されない

- AFフレームは、暗い場所で撮影するときや、暗い被写体にピントが
合ったときに、赤く照明されます。
- **〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉〈B〉** モードのときは、ピントが合ったとき
に、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます
（p.488）。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF/サーボAF、
およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影
はできません（p.97、131）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、温度、電池残量、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ライブビュー撮影、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。詳しくは156、158ページを参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、164ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても(例:高速タイプのカードを使用しても)、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、164ページの表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています(書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります)。そのため、ファインダー内に表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- [📷3:高輝度側・階調優先] が [する] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～40000になります（静止画撮影時）。[ISO感度の範囲] で設定範囲を拡張しても、L（ISO50相当）、H1（ISO1200相当）、H2（ISO102400相当）は選択できません。[📷3:高輝度側・階調優先] を [しない] に設定すると（p.199）、ISO100/125/160、およびL、H1/H2 が設定できるようになります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- [📷2:オートライティングオブティマイザ] を [しない] に設定してください（p.194）。[弱め] [標準] [強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出+ISOオート時に露出補正ができない

- 242ページを参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- 動画撮影時に [歪曲収差補正] [回折補正] の項目は表示されません。

〈Av〉モードでストロボ撮影するとシャッター速度が遅くなる

- 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、[**📷1**:外部ストロボ制御] の [Avモード時のストロボ同調速度] を、[1/180-1/60秒自動] または [1/180秒固定] に設定してください (p.282)。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。
- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[**📷5**:LVソフト撮影] を [しない] に設定してください (p.303)。

ストロボがいつもフル発光する

- EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します (p.279)。
- ストロボカスタム機能の [調光方式] が [TTL] (自動調光) に設定されていると、常時フル発光します (p.286)。





ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除 (ゼロに設定) すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

- [**📷1**:外部ストロボ制御] の [Avモード時のストロボ同調速度] を [自動] に設定してください (p.282)。



リモコン撮影ができない

- 静止画撮影を行うときは、ドライブモードを〈1〉または〈2〉に設定してください (p.157)。動画撮影を行うときは、[5:リモコン撮影] を [する] に設定してください (p.381)。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 を使用するときには、273ページを参照してください。
- [1:無線通信の設定] の [Bluetooth機能] が [スマートフォン] [リモコン] に設定されているときは、RC-6などの赤外線方式のリモートコントローラーを使ったリモコン撮影はできません。[Bluetooth機能] を [使わない] に設定してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、360ページを参照してください。

ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ライブビュー撮影時にストロボを使用したときは、1回の撮影でシャッター音が2回します (p.292)。

ライブビュー撮影時に白いと赤いが表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています (p.323)。

ライブビュー撮影時の連続撮影中に撮影画像が表示されない

- 記録画質が**M RAW**、**S RAW**に設定されているときは、連続撮影中に撮影画像は表示されません (p.291)。

動画撮影時に赤い🔴が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い<🔴>が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています (p.382)。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、343ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが<M>以外のときは、ISO感度が自動設定されます。<M>モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます (p.331)。

動画撮影時にISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- [**📷3**: 高輝度側・階調優先] が [する] に設定されているときは、ISO 感度の設定範囲がISO200～になります。[ISO感度の範囲] で設定範囲を拡張しても、H1、H2は選択できません。[**📷3**: 高輝度側・階調優先] を [しない] に設定すると (p.199)、ISO100/125/160、および拡張ISO感度が設定できるようになります。

動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は [📷2: 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] (p.173)、動画撮影時は [📷2: 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] (p.372) の設定内容でISO感度が設定されます。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。〈M〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

Wi-Fi 関連

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブル（別売）で接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください。詳しくは「Wi-Fi（無線通信）機能使用説明書」（p.4）を参照してください。

操作関連

〈〉〈〉〈〉〈〉で設定を変更できない

- 〈LOCK〉スイッチを下側（ロック解除）にしてください（p.59）。
- [▼4:マルチ電子ロック] の設定内容を確認してください（p.88）。

タッチ操作ができない

- [▼4:タッチ操作] が [標準] または [敏感] に設定されているか確認してください（p.69）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は [📷4:👁️ボタンの機能] の設定を確認してください（p.378）。
- [⬆️.C.Fn III-4:操作ボタンカスタマイズ] の設定内容を確認してください（p.497）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 撮影モードがかんたん撮影ゾーンのとことや、ライブビュー撮影、動画撮影のときは、一部のタブや項目は表示されません。

[★] マイメニュータブから表示される / [★] タブしか表示されない

- [★] タブの [メニュー表示] が [マイメニュータブから表示] または [マイメニュータブのみ表示] に設定されています。[通常表示] に設定してください（p.509）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- [カメラ2:色空間] を [sRGB] に設定してください。[Adobe RGB] に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります (p.208)。

ファイル名の先頭文字が「MVI」になっている

- 動画ファイルです (p.211)。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (p.211)。

撮影年月日/時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください (p.49)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (p.50、51)。

画像に日付/時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます (p.458)。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなることがあります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

液晶モニターの表示が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

【Eye-Fi設定】が表示されない

- 【📍1: Eye-Fi設定】は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.522）。
- 【📍1: 無線通信の設定】の【Wi-Fi 設定】の【Wi-Fi】が【使う】に設定されているときは、Eye-Fiカードによる画像転送はできません。

再生関連




画像の一部が黒く点滅する

- [▶3:ハイライト警告表示] が [する] に設定されています (p.397)。

画像に赤い枠が表示される

- [▶3:AFフレーム表示] が [する] に設定されています (p.397)。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
 - ・〈SCN:    〉モードで撮影した画像
 - ・歪曲収差補正が行われた画像
 - ・マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
 - ・トリミングを行った画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません (p.409)。

画像 (静止画/動画) が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶2:画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (p.402)。検索条件を解除してください。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします（p.347）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、**<M>** モードで撮影してください（p.330）。

テレビに映像が表示されない

- **[43:ビデオ方式]** の **[NTSC]** **[PAL]** の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.427）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えると、動画ファイルが複数作成されます（p.345）。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXC カードは、お使いのカードリーダーやパソコンの OS により、カードリーダーに差ししても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブル（別売）で接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (p.594) を使って画像を取り込んでください。

RAW画像が現像できない

- **M RAW**、**S RAW** 画像をカメラで現像処理することはできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional (p.594) で現像処理を行ってください。


画像をリサイズできない

- JPEGの**S2**と**RAW**画像は、カメラでリサイズできません (p.444)。

画像をトリミングできない

- RAW画像は、カメラでトリミングできません (p.446)。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。[**44**:センサークリーニング] の [**今すぐクリーニング** 

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- [▼4:センサークリーニング] の [今すぐクリーニング] を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません (p.450)。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈クリーニング〉が表示されないことがあります (p.47)。

パソコン接続関連

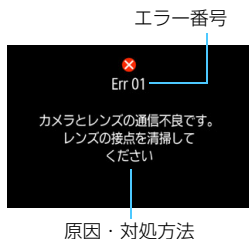
パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください (p.596)。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブル (別売) を使用してパソコンと通信を行うことはできません。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[▼5:タイムラプス動画] を [しない] に設定してください (p.350)。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	→ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用、電池の出し入れ (p.27、28、42)
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	→ カード抜き差し、カード交換、カード初期化 (p.43、70)
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	→ カード交換、不要画像の消去、カード初期化 (p.43、430、70)
06	センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作 (p.47)
10、20 30、40 50、60 70、80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	→ 電源スイッチ操作、電池の出し入れ、純正レンズを使用 (p.47、42)

* 上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、キャノンホームページから修理をお申し込みいただくか、エラー番号を控えて別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

主な仕様

■型式

型式.....	デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体.....	SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード * UHS-Iカード対応
撮像画面サイズ.....	約35.9×24.0mm
使用レンズ.....	キヤノンEFレンズ群 * EF-S、EF-Mレンズを除く (有効撮影画角は表記焦点距離の約等倍に相当)
レンズマウント.....	キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.....	CMOSセンサー
カメラ部有効画素.....	約2620万画素 * 1万の位を四捨五入
アスペクト比.....	3 : 2
ダスト除去.....	自動/手動、ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット.....	DCF2.0
画像タイプ.....	JPEG、RAW (14bit、キヤノン独自) RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数.....	L (ラージ) : 約2600万 (6240×4160) 画素 M (ミドル) : 約1150万 (4160×2768) 画素 S1 (スモール1) : 約650万 (3120×2080) 画素 S2 (スモール2) : 約380万 (2400×1600) 画素 RAW (ロウ) : 約2600万 (6240×4160) 画素 M-RAW : 約1460万 (4680×3120) 画素 S-RAW : 約650万 (3120×2080) 画素 * 1万の位を四捨五入
アスペクト比.....	3 : 2、4 : 3、16 : 9、1 : 1
フォルダ作成/選択.....	可能
画像番号.....	通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル.....	オート、スタンダード、ポートレート、風景、ディテール重視、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
ホワイトバランス.....	オート（雰囲気優先）、オート（ホワイト優先）、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K） ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能 * ストロボ色温度情報通信対応
画像の明るさ自動補正.....	オートライティングオプティマイザ機能搭載
ノイズ低減.....	高感度撮影、長秒時露光に対応
高輝度側・階調優先.....	可能
レンズ光学補正.....	周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正、回折補正

■ファインダー

方式.....	ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率.....	上下/左右とも約98%（アイポイント約21mm時、アスペクト比3：2設定時）
倍率.....	約0.71倍（50mmレンズ・ ∞ ・ $-1m^{-1}$ ）
アイポイント.....	約21mm（ $-1m^{-1}$ 時、接眼レンズ中心から）
視度調整範囲.....	約 $-3.0 \sim +1.0m^{-1}$ （dpt）
フォーカシング	
スクリーン.....	固定式、プレジジョンマット
グリッド表示.....	可能
水準器表示.....	可能
機能設定表示.....	バッテリー（電池残量）、撮影モード、AF動作、記録画質（画像タイプ）、ドライブモード、測光モード、フリッカー検知、警告！表示
ミラー.....	クイックリターン式
被写界深度確認.....	可能

■オートフォーカス（ファインダー撮影時）

方式	専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式
測距点	最大45点（クロス測距点：最大45点） * 使用レンズにより、測距点数、デュアルクロス測距点数、クロス測距点数が変動する * 中央測距点はF2.8対応デュアルクロス測距（AFグループ属性：Aグループレンズ使用時）
測距輝度範囲	EV -3～18（中央F2.8対応測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）
フォーカス動作	ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
測距エリア選択モード	スポット1点AF（任意選択）、1点AF（任意選択）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AF
測距点自動選択条件	人物の肌色に相当する色の情報で測距点の自動選択が可能
AIサーボAF特性	カスタム機能により、被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性が設定可能
AF微調整	AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光	EOS用外部ストロボのAF補助光による

■露出制御

測光方式	7560画素RGB+IR測光センサーによる63分割TTL開放測光 ・評価測光（すべてのAFフレームに対応） ・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.5%） ・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.2%） ・中央部重点平均測光
測光輝度範囲	EV 1～20（常温・ISO100）

撮影モード	かんたん撮影ゾーン： シーンインテリジェントオート、クリエイティブオート、スペシャルシーン（ポートレート、集合写真、風景、スポーツ、キッズ、流し撮り、クローズアップ、料理、キャンドルライト、夜景ポートレート、手持ち夜景、HDR逆光補正） 応用撮影ゾーン： プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ、カスタム撮影モード（C1/C2）
ISO感度	かんたん撮影ゾーン：ISO感度自動設定
（推奨露光指数）	P, Tv, Av, M, B：ISOオート、ISO 100～40000 手動設定（1/3、1段ステップ）、および L（ISO 50相当）、H1（ISO 51200相当）、H2（ISO 102400相当）の感度拡張が可能 * 高輝度側・階調優先設定時は、下限感度がISO200となる
ISO感度関連設定	ISO感度の範囲、オートの範囲、オートの低速限界設定可能
露出補正	手動： ・ファインダー撮影時：1/3、1/2段ステップ±5段 ・ライブビュー撮影時：1/3、1/2段ステップ±3段 AEB： 1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）
AEロック	自動：カスタム機能により、測光モードごとに合焦と同時にAEロック有無を設定可能 手動：AEロックボタンによる
フリッカー低減	可能
インターバルタイマー	撮影間隔、撮影回数を設定可能
バルブタイマー	露光時間を設定可能
ミラーアップ撮影	可能

■HDR撮影

ダイナミックレンジ調整 ..	自動、±1、±2、±3
仕上がり効果	ナチュラル、絵画調標準、グラフィック調、油彩調、ビンテージ調
画像位置自動調整	可能

■多重露出撮影

多重枚数	2～9枚
多重露出制御	加算、加算平均

■シャッター

形式.....	電子制御式、フォーカスプレインシャッター
シャッター速度.....	1/4000～30秒（すべての撮影モードを合わせて）、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度 = 1/180秒

■ドライブ関係

ドライブモード.....	1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、ソフト1枚撮影、ソフト連続撮影、セルフタイマー：10秒/リモコン、セルフタイマー：2秒/リモコン、セルフタイマー：連続撮影
連続撮影速度.....	高速連続撮影：最高約6.5コマ/秒 * フリッカー低減撮影時、ライブビュー撮影+サーボAF設定時、ライブビュー撮影+外部ストロボ使用時は、連続撮影速度が低下する * 高速連続撮影時の連続撮影速度は、温度、電池残量、フリッカー低減処理、シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがある 低速連続撮影：最高約3.0コマ/秒 * ライブビュー撮影+外部ストロボ使用時は、連続撮影速度が低下する * 流し撮りモード時は、ファインダー撮影時：最高約4.3コマ/秒、ライブビュー撮影時：最高約2.7コマ/秒（シャッター速度1/30秒、絞り開放時） ソフト連続撮影：最高約3.0コマ/秒
連続撮影可能枚数.....	JPEGラージ/ファイン：約110枚（約150枚） RAW：約18枚（約21枚） RAW+JPEGラージ/ファイン：約17枚（約19枚） * 当社試験基準SDカード（標準：8GB/高速：UHS-I対応16GB）を使用し、当社試験基準（高速連続撮影、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定 *（ ）内の数値は、当社試験基準UHS-I対応、SDカード使用時の枚数

■外部ストロボ

対応ストロボ	EXシリーズスピードライト
調光方式	E-TTL II 自動調光
ストロボ調光補正	1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック	可能
シンクロ端子	なし
ストロボ制御	ストロボ機能設定、ストロボカスタム機能設定

■ライブビュー撮影機能

フォーカス方式	デュアルピクセル CMOS AF方式
AF動作	ワンショットAF、サーボAF
AF方式	顔+追尾優先、スムーズゾーン、ライブ1点 手動ピント合わせ (約5倍/10倍拡大確認可能)
測距輝度範囲	EV -2.5~18 (常温・ISO100・ワンショットAF)
測光方式	評価測光 (315分割)、部分測光 (ライブビュー画面の約 6.3%)、スポット測光 (ライブビュー画面の約2.7%)、中 央部重点平均測光
測光輝度範囲	EV 0~20 (常温・ISO100)
LVソフト撮影	可能 (モード1、2)
タッチシャッター	可能
グリッド表示	3種類

■動画撮影機能

記録形式	MP4 * タイムラプス動画撮影時：MOV形式
映像	MPEG-4 AVC/H.264 可変 (平均) ビットレート方式 * 4Kタイムラプス動画撮影時：Motion JPEG
音声	AAC
動画記録サイズ	Full HD (1920×1080)、HD (1280×720) * タイムラプス動画撮影時：4K (3840×2160) / Full HD選択可能
フレームレート	59.94p/29.97p/23.98p (NTSC設定時) 50.00p/25.00p (PAL設定時)
圧縮方式	標準 (IPB)、軽量 (IPB) * 4Kタイムラプス動画撮影時：Motion JPEG / Full HD タ イムラプス動画撮影時：ALL-I (編集用 / I-only)

主な仕様

ビットレート	[MP4] Full HD (59.94p/50.00p) / 標準 (IPB) : 約60Mbps Full HD (29.97p/25.00p/23.98p) / 標準 (IPB) : 約30Mbps Full HD (29.97p/25.00p) / 軽量 (IPB) : 約12Mbps HD (59.94p/50.00p) / 標準 (IPB) : 約26Mbps HD (29.97p/25.00p) / 軽量 (IPB) : 約4Mbps [MOV] 4Kタイムラプス動画 (29.97p/25.00p) : 約500Mbps Full HDタイムラプス動画 (29.97p/25.00p) : 約90Mbps
要求カード性能	[動画] (書き込み/読み取り速度) Full HD (59.94p/50.00p) / 標準 (IPB) : SDスピードクラス10以上 Full HD (29.97p/25.00p/23.98p) / 標準 (IPB) : SDスピードクラス6以上 Full HD (29.97p/25.00p) / 軽量 (IPB) : SDスピードクラス4以上 HD (59.94p/50.00p) / 標準 (IPB) : SDスピードクラス6以上 HD (29.97p/25.00p) / 軽量 (IPB) : SDスピードクラス4以上 [タイムラプス動画] (読み取り速度) 4Kタイムラプス動画 (29.97p/25.00p) : UHS-I 90MB/秒以上 Full HDタイムラプス動画 (29.97p/25.00p) : UHS-Iスピードクラス3以上
フォーカス方式	デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式	顔+追尾優先、スムーズゾーン、ライブ1点 手動ピント合わせ (約5倍/10倍拡大確認可能)
動画サーボAF	可能 * 動画サーボAF時の被写体追従特性、AF速度を設定可能
動画電子IS	可能 (する/強)

測距輝度範囲	EV -2.5~18 (常温・ISO100・ワンショットAF・29.97fps)
測光方式	撮像素子による中央部重点平均測光、および評価測光 * AF方式により自動設定
測光輝度範囲	EV 0~20 (常温・ISO100・中央部重点平均測光)
露出制御	自動露出撮影 (動画撮影用プログラムAE)、マニュアル露出
露出補正	1/3、1/2段ステップ±3段
ISO感度	シーンインテリジェントオート、クリエイティブオート：
(推奨露光指数)	ISO100~25600自動設定 P/Tv/Av/B：ISO100~25600自動設定、 ISO6400~H2 (ISO102400相当) の範囲で上限を設定可能 M：ISOオート (ISO100~25600自動設定)、ISO100~25600手動設定 (1/3、1段ステップ)、 H (ISO32000/40000相当)、H1 (ISO51200相当)、 H2 (ISO102400相当) の感度拡張が可能 * 高輝度側・階調優先設定時は、下限感度がISO200となる * タイムラプス動画撮影時は、設定範囲が異なる
ISO感度関連設定	動画撮影時のISO感度の範囲、ISOオートの上限、タイムラプス動画撮影+ISOオートの上限を設定可能
録音	ステレオマイク内蔵、外部ステレオマイク端子装備 録音レベル調整可能、ウィンドカット機能/アッテネーター機能搭載

主な仕様

グリッド表示	3種類
HDR動画撮影	SCNモード設定時に自動設定
タイムラプス動画	動画記録画質（4K、Full HD）、撮影間隔（時/分/秒）、撮影回数、自動露出（1枚目固定、毎フレーム更新）、液晶の自動消灯、撮影時の電子音を設定可能
ビデオスナップ	可能（2秒間/4秒間/8秒間）
リモコン撮影	可能
静止画撮影	動画撮影時不可

■液晶モニター

形式	TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数	ワイド3.0型（3：2）／約104万ドット
明るさ調整	手動（7段階）
水準器表示	可能
メニュー表示言語	日本語、英語
タッチパネル	静電容量方式
撮影モードガイド	表示有無を設定可能
機能ガイド	表示有無を設定可能
ヘルプ表示	可能

* ヘルプ画面の文字サイズ変更可能

■再生機能

画像表示形式	1枚表示（情報表示なし）、1枚表示（簡易情報）、1枚表示（撮影情報表示：詳細情報、レンズ/ヒストグラム情報、ホワイトバランス情報、ピクチャースタイル情報1、ピクチャースタイル情報2、色空間/ノイズ低減情報、レンズ光学補正情報、GPS情報）、インデックス表示（4枚/9枚/36枚/100枚）
ハイライト警告	ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示	可能（撮影条件により表示できない場合がある）
グリッド表示	3種類
拡大表示	約1.5～10倍、拡大開始倍率/開始位置設定可能
画像検索	検索条件を設定可能（レーティング、日付、フォルダ、プロテクト、ファイルの種類）
画像送り	1枚、10枚、指定枚数、撮影日、フォルダ、動画、静止画、プロテクト、レーティング

画像回転	可能
画像プロテクト	可能
レーティング	可能
動画再生	可能（液晶モニター／HDMI）
動画前後カット	可能
スライドショー	全画像、または検索条件に該当する画像を自動再生

■撮影後の画像処理

カメラ内RAW現像	明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、レンズ光学補正（周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正、回折補正）
リサイズ	可能
トリミング	可能

■印刷指定

DPOF	バージョン1.1準拠
------------	------------

■GPS機能

対応衛星	GPS衛星（アメリカ）、GLONASS衛星（ロシア）、準天頂衛星みちびき（日本）
GPS信号受信モード	モード1、モード2
画像への位置情報付加	緯度、経度、標高、協定世界時（UTC）、衛星捕捉状態
位置情報の更新間隔	1/5/10/15/30秒間隔、1/2/5分間隔
時刻合わせ	GPSの時刻データをカメラに設定
ログデータ	NMEAフォーマット、1日1ファイル生成 * エリアを変えると別ファイル生成 * 内蔵メモリーに保存されたログデータを、ログファイルとしてカードに移動/パソコンに取り込み可能
ログデータの消去	可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能	28種
カスタム撮影モード	C1/C2モードに登録
マイメニュー	5画面登録可能
著作権情報	設定/付加可能

■インターフェース

デジタル端子	Hi-Speed USB相当 パソコン通信、コネクタステーションCS100接続
HDMIミニ出力端子	タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子	Φ3.5mmステレオミニジャック 指向性ステレオマイクロホン DM-E1、または市販の外部マイクが接続可能
リモコン端子	N3タイプのリモコンに対応
ワイヤレスリモコン	リモートコントローラー RC-6、およびワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（Bluetooth接続）に対応
Eye-Fiカード	対応

■電源

使用電池	バッテリーパック LP-E6N/LP-E6、1個 * 家庭用電源アクセサリ使用によりAC駆動可能
電池情報	使用電源、電池残量、撮影回数、劣化度確認可能、電池登録可能
撮影可能枚数の目安	ファインダー撮影： 常温（+23℃）約1200枚／低温（0℃）約1100枚 ライブビュー撮影： 常温（+23℃）約380枚／低温（0℃）約340枚 * フル充電のバッテリーパックLP-E6N使用時
動画撮影可能時間	常温（+23℃）合計約2時間40分 低温（0℃）合計約2時間20分 * フル充電のバッテリーパックLP-E6N使用、動画サーボAF：しない、Full HD 29.97p/25.00p/23.98p 標準（IPB）設定時

■大きさ・質量

大きさ	約144.0（幅）×110.5（高さ）×74.8（奥行）mm
質量	約765g（バッテリー、カードを含む）／約685g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度	0℃～+40℃
使用可能湿度	85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります（カメラ本体のみの質量を除く）。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、(社) 電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、(社) 電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

* 規定により英語で表記しています。

第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

●expat.h

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

アクセサリはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

! バッテリーパック LP-E6N/LP-E6Iは、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。



16

ソフトウェアスタートガイド／ パソコンに画像を取り込む

この章では、EOS用ソフトウェアの概要、ソフトウェアのダウンロード／インストール方法、ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）の見かた、パソコンに画像を取り込む方法について説明しています。

ソフトウェアスタートガイド

ソフトウェアについて

以下のEOS用ソフトウェアを、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます (p.596)。

H インターネットに接続していない状態では、パソコンにEOS用ソフトウェアをインストールすることはできません。

イオス ユーティリティ

EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

デジタル フォト プロフェッショナル

Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

ピクチャー スタイル エディター

Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

イオス ムービー ユーティリティ

 **EOS MOVIE Utility**

撮影したタイムラプス動画の再生を行うことができます。また、タイムラプス動画のフレームを選んで、静止画として保存することもできます（フレーム切り出し）。

ソフトウェアのダウンロード／インストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合も、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記の Web サイトにアクセスしてください。

→ canon.jp/eos-sw

- ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。

Windows : 表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

macOS : dmg ファイルが生成 / 表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmg ファイルをダブルクリックする

- デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。

インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

(2) インストーラーファイルをダブルクリックする

- インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロードについて

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

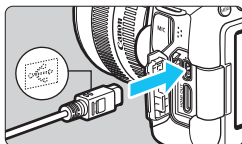
- ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト
 - ➔ canon.jp/eos-sw-manual

パソコンに画像を取り込む

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

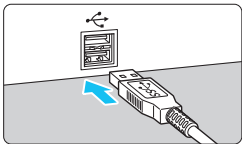
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする (p.596)



2 インターフェースケーブル（別売）でカメラとパソコンを接続する

- カメラ側を接続するときは、プラグの〈←〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。



3 EOS Utility を使って画像を取り込む

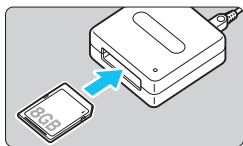
- EOS Utility使用説明書を参照してください (p.597)。

Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブル（別売）で接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

- 1 ソフトウェアをインストールする
(p.596)



- 2 カードリーダーにカードを差し込む

- 3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください (p.597)。



EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

索引

英数字	
10秒後/2秒後撮影	159
1点AF	134, 139, 313
1枚撮影	156, 157
1枚表示	388
4K 3840×2160 (タイムラプス動画)	350
4枚/9枚/36枚/100枚	399
Ai (シーンインテリジェント オート)	94
ACアダプター	520
Adobe RGB	208
AEB	247, 472
AEロック	249
AF	129
AFグループ	145
AFセンサー	143
AF速度	376
AF動作	130, 305
AFの苦手な被写体	153, 316
AFフレーム赤色照明	133, 488
AFフレーム数	145
AFフレーム選択	137, 500
AF方式	308, 374
AF補助光	480
AFマイクロアジャストメント	491
F8 AF	143, 144
色検知	142, 485
エリアAFフレーム	135, 140
クロス測距	143
構図変更	97, 131, 249
手動ピント合わせ	154, 321
スポットAFフレーム	31, 139
測距エリア選択 モード	134, 136, 139
ダイレクト選択	500
デュアルクロス測距	143
電子音	73
ピンボケ	55, 56, 551
AF-ON (スタート) ボタン	56, 498
AI FOCUS (AIフォーカスAF)	132
AI SERVO (AIサーボAF)	97, 132
AFフレーム照明	133
開始位置	484
速度変化に対する追従性	476
測距点乗り移り特性	477
被写体追従特性	475
ALL-I (編集用/I-only)	350
Av (絞り優先AE)	238
Avモード時ストロボ同調速度	282
B/W	178, 182
BGM	426
Bluetooth機能	273
buSY (BUSY)	167, 198
B (バルブ)	250, 326
C1/C2 (カスタム撮影)	510
CA (クリエイティブオート)	100
CLn	455
D+	199
DCカプラー	520
DIGITAL端子	29, 598
DPOF	458
Err	567

- exFAT 71, 345
- Eye-Fiカード 522
- HD 1920×1080
(タイムラプス動画) 350
- HD 1920×1080 (動画) 341
- FAT32 71, 345
- FEB 285
- FEロック 278
- Full HD (動画) 325, 341, 350
- GPS 217
- H1/H2
(拡張感度) 170, 173, 372
- HD 1280×720 (動画) 341
- HDMI 417, 427
- HDMI CEC 428
- HDR逆光補正 121
- HDR撮影 253
- HDR動画撮影 348
- ICCプロフィール 208
- INFOボタン
..... 60, 84, 293, 298, 334, 388
- IPB 342
- ISO感度 170, 327, 331
 - ISOオート (動画) 372
 - ISO感度の範囲 173, 372
 - オートの低速限界 (静止画) 175
 - オートの範囲 (静止画) 174
 - 感度拡張 173
 - 自動設定 (オート) 172
 - 手動設定範囲 173
 - 設定ステップ 471
 - タイムラプスISOオート 372
- JPEG (ジエイペグ) 162, 164
- LOCK 59, 88
- LOG (ログ) 228
- LV →ライブビュー撮影
- M (マニュアル露出) 241, 330
- MENU** マーク 8
- MF (手動ピント合わせ) 154, 321
- Motion JPEG (MPG) 350
- MOV (MOV) 350
- MP4 (MP4) 342
- M-RAW
(ミドルロウ) ... 162, 164, 165, 166
- MWB 188
- NFC接続 29, 540
- NTSC 342, 427, 541
- ONE SHOT
(ワンショットAF) 131, 306
- P (プログラムAE) 234, 326
- PAL 342, 427, 541
- Q (クイック
設定) 61, 126, 301, 339, 415
- RAW (ロウ) 162, 164, 166
- RAW+JPEG 162, 164
- RAW現像 438
- SCN 35, 107, 348
- SD、SDHC、SDXCカード →カード
- SERVO AF (サーボAF) 307
- S-RAW (スモールロウ)
..... 162, 164, 165, 166
- sRGB 208
- Tv (シャッター優先AE) 236

UHS-I.....	5, 343
USB (デジタル) 端子.....	29, 598
UTC.....	218
WB (ホワイトバランス).....	185
Wi-Fi機能.....	540

あ

アイカップ.....	270
アイコン (絵文字).....	8
アイピースカバー.....	38, 270
明るさ (SCN).....	106, 127, 128
アクセサリシュー.....	28, 278
アクセスランプ.....	44, 45
アスペクト比.....	168
アッテネーター.....	347
後幕シンクロ.....	285
アルバム (ビデオスナップ).....	361
安全上のご注意.....	22
アンダーバー「_」.....	208
位置決め穴.....	30
位置情報の更新間隔 (GPS).....	226
色あい.....	181
色あい (SCN).....	106, 128
色温度.....	185, 190
色空間.....	208
色検知.....	142, 485
色収差補正.....	201, 442
色の濃さ.....	181
印刷	
印刷指定 (DPOF).....	458
フォトブック指定.....	464
インターバルタイマー.....	267

インデックス表示.....	399
ウィンドカット.....	346
液晶モニター.....	27, 46
明るさ.....	434
角度調整.....	46, 99
画像の再生.....	387
クイック設定.....	61, 86
水準器.....	80, 84
メニュー機能.....	64, 534
絵文字.....	8
エラー表示.....	567
エリアAFフレーム.....	135, 140
エリア (地域).....	49
応用撮影ゾーン.....	36
■ マーク.....	8
オートパワーオフ.....	47, 73
オートフォーカス →AF	
オートライティング	
オブティマイザ.....	194
オートリセット.....	213
オート (E-A).....	177
お気に入りマーク.....	412
主な仕様.....	568
温度警告.....	323, 382
音量 (動画再生).....	420

か

カード.....	5, 27, 43, 70, 343
入れ忘れ防止.....	44
書き込み禁止.....	43
初期化 (フォーマット).....	70
トラブル.....	45, 71

- 物理フォーマット.....71
- カードなしリリース.....44
- 開始測距点.....484
- 回折補正.....203, 443
- 階調優先.....199
- 回転 (画像).....408
- 外部ストロボ →ストロボ
- 外部マイク.....347
- ☺+追尾優先.....309
- 拡大開始倍率/開始位置.....405
- 拡大表示.....317, 321, 404
- 拡張ISO感度.....170, 173, 372
- 拡張子.....211
- 各部名称.....28
- カスタム機能.....468, 469, 471
- カスタム撮影モード.....510
- 画像
 - AFフレーム表示.....397
 - インデックス表示.....399
 - オートリセット.....213
 - 拡大表示.....404
 - 画像番号.....211
 - 強制リセット.....213
 - 記録画質.....162, 164, 341
 - 検索条件.....402
 - 再生.....387
 - 撮影情報.....392
 - 自動回転.....435
 - 自動再生.....424
 - ジャンプ表示 (画像送り).....400
 - 手動回転.....408
 - 消去.....430
 - スライドショー.....424
 - テレビで見る.....417, 427
 - 通し番号.....212
 - 取り込み (パソコン).....598
 - ハイライト警告.....397
 - ヒストグラム.....398
 - プロテクト (保護).....409
 - レーティング.....412
- 画像送り (ジャンプ表示).....400
- 画像検索.....402
- 画素数.....162, 164
- 傾き補正.....80, 447
- 家庭用電源.....520
- カメラ
 - 構え方.....55
 - カメラブレ.....96, 265
 - 設定初期化.....75
- 簡易情報表示.....391
- かんたん撮影ゾーン.....35
- 感度 →ISO感度
- キッズ.....113
- 機能ガイド.....90
- キャンドルライト.....118
- 強制リセット.....213
- 切り換え効果 (スライドショー)....425
- 記録画質.....162, 164, 341
- クイック
 - 設定.....61, 126, 301, 339, 415
- クリーニング.....449
- クリエイティブオート.....100
- グリッド.....79, 302, 377, 390
- クローズアップ.....116

クロス測距	143
警告表示	489
軽量 (IPB)	342
言語	52
高感度撮影時のノイズ低減	195
高輝度側・階調優先	199
合焦マーク	94, 131
高速連続撮影	156
故障	548
細かさ (シャープネス)	181
ゴミの写り込み防止	449
コントラスト	181, 194




さ

サーボAF	
AI SERVO AF	97, 132
SERVO (LV)	307
動画サーボAF	373, 375, 376
再生	387
先幕シンクロ	285
撮影画像の確認時間	74
撮影可能時間 (動画)	337, 344
撮影可能枚数	48, 164, 291
撮影情報表示	392
撮影モード	35
Av (絞り優先AE)	238
B (バルブ)	250
\square / \square (カスタム撮影)	510
\square A (クリエイティブオート)	100
P (プログラムAE)	234
Tv (シャッター優先AE)	236
\square + (シーンインテリジェントオート)	94
SCN (スペシャルシーン)	107
M (マニュアル露出)	241, 330
撮影モードガイド	89
撮影モードで設定できる機能	526
撮像素子の清掃	449
サブ電子ダイヤル	58
サマータイム	51
三脚ねじ穴	30
シーンインテリジェントオート	94
シーン判別アイコン	295, 329
しきい値 (シャープネス)	181
システム図	514
自動再生	424
自動時刻設定 (GPS)	227
自動選択AF	135, 140
視度調整	55
絞り込み	240
絞り優先AE	238
シャープネス	181
シャッターボタン	56
シャッターボタンの機能	378
シャッター優先AE	236
ジャンプ表示	400
集合写真	110
充電	40
周辺光量補正	200, 442
縮小表示	399
手動ピント合わせ	154, 321
消去 (画像)	430

- 照明 (AFフレーム)488
 照明 (表示パネル)60
 初期化 (フォーマット)70
 初期設定一覧75
 シリアル番号30, 494, 516
 白黒写真101, 178, 182
 白とび397
 シンクロ設定285
 シンクロ接点28
 水準器80, 81
 スタンダード (ECS)177
 ストラップ38
 ストロボ (スピードライト)277
 FEB285
 FEロック278
 外部ストロボ278
 カスタム機能286
 シンクロ (先幕/後幕)285
 ストロボ制御 (機能設定)281
 調光補正278, 285
 同調速度280, 282
 マニュアル発光283
 ワイヤレス284
 スピーカー29, 419
 スペシャルシーン
 (SCN)107, 348
 スポーツ112
 スポット1点AF134, 139
 スポットAFフレーム31, 139
 スポット測光244
 スムーズゾーン311
 スモール (記録画質)164
 スライドショー424
 清掃449
 セイフティシフト473
 設定初期化75
 カスタム機能468
 カスタム撮影モード510
 カメラ設定75
 ストロボ機能設定287
 操作ボタンカスタマイズ497
 マイメニュー508
 セピア調 (モノクロ)101, 182
 セルフタイマー159
 全押し56
 センサークリーニング449
 全自動モード94
 全レンズ一律調整 (AF)491
 操作ボタンカスタマイズ497
 ゾーンAF134, 139
 速度変化に対する追従性476
 測距エリア選択
 モード134, 136, 139
 測距点自動選択135, 140
 測距点乗り移り特性477
 測距点
 (AFフレーム) ... 134, 137, 139, 143
 測光タイマー56, 302, 377
 測光モード243
 ソフトウェア594
 使用説明書597
 ソフト撮影
 LVソフト撮影303
 ソフト1枚撮影157

- ソフト連続撮影 157
- た**
- タイムラプス動画 349
- ダイレクト選択 (AFフレーム) 500
- 多重露出 258
- ダストデリートデータ 452
- タッチ音 73
- タッチシャッター 319
- タッチ操作 67, 406
- 縦位置画像回転表示 435
- ダブルタップ 407
- チャージャー 37, 40
- 中央部重点平均測光 244
- 忠実設定 (☑️) 178
- 調光補正 278, 285
- 長時間露光 250
- 調色 (モノクロ) 182
- 長秒時露光のノイズ低減 197
- 著作権情報 214
- 強さ (シャープネス) 181
- 低速連続撮影 157
- ディテール重視 (☑️) 177
- デジタル端子 29, 598
- 手ブレ 55, 96
- 手持ち夜景 120
- デュアルクロス測距 143
- テレビで見る 417, 427
- 電源 47
- オートパワーオフ 47, 73
- 家庭用電源 520
- 撮影可能枚数 48, 164, 291
- 充電 40
- 電池残量 48, 516
- 電池情報 516
- 劣化度 516
- 電子音 73
- 電子ダイヤル
- サブ電子ダイヤル 58
- メイン電子ダイヤル 57
- 電池 → 電源
- 動画 325
- AEロック 328
- AF方式 308, 374
- HDR動画撮影 348
- 圧縮方式 342, 350
- アッテネーター 347
- ウインドカット 346
- 映像記録方式 350
- 外部マイク 347
- 記録時間 344
- クイック設定 339
- グリッド 377
- サーボAF 373
- サーボAF時のAF速度 376
- サーボAFの被写体追従特性 375
- 再生 417, 419
- 自動露出撮影 326
- シャッター速度 330, 333
- 情報表示 334
- 前後カット 422
- 測光タイマー 377
- タイムラプス動画 349
- 楽しみ方 417
- テレビで見る 417, 427

- 動画記録サイズ 341
 動画記録できるカード 343
 動画サーボAF 373, 375, 376
 動画撮影ボタン 326, 378
 動画電子IS 380
 ビデオスナップ 361
 ファイルサイズ 344, 345
 フレームレート 342
 編集 422
 マイク 326, 347
 マニュアル露出撮影 330
 録音/録音レベル 346
 通し番号 212
 ドライブモード 156
 ドラッグ 68
 トラブル 548
 トリミング (画像) 446
- な**
- 内蔵マイク 326
 流し撮り 114
 流し効果 115
 ニュートラル (Fn) 177
 任意選択 (AF) 134, 137, 139
 認証マーク 513
 ノイズ低減
 高感度撮影時 195
 長秒時露光 197
 ノーマル (記録画質) 162
- は**
- バースト枚数 164, 167
 背景ぼかし設定 (CA) 103
 ハイダイナミックレンジ →HDR
 ハイビジョン 341
 ハイライト警告 397
 パソコンへの画像取り込み 598
 発光モード 283
 バッテリーグリップ 514, 516
 バッテリー (電池) →電源
 バリアングル液晶モニター 46, 99
 バルブ撮影 250
 バルブタイマー 251
 半押し 56
 汎用ストロボ 280
 ピクチャー
 スタイル 176, 180, 183
 被写界深度確認 240
 被写体追従特性 475
 ヒストグラム 293, 398
 日付/時刻 49
 ビットレート 574
 ビデオスナップ 361
 ビデオ方式 341, 427, 541
 評価測光 243
 表示パネル
 照明 60
 標準 (IPB) 342
 ピント合わせ →AF
 ピントが合いにくい
 被写体 153, 316, 374
 ファームウェア 543
 ファイナルイメージ
 シミュレーション 297, 338

- ファイルサイズ 164, 344, 345
 ファイル名
 アンダーバー「_」 208
 ファインダー
 グリッド 79
 視度調整 55
 情報表示 82
 水準器 81
 ファイン（記録画質） 162
 フィルター効果（モノクロ） 182
 風景 111
 風景（) 177
 フォーカスモード
 スイッチ 6, 53, 154, 321
 フォーカスロック 97, 131
 フォーマット（カード初期化） 70
 フォトブック指定 464
 フォルダ作成／選択 209, 210
 付属品 3
 部分測光 243
 ブラケティング
 AEB 247, 472
 FEB 285
 WB-BKT 192, 472
 フリッカーレス 206
 フルハイビジョン
 (Full HD) 325, 341, 350
 フレーム間引き再生 421
 フレームレート 342
 プログラムAE 234, 326
 プログラムシフト 235
 プロテクト（保護） 409
 雰囲気優先（AWB） 187
 雰囲気を選んで撮影（) 101
 ヘルプ 91
 文字サイズ 92
 編集用（ALL-I） 350
 ポートレート 109
 ポートレート（) 177
 ホワイトバランス 185
 色温度指定 190
 オート 187
 ブラケティング 192
 補正 191
 マニュアル 188
 ホワイト優先（AWB） 187
- ま**
- マイク
 外部 347
 内蔵 326
 マイクロアジャストメント 491
 マイメニュー 505
 マニュアルフォーカス 154, 321
 マニュアル露出 241, 330
 マルチコントローラー 59
 マルチショットノイズ低減 195
 マルチ電子ロック 59, 88
 ミドル（記録画質） 164
 ミラーアップ撮影 265
 無線通信 540
 メイン電子ダイヤル 57
 メニュー 64
 機能一覧 534

- 設定操作.....65
 灰色（グレー）表示.....66
 マイメニュー.....505
 メモリーカード →カード
 モードダイヤル.....35, 57
 モノクロ (M).....178
- や**
- 夜景ポートレート.....119
 ユーザー設定 (Fn).....178
 要求カード性能.....343
- ら**
- ラージ（記録画質）.....164
 ラージゾーンAF.....135, 140
 ライブビュー撮影.....98, 289
 AF動作.....305
 LVソフト撮影.....303
 追尾優先.....309
 クイック設定.....301
 グリッド.....302
 撮影可能枚数.....291
 手動ピント合わせ.....321
 情報表示.....293
 スムーズゾーン.....311
 測光タイマー.....302
 ライブ1点.....313
 露出シミュレーション.....303
 リサイズ.....444
 リピート（スライドショー）.....424
 リモートコントローラー.....271, 273
 リモートスイッチ.....276
 リモコン端子.....28, 276
- 料理.....117
 レーティング.....412
 レンズ.....27, 53
 AFグループ属性.....145
 色収差補正.....201
 回折補正.....203
 光学補正.....200
 周辺光量補正.....200
 フォーカスモード
 スイッチ.....6, 53, 154, 321
 ロック解除.....54
 歪曲収差補正.....202
 レンズの電子式手動フォーカス.....155
 連続撮影可能枚数.....164, 167
 連続撮影（連写）.....156
 ロウ.....162, 164, 166
 ロウ現象.....438
 ロガー.....228
 ログデータ.....229
 録音／録音レベル.....346
 露出シミュレーション.....303
 露出設定ステップ.....471
 露出補正.....245
 露出補正（M+ISOオート）.....242
 露出レベル表示.....32, 34, 293, 334
- わ**
- 歪曲収差補正.....202, 442
 ワンショットAF.....131, 306

Canon

Canon

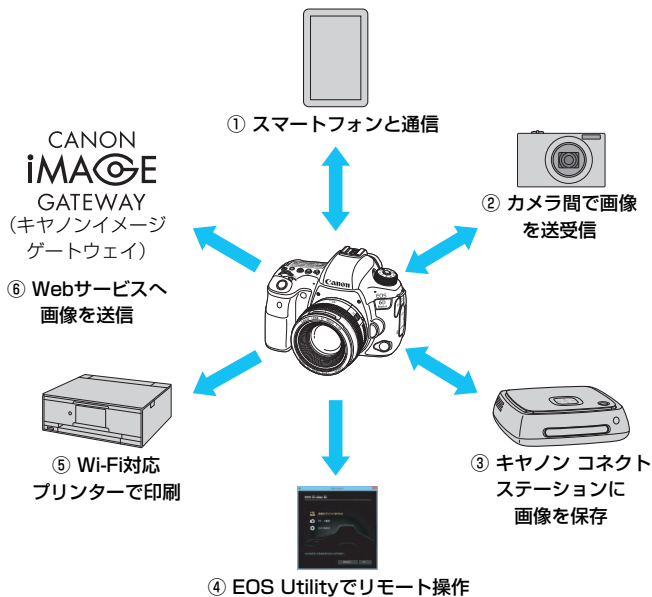
EOS 6D Mark II

Wi-Fi (無線通信) 機能 使用説明書 (基本編)

Wi-Fi (無線通信) 機能 使用説明書 (基本編) では、簡単に使うことができる「スマートフォンと通信」の基本的な使い方を説明しています。

はじめに

Wi-Fi®（無線通信）機能でできること



はじめに必ずお読みください

このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

① ㊟ スマートフォンと通信 (p.W-9)

スマートフォンやタブレットにWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect (カメラコネクト)」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

なお、本書およびカメラの液晶モニターに表示される画面では、スマートフォンとタブレットをあわせて「スマートフォン」と記載しています。

② ㊟ カメラ間で画像を送受信

無線通信機能を内蔵したキヤノン製のカメラ同士をWi-Fi接続して、画像を送受信することができます。

③ ㊟ コネクトステーションに画像を保存

コネクトステーション (別売) にカメラをかざしてWi-Fi接続し、画像を保存することができます。

④ ㊟ EOS Utilityでリモート操作

パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。

⑤ ㊟ Wi-Fi対応プリンターで印刷

Wi-Fiで使えるPictBridge (Wireless LAN) に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

⑥ ㊟ Webサービスへ画像を送信

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON IMAGE GATEWAY (登録無料) を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

目次

はじめに	W-2
------	-----

Wi-Fi（無線通信）機能でできること	W-2
---------------------	-----

1 準備	W-5
-------------	------------

Wi-Fi 設定を行う	W-6
-------------	-----

2 スマートフォンと Wi-Fi 接続する	W-9
------------------------------	------------

Wi-Fi 接続の方法を選ぶ	W-10
----------------	------

スマートフォンの事前準備	W-11
--------------	------

Bluetooth 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する	W-12
---------------------------------	------

NFC 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する	W-20
---------------------------	------

[Wi-Fi 機能] メニューからスマートフォンと Wi-Fi 接続する	W-24
---	------

スマートフォンでカメラを操作する	W-29
------------------	------

Wi-Fi 接続を終了する	W-30
---------------	------

カメラからスマートフォンに画像を送信する	W-31
----------------------	------


3 2 回目以降の Wi-Fi 接続	W-37
---------------------------	-------------

2 回目以降の Wi-Fi 接続	W-38
------------------	------

Bluetooth 接続中のスマートフォンとの Wi-Fi 接続	W-39
----------------------------------	------

無線通信機能について	W-41
------------	------

索引	W-43
----	------

 故障かなと思ったときや、主な仕様は、Webからダウンロードできる使用説明書を参照してください。ダウンロード方法は、4ページを参照してください。

1

準備

ここでは、Bluetooth接続やWi-Fi接続を行うための準備について説明しています。

Wi-Fi設定を行う

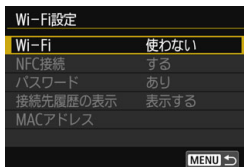
最初に以下の手順でWi-Fi設定を行います。



- 1 **【無線通信の設定】を選ぶ**
- 〈MENU〉ボタンを押して、[F1] タブの【無線通信の設定】を選んで〈SET〉を押します。



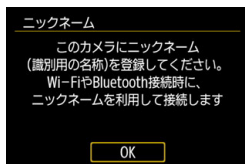
- 2 **【Wi-Fi設定】を選ぶ**



- 3 **【Wi-Fi】を選ぶ**



- 4 **【使う】を選ぶ**



5 [ニックネーム] を登録する

- 左の画面が表示されたら <SET> を押します。



- ➔ 左の画面が表示されます。
- 表示されているニックネームを使用するときは <MENU> ボタンを押します。
- 1～8文字以内で、好きな文字を入力することもできます。
- 入力が終わったら <MENU> ボタンを押します。



6 設定を終了する

- 左の画面が表示されたら [OK] を選んで <SET> を押します。



スマートフォンと Wi-Fi 接続する

ここではカメラとスマートフォンを直接 Wi-Fi 接続する方法を説明します。

スマートフォンと Wi-Fi 接続して、以下のことができます。

- ・ スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
 - ・ スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
 - ・ カメラからスマートフォンに画像を送信する
- カメラとスマートフォンを、Camera Connectの『かんたん接続ガイド』に従って操作しても、Wi-Fi接続することができます。
 - **[Wi-Fi設定]** 画面で **[Wi-Fi]** を **[使う]** に設定しておいてください (p.W-6)。
 - スマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続設定を行ってください (p.W-29)。

Wi-Fi接続の方法を選ぶ

スマートフォンの機能や使用状況に応じて、次から選ぶことができます。

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する (p.W-12)

- Bluetooth対応スマートフォンとBluetooth接続しておくことで、カメラやスマートフォンの操作だけでWi-Fi接続することができます。

NFC対応スマートフォンとWi-Fi接続する (p.W-20)

- NFC対応スマートフォンをカメラにタッチすることで、自動的にWi-Fi接続することができます。

[Wi-Fi機能] メニューからスマートフォンとWi-Fi接続する (p.W-24)

- Bluetooth機能やNFC機能に対応していない、またはBluetooth機能やNFC機能が使用できないスマートフォンとWi-Fi接続することができます。

スマートフォンの事前準備

スマートフォンと接続するためには、AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンが必要です。また、スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールする必要があります。

- Camera Connectをインストールする前に、NFC対応のスマートフォンをカメラにタッチすると、スマートフォンにCamera Connectのダウンロード画面が表示されます。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンの登録時に表示されるQRコードからもアクセスできます（p.W-14、W-25）。



Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi 接続する

ここではBluetooth対応スマートフォンとBluetooth機能を使用してWi-Fi接続する方法を説明します。

Bluetooth接続について

カメラとBluetooth対応スマートフォンをBluetooth接続すると、カメラまたはスマートフォンだけの操作でWi-Fi接続することができます。

なお、カメラとスマートフォンをBluetooth接続するには、カメラとスマートフォンのペアリングが必要です。

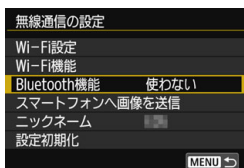
Bluetooth接続する

カメラ側の操作-1



1 [無線通信の設定] を選ぶ

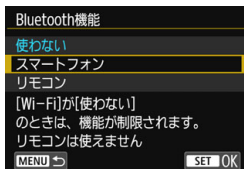
- 〈MENU〉 ボタンを押して、[1] タブの [無線通信の設定] を選んで 〈SET〉 を押します。




2 [Bluetooth機能] を選ぶ

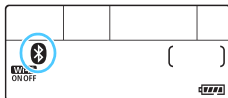


3 [Bluetooth機能] を選ぶ



4 [スマートフォン] を選ぶ

- カメラの表示パネルに  が表示されます。

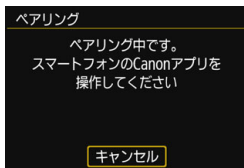


5 [ペアリング] を選ぶ



6 [表示しない] を選ぶ

- Camera Connectをインストール済み
のときは [表示しない] を選んで 
を押します。
 - Camera Connectがインストールされ
ていないときは、左の画面で [Android]
または [iOS] を選んで表示されるQR
コードをスマートフォンで読み取り、
Google PlayまたはApp Storeにアク
セスしてCamera Connectをインス
トールします。
- 左の画面が表示され、ペアリングが開始
されます。



スマートフォン側の操作

7 Bluetooth機能をONにする

- スマートフォンの設定画面で Bluetooth機能をONにします。



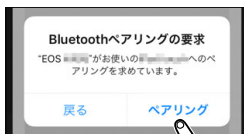
8 Camera Connectを起動する

- Camera Connectのアイコンをタッチして起動します。



9 ペアリングするカメラを選ぶ

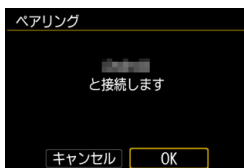
- ペアリングするカメラのニックネームをタッチします。
- ➔ Androidの場合は手順11に進みます。



10 【ペアリング】をタッチする (iOSのみ)

- 左の画面が表示されたら【ペアリング】をタッチします。

カメラ側の操作-2

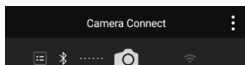



11 [OK] を選ぶ



12 〈SET〉を押す

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。
- ➔ Camera Connectのメイン画面にBluetooth接続中の図が表示されます。



 Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。詳しくはW-31ページを参照してください。

Wi-Fi接続する

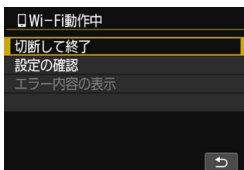
カメラとスマートフォンがBluetooth接続されたら、以下の手順でWi-Fi接続します。

Androidの場合

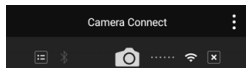


1 Camera Connectの機能を選ぶ

- 使用したいCamera Connectの機能を選びます。
- Camera Connectの機能についてはW-29ページを参照してください。



- 自動的にWi-Fi接続されます。
- ➔ Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。
- ➔ カメラの液晶モニターに [Wi-Fi動作中] 画面が表示されます。
- ➔ Camera Connectのメイン画面にWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

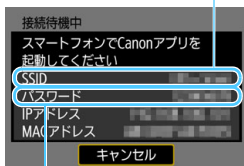
iOSの場合



1 Camera Connectの機能を選ぶ

- 使用したいCamera Connectの機能を選びます。
- Camera Connectの機能についてはW-29ページを参照してください。

SSID (ネットワーク名)



パスワード

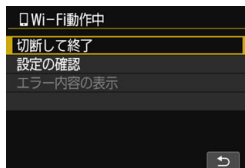
2 SSIDとパスワードを確認する

- カメラに表示されたSSID (ネットワーク名) とパスワードを確認します。

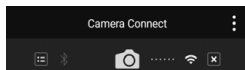


3 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能の画面から、手順2で確認したSSIDを選びます。
- ➔ SSIDの末尾には「_Canon0A」と表示されます。
- パスワード欄には、手順2で確認したパスワードを入力します。
- Camera Connect画面を表示します。
- ➔ Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。



- ➔ カメラの液晶モニターに [Wi-Fi動作中] の画面が表示されます。
- ➔ Camera Connectのメイン画面にWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi 接続を終了する方法は、『Wi-Fi 接続を終了する』（p.W-30）を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。

[Wi-Fi動作中] の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。


〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに切り換わります。

NFC対応スマートフォンとWi-Fi 接続する

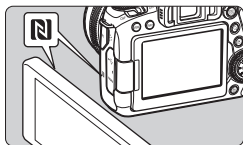
NFC対応のスマートフォンは、このカメラとタッチしてWi-Fi接続することができます。

ここではNFC対応スマートフォンとWi-Fi接続する方法を説明します。

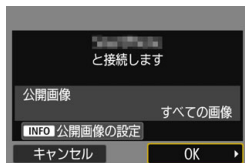
- NFCマークが付いているスマートフォンはNFCに対応しています。
- NFCマークが付いていなくてもNFCに対応していることがあります。その場合は、スマートフォンの使用説明書で、NFCアンテナの位置を確認しておいてください。
- [Wi-Fi 設定] 画面で [Wi-Fi] を [使う] に設定して、[NFC 接続] も [する] に設定しておいてください (p.W-6)。

 NFC対応のスマートフォンでも、NFC機能でWi-Fi接続できないことがあります。その場合は、『[Wi-Fi 機能] メニューからスマートフォンとWi-Fi 接続する』(p.W-24)の方法でWi-Fi接続してください。

Wi-Fi接続する

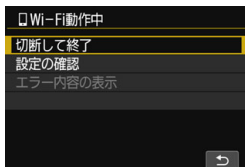


- 1 カメラとスマートフォンのNFC 機能を有効にする
- 2 カメラにスマートフォンをタッチする
 - スマートフォンにCamera Connectのダウンロードサイトが表示されたときは、Camera Connectをインストールしてください (p.W-29)。
 - カメラで画像を再生中のときは、〈▶〉ボタンを押して再生を終了してください。
 - カメラとスマートフォンの **N** マーク同士が接するようにタッチします。
 - カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら、カメラからスマートフォンを離してください。
 - ➔ スマートフォンのCamera Connectが起動し、接続を開始します。



3 Wi-Fi接続を確立する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。なお、同じスマートフォンとNFC接続するときは、次回以降はこの画面は表示されません。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、接続完了のメッセージが表示されたあとに、[Wi-Fi動作中] の画面が表示されます。





→ スマートフォンに、Camera Connect のメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

→ Camera Connectを使用してカメラを操作します。W-29ページを参照してください。

- Wi-Fi 接続を終了する方法は、『Wi-Fi 接続を終了する』（p.W-30）を参照してください。

【Wi-Fi動作中】の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

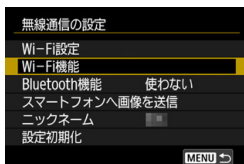
エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに切り換わります。

【Wi-Fi機能】メニューからスマートフォンとWi-Fi 接続する

カメラ側の操作-1



1 【Wi-Fi機能】を選ぶ

- 【無線通信の設定】の画面の【Wi-Fi機能】を選んで〈SET〉を押します。



2 【☐】（スマートフォンと通信）を選ぶ

- 履歴 (p.W-38) が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。



3 【接続先の機器の登録】を選ぶ

スマートフォンにCamera Connectをインストールしてください。ダウンロードサイトのQRコードを表示しますか？

表示しない

Android

iOS

4 [表示しない] を選ぶ

- Camera Connectをインストール済み のときは [表示しない] を選んで 〈SET〉 を押します。
- Camera Connectがインストールされていないときは、左の画面で [Android] または [iOS] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールします。

SSID (ネットワーク名)

接続待機中

接続する機器を操作して、このカメラ (以下のネットワーク) に接続し、Canonアプリを起動してください。

SSID

Canon0A

パスワード

キャンセル

ネットワーク変更

パスワード

5 SSIDとパスワードを確認する

- カメラの液晶モニターに表示されているSSID (ネットワーク名) とパスワードを確認します。
- ➔ SSIDの末尾には「_Canon0A」と表示されます。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例



6 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

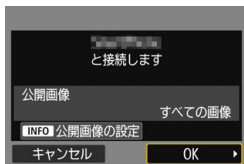
- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順5で確認したSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、手順5で確認したパスワードを入力します。

7 Camera Connectを起動する

- カメラの液晶モニターに「接続待機中」の画面が表示されたら、スマートフォンのCamera Connectを起動します。

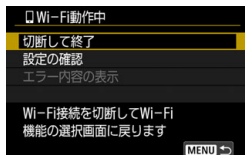
8 Wi-Fi接続するカメラを選ぶ

カメラ側の操作-2



9 Wi-Fi接続を確立する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、接続完了のメッセージが表示されたあとに、[Wi-Fi動作中] の画面が表示されます。





→ スマートフォンに、Camera Connect のメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

→ Camera Connectを使用してカメラを操作します。W-29ページを参照してください。

- Wi-Fi 接続を終了する方法は、『Wi-Fi 接続を終了する』（p.W-30）を参照してください。

[Wi-Fi動作中] の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに切り換わります。

Wi-Fi接続中に、カメラのメニュー（[スマートフォンへ画像を送信]）、または再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信することができます。詳しくはW-31ページを参照してください。

スマートフォンでカメラを操作する

スマートフォンにインストールしたCamera Connectを使用して、カメラ内の画像を閲覧したり、リモート撮影などを行うことができます。

Camera Connectのメイン画面



Camera Connectでは、主に下記の操作を行うことができます。

カメラ内の画像一覧

- カメラ内の画像を閲覧することができます。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存することができます。
- カメラ内の画像に対し、削除などの操作を行うことができます。

リモートライブビュー撮影

- カメラのライブビュー映像を、スマートフォンで見ることができます。
- リモート操作で撮影することができます。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

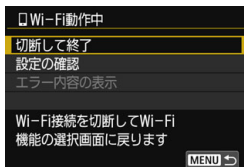
- カメラの設定を変更することができます。

Wi-Fi接続を終了する

Wi-Fi接続を終了するときは、下記のいずれかの操作を行ってください。



スマートフォンのCamera Connectの画面で[×]をタッチする



カメラの[Wi-Fi動作中]の画面で[切断して終了]を選ぶ

- [Wi-Fi動作中]の画面が表示されていないときは、[無線通信の設定]の画面で[Wi-Fi機能]を選びます (p.W-13)
- [切断して終了]を選び、確認画面で[OK]を選んでWi-Fi接続を終了します。

カメラからスマートフォンに画像を送信する

次の方法で、カメラからスマートフォンに画像を送信することができます。

- (1) [スマートフォンへ画像を送信] を選んで送信する
- (2) 再生時のクイック設定画面から送信する (p.W-33)
- (3) 画像の再生中にNFC機能を使用して送信する (p.W-35)

(1) [スマートフォンへ画像を送信] を選んで送信する

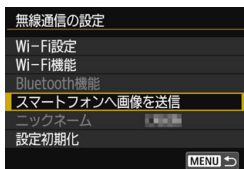
カメラのメニューで [スマートフォンへ画像を送信] を選んで送信します。

- 1 カメラとスマートフォンを Bluetooth接続 (Androidのみ) またはWi-Fi接続する (p.W-17)



- 2 [無線通信の設定] を選ぶ

- [📶] タブの [無線通信の設定] を選んで <SET> を押します。






- 3 [スマートフォンへ画像を送信] を選ぶ

- ➔ Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り替わります。





4 送信する画像を選ぶ

- 〈〉を回して送信する画像を選んで〈〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



5 【この画像を送信】を選ぶ

- [画像サイズ縮小] を選んで〈〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
 - [この画像を送信] を選んで〈〉を押すと、表示している画像が送信されます。
- 送信が終了すると手順4の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順4、5を繰り返します。

(2) 再生時のクイック設定画面から送信する

再生時のクイック設定画面から画像を送信します。

- 1 カメラとスマートフォンを Bluetooth接続 (Androidのみ) またはWi-Fi接続する (p.W-17)



- 2 画像を再生する

- <▶> ボタンを押して画像を再生します。



- 3 <Q> ボタンを押す

- ➔ クイック設定画面が表示されます。



- 4 [☎] を選ぶ

- ➔ Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り替わります。



5 送信する画像を選ぶ

- 〈〉を回して送信する画像を選んで〈〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



6 【この画像を送信】を選ぶ

- [画像サイズ縮小] を選んで〈〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
 - [この画像を送信] を選んで〈〉を押すと、表示している画像が送信されます。
- 送信が終了すると手順5の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順5、6を繰り返します。

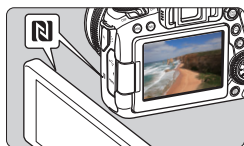
(3) 画像の再生中にNFC機能を使用して送信する

NFC対応スマートフォンでは、Bluetooth接続やWi-Fi接続していない状態でも、画像の再生中にカメラにタッチすることで、自動的にWi-Fi接続してカメラからスマートフォンに画像を送ることができます。



1 画像を再生する

- <▶> ボタンを押して画像を再生します。



2 カメラにスマートフォンをタッチする

- カメラとスマートフォンの **N** マーク同士が接するようにタッチします。
- カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら、スマートフォンを離してください。



3 送信する画像を選ぶ

- <◉> を回して送信する画像を選んで <SET> を押します。
- <Q> ボタンを押して <◉> を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



4 【この画像を送信】を選ぶ

- 「画像サイズ縮小」を選んで〈SET〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
- 「この画像を送信」を選んで〈SET〉を押すと、表示している画像が送信されます。
- 送信が終了すると手順3の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順3、4を繰り返します。

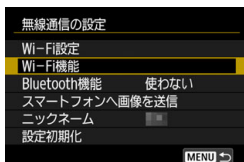
3

2 回目以降の Wi-Fi 接続

ここでは、すでにWi-Fi接続を行ったスマートフォンと再接続する方法について説明しています。

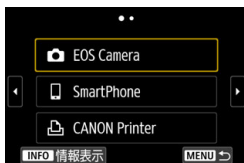
2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録されたスマートフォンに、再度Wi-Fi接続します。



1 【Wi-Fi機能】を選ぶ

- [無線通信の設定]の画面の[Wi-Fi機能]を選んで〈SET〉を押します。



2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi 接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◀〉〈▶〉を押して画面を切り換えます。
- 項目を選んだら〈SET〉を押します。

3 接続先の機器を操作する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラに Wi-Fi 接続するように設定し直します。
- ➔ カメラとスマートフォンを直接 Wi-Fi 接続するときは、SSID の末尾に「_Canon0A」と表示されます。

Bluetooth接続中のスマートフォンとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中のとき、2回目以降のスマートフォンとのWi-Fi接続は以下の手順で行います。

Androidの場合



1 Camera Connectを起動する

- スマートフォンのCamera Connectのアイコンをタッチして起動します。

2 Camera Connectの機能を選ぶ

- 使用したいCamera Connectの機能を選びます。
- 自動的にWi-Fi接続されます。Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。
- Camera Connectの機能についてはW-29ページを参照してください。



iOSの場合



1 Camera Connectを起動する

2 Camera Connectの機能を選ぶ

3 SSIDを確認する

- スマートフォンに表示されたカメラのSSID（ネットワーク名）を確認します。

スマートフォンの画面例



4 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能の画面から、手順3で確認したSSIDを選びます。
- ➔ SSIDの末尾には「_Canon0A」と表示されます。
- Camera Connect画面を表示します。
- ➔ Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。

無線通信機能について

■ 無線通信機能が使える国や地域について

無線通信機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、無線通信機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で無線通信機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

EOS 6D Mark II : DS126631

(無線モジュールモデル : ES202, Bluetoothモジュールモデル : WM500)

- ・ 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- ・ 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・ EOS 6D Mark IIには、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。

■ 電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
 - ② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
 - ③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。
- ・ 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

2.4 DS/OF 4

2.4 XX 2

この表示は、2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

商標について

- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴおよびWi-Fi Protected SetupマークはWi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- おサイフケータイは株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

索引

英数字

Android.....	W-11
Bluetooth	W-13
Camera Connect	W-11, W-29
iOS.....	W-11
NFC	W-20
SSID.....	W-18, W-25
Wi-Fi設定	W-6

か

画像閲覧	W-29
画像を送信	W-31, W-33, W-35
クイック設定	W-33

さ

再接続	W-38, W-39
スマートフォンと通信	W-9
スマートフォンへ画像を送信	W-31

な

ニックネーム	W-7
--------------	-----

は

ペアリング	W-14
-------------	------

ら

リモート操作	W-29
--------------	------

Canon